

令和7年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業

ヤングケアラーの実態把握等  
に関する調査研究

報告書

令和8年（2026年）3月

有限責任監査法人トーマツ

# 目次

第1章 事業概要	1
1. 背景と目的	1
2. 事業内容	3
(1) 検討委員会の設置・開催	3
(2) こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査	4
(3) 考察1：こども・若者世代のヤングケアラーの認識等の向上に資する周知啓発	5
(4) 先行文献調査の実施	5
(5) 18歳以上の若者に対するアンケート調査	5
(6) ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査	5
(7) 18歳以上のヤングケアラー、支援団体に対するヒアリング調査	5
(8) 考察2：18歳以上のヤングケアラーへの支援の在り方	5
3. 成果の公表方法	6
第2章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査	7
1. 調査目的	7
2. 調査概要	7
(1) アンケート調査の対象	7
(2) 回答方法	9
(3) 調査の時期	9
(4) 調査項目	9
(5) 回答状況	12
3. 調査結果	13
(1) 基本情報	13
(2) 「子どもの権利」について	15
(3) 「ヤングケアラー」について	16
第3章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等の向上に資する周知啓発（第2章のまとめ）	26
1. 考察	26
(1) 「子どもの権利」の認知度	26
(2) 「ヤングケアラー」の認知度	27
(3) 「子どもの権利」を踏まえた「ヤングケアラーの理解」	28
(4) 若者の意識	28
(5) 今後の課題	29
第4章 先行文献調査の実施	30
1. 調査目的	30
2. 調査概要	30
(1) 先行文献調査の対象	30
(2) 調査の時期	30
(3) 調査の方法	30
3. 調査結果	31

4.	調査結果より得られた示唆	33
(1)	気づき	33
(2)	情報集約	34
(3)	支援	34
(4)	見守り	35
第5章	18歳以上の若者に対するアンケート調査	36
1.	調査目的	36
2.	調査概要	36
(1)	アンケート調査の対象	36
(2)	調査の時期	36
(3)	調査の方法	36
(4)	調査項目	37
(5)	回答状況	39
3.	調査結果	40
(1)	基本情報	40
(2)	普段の生活について	41
(3)	家庭や家族について	55
第6章	ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査	83
1.	調査目的	83
2.	調査概要	83
(1)	アンケート調査の対象	83
(2)	調査の時期	83
(3)	調査の方法	84
(4)	調査項目	84
3.	調査結果	86
(1)	基本情報	86
(2)	支援対象者の属性	88
(3)	ヤングケアラーとのつながり方	90
(4)	ヤングケアラーの支援ニーズ	92
(5)	ヤングケアラーへの支援内容	99
(6)	ヤングケアラーを支援する上での他機関との連携	105
(7)	18歳以上のヤングケアラー支援の課題	111
第7章	ヒアリング調査	117
1.	調査目的	117
2.	調査概要	117
(1)	アンケート調査の対象	117
(2)	調査の時期	117
(3)	調査の方法	117
(4)	調査項目	118
3.	調査結果	120
(1)	18歳以上のヤングケアラー本人に対するヒアリング調査結果	120
(2)	支援団体に対するヒアリング調査結果	129
第8章	18歳以上のヤングケアラーへの支援の在り方（第4～7章のまとめ）	140

(1) 18歳以上のヤングケアラーがおかれている状況.....	142
(2) 支援の在り方 .....	147
付録 資料編.....	156

# 第1章 事業概要

---

## 1. 背景と目的

令和7年度（2025年度）の調査は、こどもや若者が「ヤングケアラー」という言葉をどの程度理解しているのかを確認すること、そして、令和6年6月の子ども・若者育成支援推進法の改正を受け、ケアのために大人への移行が難しくなっている18歳以上の若者の実態と支援の在り方を調べることで、二本柱となっている。

令和2年度（2020年度）の調査<sup>1</sup>では、中高生の8割以上がヤングケアラーを「聞いたことがない」と回答し、令和3年度（2021年度）の調査<sup>2</sup>では、20代・30代でも「聞いたことがない」との回答が6割程度であった（小学生への認知度調査は未実施）。この結果を踏まえ、国は令和4年度からの3年間をヤングケアラーの社会的認知度向上に向けた「集中取組期間」とし、中高生におけるヤングケアラーの認知度を5割まで高める<sup>3</sup>ことを掲げた。そして、国や地方自治体において、広報媒体の作成や、中学校・高校でヤングケアラーに関する授業（出前講座）を行うなど、様々な普及啓発活動が展開されてきた。

こどもや若者が「こどもの権利」を知り、誰かに頼ってもいいと思える社会的風土や空気感を創出していく上でも、「こども自身に気づきを与えるような広報啓発」は重要である。前回の調査から5年が経った現在、小中高生や若者世代のヤングケアラーの認知度に関する調査を再度行い、前回の調査結果との比較を通して、これまでの取組がどのような成果をもたらしているのか、見えてきた課題は何なのか、現状を把握した上でさらに効果的な施策を作ることが求められている。

一方で、令和6年度に改正された子ども・若者育成支援推進法では、ヤングケアラーは「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」とされ、国や地方自治体が支援に努めるべき対象であることが明記された。ヤングケアラーは、イギリスなどをはじめ、多くの国で18歳未満とされているが、日本では、オーストラリアのように、大人への移行期を視野に入れてヤングケアラー支援が行われていく方針が打ち出された。

---

<sup>1</sup> 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社。（令和3年3月）. ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書。

([https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai\\_210412\\_7.pdf](https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf))

<sup>2</sup> 株式会社日本総合研究所。（令和4年3月）. ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書。

(<https://www.jri.co.jp/page.jsp?id=102439>)

<sup>3</sup> ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム。（令和3年5月）. ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告。

(<https://www.mhlw.go.jp/content/000780549.pdf>)

実際、18歳以上になってもケアを担っている若者は、こども期からの困難に加え、就職先の選択や、収入や時間や労力を自分のために使うこと、自分らしい人生を歩むことなどにも影響を受けている可能性がある。本人の意思を尊重しながら個々に合わせた支援をしていく点では18歳未満のヤングケアラーの場合と同様だが、18歳以上になると、法的には「児童」の枠から外れ、支援機関や提供可能な支援メニューも少なくなる。昨年度に当法人が実施した調査<sup>4</sup>においても、有識者からは、「法制化され、若者への切れ目ない支援が求められる一方で、どのように支援するべきかが具体的にないため、引き続き、国や自治体において、より丁寧に議論していく必要がある」、「進路、結婚、家族と同居を続けるか等、成人への移行期のサポートは、必要となる知識、認識が、18歳未満とは異なる」という指摘もなされている。このように、ヤングケアラーの年齢やケアの内容や状況は多種多様である中、ライフステージやケアの様態によって、本人が求める支援内容や直面する生活上の課題や負担感がどう変わってくるのか、これまでよりも精緻化して理解する必要がある。

本事業は、このような認識に基づき、ヤングケアラーの社会的認知度向上に向けた「集中取組期間」の取組の目標値達成状況の検証、小学生世代を含めたこども・若者のヤングケアラーに関する理解度の分析、18歳以上のヤングケアラーへのアプローチと支援の方法を探ることを目的とする。調査にあたっては、当事者が担っているケアの様態（精神疾患を有する家族のケア、通訳が必要な家族へのケア等）に応じた支援ニーズについても把握できるよう、留意した。

---

<sup>4</sup> 有限責任監査法人トーマツ。（令和7年3月）. ヤングケアラー支援ガイドライン（仮称）の策定に向けた調査研究. (<https://www.deloitte.com/jp/ja/Industries/government-public/information/youngcarer-guidelines.html>)

## 2. 事業内容

### (1) 検討委員会の設置・開催

18歳以上のヤングケアラーへの支援に関する知見を有するヤングケアラー支援団体関係者、学識経験者、および、自治体職員、計7名で構成する検討委員会を設置し、会議を年5回実施した。本事業を「こどもまんなか社会の実現」の視点を持って進めていくため、委員にはヤングケアラー経験者も複数含まれている。

検討委員会では、アンケート調査における調査項目等の検討、ヒアリング実施における対象の選定や調査項目等の検討、調査結果に基づく効果的な支援の在り方の分析に関する議論、成果物に関する議論等を実施した。以下に検討委員会の委員名簿を掲載する。

図表1-1：検討委員会委員名簿

委員名簿 (○印は 座長、五 十音順、 敬称略)	海野 美奈子	静岡市こども未来局こども若者応援課こども若者相談センター
	黒光 さおり	尼崎市教育委員会事務局こども教育支援課 スクールソーシャルワーカー
	小林 鮎奈	一般社団法人ヤングケアラー協会、 精神疾患の親をもつ子どもの会（こどもぴあ）副代表
	斎藤 真緒	立命館大学産業社会学部現代社会学科 教授
	○澁谷 智子	成蹊大学文学部現代社会学科 教授
	藤原 奈美	かごしま子ども・若者総合相談センター センター長
	米玉利 優子	さいたま市教育委員会事務局学校教育部 総合教育相談室 長

※ オブザーバー：こども家庭庁、文部科学省、厚生労働省

検討委員会の開催概要を以下に示す。

図表 1-2：検討委員会開催概要

開催概要	<p>第1回検討委員会          日程：令和7年8月28日（木）          議事：          1 全体計画の確認          2 先行文献調査結果の報告          3 18歳以上の若者に対するアンケート調査計画の検討          4 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査計画の検討</p>
	<p>第2回検討委員会          日程：令和7年11月17日（月）          議事：          1 18歳以上の若者に対するアンケート調査結果の報告          2 支援団体に対するアンケート調査計画の検討</p>
	<p>第3回検討委員会          日程：令和8年1月26日（月）          議事：          1 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査結果の報告          2 支援団体に対するアンケート調査結果の報告          3 18歳以上のヤングケアラー及び支援団体向けヒアリング調査計画</p>
	<p>第4回検討委員会          日程：令和8年2月25日（水）          議事：          1 18歳以上のヤングケアラー及び支援団体向けヒアリング調査結果の報告          2 報告書骨子の検討</p>
	<p>第5回検討委員会          日程：令和8年3月11日（水）－18日（水）（書面開催）          議事：          1 報告書の検討</p>

## （2） こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査

ヤングケアラーの社会的認知度向上に向けた「集中取組期間」の達成状況を確認するため、アンケート調査を実施した。

詳細については、「第2章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査」を参照。

### **(3) 考察1：こども・若者世代のヤングケアラーの認識等の向上に資する周知啓発**

第2章より得られた結果に基づき、こども・若者世代のヤングケアラーの認識等の向上に資する周知啓発について整理した。

詳細については、「第3章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等の向上に資する周知啓発」を参照。

### **(4) 先行文献調査の実施**

18歳以上のヤングケアラーへの効果的な支援の在り方を把握するための検討材料を収集することを目的として、学術論文等の文献調査を実施した。

詳細については、「第4章 先行文献調査の実施」を参照。

### **(5) 18歳以上の若者に対するアンケート調査**

18歳以上のヤングケアラーの実態を把握するため、アンケート調査を実施した。

詳細については、「第5章 18歳以上の若者に対するアンケート調査」を参照。

### **(6) ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査**

18歳以上のヤングケアラーに対する支援状況を把握するため、アンケート調査を実施した。

詳細については、「第6章 ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査」を参照。

### **(7) 18歳以上のヤングケアラー、支援団体に対するヒアリング調査**

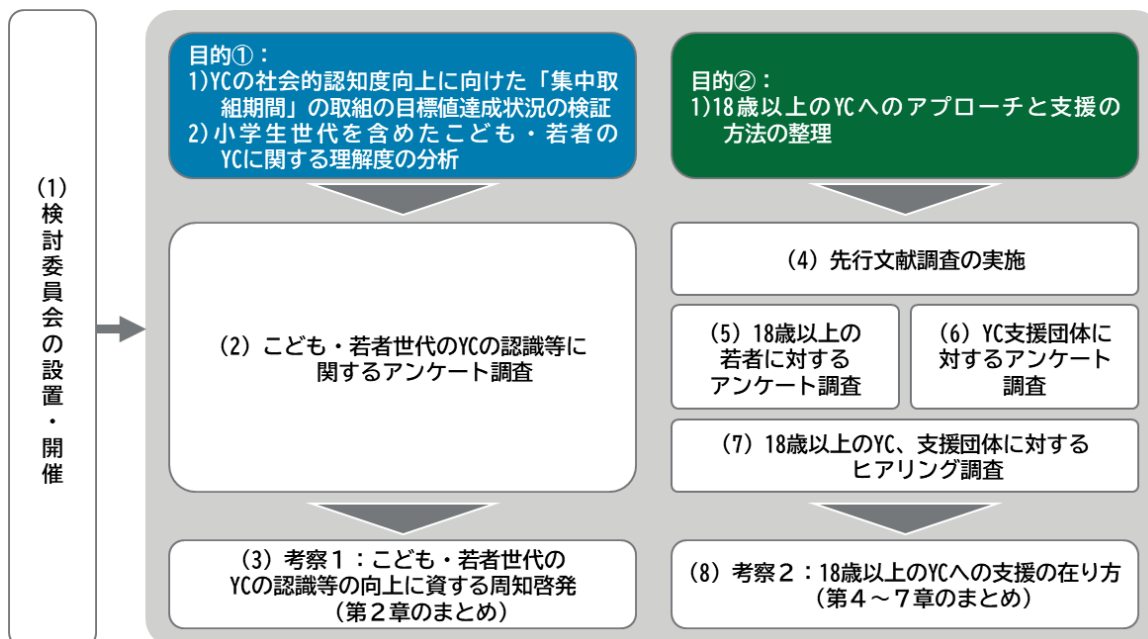
先行文献調査結果及びアンケート結果を基に、ヒアリング調査を実施した。

詳細については、「第7章 ヒアリング調査」を参照。

### **(8) 考察2：18歳以上のヤングケアラーへの支援の在り方**

各種アンケート結果及びヒアリング結果を基に、18歳以上のヤングケアラーへの効果的な支援の在り方等を分析した。詳細については、「第8章 18歳以上のヤングケアラーへの支援の在り方」を参照。

図表 1-3 : 本事業の全体像



※ YC…ヤングケアラーの略

### 3. 成果の公表方法

本報告書は、有限責任監査法人トーマツのホームページにて広く一般に公開する。

## 第2章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等 に関するアンケート調査

---

### 1. 調査目的

「集中取組期間」※の取組成果の達成状況を検証するとともに、ヤングケアラーに関する理解度を分析し、正しい理解を広めるための効果的な方策を検討するための情報を収集するため、アンケート調査を行った。

※ 令和3年5月「ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム報告」にて、令和4年度からの3年間をヤングケアラーの社会的認知度向上に向けた「集中取組期間」とした。取組の数値目標として、中高生の認知度を5割まで高めることが掲げられた。

### 2. 調査概要

#### (1) アンケート調査の対象

##### 1) 小学生～高校生（抽出）

小学生、中学生、全日制高校生は、全国の公立学校の中から層化無作為抽出にて調査対象とする250校を抽出し、当該学校に在籍する対象学年の生徒を対象とした。

また、定時制高校生、通信制高校生は、それぞれの公立の高校を各都道府県より1校ずつ無作為抽出した。

- 小学生（6年生）：約1.8万人
- 中学生（2年生）：約2.5万人
- 全日制高校生（2年生）：約4.9万人
- 定時制高校生（2年生相当）：47校に在籍する生徒
- 通信制高校生：47校に在籍する生徒

層化無作為抽出の方法は以下の通り。

① 層化

a. 全国の市町村を、都道府県単位で次の 11 地区に分類

北海道地区	：北海道（1道）
東北地区	：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県（6県）
関東地区	：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、 神奈川県（1都6県）
北陸地区	：新潟県、富山県、石川県、福井県（4県）
東山地区	：山梨県、長野県、岐阜県（3県）
東海地区	：静岡県、愛知県、三重県（3県）
近畿地区	：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県（2府4県）
中国地区	：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県（5県）
四国地区	：徳島県、香川県、愛媛県、高知県（4県）
北九州地区	：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県（4県）
南九州地区	：熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県（4県）

b. 各地区において、次の5つの都市規模別に分類

大都市（政令指定都市、東京都特別区）
人口 20 万人以上の市
人口 10 万人以上の市
人口 10 万人未満の市
町村

※ 「関東地区」については、「大都市（政令指定都市、東京都特別区）」を「関東:東京都特別区」と「関東:政令指定都市」に分け、計6つの都市規模別とした。

② 配分

- a. 抽出校数（小学校、中学校、全日制高校、各 250 校）をまず人口比に応じて 11 地区に配分
- b. 各地区に配分された校数を、各地区の都市規模別の合計人口の比に応じて、5つの都市規模別に配分

2) 若者（抽出）

Web アンケート調査会社に登録されているモニターのうち、18 歳～30 歳代の若者 1,200 人（10 代、20 代、30 代でそれぞれ 400 サンプル程度）を抽出し、男女比は半数ずつとすることを目安にモニターを抽出した。

## (2) 回答方法

### 1) 小学生～高校生

対象の学校へ、児童生徒本人向け、保護者向けの調査概要を郵送し、学校を通じて、児童生徒本人へ調査回答フォームの QR コード、URL を記載した調査概要を配布。Web 上で回答、回収を行った。

なお、回答に際しての心理的、労力的負担を軽減するよう、教員等から説明を補足してもらうなどのサポートを依頼するとともに、必要に応じ、心のケア等ができるような体制でのアンケートの実施を依頼した。

### 2) 若者

Web アンケート調査会社に登録されているモニターに回答 URL を送付し、Web 上で回答、回収を行った。

## (3) 調査の時期

### 1) 小学生～高校生

令和7年12月9日(火)～令和8年1月30日(金)

### 2) 若者

令和7年10月1日(水)～10月10日(金)

## (4) 調査項目

調査項目を以下に示す。なお、SA は単数回答、MA は複数回答、SAMT はマトリクス単数回答、MAMT はマトリクス複数回答、FA は自由回答、YC はヤングケアラーを示す。

図表2-1：こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査項目  
(小学生～高校生)

<1>. こどもの 権利につ いて	Q1 「こどもの権利」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか(SA) Q2 「こどもの権利」という言葉をどこで知ったか(MA) Q3 周囲の大人や友人が、困っているように見えるこどもに声をかけることは大切だと思うか
----------------------------	--

<p>&lt;2&gt;. ヤングケアラーについて</p>	<p>Q4 「YC」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか(SA)  Q5 「YC」という言葉をどこで知ったか(MA)  Q6 YCの人はどんな悩みがあると思うか(MA)  Q7 友人や周りに「YC」にあてはまる子どもがいた場合どうするか(MA)  Q8 より多くの人にYCのことを知ってもらうためには、どのようにお知らせしたらよいか(MA)  Q9 YCへの支援を広げていくために必要だと思うことや要望等</p>
<p>&lt;3&gt;. あなたのこと</p>	<p>Q10 学年、学校種別(SA)  Q11 性別(SA)  Q12 居住地(都道府県)(SA)</p>

図表2-2：若者に対するアンケート調査項目

<p>&lt;0&gt;. 基本情報 ①</p>	<p>SQ1 年齢(FA)  SQ2 性別(SA)  SQ3 家族の中でお世話をしている人はいるか(SA)  SQ4 お世話をしている対象及びお世話を必要とする方の状況(SA)</p>
<p>&lt;1&gt;. 基本情報 ②</p>	<p>Q1-1 在住する都道府県(SA)  Q1-2 職種(SA)  Q1-3 業種(SA)  Q1-4 現在の婚姻状態(SA)  Q1-5 こどもの有無(SA)  Q1-6 こどもの年代(MA)  Q1-7 現在の住まい方(SA)  Q1-8 同居家族について(MA)</p>
<p>&lt;2&gt;. ふだんの生活</p>	<p>Q2-1 現在の生活の満足度(SA)  Q2-2 自身の状況(SAMT)  Q2-3 健康状態(SAMT)  Q2-4 直近1週間の精神面の健康状態(SAMT)  Q2-5 カウンセリングや心理療法の経験有無(SAMT)  Q2-6 カウンセリングや心理療法が身近にあったら利用したいか(SA)  Q2-7 今後の結婚願望(SA)  Q2-8 結婚したくない理由(MA)  Q2-9 個人の現在の年収(SA)</p>
<p>&lt;3&gt;. 家庭や家族のこと</p>	<p>Q3-1 家族の中にお世話をしている人はいるか(SA)  Q3-2 お世話を必要としている人(MA)  Q3-3 お世話を必要としている人の状況(MAMT)  Q3-4 行っているお世話の内容(MAMT)  Q3-5 誰とお世話をしているか(MA)  Q3-6 お世話の頻度(SA)  Q3-7 平日のお世話の時間(SA)  Q3-8 いつからお世話をしているか(SA)  Q3-9 いつまでお世話をしていたか(SA)  Q3-10 お世話をしていることでやりたかったができなかったこと、あきらめたこと(MA)  Q3-11 家族のお世話に限らず現在悩んでいる・困っていること(MAMT・SAMT)</p>

	<p>Q3-12 最も現在悩んでいる・困っていることは家族のお世話をしていることによる影響だと感じることはあるか(SA)</p> <p>Q3-13 最も現在悩んでいる・困っていることについて今後どうしていきたいか(MA)</p> <p>Q3-14 お世話をすることにきつさを感じているか(MAMT)</p> <p>Q3-15 これまでお世話をしてきたなかできつかったこととして印象に残っていること(FA)</p> <p>Q3-16 Q3-15の頃と今を比較してきつさの程度に変化はあったか(SA)</p> <p>Q3-17 過去と比較してきつさが改善したと感じる主な理由(MA)</p> <p>Q3-18 過去と比較してきつさが悪化したと感じる主な理由(FA)</p> <p>Q3-19 自身がお世話をする理由(MA)</p> <p>Q3-20 お世話を必要としている家族のことやお世話の悩みの相談経験(SA)</p> <p>Q3-21 お世話を必要としている家族のことを相談した相手・相談先(MAMT・SAMT)</p> <p>Q3-22 相談先の名称(FA)</p> <p>Q3-23 誰にも相談したことがない理由(MA)</p> <p>Q3-24 お世話を必要としている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無(SA)</p> <p>Q3-25 周りの大人にサポートしてほしいことや必要としている支援(MAMT・SAMT)</p> <p>Q3-26 18歳未満の当時あったらよかった支援や周りの大人からのサポート(FA)</p> <p>Q3-27 今後5年間のうちに家族に介護が必要となる可能性(SA)</p> <p>Q3-28 将来介護する可能性のあるご家族・親族(MA)</p> <p>Q3-29 将来直面することになる介護に関する不安の程度(SA)</p> <p>Q3-30 将来直面することになる介護に関する不安(MA)</p>
<p>&lt;4&gt;. ヤングケアラーについて</p>	<p>Q4-1 「YC」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか(SA)</p> <p>Q4-2 「YC」の対象に家族の介護等のために“こどもから大人への移行”が難しくなっている18歳以上の若者が含まれていることをこれまで聞いたことがあるか(SA)</p> <p>Q4-3 「YC」という言葉をどこで知ったか(MA)</p> <p>Q4-4 あなた自身は「YC」にあてはまると思うか(SA)</p> <p>Q4-5 友人や周りに「YC」にあてはまる子どもがいた場合どうするか(MA)</p> <p>Q4-6 どのような関係機関に相談しようと思うか(MA)</p> <p>Q4-7 何もしない理由(SA)</p> <p>Q4-8 YCの認知度向上のために必要だと思うこと(MAMT・SAMT)</p> <p>Q4-9 18歳以上のYC支援を行う上で行政が知っておくべきこと(FA)</p> <p>Q4-10 YCへの支援を広げていくために必要だと思うことや要望等なんでも(FA)</p> <p>Q4-11 本人へのヒアリングへの協力可否(SA)</p>

※ 若者に対するアンケート調査は、回答者の中にヤングケアラーも含まれる可能性があるため、第5章で実施する18歳以上の若者に対するアンケート調査と一体的に実施した。第2章のヤングケアラーに関する理解度を把握する目的の項目は上図の「<4>. ヤングケアラーについて」が該当する。そのため、本章では、「<4>. ヤングケアラーについて」の結果を中心に示している。

## (5) 回答状況

年代別での回答状況は以下のとおり。

図表2-3：アンケート回答状況

		有効回答数
全体		31,612
年代別	小学生（6年生）	6,031
	中学生（2年生）	10,811
	全日制高校生（2年生）	11,821
	定時制高校生（2年生相当）	575
	通信制高校生	1,174
	若者（18～39歳）	1,200

※ 小学生～高校生向けのアンケートにて、学年や学校種別を尋ねる設問において「あてはまるものはない」と答えた回答者は除外している。

### 3. 調査結果

#### 【アンケート結果の記載に係る留意点】

- 第2章のアンケート結果では、全体像を捉える上で特に記述したいと考えた内容（第3章の考察に係る内容等）を抜粋して掲載している。  
（アンケート結果の詳細については資料編を参照）

#### （1）基本情報

##### ① 性別（SA） 小中高生Q11 若者SQ2

回答者の性別は以下のとおり。「通信制高校生」のみ、「女性」の方が「男性」を大幅に上回っている。

図表2-4：性別（SA）

	調査数 (n=)	男	女	その他	答えたくない
小学6年生	6,031	48.6	46.5	0.7	4.3
中学2年生	10,811	49.1	47.8	0.7	2.5
全日制高校2年生	11,821	43.5	53.4	0.6	2.4
定時制高校2年生相当	575	50.3	44.0	1.9	3.8
通信制高校生	1,174	30.0	63.0	2.2	4.8
若者	1,200	47.8	50.0	0.7	1.5

② 居住地 (SA) 小中高生Q12 若者Q1-1

回答者の居住地は以下のとおり。

図表2-5：居住地 (SA)

	調査数 (n=)	北海道	東北	関東	北陸	東山	東海	近畿	中国	四国	北九州	南九州
小学6年生	6,031	1.8	1.4	47.5	1.3	6.8	11.7	16.5	2.7	4.5	5.5	0.2
中学2年生	10,811	1.7	3.4	35.6	2.2	2.6	20.6	16.6	7.4	3.6	3.1	3.2
全日制高校2年生	11,821	0.3	5.5	37.7	6.0	6.1	13.9	10.0	3.8	6.6	6.1	4.0
定時制高校2年生相当	575	0.0	5.0	9.4	5.2	10.4	18.4	11.1	10.1	5.0	10.6	14.6
通信制高校生	1,174	0.0	5.0	18.5	3.3	0.7	17.5	2.0	17.1	7.9	18.5	9.5
若者	1,200	4.6	8.7	40.0	3.8	3.7	8.3	14.8	4.6	2.0	6.1	3.5

※ 地区区分

北海道：	北海道
東北：	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
関東：	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
北陸：	新潟、富山、石川、福井
東山：	山梨、長野、岐阜
東海：	静岡、愛知、三重
近畿：	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国：	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国：	徳島、香川、愛媛、高知
北九州：	福岡、佐賀、長崎、大分
南九州：	熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

## (2) 「子どもの権利」について

### ① 「子どもの権利」の認知度 (SA) 小中高生Q1

「子どもの権利」の認知度は、「聞いたことがある」「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計値)がいずれの年代でも7～8割である。一方、「全日制高校生」と比較して、「定時制高校生」「通信制高校生」は1割程度「聞いたことはない」人が多い。

図表2-6：「子どもの権利」の認知度 (SA)

	調査数 (n=)	(% )		
		聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことはあるが、よく知らない	聞いたことはない
小学6年生	6,031	27.4	53.3	19.3
中学2年生	10,811	15.5	56.2	28.3
全日制高校2年生	11,821	23.0	61.4	15.7
定時制高校2年生相当	575	17.4	54.3	28.3
通信制高校生	1,174	21.6	54.3	24.1
若者	1,200	-	-	-

### ② 「子どもの権利」を知った経路 (MA) 小中高生Q2

「子どもの権利」を知った経路は、いずれの年代でも「学校」が最も多く、次いで「テレビや新聞、ラジオ」、「SNSやインターネット」となっている。

図表2-7：「子どもの権利」を知った経路 (MA)

	調査数 (n=)	(% )							
		テレビや新聞、ラジオ	雑誌や本	SNSやインターネット	広報やチラシ、掲示物	イベントや交流会など	学校	友人・知人から聞いた	その他
小学6年生	4,867	39.5	12.5	27.2	9.5	3.7	65.1	11.1	7.1
中学2年生	7,753	44.2	9.8	35.4	11.6	2.9	57.2	7.5	2.9
全日制高校2年生	9,970	31.9	6.1	22.9	5.7	2.0	74.8	2.5	1.3
定時制高校2年生相当	412	34.5	7.8	35.7	12.4	4.4	62.1	5.1	2.7
通信制高校生	891	36.4	8.9	39.1	7.7	2.1	63.0	3.4	3.1
若者	1,200	-	-	-	-	-	-	-	-

- ③ 周囲の大人や友人が困っているようにみえることにも声をかけることは大切だと思うか (SA) **小中高生Q3**

周囲の大人や友人が困っているようにみえることにも声をかけることに対する認識は、「大切だと思う」（「とてもそう思う」、「ややそう思う」の合計値）がいずれの年代でも9割程度である。

図表2-8：周囲の大人や友人が困っているようにみえることにも声をかけることは大切だと思うか (SA)

	調査数 (n=)	とても そう 思う	やや そう 思う	どちら とも いえ ない	あまり そ う 思 わ な い	ま っ た く そ う 思 わ な い
小学6年生	6,031	62.7	29.4	6.3	1.1	0.5
中学2年生	10,811	58.3	33.5	6.9	0.8	0.6
全日制高校2年生	11,821	59.1	33.3	6.4	0.8	0.4
定時制高校2年生相当	575	55.7	33.0	8.9	1.2	1.2
通信制高校生	1,174	55.5	33.7	8.5	1.6	0.6
若者	1,200	-	-	-	-	-

### (3) 「ヤングケアラー」について

- ① 「ヤングケアラー」の認知度 (SA) **小中高生Q4** **若者Q4-1**

「ヤングケアラー」の認知度は、「聞いたことがある」（「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計値）が高校生においては7～8割である。一方、「小学6年生」においては5割以上が「聞いたことはない」と回答している。

図表2-9：「ヤングケアラー」の認知度 (SA)

	調査数 (n=)	聞いた こと があ り、 内 容 も 知 っ て い る	聞いた こと はあ る が、 よ く 知 ら な い	聞いた こ と は な い	無 回 答
小学6年生	6,031	25.0	21.4	53.6	-
中学2年生	10,811	34.0	24.0	41.9	-
全日制高校2年生	11,821	61.8	21.4	16.8	-
定時制高校2年生相当	575	48.9	25.6	25.6	-
通信制高校生	1,174	69.2	16.5	14.3	-
若者 (18～39歳)	1,200	40.3	29.3	30.4	-

② 「ヤングケアラー」に18歳以上の若者が含まれることの認知度 (SA) **若者Q4-2**

「ヤングケアラー」に18歳以上の若者が含まれることの認知度は、5割程度が「聞いたことがある」と回答している。

図表2-10:「ヤングケアラー」に18歳以上の若者が含まれることの認知度 (SA)

		回答数	%
全体		835	100.0
1	聞いたことがある	424	50.8
2	聞いたことはない	411	49.2

③ 「ヤングケアラー」を知った経路 (MA) **小中高生Q5** **若者Q4-3**

「ヤングケアラー」を知った経路は、いずれの年代においても「学校」や「テレビや新聞、ラジオ」が多い。また、「SNSやインターネット」は年齢が上がるほど回答割合が増えており、特に「通信制高校生」では55.5%が「ヤングケアラー」を知る機会となっている。

「子どもの権利」を知った経路(図表2-7)と比較して、「学校」が少ないものの、「テレビや新聞、ラジオ」、「広報やチラシ、掲示物」においては10~20ポイント程度多かった。

図表2-11:「ヤングケアラー」を知った経路(小中高生)(MA)

	調査数 (n=)	テレビや 新聞、ラ ジオ	雑誌や本	SNSや インター ネット	広報やチ ラシ、掲 示物	イベント や交流会 など	学校	友人・知 人から聞 いた	その他	無回答
小学6年生	2,799	45.4	17.3	29.1	21.0	2.9	46.8	10.4	7.8	-
中学2年生	6,278	51.4	13.4	37.1	23.8	2.5	49.1	6.9	2.8	-
全日制高校2年生	9,835	56.0	11.6	40.3	12.5	2.5	62.6	5.1	1.1	-
定時制高校2年生相当	428	48.1	13.3	44.2	21.3	6.3	59.1	7.7	2.6	-
通信制高校生	1,006	58.2	14.5	55.5	16.7	3.8	54.8	6.4	1.6	-

図表2-12：「ヤングケアラー」を知った経路（若者）（MA）

		回答数	%
全体		835	100.0
1	テレビ	517	61.9
2	新聞	75	9.0
3	雑誌や本	63	7.5
4	国・自治体などの行政の広報誌	66	7.9
5	講演会やイベント	44	5.3
6	学校	177	21.2
7	w e b サイト	178	21.3
8	S N S	152	18.2
9	友人・知人から聞いた	33	4.0
10	家族から聞いた	38	4.6
11	その他	16	1.9

④ ヤングケアラーの人にはどんな悩みがあると思うか（MA） 小中高生Q6

年代に関わらず、「ヤングケアラー」が抱えている悩みは多様であることを認識している。

図表2-13：ヤングケアラーの人にはどんな悩みがあると思うか（MA）

	調査数 (n=)	(%)								
		学校に行きたくても行けない	どうしても学校を遅刻・早退してしまう	宿題をする時間や勉強する時間が取れない	睡眠時間が十分に取れない	友人と遊ぶことができない	部活や習い事ができない、またはやめなければならなかった	進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変えた	自分の時間が取れない	その他
小学6年生	6,031	73.2	58.6	61.7	65.7	68.4	56.7	49.6	68.5	4.6
中学2年生	10,811	71.1	57.3	61.5	63.9	66.8	56.0	53.6	65.5	3.0
全日制高校2年生	11,821	65.9	50.2	63.9	63.5	66.3	53.7	57.1	63.4	1.5
定時制高校2年生相当	575	65.0	48.3	52.2	58.4	57.0	45.0	51.0	60.5	3.0
通信制高校生	1,174	62.4	54.6	69.8	68.2	70.4	55.6	68.4	75.0	2.8
若者	1,200	-	-	-	-	-	-	-	-	-

⑤ 友人や周囲に「ヤングケアラー」にあてはまるこどもがいた場合にどうするか

(MA) **小中高生Q7** **若者Q4-5**

友人や周囲に「ヤングケアラー」にあてはまるこどもがいた場合の対応は、年齢が若いほど周囲へ相談する旨の回答が多く見られる。一方、年齢を重ねるほど「何もしない」「わからない」といった回答が増えている。また、「通信制高校生」では「相談できる場所を教える」等、現実的な解決策を模索する回答も多い。

図表2-14：友人や周囲に「ヤングケアラー」にあてはまるこどもがいた場合の対応（小中高生）(MA)

	調査数 (n=)	学校の先生に相談する	家族（親、きょうだいなど）に相談する	知り合いの大人（学童の先生、近所の人、スポーツ少年団のコーチ、じゅくの先生など）に相談する	別の友人に相談する	相談できる場所（相談窓口など）を教える	何もしない（いままでと変わらずに、一緒に遊ぶなどして過ごすなど）	わからない	その他
小学6年生	6,031	50.2	46.3	22.8	25.1	42.0	6.5	9.8	3.8
中学2年生	10,811	42.1	38.8	17.8	21.6	34.1	11.9	12.8	3.0
全日制高校2年生	11,821	34.9	33.0	13.7	16.0	32.0	15.7	12.8	2.3
定時制高校2年生相当	575	36.5	30.3	15.7	15.7	33.4	14.3	19.0	2.3
通信制高校生	1,174	34.1	33.4	13.5	12.3	41.7	13.8	14.7	4.2

図表2-15：友人や周囲に「ヤングケアラー」にあてはまるこどもがいた場合の対応（若者）(MA)

	回答数	%
全体	1200	100.0
1 関係機関に相談する	219	18.3
2 家族、知人、友人に相談する	245	20.4
3 本人に様子を聞く	324	27.0
4 何もしない	267	22.3
5 わからない	381	31.8
6 その他	1	0.1

⑥ 相談しようと思う機関 (MA) 若者Q4-6

友人や周囲にヤングケアラーにあてはまるこどもがいた場合の対応として、「関係機関に相談する」と答えた回答者に対し、どのような関係機関に相談しようと思うかを尋ねたところ、「学校や教育委員会」が最も多く、次いで「子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関」「児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関」が多い。

図表2-16：相談しようと思う機関 (MA)

		回答数	%
全体		219	100.0
1	学校や教育委員会	92	42.0
2	民生委員・児童委員	50	22.8
3	子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関	88	40.2
4	児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関	74	33.8
5	ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	21	9.6
6	地域若者サポートステーションハローワークなどの就労支援機関	31	14.2
7	病院などの医療機関	31	14.2
8	地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	44	20.1
9	相談支援事業所などの障害福祉関係機関	25	11.4
10	保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	31	14.2
11	福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	44	20.1
12	フリースクール・こども食堂などの民間団体	20	9.1
13	警察	10	4.6
14	職場の相談窓口（人事・総務部門等への相談を含む）	15	6.8
15	その他	0	0.0

⑦ 友人や周囲に「ヤングケアラー」にあてはまるこどもがいた場合の対応として「何もしない」と回答した理由 (MA) 若者Q4-7

友人や周囲にヤングケアラーにあてはまるこどもがいた場合の対応として、「何もしない」と答えた回答者に対し、その理由を尋ねたところ、「相談する余裕がないため」が最も多い。

図表2-17：「何もしない」理由 (MA)

		回答数	%
全体		267	100.0
1	どのように対応したらよいかわからないため	70	26.2
2	家庭の問題に関わることに抵抗感があるため	47	17.6
3	家族が家族の世話をすることは当たり前であるため	37	13.9
4	相談する余裕がないため	106	39.7
5	その他	7	2.6

⑧ ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うこと (MA)

小中高生Q8 若者Q4-8

ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うことは、いずれの年代においても「ヤングケアラーについて学ぶことができる場所や時間をつくる」が最も多く、次いで「学校の先生など、こどもとかかわる大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる」、「SNS や動画など、インターネットを使ってみんなに知らせる」となっている。

一方、若者においては35.8%が「必要だと思うことはない」と回答するなど、他年代との乖離が見られる。

図表2-18：ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うこと (小中高生) (MA)

	調査数 (n=)								必要だと思うことはない (%)	
		ヤングケアラーについて学ぶことができる場所や時間をつくる	学校の先生など、こどもとかかわる大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる	大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる	テレビやテレビのCM、インターネットを使ってみんなに知らせる	SNSや動画など、インターネットを使ってみんなに知らせる	パンフレットやチラシなどを使ってみんなに知らせる	その他	必要だと思うことはない	
小学6年生	6,031	66.5	53.4	30.6	37.7	38.2	35.4	1.6	2.6	
中学2年生	10,811	62.9	47.7	30.6	34.6	42.8	23.1	0.8	2.7	
全日制高校2年生	11,821	59.3	43.4	32.5	32.8	42.2	14.4	0.3	2.0	
定時制高校2年生相当	575	59.0	41.6	33.4	29.7	41.7	16.2	1.2	4.0	
通信制高校生	1,174	59.5	48.7	42.0	35.4	49.9	17.9	1.4	1.8	

図表2-19：ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うこと (若者) (MA)

		回答数	%
全体		1200	100.0
1	こどもや若者が学校でヤングケアラーについて学ぶ時間を増やす	554	46.2
2	こどもや若者が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	240	20.0
3	こどもや若者と関わる大人が研修等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	242	20.2
4	大人が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	258	21.5
5	大人とこどもや若者が一緒に学ぶ機会を増やす	243	20.3
6	テレビ番組やテレビCMを活用した広報活動を拡充する	297	24.8
7	SNSや動画共有サイト、インターネットを活用した広報活動を拡充する	296	24.7
8	パンフレットやチラシなどの印刷物を用いた広報活動を拡充する	159	13.3
9	その他	10	0.8
10	必要だと思うことはない	430	35.8

⑨ ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思う事や要望等 (FA)

小中高生Q9 若者Q4-10

主な自由記述
(周知啓発)
➤ 「ヤングケアラー」という言葉を世間に浸透させる
➤ 「ヤングケアラー」の子が相談しやすい環境をつくる (本人が相談したくない場合は無理に聞かなくてもいいとは思ふ、この子だけに言いたい (相談したい) というのを他の人は受け入れる) 学校や、イベントで「ヤングケアラー」のことに学べる時間を作る。
➤ ヤングケアラーの講演会を開く。
➤ 相談窓口の存在をたくさんの人に知ってもらう・身近に相談できる手段を増やす
➤ CMとかで知らせたらみんなの記憶にも残るからCMで伝えていくのがいいと思う
➤ SNS サイトなどでヤングケアラーについて広め、身近で起こっていること、起こり得る事として認識してもらう
➤ YouTube チャンネルを作りショート動画を中心に世界に発信する。今の時代 YouTube でショート動画を見る人が多いから世界に広がると思う
➤ イベントを開催してより多くに知ってもらう
➤ お手伝いとヤングケアラーのちがいをわかってもらう、ヤングケアラーの例をたくさん上げる
➤ チラシとかポスターにヤングケアラーについて書いていろんなところに貼って知る人を広げることが必要だと思う
➤ まずはヤングケアラーの存在を取り上げ、SNS とテレビ両方からもっとアプローチをすることが必要。
➤ パンフレットなどを作って配る
➤ みんなが協力して、SNS などに発信したりしていくことが大切だと思った。
➤ もっと学校教育などでみんながヤングケアラーについて知る機会を増やす。
➤ ヤングケアラーだと気づいているヤングケアラーと、気づいていないヤングケアラーもいるのではないかと思います。そういう人がきちんと気づいて、どうすればいいかわかるように、教育や広報の面で教えることは大切だと思います
➤ ヤングケアラーという言葉がもっと身近にあるものだと確認できるようにする工夫が必要
➤ ヤングケアラーという言葉を広める。偏見があるならなくす
➤ ヤングケアラーになってしまう理由などを道徳の授業などで取り上げたりなどしたら良いと思う。

<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラーの人たちがイベントを作って幅広く地域の人に知らせる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラー本人からすると、その日常は当たり前に行っていることで、しょうがないと思ってるかもしれないし、中には孤独を感じたり困っているとしても、話したところで、、、って思う人にはメッセージを受け取ってもらえないこともあると思うから、ヤングケアラーの本人に、その日常にとらわれることはないんだよってということや、あなたはヤングケアラーなんだよって教えてあげる工夫をするのが大事だと思った。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 過剰な決めつけをすることがないようにすることを広げてく</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 私は YouTube の広告で知りました</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 子供も大人もヤングケアラーの認知度を高めることで、一人一人がヤングケアラーの存在に気づくことで対応の支援を広げていくことが重要だと思います。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ まずは地域の人に知ってほしい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 支援の必要性だけでなく、どのような支援があるのかをたくさんの人に知ってもらうこと。</li> </ul>
<p>(ヤングケアラーに気づくために)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ アンケートなどを取り、困っている子供を見つける。多くの人にヤングケアラーについて知ってもらう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラーで困っている子供にすぐに気づくこと</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 家事代行サービスなどで、ヤングケアラーの負担を減らす。自分がヤングケアラーに当てはまるか自信がなく声をあげられない人もいるだろうから、学校で全員にアンケート調査を行い、それぞれの悩みを調べ、その上で対策にあたる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 支援を広げるために、周りの大人が気づき、助けることが必要だと感じました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 周りの人たちが先生や親に相談していち早く気づいてもらえるような環境を作ったら、なるべく早く支援ができると思います</li> </ul>
<p>(助け合い)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 1人1人のためにみんなが助け合うこと。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ お手伝いをしてくれるボランティアを募集する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ボランティアや仕事などでもいいから、そういう人を増やして少しでも負担を減らしたい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラーの子が改善できるために周りができることを教えてほしい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラーの子が自分がしたいことができるように大人が支援する</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラーの人がいたら相談に乗れるようになりたいなと思いました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ヤングケアラーの人が困っていたら助けることと、今までと同じように接することが必要だと思う。</li> </ul>
<p>(相談しやすい環境づくり)</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ カウンセリングや身近な人に相談のできる環境を作ることが大切だと思った。初めて、</li> </ul>

<p>ヤングケアラーというものを知った。ヤングケアラーの人が身近にいるかも知れないし、そんな人がいたら相談にのりたいと思う。もし自分がヤングケアラーだったらと考えると、大変で辛いと思うし、自分の時間を大切にしたいと思ってしまうと思う。今後も、たくさんのことを発見し自分のことに置き換えて、考えることを意識していきたい。</p>
<p>➤ しっかりとヤングケアラーの人が相談できるような窓口などの整備</p>
<p>➤ まずは大人が「ヤングケアラー」について、きちんと理解するべきだと思います。子供だけでこの問題を抱えるのはおかしい。周りに相談しやすい環境を作るのが1番大切なことなのではないかと感じます。</p>
<p>➤ もし自分がヤングケアラーの立場だったら、知人に周りに相談してねと言われてもなかなか出来ないと思うので知らない人でもなんでもいいのでちゃんと本音で相談できる場がほしいと思う。</p>
<p>➤ ヤングケアラーが自分はヤングケアラーだと主張しやすい環境が必要だと思った</p>
<p>➤ ヤングケアラーの子どもが、それがよくないということに気づいて周りの人たちに助けを求めることができる環境を作るべきだと思う。</p>
<p>➤ ヤングケアラーの人が相談できるような場所を学校に設置する。心の相談室でもいい。</p>
<p>(ヤングケアラーへの支援)</p>
<p>➤ ヤングケアラーの子たちが逃げ込める場所を作る？</p>
<p>➤ お金の募金箱作って提供できるものを作る</p>
<p>➤ お金を支給してあげる、そのような家庭を支える仕事を作る</p>
<p>➤ クラウドファンディング、家事代行ボランティア</p>
<p>➤ ヤングケアラーの子供たちが学校に行けるように出来るようであればお金の面だったり、学習場所を作るなどの支援をして欲しい。</p>
<p>➤ ヤングケアラーの人が一時的に親元から離れて生活できる何かを作る</p>
<p>➤ ヤングケアラーの人が何を問題としているのか、何が不安なのかを十分に理解し、そのうえで必要な支援について考えること。</p>
<p>➤ ヤングケアラーの人が孤立しないように支援する</p>
<p>➤ ヤングケアラーの代わりにお世話をするサービス</p>
<p>➤ 家事が楽になる製品を無償または安く貸し出す</p>
<p>➤ 家事や生活、相談窓口などの援助が必要だと思う。</p>
<p>➤ 介護保険の充実化でヤングケアラーをなくす</p>
<p>➤ 金銭面での援助や施設の無料使用を認めること</p>
<p>➤ 自分の時間を増やすために障害を持っている親や兄弟が無料で入れる施設をつくること。</p>
<p>➤ 何よりも経済的支援だと思う</p>

<p>➤ 月の間に何日かケア対象者から離れられる時間を作ってあげたらいいと思う。四六時中対象者と一緒にいる時間は精神的に休めない。</p>
<p>➤ 理解のある融通の利く職場の紹介</p>
<p>(その他)</p>
<p>➤ ヤングケアラーはどんなことが不便なのか知りたい</p>
<p>➤ 助けることは必要とはいえ、少なくとも家族のために行っており、ヤングケアラーにしてしまったヤングケアラーの家族も彼らにとっては大切な存在であることにほとんどは変わらないはずであるため、むやみに家族から引き剥がそうとしたりヤングケアラーの家族を悪く言ったりしないようにすることは大切だと感じる。</p>
<p>➤ 大人の意識を変えていく。自分が忙しいからという理由で子どもに下の子たちの面倒を見させない。親の介護をさせない。親の都合は子どもの都合ではないという認識を広げていったほうが良いと思います。</p>
<p>➤ 言葉がわかりにくい。ヤングという言葉の曖昧さ。誰が対象でどのような視点から見た人たちを対象にしているのかがその内容がどんなものなのかがイメージできない。</p>

# 第3章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等の向上に資する周知啓発（第2章のまとめ）

## 1. 考察

本章では、本事業が掲げる二本の柱のうち、こどもや若者が「ヤングケアラー」をどの程度理解しているのかに焦点を当てたアンケート調査（第2章）の考察を行う。第1章の事業概要でも述べた通り、令和4年度からの3年間は、ヤングケアラーの社会的認知度向上に向けた「集中取組期間」とされたが、その取組の達成状況を確認し、ヤングケアラーに関する現在のこども・若者世代の認識を小学生世代も含めて分析するのが、このアンケート調査の目的であった。以下では、「子どもの権利」および「ヤングケアラー」の認知度、「子どもの権利」を踏まえた「ヤングケアラーの理解」、若者の意識、今後の課題という切り口から、得られた知見を整理する。

### （1）「子どもの権利」の認知度

- 小中高生の「子どもの権利」の認知度は、いずれの年代においても7割を超える結果であった。一方で、いずれの年代においても「聞いたことはあるが、よく知らない」が半数超であり、具体的な内容に関しては十分な理解が進んでいない様子が見受けられた。「こども基本法」の制定が2023年と比較的まだ最近であり、大人も「子どもの権利」について学ぶ機会が限られていたと考えられる。「子どもの権利」に関するこどもの理解が進むためには、こどもに関わる周囲の大人の十分な理解が求められるといえる。
- 全日制以外の高校生は、全日制高校2年生と比較して、「子どもの権利」を「聞いたことはない」という回答が10ポイント近く高かった。また、「子どもの権利」を聞いたことがあるこどもに認知経路を聞いたところ、「SNSやインターネット」という回答が全日制以外の高校では全日制と比較して12ポイント以上高く、「学校」という回答が12ポイント程度低かった。定時制や通信制に通う生徒の入学動機として、いずれも「対人関係困難（不登校やいじめの経験、精神的な疾患などにより、対人関係に困難を抱えている）」が多い傾向がある<sup>5</sup>ことから、通学に困難さを抱えている場合もあり、「学校」を通じて「子どもの権利」について知る機会が少なかった可能性がある。一方、定時制や通信制ではヤングケアラーと思われるこどもも多い傾

<sup>5</sup> 文部科学省。（令和6年3月）. 高等学校における教育の質確保への対応のための調査研究（高等学校の現状に係る調査・分析に係る調査研究）定時制・通信制の課程を置く高等学校について（調査報告書）. ([https://www.mext.go.jp/content/20241007-mxt\\_koukou02-100002270\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20241007-mxt_koukou02-100002270_01.pdf))

向にある<sup>6</sup>ため、「子どもの権利」の認知度が比較的低いことには注意が必要である。周知啓発に当たっては、必ずしも家族だけでケアを担う必要はない、ということを明示していくことが重要となる。

- 「周囲の大人や友人が、困っているようにみえるこどもに声をかけることは大切だと思うか」を尋ねたところ、いずれの学年・年代においてもそう思う（「とてもそう思う」と「ややそう思う」の合計）という回答が9割近く見られた。大人の側からは、声をかけるべきか否かを悩むケースもあると考えられるが、困っている時には声をかけてほしいと思っているこどもが多くいる可能性があるといえる。

## (2) 「ヤングケアラー」の認知度

- 「YC」という言葉の認知度（「聞いたことがあり、内容も知っている」と「聞いたことはあるが、よく知らない」の合計）は、小学生を除き、中学生から若者までのいずれの年代においても5割を超える結果であった。中高生においては、前回調査と比較して大幅に認知度が向上していた。
- 一方、小学6年生の認知度は5割弱であった。全国規模での小学6年生の認知度調査は今回が初めてのため、前回調査との比較はできないが、幼いころから家族のケアを担う場合があることを踏まえ、今後は小学生の認知度をより高めていく必要がある。
- 認知経路は、「学校」、「テレビや新聞、ラジオ」、「SNS やインターネット」などが多かった。また、前回調査と比較して、認知経路全体の回答量が増加しており、様々な経路からYCを知る機会が増えていると考えられる。一方で、小中高生が「子どもの権利」という言葉を知った経路に比べると、「ヤングケアラー」という言葉を知った経路は、「学校」を通しては相対的に少なく、逆に、「テレビや新聞、ラジオ」（約半数）、「SNS やインターネット」（3～5割）、「広報やチラシや掲示物」（1～2割）がより多いことがうかがえる。
- 通信制高校生の認知経路は、「子どもの権利」の認知経路と同様、全日制高校生と比較して「SNS やインターネット」という回答が15ポイント程度高く、「学校」が8ポイント程度低かった。「子どもの権利」と同様に啓発の仕掛けを検討していく必要がある。
- 若者アンケートにて、YCには18歳以上の若者が含まれることを聞いたことがあるかを聞いたところ、認知度は5割程度であった。若者は「学校」を通じたアプローチが難しくなるため、「テレビや新聞、ラジオ」、「SNS やインターネット」等の活用がより重要になると考えられる。

<sup>6</sup> 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社。（令和3年3月）．ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書。

([https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai\\_210412\\_7.pdf](https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2021/04/koukai_210412_7.pdf))

### (3) 「子どもの権利」を踏まえた「ヤングケアラーの理解」

- YC の認知度の向上に伴い、周囲が YC に気づける可能性が高まっていると考えられる。しかし、「子どもの権利」に十分留意しなければ、友人が YC に気づいた際に、YC 本人の同意なく別の友人に相談することで、個人情報広まり、YC 本人を傷つけてしまう可能性がある。そのため、YC に関する啓発と同時に、YC のこどもに気づいた際にどのように対応すべきかを啓発していく必要がある。若者アンケートでも YC に気づいた際の対応として、「関係機関に相談する」という回答が相対的に少なく、窓口で相談するとどうなるのかが十分に伝わっていない可能性が示唆された。
- 子どもの権利の認知度について、「聞いたことはあるが、よくわからない」という回答が半数近くを占めていた。YC の認知が広がってきている一方で、それが「こどもにとって当然保障されるべき権利」という理解まで十分に結びついていないことが考えられる。その結果、YC 支援は、「特別なこどもが、大人から特別に支援を受けるもの」という受け止められ方が生まれやすく、YC と名乗ることや、そう認識されること自体への抵抗感につながっている可能性がある。また、大人がこどもを守ろうとする意識から、結果的に親に対する批判につながりやすいことも、同じような背景からくるものであると考えられる。「権利」という視点が十分に根付かないまま支援が語られることで、当事者・家族・支援者の間に分断が生じてしまうリスクがあると考えられる。

### (4) 若者の意識

- YC について「よく知らない」という回答も合わせると 50%程度の若者が YC を知らないという結果であった。周囲に YC と思われるこども・若者がいた場合の対応についても「何もしない」「わからない」、認知度向上についても「必要ない」と回答している人も多い。「子どもの権利」については近年啓発が推進されているところであるが、現在 20-30 代の若者ではそのような概念を学ぶ機会がないまま大人になっている人が多いため、自己責任だと捉え、自分でやるしかない、家族のケアは家族だけでしなければいけない、という意識が醸成されている可能性がある。若者をターゲットとした情報発信が重要であるとともに、小学生などの早い段階から「子どもの権利」も含めて普及啓発に取り組む必要があると考えられる。
- また、「子どもの権利」と同様、18 歳以上も含めたあらゆる世代が自分の人生を生きる、ケアラーの権利という視点が重要である。特に 18 歳以上の YC においては、大人としてケア責任を担わなければいけないという意識を内面化している可能性があるため、本人がどのような人生を送りたいか、といった視点を常に中心に据えながら関わり、支援していくことが求められる。

## (5) 今後の課題

- 様々な年代の個人に対するアンケートの調査手法については、調査対象の定時制・通信制高校は47都道府県で各1校選定したため、選定された学校の取組で大きく結果が左右されることが考えられる。また、本調査の調査対象は学校に通うことにも限られていたため、今後はフリースクールや少年院を調査対象に含める等、より包括的な実態把握を実現するためにサンプリングを工夫することは今後の課題であると考えられる。
- また、結果に基づく施策については、これまでの調査結果と同様、いずれの年代においても相談が難しい状況が見られたことから、相談したいと思える人や場所を増やすという意味において、気軽に立ち寄ることができる場所(ドロップインセンターなど)や、こどもらしい経験ができるレスパイトプログラムの拡充が有効である可能性がある。

### 【地方自治体、ヤングケアラー支援団体等の皆様へのメッセージ】

本調査で得られた知見について、適宜、今後の周知啓発に活用いただきたく存じます。

#### 周知啓発に活用し得ると考えられる主な知見

- 「子どもの権利」や「ヤングケアラー」に対する認知度は増加傾向にあるものの、特に小学生、定時制・通信制高校生に対しては追加のアプローチをかけていくことが有効である可能性がある。
- 「子どもの権利」や「ヤングケアラー」という言葉を知りましょう、という段階から、そのようなこども・若者が周囲にいた際どのように対応すべきか、関係機関につながったあとはどのような対応が想定されるか等、より具体的な情報発信に踏み込むことが重要である。
- 特に若者に関しては、「子どもの権利」や「ヤングケアラー」の認知度向上において教育機関等の資源を経由してのアクセスが困難であることから、若者をターゲットにした情報発信が望まれる(【第8章(2)1)気づき、情報共有】も適宜参照されたい)。

## 第4章 先行文献調査の実施

---

### 1. 調査目的

18歳以上のヤングケアラーへの効果的な支援の在り方を把握するための検討材料を収集し、18歳以上のヤングケアラー及びヤングケアラー支援団体へのアンケート、ヒアリング調査の項目検討で活用するほか、成果物のとりまとめにおいても参考とすることを目的として、学術論文や実態調査等の文献調査を実施した。

### 2. 調査概要

#### (1) 先行文献調査の対象

18歳以上のヤングケアラーの実態や効果的な支援の在り方について議論されている可能性が高い以下の2種類の文献を対象とした。なお、「集中取組期間」の影響を加味し、いずれも2022年以降に発行されたものを対象とした。

- 1) 18歳以上のヤングケアラーの実態や支援に関する学術論文
- 2) 自治体を実施した、18歳以上のヤングケアラーも対象に含めている実態調査

#### (2) 調査の時期

- 1) 令和7年7月9日(水)～令和7年7月28日(月)
- 2) 令和7年7月14日(月)～令和7年7月28日(月)

#### (3) 調査の方法

- 1) Google Scholar を利用し、キーワード検索を実施して学術論文を収集した。  
検索キーワード(類語含む):「18歳以上」、「ヤングケアラー」、「支援」
- 2) Google Chrome を利用し、キーワード検索を実施して関連情報を収集した。  
検索キーワード(類語含む):「ヤングケアラー」、「実態調査」、「18歳以上」、「都道府県」、「市区町村」

### 3. 調査結果

以下「図表4-1：学術論文一覧」、「図表4-2：実態調査一覧」が抽出され、支援の段階（気づき、情報集約、支援、見守り）の4つの項目で整理し、報告した。

図表4-1：学術論文一覧

	調査・報告書名	発行年月	実施主体等
学術論文1	若者ケアラーの大学生活と精神的健康——大学における全学健康調査と学生相談対応歴の分析——	2025	馬場絢子
学術論文2	青森県の高校生・大学生のヤングケアラー実態と課題-青森県調査報告書から	2024	坂本保子, & 篝さと子
学術論文3	高等教育機関における学生ケアラーの発見と支援の現状: K市大学連携協議会参加校の教職員調査から	2024	森山千賀子ら
学術論文4	ヤングケアラーにおけるケア経験と家族機能がバネフィットファインディングに及ぼす影響の検討	2024	内山彩香, 小岩広平, & 若島孔文
学術論文5	ユニバーサル・ケアに関する検討—成人アンケート調査とヤングケアラーおよび高校生の語りから—	2024	齋藤美重子
学術論文6	ヤングケアラーの健康的で前向きな生活を支える要因の検討——複線径路・等至性モデルを用いて——	2023	藤田由起, & 遠矢浩一
学術論文7	ヤングケアラー傾向のある青年の家族構造と抑うつ症状の検討	2022	内山彩香, 椎野睦, & 若島孔文
学術論文8	ヤングケアラーに求められる支援—精神に「障害」のある親と暮らす子どもを中心に—	2022	佐藤純
学術論文9	ヤングケアラー的役割を有する子どもの家族関係と精神的健康の関連—ケア役割, 母親の養育態度, きょうだい関係に着目して—	2022	藤田由起, & 遠矢浩一
学術論文10	若者ケアラーに関する研究の現状と展望	2022	青木由未加, & 滝沢龍

	調査・報告書名	発行年月	実施主体等
学術論文 11	Association between caregiving time of young carers and depressive symptoms in emerging adulthood: mediating roles of neuroticism and resilience	2025	Matsuzaki, Y. et al
学術論文 12	Longitudinal associations between informal caring, social network, and psychological distress among adolescents and young adults: modelling within-person effects	2025	Nakanishi, M. et al

図表4-2：実態調査一覧

	調査・報告書名	発行年月	実施主体等
実態調査 1	北海道ヤングケアラーに関する実態調査結果報告書	2022	北海道
実態調査 2	青森県ヤングケアラー実態調査報告書	2023	青森県健康福祉部こどもみらい課
実態調査 3	山梨県ヤングケアラーに関する実態調査報告書	2025	山梨県
実態調査 4	令和4年度長野県ヤングケアラー実態調査結果報告書	2023	長野県県民文化部こども若者局次世代サポート課
実態調査 5	愛知県ヤングケアラー実態調査報告書	2022	愛知県福祉局児童家庭課
実態調査 6	三重県ヤングケアラー実態調査報告書	2023	三重県
実態調査 7	子ども若者ケアラー実態調査報告書	2022	滋賀の緑創造実践センター
実態調査 8	熊本県ヤングケアラーの実態に関する調査結果報告書	2023	熊本県健康福祉部子ども・障がい福祉局子ども家庭福祉課
実態調査 9	令和6年度宮崎県ヤングケアラーの実態に関する調査報告書	2025	宮崎県

	調査・報告書名	発行年月	実施主体等
実態調査 10	調布市子どもの生活実態に関する調査（ヤングケアラー実態調査）報告書	2023	調布市
実態調査 11	港区若者ケアラー実態調査報告書	2025	港区
実態調査 12	ヤングケアラー実態調査に関する報告書	2024	栗山町福祉課, 栗山町教育委員会
実態調査 13	ヤングケアラー支援ガイドライン（仮称）	2025	有限責任監査法人トーマツ

## 4. 調査結果より得られた示唆

本項では、「18歳以上のヤングケアラーへのアプローチと支援の方法の整理」を目的とし、先行文献調査を実施した。それらの結果を基に、ヤングケアラー支援の流れである「気づき」、「情報集約」、「支援」、「見守り」などについて得られた示唆を整理する。

### (1) 気づき

18歳以上のヤングケアラーに気づくための取組として、以下の事例が挙げられた。

- 18歳以上の若者が相談しやすい環境整備（馬場，2025、山梨県，2025、熊本県，2023、調布市，2023、トーマツ，2025）
- 関係機関における調査実施時において、ヤングケアラー発見に向けた項目の追加（森山ら，2024、佐藤，2022）
- ピア等、フラットな関係性を持つ他者との対話を通じた潜在的ヤングケアラーの表出（齋藤，2024、佐藤，2022）
- 18歳以上の若者と関わりの多い関係機関との協力体制の構築（青木&滝沢，2022、滋賀の緑創造実践センター，2022、トーマツ，2025）
- 都道府県における若者支援の強化の検討や窓口の明確化（トーマツ，2025）

また、18歳以上のヤングケアラーに気づくための課題として、以下の事例が挙げられた。

- 大学生において本人がヤングケアラーであることを自覚していない、支援を望んでいない、自主的に相談しない場合は気づかない（内山，小岩&若島，2024、森山ら，2024）
- 学校等の所属先がない場合、ヤングケアラーに気づくことはより一層困難（トーマツ，2025）
- 18歳以上のヤングケアラー支援の中心的な役割を担う機関は明確に定まっていない（トーマツ，2025）

上記により、こどもと異なり学校等の所属先や中心となる支援機関が明確でないことが多いことから、ヤングケアラーであることの本人の自覚や支援の希望がなければ支援者が気づかない可能性が示唆された。

## (2) 情報集約

18歳以上のヤングケアラーに関する情報集約の取組として、以下の事例が挙げられた。

- 多面的な困難や時間的・空間的視点に関する情報の確認(馬場, 2025、青木&滝沢, 2022)
- ヤングケアラーに関する相談が主訴ではない関係機関において、ヤングケアラーの可能性を意識した聞き取り(森山ら, 2024, 藤田&遠矢, 2023)
- 個人情報の共有に向けた本人同意(トーマツ, 2025)
- ヤングケアラーに関する情報や自治体の相談窓口の周知啓発(齋藤, 2024、青木&滝沢, 2022、山梨県, 2025、長野県, 2023、港区, 2025、宮崎県, 2025、トーマツ, 2025)

また、18歳以上のヤングケアラーに関する情報集約の課題として、以下の事例が挙げられた。

- ヤングケアラーが抱える全ての困難がケアに起因するとは限らない(馬場, 2025)
- 個人情報保護の観点から、生活環境や家庭について聞き取りする機会がない(森山ら, 2024)
- 福祉や教育分野等、複数の分野にまたがる支援の連携・情報収集ができる人材やネットワーク構築が不十分(滋賀の緑創造実践センター, 2022)

上記により、18歳以上のヤングケアラーが抱える困難は複雑であることが多い上、成人していることから関連機関が家庭の様子を聞く機会が少なく、そのハードルが高いこと、また、支援環境の整備が不十分である等、情報集約に困難が伴う可能性が示唆された。

## (3) 支援

18歳以上のヤングケアラーの支援に関する取組として、以下の事例が挙げられた。

- 心理・社会的な影響を受けている可能性を意識した支援(内山, 椎野&若島, 2022、Matsuzaki, et al., 2025、Nakanishi, et al., 2025、栗山町, 2024)
- 市区町村のヤングケアラー担当部署等における、18歳になった際の支援体制への移行準備の実施(森山ら, 2024、トーマツ, 2025)
- ケアの対象や分担の状況の把握、ケアの受け手への支援等、家族全体を捉える視点(坂本&箒, 2024、内山, 小岩&若島, 2024、藤田&遠矢, 2023、内山, 椎野&若島, 2022、トーマツ, 2025)
- 学費への支援や家庭内の経済的支援(北海道, 2022、青森県, 2023、調布市)
- 本人の意思を尊重しながら個々に合わせた支援の実施(藤田&遠矢, 2023、三重県,

2023、熊本県, 2023、トーマツ, 2025)

また、18 歳以上のヤングケアラーの支援に関する課題として、以下の事例が挙げられた。

- ダブルケア（育児と介護）につながる可能性（坂本&箒, 2024）
- 支援者（大学の相談員等）が支援方法に関する知識を有していない（森山ら, 2024、宮崎県, 2025）
- 18 歳未満の支援サービスから 18 歳以上の支援サービスへの移行（トーマツ, 2025）
- 法的に児童の枠から外れることによる提供可能な支援メニューの減少（トーマツ, 2025）

上記により、ダブルケアや支援メニューの減少といった 18 歳以上であることによる特有の課題に加え、支援者のノウハウ不足によって支援が不足している可能性が示唆された。

#### （４）見守り

18 歳以上のヤングケアラーの見守りに関する取組として、以下の事例が挙げられた。

- 就労移行支援等、適切なサービスとの連携（森山ら, 2024、滋賀の緑創造実践センター, 2022）
- 家族全体が負担なく過ごすことができる、家庭内のバランスの調整（藤田&遠矢, 2023）
- 状況が大きく変化するわけではなくとも相談を継続することの意義を感じられるような場の提供（馬場, 2025）
- 本人の都合に合わせてつつ、定期的に連絡（トーマツ, 2025）
- 活動圏域の広がりや転居等に伴う市区町村間の連携（トーマツ, 2025）

また、18 歳以上のヤングケアラーの見守りに関する課題として、以下の事例が挙げられた。

- 自身や家族のライフイベントに伴うケアのバランスの崩れ（藤田&遠矢, 2023）
- 学校等の所属機関がないことによるモニタリングの困難（トーマツ, 2025）

上記により、所属機関がない場合、継続的な関わりやモニタリングが困難であることが多く、結果的にケアのバランスの崩れなどに気づきにくい環境が発生する可能性が示唆された。

#### 【地方自治体、ヤングケアラー支援団体等の皆様へのメッセージ】

- 18 歳以上のヤングケアラーは、所属機関先が少ない、複雑な困難を抱えていることが多い、ダブルケアラーの場合がある、支援機関側の支援環境整備不足やノウハウ不足が指摘されるといった特有の課題による影響を受けている可能性があります。第 5～8 章の情報も合わせて参照いただき、18 歳以上のヤングケアラーの実情に合わせた支援の在り方を、各地域で検討する際の参考としていただければと存じます。

## 第5章 18歳以上の若者に対するアンケート調査

---

### 1. 調査目的

若者世代へのアプローチ方法を探るとともに、当事者が担っているケアの様態（精神疾患を有する家族へのケア、通訳が必要な家族へのケア等）に応じた支援ニーズ等を把握するために実施した。

### 2. 調査概要

#### (1) アンケート調査の対象

Web アンケート調査会社に登録されているモニターに調査を実施した（回答数：計 1,600人）。

##### 1) 18～39歳のヤングケアラー（抽出）

400 サンプル

##### 2) 10代（18、19歳）、20代、30代の若者（抽出）

1,200 サンプル※

- うち、122 サンプルはヤングケアラーとして上記1と合算して集計
- うち、1,078 サンプルはヤングケアラー以外として集計

※ 第2章 ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査（若者）と同じサンプル

#### (2) 調査の時期

令和7年10月1日（水）～10月10日（金）

#### (3) 調査の方法

Web アンケート調査会社に登録されているモニターにスクリーニング調査を実施の上、条件に該当した者に対して調査を実施した（回答負担軽減のため、ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査（若者）と併せて実施した）。

#### (4) 調査項目

調査項目を以下に示す。なお、SA は単数回答、MA は複数回答、SAMT はマトリクス単数回答、MAMT はマトリクス複数回答、FA は自由回答、YC はヤングケアラーを示す。

図表5-1：18歳以上の若者に対するアンケート調査項目

<p>&lt; 0 &gt; . 基本情報 ①</p>	<p>SQ 1 年齢(FA) SQ 2 性別(SA) SQ 3 家族の中でお世話をしている人はいるか(SA) SQ 4 お世話をしている対象及びお世話を必要とする方の状況(SA)</p>
<p>&lt; 1 &gt; . 基本情報 ②</p>	<p>Q1-1 在住する都道府県(SA) Q1-2 職種(SA) Q1-3 業種(SA) Q1-4 現在の婚姻状態(SA) Q1-5 こどもの有無(SA) Q1-6 こどもの年代(MA) Q1-7 現在の住まい方(SA) Q1-8 同居家族について(MA)</p>
<p>&lt; 2 &gt; . ふだんの生活</p>	<p>Q2-1 現在の生活の満足度(SA) Q2-2 自身の状況(SAMT) Q2-3 健康状態(SAMT) Q2-4 直近1週間の精神面の健康状態(SAMT) Q2-5 カウンセリングや心理療法の経験有無(SAMT) Q2-6 カウンセリングや心理療法が身近にあったら利用したいか(SA) Q2-7 今後の結婚願望(SA) Q2-8 結婚したくない理由(MA) Q2-9 個人の現在の年収(SA)</p>
<p>&lt; 3 &gt; . 家庭や家族のこと</p>	<p>Q3-1 家族の中にお世話をしている人はいるか(SA) Q3-2 お世話を必要としている人(MA) Q3-3 お世話を必要としている人の状況(MAMT) Q3-4 行っているお世話の内容(MAMT) Q3-5 誰とお世話をしているか(MA) Q3-6 お世話の頻度(SA) Q3-7 平日のお世話の時間(SA) Q3-8 いつからお世話をしているか(SA) Q3-9 いつまでお世話をしていたか(SA) Q3-10 お世話をしていることでやりたかったができなかったこと、あきらめたこと(MA) Q3-11 家族のお世話に限らず現在悩んでいる・困っていること(MAMT・SAMT) Q3-12 最も現在悩んでいる・困っていることは家族のお世話をしていることによる影響だと感じることはあるか(SA) Q3-13 最も現在悩んでいる・困っていることについて今後どうしていきたいか(MA) Q3-14 お世話をすることにきつさを感じているか(MAMT) Q3-15 これまでお世話をしてきたなかできつかったこととして印象に残っていること(FA)</p>

	<p>Q3-16 Q3-15 の頃と今を比較してきつさの程度に変化はあったか(SA)</p> <p>Q3-17 過去と比較してきつさが改善したと感じる主な理由(MA)</p> <p>Q3-18 過去と比較してきつさが悪化したと感じる主な理由(FA)</p> <p>Q3-19 自身がお世話をする理由(MA)</p> <p>Q3-20 お世話を必要としている家族のことやお世話の悩みの相談経験(SA)</p> <p>Q3-21 お世話を必要としている家族のことを相談した相手・相談先(MAMT・SAMT)</p> <p>Q3-22 相談先の名称(FA)</p> <p>Q3-23 誰にも相談したことがない理由(MA)</p> <p>Q3-24 お世話を必要としている家族のことやお世話の悩みを聞いてくれる人の有無(SA)</p> <p>Q3-25 周りの大人にサポートしてほしいことや必要としている支援(MAMT・SAMT)</p> <p>Q3-26 18 歳未満の当時あったらよかった支援や周りの大人からのサポート(FA)</p> <p>Q3-27 今後5年間のうちに家族に介護が必要となる可能性(SA)</p> <p>Q3-28 将来介護する可能性のあるご家族・親族(MA)</p> <p>Q3-29 将来直面することになる介護に関する不安の程度(SA)</p> <p>Q3-30 将来直面することになる介護に関する不安(MA)</p>
<p>&lt; 4 &gt; . ヤングケ アラーに ついて</p>	<p>Q4-1 「YC」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか(SA)</p> <p>Q4-2 「YC」の対象に家族の介護等のために”こどもから大人への移行”が難しくなっている 18 歳以上の若者が含まれていることをこれまで聞いたことがあるか(SA)</p> <p>Q4-3 「YC」という言葉をどこで知ったか(MA)</p> <p>Q4-4 あなた自身は「YC」にあてはまると思うか(SA)</p> <p>Q4-5 友人や周りに「YC」にあてはまる子どもがいた場合どうするか(MA)</p> <p>Q4-6 どのような関係機関に相談しようと思うか(MA)</p> <p>Q4-7 何もしない理由(SA)</p> <p>Q4-8 YC の認知度向上のために必要だと思うこと(MAMT・SAMT)</p> <p>Q4-9 18 歳以上の YC 支援を行う上で行政が知っておくべきこと(FA)</p> <p>Q4-10 YC への支援を広げていくために必要だと思うことや要望等なんでも(FA)</p> <p>Q4-11 本人へのヒアリングへの協力可否(SA)</p>

※ 18 歳以上の若者に対するアンケート調査は、第 2 章で実施するアンケート調査の回答者の中にヤングケアラーも含まれる可能性があること、18 歳以上のヤングケアラー以外の若者との比較が可能になることを踏まえ、「第 2 章 こども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査」と一体的に実施した。第 5 章の 18 歳以上の若者の実態を把握する目的の項目は上図の「< 4 > . ヤングケアラーについて」を除く項目が該当する。そのため、本章では、「< 4 > . ヤングケアラーについて」を除いた結果を中心に示している。

## (5) 回答状況

それぞれの回答状況は以下のとおり。

図表5-2：アンケート回答状況

		回答件数
全体		1,600
回答種別	ヤングケアラーの若者（18～39歳）	522
	ヤングケアラー以外の若者（18～39歳）	1,078

### 3. 調査結果

【アンケート結果の記載に係る留意点】

- 第5章のアンケート結果では、全体像を捉える上で特に記述したいと考えた内容（第8章の考察に係る内容等）を抜粋して掲載している（アンケート結果の詳細については資料編を参照）。

#### (1) 基本情報

① 性別 (SA) SQ1

18歳から30代後半のいずれの年代でも概ね「男性」「女性」の割合は半数程度となっている。

図表5-3：性別 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)			
		男	女	その他	答えたくない
全体	1600	49.6	48.3	0.8	1.3
1 YC全体	522	56.1	42.5	1.0	0.4
1-1 YC (10代)	54	53.7	44.4	0.0	1.9
1-2 YC (20代前半)	66	51.5	45.5	3.0	0.0
1-3 YC (20代後半)	139	60.4	39.6	0.0	0.0
1-4 YC (30代前半)	104	51.9	46.2	1.9	0.0
1-5 YC (30代後半)	159	57.9	40.9	0.6	0.6
2 YC以外全体	1078	46.5	51.1	0.7	1.7
2-1 YC以外 (10代)	360	43.9	52.2	1.1	2.8
2-2 YC以外 (20代前半)	109	43.1	53.2	0.0	3.7
2-3 YC以外 (20代後半)	251	49.8	48.2	1.2	0.8
2-4 YC以外 (30代前半)	139	41.0	56.8	0.7	1.4
2-5 YC以外 (30代後半)	219	52.1	47.9	0.0	0.0

## (2) 普段の生活について

### ① 職種 (SA) Q1\_2

YC であるかどうかに関わらず、職種は、「10代」では「学生」が最も多く、その他の年代は「会社員（正社員）」が最も多い。

図表5-4：職種 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)													
		経営者・役員	会社員 (正社員)	会社員 (契約社員・派遣社員)	パート・ アルバイト	公務員 (教職員除く)	教職員	医療関係者	自営業・ 自由業	専業主婦・ 主夫	学生	士業	NGO・ NPO 法人職員	無職	その他
全体	1600	0.7	32.7	3.6	12.6	2.1	1.1	3.1	3.6	4.0	24.6	0.1	0.1	11.4	0.5
1 YC全体	522	0.8	40.2	3.6	13.2	3.1	1.5	4.0	5.0	5.7	12.3	0.0	0.0	10.0	0.6
1-1 YC (10代)	54	1.9	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0	3.7	0.0
1-2 YC (20代前半)	66	1.5	28.8	1.5	19.7	0.0	1.5	6.1	3.0	1.5	25.8	0.0	0.0	10.6	0.0
1-3 YC (20代後半)	139	0.0	52.5	2.9	10.1	2.9	2.2	6.5	4.3	3.6	1.4	0.0	0.0	12.2	1.4
1-4 YC (30代前半)	104	1.0	42.3	5.8	12.5	4.8	0.0	3.8	1.9	16.3	0.0	0.0	0.0	11.5	0.0
1-5 YC (30代後半)	159	0.6	44.7	5.0	16.4	4.4	2.5	2.5	10.1	4.4	0.0	0.0	0.0	8.8	0.6
2 YC以外全体	1078	0.6	29.0	3.5	12.3	1.6	0.9	2.6	3.0	3.2	30.5	0.1	0.1	12.1	0.5
2-1 YC以外 (10代)	360	0.0	3.3	0.0	6.4	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	81.4	0.3	0.0	8.1	0.3
2-2 YC以外 (20代前半)	109	0.0	34.9	2.8	13.8	0.0	1.8	3.7	3.7	0.0	28.4	0.0	0.0	11.0	0.0
2-3 YC以外 (20代後半)	251	0.8	47.4	4.8	12.7	2.0	1.6	4.8	2.8	3.6	1.6	0.0	0.0	17.9	0.0
2-4 YC以外 (30代前半)	139	1.4	37.4	5.8	19.4	3.6	1.4	2.9	4.3	7.2	0.7	0.0	0.7	13.7	1.4
2-5 YC以外 (30代後半)	219	1.4	42.0	6.8	16.4	3.2	0.9	3.7	6.4	6.8	0.0	0.0	0.0	11.4	0.9

② 婚姻状態 (SA) Q1\_4

20代前半から30代前半にかけて、YC以外と比較してYCの方が既婚者がわずかに多い傾向が見られる。

図表5-5：婚姻状態 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)	
		未婚	既婚 (離死別を含む)
全体	1600	76.1	23.9
1 YC全体	522	69.5	30.5
1-1 YC (10代)	54	100.0	0.0
1-2 YC (20代前半)	66	89.4	10.6
1-3 YC (20代後半)	139	74.1	25.9
1-4 YC (30代前半)	104	54.8	45.2
1-5 YC (30代後半)	159	56.6	43.4
2 YC以外全体	1078	79.2	20.8
2-1 YC以外 (10代)	360	99.2	0.8
2-2 YC以外 (20代前半)	109	96.3	3.7
2-3 YC以外 (20代後半)	251	77.3	22.7
2-4 YC以外 (30代前半)	139	61.2	38.8
2-5 YC以外 (30代後半)	219	51.6	48.4

③ こどもの有無 (SA) Q1\_5

20代前半から30代前半にかけて、YC以外と比較してYCの方がわずかにこどもがいる割合が高い傾向が見られる。

図表5-6：こどもの有無 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)	
		いる	いない
全体	1600	17.3	82.7
1 YC全体	522	23.9	76.1
1-1 YC (10代)	54	0.0	100.0
1-2 YC (20代前半)	66	7.6	92.4
1-3 YC (20代後半)	139	20.9	79.1
1-4 YC (30代前半)	104	37.5	62.5
1-5 YC (30代後半)	159	32.7	67.3
2 YC以外全体	1078	14.1	85.9
2-1 YC以外 (10代)	360	0.0	100.0
2-2 YC以外 (20代前半)	109	1.8	98.2
2-3 YC以外 (20代後半)	251	10.8	89.2
2-4 YC以外 (30代前半)	139	27.3	72.7
2-5 YC以外 (30代後半)	219	38.8	61.2

④ 現在の住まい方 (SA) Q1\_7

18 歳から 30 代後半のいずれの年代においても YC 以外と比較して YC の方が「家族と同居」している割合が高い傾向が見られる。特に、20 代後半から 30 代前半にかけて、YC は YC 以外に比べ「一人暮らし」をしている回答者が 1～2 割程度少なかった。

図表 5-7：現在の住まい方 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		家族と同居	一人暮らし	その他
全体	1600	74.3	24.4	1.4
1 YC全体	522	80.8	17.4	1.7
1-1 YC (10代)	54	79.6	16.7	3.7
1-2 YC (20代前半)	66	74.2	22.7	3.0
1-3 YC (20代後半)	139	79.1	20.1	0.7
1-4 YC (30代前半)	104	80.8	19.2	0.0
1-5 YC (30代後半)	159	85.5	11.9	2.5
2 YC以外全体	1078	71.1	27.7	1.2
2-1 YC以外 (10代)	360	77.8	21.9	0.3
2-2 YC以外 (20代前半)	109	67.0	31.2	1.8
2-3 YC以外 (20代後半)	251	59.4	38.2	2.4
2-4 YC以外 (30代前半)	139	69.8	28.1	2.2
2-5 YC以外 (30代後半)	219	76.3	23.3	0.5

⑤ 同居家族 (SA) Q1\_8

現在の住まい方について、「家族と同居」と答えた回答者に対し、同居家族を尋ねたところ、18歳から30代後半のいずれの年代においても「母親」や「父親」が最も多い。

20代前半では、「あなたの配偶者・パートナー」や「あなたの子ども」と住んでいる人、「祖父」や「祖母」と住んでいる人は、YCの方がYC以外よりも多い一方、「母親」や「父親」と住んでいる人はYCの方がYC以外より少ない。

30代では、YCは「母親」と同居している人が6割程度だが、YC以外は4割程度である。また、30代では、YCは「あなたの配偶者・パートナー」との同居は4割未満だが、YC以外は半数を超えている。

30代後半では、YCは「あなたの子ども」と住んでいるのが3割程度だが、YC以外では5割近かった。

上記より、20代前半で「母親」から離れるYCが一定割合見られ、逆に、20代後半からは「母親」と住む人の割合はYCの方がYC以外よりも増えている。YCと比較して、YC以外は、20代前半まで、及び20代後半以降の、同居家族のあり方の変化が大きい様子がみられた。

図表5-8：同居家族 x ケアの有無 x 年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)																		
		母親	父親	兄	姉	弟	妹	祖母	祖父	曾祖母	曾祖父	叔母	叔父	あなたの配偶者・パートナー	あなたの子ども	いとこ	甥、姪	母親のパートナー	父親のパートナー	その他
全体	1188	69.5	56.8	7.6	6.5	11.4	9.7	9.7	5.0	0.1	0.2	0.8	0.4	26.7	20.2	0.2	0.1	0.3	0.3	0.3
1 YC全体	422	67.1	53.3	6.6	5.2	8.5	6.9	13.7	6.4	0.2	0.5	1.4	0.5	29.6	22.7	0.2	0.0	0.5	0.5	0.2
1-1 YC (10代)	43	93.0	86.0	23.3	14.0	25.6	18.6	20.9	11.6	0.0	0.0	2.3	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1-2 YC (20代前半)	49	77.6	63.3	6.1	8.2	12.2	10.2	24.5	12.2	0.0	0.0	0.0	2.0	10.2	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1-3 YC (20代後半)	110	67.3	57.3	1.8	1.8	10.9	10.0	14.5	6.4	0.9	1.8	0.9	0.9	28.2	20.0	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0
1-4 YC (30代前半)	84	58.3	41.7	7.1	3.6	1.2	1.2	9.5	3.6	0.0	0.0	2.4	0.0	39.3	31.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.2
1-5 YC (30代後半)	136	60.3	43.4	5.1	5.1	4.4	2.9	9.6	4.4	0.0	0.7	0.7	0.0	39.7	33.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
2 YC以外全体	766	70.9	58.7	8.1	7.2	13.1	11.2	7.4	4.2	0.0	0.0	0.4	0.4	25.1	18.8	0.1	0.1	0.1	0.3	0.3
2-1 YC以外 (10代)	280	97.1	81.4	13.2	8.6	22.1	19.6	10.0	7.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2-2 YC以外 (20代前半)	73	89.0	74.0	8.2	11.0	13.7	15.1	15.1	9.6	0.0	0.0	1.4	0.0	5.5	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
2-3 YC以外 (20代後半)	149	63.1	55.0	7.4	8.1	10.1	5.4	4.7	1.3	0.0	0.0	0.7	0.7	30.9	16.1	0.7	0.0	0.7	0.7	0.7
2-4 YC以外 (30代前半)	97	41.2	32.0	1.0	2.1	8.2	5.2	8.2	2.1	0.0	0.0	1.0	1.0	51.5	39.2	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
2-5 YC以外 (30代後半)	167	43.1	32.9	4.2	5.4	3.0	4.2	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	55.1	47.9	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0

⑥ 生活への満足度 (SA) Q2\_1

生活への満足度は、年代別で見たところ、YC 以外においては年齢を重ねるごとに「どちらともいえない」という回答が増えているのに対し、YC においては年齢を重ねるごとに「満足していない」という回答が増えている。就業状況別で見たところ、YC であるかどうかに関わらず「学生」は「満足している」という回答が多いのに対し、「非就業者」は「満足していない」という回答が多い。ケアを始めた時期別で見たところ、「YC (ケア発生時期：高校生以下)」と比較して「YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)」の方が「満足していない」という回答が多かった。

図表5-9：生活への満足度 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		満足している	どちらともいえない	満足していない
全体	1600	38.7	36.8	24.6
1 YC全体	522	33.3	35.8	30.8
1-1 YC (10代)	54	51.9	31.5	16.7
1-2 YC (20代前半)	66	33.3	39.4	27.3
1-3 YC (20代後半)	139	37.4	33.8	28.8
1-4 YC (30代前半)	104	26.9	40.4	32.7
1-5 YC (30代後半)	159	27.7	34.6	37.7
2 YC以外全体	1078	41.3	37.2	21.5
2-1 YC以外 (10代)	360	52.5	33.9	13.6
2-2 YC以外 (20代前半)	109	45.0	31.2	23.9
2-3 YC以外 (20代後半)	251	32.7	40.2	27.1
2-4 YC以外 (30代前半)	139	40.3	37.4	22.3
2-5 YC以外 (30代後半)	219	31.5	42.0	26.5

図表5-10：生活への満足度 x ケアの有無 x 就業状況 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		満足している	どちらともいえない	満足していない
全体	1600	38.7	36.8	24.6
1 YC全体	522	33.3	35.8	30.8
1-1 YC (就業者)	373	34.3	35.1	30.6
1-2 YC (非就業者)	82	15.9	40.2	43.9
1-3 YC (学生)	64	50.0	34.4	15.6
1-4 YC (その他)	3	33.3	33.3	33.3
2 YC以外全体	1078	41.3	37.2	21.5
2-1 YC以外 (就業者)	580	37.2	40.3	22.4
2-2 YC以外 (非就業者)	164	22.6	37.2	40.2
2-3 YC以外 (学生)	329	58.1	31.0	10.9
2-4 YC以外 (その他)	5	20.0	80.0	0.0

図表5-11：生活への満足度 x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		満足している	どちらとも いえない	満足してい ない
全体	1600	38.7	36.8	24.6
1 YC全体	522	33.3	35.8	30.8
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	274	37.6	35.8	26.6
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	248	28.6	35.9	35.5
2 YC以外全体	1078	41.3	37.2	21.5

⑦ 身体面の健康状態 (SA) Q2\_3\_1

身体面の健康状態は、年代別で見たところ、YCであるかどうかに関わらず、年齢を重ねるごとにわずかに「あまりよくない」、「よくない」と回答する方が増加している。また、ケアを始めた時期においては明確な違いが見られない。

図表5-12：身体面の健康状態 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
全体	1600	18.8	25.3	37.4	12.6	6.0
1 YC全体	522	18.0	24.7	34.7	15.5	7.1
1-1 YC (10代)	54	33.3	33.3	14.8	11.1	7.4
1-2 YC (20代前半)	66	24.2	27.3	24.2	16.7	7.6
1-3 YC (20代後半)	139	16.5	30.9	33.8	12.2	6.5
1-4 YC (30代前半)	104	13.5	15.4	50.0	14.4	6.7
1-5 YC (30代後半)	159	14.5	21.4	36.5	20.1	7.5
2 YC以外全体	1078	19.1	25.5	38.8	11.1	5.5
2-1 YC以外 (10代)	360	25.3	29.4	33.9	7.8	3.6
2-2 YC以外 (20代前半)	109	22.0	25.7	34.9	10.1	7.3
2-3 YC以外 (20代後半)	251	15.1	21.9	45.0	13.9	4.0
2-4 YC以外 (30代前半)	139	20.1	24.5	38.8	10.1	6.5
2-5 YC以外 (30代後半)	219	11.4	23.7	41.6	14.6	8.7

図表5-13：身体面の健康状態 x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		よい	まあよい	ふつう	あまりよく ない	よくない
全体	1600	18.8	25.3	37.4	12.6	6.0
1 YC全体	522	18.0	24.7	34.7	15.5	7.1
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	274	20.8	27.7	30.3	14.6	6.6
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	248	14.9	21.4	39.5	16.5	7.7
2 YC以外全体	1078	19.1	25.5	38.8	11.1	5.5

⑧ 精神面の健康状態 (SA) Q2\_3\_2

精神面の健康状態は、18歳から30代後半のいずれの年代においても、YCではYC以外より「よくない」と答えた回答者が若干多い。また、ケアを始めた時期別で見ると、「ふつう」と答えた回答者がいずれの時期でも多いが、「よくない」と答えた回答者は「YC(ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)」が多い。

図表5-14：精神面の健康状態 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
全体	1600	13.8	21.6	37.0	17.8	9.9
1 YC全体	522	11.5	20.3	37.2	18.4	12.6
1-1 YC (10代)	54	24.1	22.2	22.2	20.4	11.1
1-2 YC (20代前半)	66	12.1	28.8	25.8	13.6	19.7
1-3 YC (20代後半)	139	9.4	20.9	39.6	18.0	12.2
1-4 YC (30代前半)	104	10.6	14.4	44.2	21.2	9.6
1-5 YC (30代後半)	159	9.4	19.5	40.3	18.2	12.6
2 YC以外全体	1078	14.9	22.2	36.9	17.4	8.5
2-1 YC以外 (10代)	360	15.8	25.6	33.6	18.6	6.4
2-2 YC以外 (20代前半)	109	20.2	21.1	29.4	16.5	12.8
2-3 YC以外 (20代後半)	251	13.5	22.7	39.4	16.3	8.0
2-4 YC以外 (30代前半)	139	17.3	22.3	39.6	13.7	7.2
2-5 YC以外 (30代後半)	219	11.0	16.4	41.6	19.6	11.4

図表5-15：精神面の健康状態 x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない
全体	1600	13.8	21.6	37.0	17.8	9.9
1 YC全体	522	11.5	20.3	37.2	18.4	12.6
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	274	12.8	24.5	35.0	17.5	10.2
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	248	10.1	15.7	39.5	19.4	15.3
2 YC以外全体	1078	14.9	22.2	36.9	17.4	8.5

⑨ 孤独感の有無 (SA) Q2\_4\_1

精神面の健康状態が「あまりよくない」、または「よくない」と答えた回答者に対し、孤独感の有無を尋ねたところ、年代別においては 30 代後半を除き YC が YC 以外と比較して「ある」と答えた回答者が多い。また、ケアを始めた時期別に見ると、「YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)」において、孤独感が「ある」と回答した人が多い。

図表 5-16：孤独感の有無 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ある	まあある	どちらともいえない	あまりない	ない
全体	442	34.4	27.8	13.3	12.9	11.5
1 YC全体	162	40.7	32.1	8.0	11.1	8.0
1-1 YC (10代)	17	47.1	23.5	11.8	17.6	0.0
1-2 YC (20代前半)	22	59.1	18.2	0.0	9.1	13.6
1-3 YC (20代後半)	42	47.6	26.2	14.3	7.1	4.8
1-4 YC (30代前半)	32	37.5	34.4	3.1	15.6	9.4
1-5 YC (30代後半)	49	26.5	44.9	8.2	10.2	10.2
2 YC以外全体	280	30.7	25.4	16.4	13.9	13.6
2-1 YC以外 (10代)	90	37.8	27.8	12.2	13.3	8.9
2-2 YC以外 (20代前半)	32	34.4	25.0	28.1	3.1	9.4
2-3 YC以外 (20代後半)	61	19.7	24.6	18.0	19.7	18.0
2-4 YC以外 (30代前半)	29	27.6	27.6	20.7	6.9	17.2
2-5 YC以外 (30代後半)	68	30.9	22.1	13.2	17.6	16.2

図表 5-17：孤独感の有無 x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ある	まあある	どちらともいえない	あまりない	ない
全体	442	34.4	27.8	13.3	12.9	11.5
1 YC全体	162	40.7	32.1	8.0	11.1	8.0
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	76	35.5	28.9	11.8	13.2	10.5
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	86	45.3	34.9	4.7	9.3	5.8
2 YC以外全体	280	30.7	25.4	16.4	13.9	13.6

⑩ 無気力な気持ちになることがあるか (SA) Q2\_4\_2

精神面の健康状態が「あまりよくない」、または「よくない」と答えた回答者に対し、無気力な気持ちになることがあるかを尋ねたところ、「ある（「ある」、「まあある」の合計値）」という回答が、18歳から30代後半のいずれの年代においても、YC以外と比較して、YCの方が多かった。また、ケアを始めた時期別に見ると、「YC（ケア発生時期：高校卒業後の世代以降）」において、無気力な気持ちになることが「ある」と回答した人が多い。

図表5-18：無気力な気持ちになることがあるか x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ある	まあある	どちらとも いえない	あまりない	ない
全体	442	44.1	29.0	12.0	7.0	7.9
1 YC全体	162	50.0	30.9	4.9	6.2	8.0
1-1 YC (10代)	17	47.1	35.3	5.9	11.8	0.0
1-2 YC (20代前半)	22	59.1	18.2	4.5	4.5	13.6
1-3 YC (20代後半)	42	59.5	23.8	7.1	4.8	4.8
1-4 YC (30代前半)	32	43.8	37.5	6.3	3.1	9.4
1-5 YC (30代後半)	49	42.9	36.7	2.0	8.2	10.2
2 YC以外全体	280	40.7	27.9	16.1	7.5	7.9
2-1 YC以外 (10代)	90	48.9	28.9	11.1	5.6	5.6
2-2 YC以外 (20代前半)	32	37.5	31.3	25.0	0.0	6.3
2-3 YC以外 (20代後半)	61	32.8	31.1	14.8	13.1	8.2
2-4 YC以外 (30代前半)	29	34.5	24.1	10.3	20.7	10.3
2-5 YC以外 (30代後半)	68	41.2	23.5	22.1	2.9	10.3

図表5-19：無気力な気持ちになることがあるか x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ある	まあある	どちらとも いえない	あまりない	ない
全体	442	44.1	29.0	12.0	7.0	7.9
1 YC全体	162	50.0	30.9	4.9	6.2	8.0
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	76	42.1	28.9	10.5	7.9	10.5
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	86	57.0	32.6	0.0	4.7	5.8
2 YC以外全体	280	40.7	27.9	16.1	7.5	7.9

① 消えてしまいたいと思うことがあるか (SA) Q2\_4\_3

精神面の健康状態が「あまりよくない」、または「よくない」と答えた回答者に対し、消えてしまいたいと思うことがあるかを尋ねたところ、18歳から30代後半のいずれの年代においても、YCの方がYC以外よりも「ある」と答えた回答者が多い。また、ケアを始めた時期別に見ると、「YC（ケア発生時期：高校卒業後の世代以降）」において、消えてしまいたいと思うことが「ある」と回答した人が多い。

図表5-20：消えてしまいたいと思うことがあるか x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ある	まあある	どちらともいえない	あまりない	ない
全体	442	41.6	23.8	15.6	9.3	9.7
1 YC全体	162	46.9	24.1	12.3	8.0	8.6
1-1 YC (10代)	17	35.3	23.5	17.6	17.6	5.9
1-2 YC (20代前半)	22	54.5	18.2	18.2	0.0	9.1
1-3 YC (20代後半)	42	61.9	19.0	4.8	9.5	4.8
1-4 YC (30代前半)	32	46.9	31.3	6.3	6.3	9.4
1-5 YC (30代後半)	49	34.7	26.5	18.4	8.2	12.2
2 YC以外全体	280	38.6	23.6	17.5	10.0	10.4
2-1 YC以外 (10代)	90	45.6	25.6	15.6	5.6	7.8
2-2 YC以外 (20代前半)	32	18.8	37.5	25.0	6.3	12.5
2-3 YC以外 (20代後半)	61	39.3	21.3	19.7	11.5	8.2
2-4 YC以外 (30代前半)	29	31.0	20.7	13.8	20.7	13.8
2-5 YC以外 (30代後半)	68	41.2	17.6	16.2	11.8	13.2

図表5-21：消えてしまいたいと思うことがあるか x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ある	まあある	どちらともいえない	あまりない	ない
全体	442	41.6	23.8	15.6	9.3	9.7
1 YC全体	162	46.9	24.1	12.3	8.0	8.6
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	76	43.4	18.4	15.8	10.5	11.8
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	86	50.0	29.1	9.3	5.8	5.8
2 YC以外全体	280	38.6	23.6	17.5	10.0	10.4

⑫ カウンセリングや心理療法を受けた経験 (SA) Q2\_5

精神面の健康状態が「あまりよくない」、または「よくない」と答えた回答者に対し、カウンセリングや心理療法を受けた経験を尋ねたところ、年代別においては 20 代前半・20 代後半は「現在、受けている」と答えた回答者が最も多いが、その他の年代においてはケアの有無に関わらず「受けたことはない」が最も多い。

また、ケアを始めた時期別に見ると、いずれの時期においても「受けたことはない」が最も多い。

図表5-22：カウンセリングや心理療法を受けた経験 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		現在、受けている	過去に受けたことがあるが、今は受けていない	受けたことはない
全体	442	19.5	19.0	61.5
1 YC全体	162	22.8	22.2	54.9
1-1 YC (10代)	17	17.6	17.6	64.7
1-2 YC (20代前半)	22	40.9	22.7	36.4
1-3 YC (20代後半)	42	35.7	26.2	38.1
1-4 YC (30代前半)	32	12.5	25.0	62.5
1-5 YC (30代後半)	49	12.2	18.4	69.4
2 YC以外全体	280	17.5	17.1	65.4
2-1 YC以外 (10代)	90	26.7	15.6	57.8
2-2 YC以外 (20代前半)	32	12.5	21.9	65.6
2-3 YC以外 (20代後半)	61	16.4	19.7	63.9
2-4 YC以外 (30代前半)	29	3.4	13.8	82.8
2-5 YC以外 (30代後半)	68	14.7	16.2	69.1

図表5-23：カウンセリングや心理療法を受けた経験 x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		現在、受けている	過去に受けたことがあるが、今は受けていない	受けたことはない
全体	442	19.5	19.0	61.5
1 YC全体	162	22.8	22.2	54.9
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	76	25.0	23.7	51.3
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	86	20.9	20.9	58.1
2 YC以外全体	280	17.5	17.1	65.4

⑬ カウンセリングや心理療法の利用希望 (SA) Q2\_6

カウンセリングや心理療法を「過去に受けたことがあるが、今は受けていない」、または「受けたことはない」と答えた回答者に対し、利用希望を尋ねたところ、年代別においては20代後半・30代前半のYCは「安価であれば利用したい」と答えた回答者が最も多いが、その他の年代においてはケアの有無に関わらず「あまり利用したいと思わない」、「まったく利用したいと思わない」が多い。

また、ケアを始めた時期別に見ると、「YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)」は「安価であれば利用したい」と答えた回答者が最も多かったが、高校生以下でケアを始めた人では、「まったく利用したいと思わない」、「あまり利用したいと思わない」が多い。

図表5-24：カウンセリングや心理療法の利用希望 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)			
		利用したい	安価であれば利用したい	あまり利用したいと思わない	まったく利用したいと思わない
全体	356	6.7	31.2	28.7	33.4
1 YC全体	125	10.4	36.8	33.6	19.2
1-1 YC (10代)	14	7.1	21.4	57.1	14.3
1-2 YC (20代前半)	13	0.0	30.8	23.1	46.2
1-3 YC (20代後半)	27	11.1	48.1	25.9	14.8
1-4 YC (30代前半)	28	14.3	39.3	25.0	21.4
1-5 YC (30代後半)	43	11.6	34.9	39.5	14.0
2 YC以外全体	231	4.8	28.1	26.0	41.1
2-1 YC以外 (10代)	66	6.1	39.4	15.2	39.4
2-2 YC以外 (20代前半)	28	3.6	32.1	10.7	53.6
2-3 YC以外 (20代後半)	51	7.8	15.7	31.4	45.1
2-4 YC以外 (30代前半)	28	0.0	32.1	25.0	42.9
2-5 YC以外 (30代後半)	58	3.4	22.4	41.4	32.8

図表5-25：カウンセリングや心理療法の利用希望 x ケアの有無 x ケアを始めた時期 (SA)

	調査数 (n=)	(%)			
		利用したい	安価であれば利用したい	あまり利用したいと思わない	まったく利用したいと思わない
全体	356	6.7	31.2	28.7	33.4
1 YC全体	125	10.4	36.8	33.6	19.2
1-1 YC (ケア発生時期：高校生以下)	57	7.0	28.1	29.8	35.1
1-2 YC (ケア発生時期：高校卒業後の世代以降)	68	13.2	44.1	36.8	5.9
2 YC以外全体	231	4.8	28.1	26.0	41.1

⑭ 結婚願望 (SA) Q2\_7

未婚者に結婚願望を尋ねたところ、ケアの有無に関わらず、より若い人ほど「結婚したい (パートナー証明等を含む)」の回答割合が高く、一方、年齢を重ねるほど「結婚したくない」の回答が増加している。また、18歳から30代後半のいずれの年代においてもYC以外と比較してYCの方が結婚願望がある傾向が見られた。

図表5-26：結婚願望 x ケアの有無 x 年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		結婚したい (パート ナー証明等 を含む)	どちらとも いえない	結婚したく ない
全体	1217	34.0	34.3	31.7
1 YC全体	363	39.9	35.0	25.1
1-1 YC (10代)	54	53.7	31.5	14.8
1-2 YC (20代前半)	59	40.7	33.9	25.4
1-3 YC (20代後半)	103	41.7	33.0	25.2
1-4 YC (30代前半)	57	38.6	33.3	28.1
1-5 YC (30代後半)	90	30.0	41.1	28.9
2 YC以外全体	854	31.5	34.0	34.5
2-1 YC以外 (10代)	357	37.3	36.1	26.6
2-2 YC以外 (20代前半)	105	31.4	32.4	36.2
2-3 YC以外 (20代後半)	194	29.9	31.4	38.7
2-4 YC以外 (30代前半)	85	29.4	36.5	34.1
2-5 YC以外 (30代後半)	113	17.7	31.0	51.3

⑮ 結婚したくない理由 (MA) Q2\_8

「結婚したくない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、年代別では明確な傾向が見られなかった。YC 全体においては「結婚したいと思う人がいないから」が最も多く、次いで「時間を自由に使いたいから」、「結婚相手に気を使いたくないから」となっている。一方、YC 以外全体においては、「お金を自由に使いたいから」が最も多く、次いで「時間を自由に使いたいから」、「結婚したいと思う人がいないから」となっている。

図表5-27：結婚したくない理由 x ケアの有無 x 年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)									
		お金を自由に使いたいから	時間を自由に使いたいから	結婚相手に気を使いたくないから	結婚したいと思う人がいないから	相手の家族との付き合いが面倒だから	仕事や趣味を優先したいから	家族を養う自信がないから	結婚までの過程が面倒だから	同性婚などの制度が十分ではないから	その他
全体	386	45.1	45.1	36.5	42.2	25.9	28.2	27.5	24.1	13.2	6.0
1 YC全体	91	42.9	48.4	44.0	50.5	30.8	22.0	30.8	24.2	8.8	9.9
1-1 YC (10代)	8	50.0	50.0	62.5	37.5	12.5	25.0	37.5	37.5	12.5	12.5
1-2 YC (20代前半)	15	26.7	33.3	26.7	66.7	33.3	13.3	20.0	33.3	6.7	6.7
1-3 YC (20代後半)	26	57.7	53.8	46.2	42.3	26.9	23.1	42.3	26.9	11.5	11.5
1-4 YC (30代前半)	16	43.8	43.8	31.3	50.0	37.5	31.3	25.0	18.8	18.8	18.8
1-5 YC (30代後半)	26	34.6	53.8	53.8	53.8	34.6	19.2	26.9	15.4	0.0	3.8
2 YC以外全体	295	45.8	44.1	34.2	39.7	24.4	30.2	26.4	24.1	14.6	4.7
2-1 YC以外 (10代)	95	48.4	50.5	34.7	48.4	27.4	32.6	32.6	17.9	15.8	2.1
2-2 YC以外 (20代前半)	38	36.8	31.6	31.6	31.6	18.4	28.9	18.4	28.9	7.9	7.9
2-3 YC以外 (20代後半)	75	44.0	40.0	29.3	29.3	20.0	25.3	20.0	21.3	21.3	4.0
2-4 YC以外 (30代前半)	29	44.8	44.8	41.4	41.4	27.6	24.1	20.7	31.0	10.3	13.8
2-5 YC以外 (30代後半)	58	50.0	46.6	37.9	43.1	27.6	36.2	32.8	31.0	10.3	3.4

### (3) 家庭や家族について

#### ① ケアの状況 (SA) Q3\_1

ケアの状況は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「現在いる」が最も多い。また、10代においては「現在はいないが、過去にはいた」が29.6%と一定数の回答が見られる。

図表5-28：ケアの状況 x YC の年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		現在いる	現在はいないが、過去にいた	現在も過去もいない
YC全体	522	89.3	10.7	0.0
1 YC (10代)	54	70.4	29.6	0.0
2 YC (20代前半)	66	89.4	10.6	0.0
3 YC (20代後半)	139	91.4	8.6	0.0
4 YC (30代前半)	104	94.2	5.8	0.0
5 YC (30代後半)	159	90.6	9.4	0.0

#### ② ケア対象者 (MA) Q3\_2

ケア対象者は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「母親」が最も多い。次いで、「祖母」や「父親」となっている。

図表5-29：ケア対象者 x YC の年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)							
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	こども	配偶者・パートナー	その他
YC全体	522	40.0	22.4	24.9	10.7	8.6	8.8	13.6	1.7
1 YC (10代)	54	37.0	29.6	35.2	9.3	24.1	1.9	1.9	0.0
2 YC (20代前半)	66	36.4	24.2	27.3	9.1	9.1	4.5	12.1	1.5
3 YC (20代後半)	139	36.7	18.0	24.5	15.1	10.1	7.9	15.8	2.2
4 YC (30代前半)	104	48.1	18.3	24.0	11.5	3.8	5.8	14.4	1.0
5 YC (30代後半)	159	40.3	25.8	21.4	7.5	5.0	15.7	15.7	2.5

③ ケア対象者の状況 (MA) Q3\_3

ケア対象者の状況は、「母親」の場合、10代においては「精神疾患（疑いを含む）」が最も多く、20代前半・20代後半・30代後半においては「高齢（65歳以上）」が最も多く、30代前半においては「要介護（介護が必要な状態）」が最も多い。

ケア対象者が「父親」、「祖母」、「祖父」の場合、18歳から30代後半のいずれの年代においても「高齢（65歳以上）」が最も多い。

ケア対象者が「きょうだい」の場合、10代においては「幼い」が最も多く、20代前半・30代前半・30代後半においては最も多い理由は多様であり、20代後半においては「発達障がい（疑いを含む）」が最も多い。

ケア対象者が「配偶者・パートナー」や「子ども」という場合は、10代～20代前半では多くは見られず、20代後半から増えてくる。

その上で、ケア対象者が「配偶者・パートナー」の場合、30代後半を除き最も多い理由は多様であり、30代後半においては「精神疾患（疑いを含む）」が最も多い。

ケア対象者が「子ども」の場合、10代を除き「幼い」が最も多い。

図表5-30：ケア対象者の状況（母親）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	(%)												
		高齢 (65歳以上)	幼い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい (疑いを含む)	精神疾患 (疑いを含む)	依存症 (アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	精神疾患、 依存症以外の病 気	日本語 が苦 手、わ からな い	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	209	51.2	0.0	25.4	6.2	12.9	1.9	3.3	12.9	3.8	12.0	1.9	3.8	6.2
1 YC (10代)	20	15.0	0.0	5.0	0.0	15.0	5.0	5.0	35.0	0.0	0.0	5.0	5.0	20.0
2 YC (20代前半)	24	45.8	0.0	4.2	0.0	12.5	4.2	8.3	16.7	4.2	12.5	0.0	8.3	0.0
3 YC (20代後半)	51	41.2	0.0	13.7	3.9	9.8	2.0	2.0	13.7	7.8	17.6	0.0	3.9	15.7
4 YC (30代前半)	50	34.0	0.0	40.0	8.0	16.0	2.0	4.0	12.0	4.0	14.0	6.0	4.0	0.0
5 YC (30代後半)	64	85.9	0.0	37.5	10.9	12.5	0.0	1.6	4.7	1.6	9.4	0.0	1.6	1.6

図表5-31：ケア対象者の状況（父親）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	（%）												
		高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	発達障 がい (疑いを含む)	精神疾 患(疑 いを含 む)	依存症 (アル コール 依存 症、 ギャン ブル依 存症な ど) (疑い 含む)	精神疾 患、依 存症以 外の病 気	日本語 が苦 手、わ からない	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	117	60.7	0.0	17.9	6.0	10.3	3.4	6.8	9.4	12.0	9.4	5.1	6.0	4.3
1 YC (10代)	16	31.3	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0	18.8	25.0	6.3	0.0	6.3	6.3	12.5
2 YC (20代前半)	16	50.0	0.0	0.0	6.3	12.5	6.3	0.0	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	0.0
3 YC (20代後半)	25	56.0	0.0	16.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	8.0	0.0	8.0	4.0
4 YC (30代前半)	19	63.2	0.0	15.8	5.3	15.8	5.3	10.5	10.5	10.5	15.8	10.5	0.0	0.0
5 YC (30代後半)	41	78.0	0.0	26.8	7.3	17.1	4.9	7.3	9.8	17.1	12.2	4.9	7.3	4.9

図表5-32：ケア対象者の状況（祖母）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	（%）												
		高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	発達障 がい (疑いを含む)	精神疾 患(疑 いを含 む)	依存症 (アル コール 依存 症、 ギャン ブル依 存症な ど) (疑い 含む)	精神疾 患、依 存症以 外の病 気	日本語 が苦 手、わ からない	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	130	89.2	0.0	42.3	28.5	17.7	2.3	2.3	1.5	2.3	3.8	1.5	0.8	0.8
1 YC (10代)	19	78.9	0.0	36.8	31.6	26.3	0.0	0.0	5.3	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	18	83.3	0.0	33.3	33.3	5.6	5.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6
3 YC (20代後半)	34	88.2	0.0	29.4	23.5	14.7	2.9	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0
4 YC (30代前半)	25	92.0	0.0	44.0	24.0	12.0	4.0	8.0	4.0	4.0	16.0	4.0	4.0	0.0
5 YC (30代後半)	34	97.1	0.0	61.8	32.4	26.5	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	2.9	0.0	0.0

図表5-33：ケア対象者の状況（祖父）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	（%）												
		高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	発達障 がい (疑いを含む)	精神疾 患(疑 いを含 む)	依存症 (アル コール 依存 症、 ギャン ブル依 存症な ど) (疑い 含む)	精神疾 患、依 存症以 外の病 気	日本語 が苦 手、わ からない	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	56	85.7	0.0	28.6	23.2	8.9	0.0	3.6	0.0	3.6	1.8	5.4	1.8	0.0
1 YC (10代)	5	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	6	66.7	0.0	50.0	33.3	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
3 YC (20代後半)	21	85.7	0.0	28.6	19.0	9.5	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	4.8	0.0
4 YC (30代前半)	12	91.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5 YC (30代後半)	12	91.7	0.0	41.7	41.7	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0

図表5-34：ケア対象者の状況（きょうだい）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	（%）												
		高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	発達障 がい(疑いを含む)	精神疾 患(疑いを含む)	依存症 (アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	精神疾 患、依 存症以 外の病 気	日本語 が苦 手、わ からない	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	45	0.0	20.0	8.9	8.9	13.3	17.8	17.8	8.9	6.7	13.3	6.7	6.7	4.4
1 YC (10代)	13	0.0	38.5	0.0	7.7	7.7	23.1	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	6	0.0	16.7	16.7	0.0	16.7	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
3 YC (20代後半)	14	0.0	7.1	0.0	7.1	7.1	21.4	28.6	14.3	7.1	14.3	0.0	7.1	7.1
4 YC (30代前半)	4	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
5 YC (30代後半)	8	0.0	12.5	37.5	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	25.0	37.5	12.5	25.0	0.0

図表5-35：ケア対象者の状況（配偶者・パートナー）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	（%）												
		高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	発達障 がい(疑いを含む)	精神疾 患(疑いを含む)	依存症 (アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	精神疾 患、依 存症以 外の病 気	日本語 が苦 手、わ からない	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	71	7.0	0.0	1.4	1.4	2.8	1.4	2.8	25.4	5.6	14.1	14.1	15.5	12.7
1 YC (10代)	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0
3 YC (20代後半)	22	13.6	0.0	4.5	4.5	4.5	0.0	4.5	18.2	9.1	13.6	9.1	18.2	9.1
4 YC (30代前半)	15	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	13.3	20.0	20.0	13.3
5 YC (30代後半)	25	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	36.0	4.0	16.0	8.0	12.0	20.0

図表5-36：ケア対象者の状況（子ども）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	（%）												
		高齢 (65歳以上)	若い	要介護 (介護が必要な状態)	認知症	身体障 がい	知的障 がい	発達障 がい(疑いを含む)	精神疾 患(疑いを含む)	依存症 (アルコール依存症、 ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	精神疾 患、依 存症以 外の病 気	日本語 が苦 手、わ からない	ひきこ もり、 不登校	その他
YC全体	46	0.0	60.9	8.7	0.0	8.7	10.9	15.2	4.3	2.2	0.0	6.5	10.9	4.3
1 YC (10代)	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 YC (20代後半)	11	0.0	72.7	0.0	0.0	9.1	18.2	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0
4 YC (30代前半)	6	0.0	66.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	16.7
5 YC (30代後半)	25	0.0	52.0	12.0	0.0	12.0	8.0	16.0	4.0	4.0	0.0	4.0	16.0	4.0

「その他」の主な自由記述
(母親)
➤ 怪我
➤ 病気
(父親)
➤ ALS
➤ 病気
(祖母)
➤ 難聴

#### ④ ケアの内容 (MA) Q3\_4

ケアの内容は、ケア対象者が「母親」の場合、18歳から30代後半のいずれの年代においても「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多い。

ケア対象者が「父親」の場合、10代から20代後半にかけては「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多い一方、30代前半においては最も多いケアの内容は多様であり、30代後半においては「通院の付き添い」が最も多い。

ケア対象者が「祖母」の場合、20代後半を除き「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多く、20代後半においては「通院の付き添い」が最も多い。

ケア対象者が「祖父」の場合、10代においては「外出の付き添い（買い物、散歩など）」が最も多く、20代前半においては最も多いケアの内容は多様であり、20代後半においては「通院の付き添い」が最も多く、30代前半・30代後半においては「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多い。

ケア対象者が「きょうだい」の場合、10代・30代後半においては「見守り」が最も多く、20代前半・20代後半においては最も多いケアの内容は多様であり、30代前半においては「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多い。

ケア対象者が「配偶者・パートナー」の場合、10代においては最も多いケアの内容は多様であり、20代前半においては「支援を入れるための事業者との連絡・調整」が最も多く、20代後半・30代前半・30代後半においては「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多い。

ケア対象者が「こども」の場合、10代・20代後半・30代後半においては「家事（食事の準備や掃除、洗濯）」が最も多く、20代前半においては「きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など」が最も多く、30代前半においては最も多いケアの内容は多様である。

図表5-37：ケアの内容（母親）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	(%)																
		①家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	②きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	③身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	④外出の付き添い (買い物、散歩など)	⑤通院の付き添い	⑥入院や入所をしている家族との面会	⑦医療的ケア (経管栄養の管理や痰(たん)の吸引など)	⑧感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	⑨見守り	⑩通訳 (日本語や手話など)	⑪金銭管理	⑫家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	⑬薬の管理	⑭障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	⑮支援を入れるための事業者との連絡・調整	⑯支援を入れるための家族との連絡・調整	⑰その他
YC全体	209	63.6	0.0	20.6	41.6	32.1	5.7	4.3	29.2	18.7	1.9	12.0	11.5	13.4	7.7	7.2	8.1	1.4
1 YC (10代)	20	65.0	0.0	5.0	25.0	10.0	0.0	0.0	25.0	15.0	0.0	5.0	10.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	24	62.5	0.0	20.8	37.5	25.0	0.0	12.5	33.3	8.3	0.0	4.2	0.0	8.3	0.0	0.0	8.3	4.2
3 YC (20代後半)	51	58.8	0.0	7.8	49.0	29.4	9.8	3.9	31.4	13.7	3.9	11.8	13.7	11.8	9.8	7.8	9.8	0.0
4 YC (30代前半)	50	66.0	0.0	38.0	30.0	30.0	2.0	2.0	28.0	16.0	2.0	8.0	6.0	10.0	8.0	6.0	8.0	0.0
5 YC (30代後半)	64	65.6	0.0	21.9	51.6	45.3	9.4	4.7	28.1	29.7	1.6	20.3	18.8	21.9	10.9	10.9	9.4	3.1

図表5-38：ケアの内容（父親）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	(%)																
		①家事 (食事の準備や掃除、洗濯)	②きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	③身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	④外出の付き添い (買い物、散歩など)	⑤通院の付き添い	⑥入院や入所をしている家族との面会	⑦医療的ケア (経管栄養の管理や痰(たん)の吸引など)	⑧感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	⑨見守り	⑩通訳 (日本語や手話など)	⑪金銭管理	⑫家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	⑬薬の管理	⑭障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	⑮支援を入れるための事業者との連絡・調整	⑯支援を入れるための家族との連絡・調整	⑰その他
YC全体	117	39.3	0.0	21.4	27.4	31.6	13.7	3.4	20.5	21.4	4.3	12.0	12.0	8.5	7.7	8.5	10.3	2.6
1 YC (10代)	16	37.5	0.0	0.0	6.3	6.3	12.5	6.3	18.8	18.8	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	16	31.3	0.0	12.5	18.8	12.5	12.5	0.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3	0.0	0.0	18.8	6.3
3 YC (20代後半)	25	48.0	0.0	12.0	36.0	20.0	4.0	0.0	16.0	16.0	0.0	8.0	12.0	8.0	4.0	12.0	8.0	4.0
4 YC (30代前半)	19	26.3	0.0	21.1	21.1	26.3	10.5	0.0	26.3	26.3	5.3	5.3	10.5	5.3	0.0	5.3	5.3	0.0
5 YC (30代後半)	41	43.9	0.0	39.0	36.6	58.5	22.0	7.3	24.4	31.7	9.8	22.0	19.5	14.6	19.5	12.2	14.6	2.4

図表5-39：ケアの内容（祖母）x YCの年代別（MA）

調査数 (n=)	（%）																	
	①家事 （食事の準備 や掃除、洗濯）	②きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	③身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	④外出の付き添い（買い物、散歩など）	⑤通院の付き添い	⑥入院や入所をしている家族との面会	⑦医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	⑧感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	⑨見守り	⑩通訳（日本語や手話など）	⑪金銭管理	⑫家計支援（仕送りや、家族のために働くなど）	⑬薬の管理	⑭障害や介護保険等の制度申請や手続きの管理	⑮支援を入れるための事業者との連絡・調整	⑯支援を入れるための家族との連絡・調整	⑰その他	
YC全体	130	53.1	0.0	27.7	40.0	36.2	13.8	5.4	22.3	30.0	1.5	9.2	4.6	12.3	7.7	8.5	9.2	0.0
1 YC (10代)	19	57.9	0.0	21.1	36.8	21.1	15.8	0.0	15.8	36.8	0.0	0.0	0.0	15.8	0.0	0.0	5.3	0.0
2 YC (20代前半)	18	38.9	0.0	27.8	27.8	11.1	5.6	11.1	22.2	22.2	0.0	5.6	5.6	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0
3 YC (20代後半)	34	44.1	0.0	17.6	32.4	50.0	14.7	5.9	14.7	26.5	0.0	8.8	2.9	11.8	5.9	8.8	5.9	0.0
4 YC (30代前半)	25	64.0	0.0	20.0	40.0	36.0	8.0	4.0	32.0	16.0	4.0	20.0	8.0	16.0	16.0	8.0	16.0	0.0
5 YC (30代後半)	34	58.8	0.0	47.1	55.9	44.1	20.6	5.9	26.5	44.1	2.9	8.8	5.9	11.8	11.8	14.7	14.7	0.0

図表5-40：ケアの内容（祖父）x YCの年代別（MA）

調査数 (n=)	（%）																	
	①家事 （食事の準備 や掃除、洗濯）	②きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	③身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	④外出の付き添い（買い物、散歩など）	⑤通院の付き添い	⑥入院や入所をしている家族との面会	⑦医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	⑧感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	⑨見守り	⑩通訳（日本語や手話など）	⑪金銭管理	⑫家計支援（仕送りや、家族のために働くなど）	⑬薬の管理	⑭障害や介護保険等の制度申請や手続きの管理	⑮支援を入れるための事業者との連絡・調整	⑯支援を入れるための家族との連絡・調整	⑰その他	
YC全体	56	42.9	0.0	25.0	33.9	28.6	14.3	12.5	12.5	117.9	1.8	8.9	8.9	10.7	10.7	8.9	8.9	1.8
1 YC (10代)	5	40.0	0.0	20.0	60.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	6	50.0	0.0	50.0	16.7	50.0	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3	16.7	33.3	33.3	33.3	0.0
3 YC (20代後半)	21	28.6	0.0	23.8	33.3	38.1	4.8	9.5	9.5	9.5	0.0	9.5	14.3	14.3	14.3	4.8	9.5	0.0
4 YC (30代前半)	12	50.0	0.0	0.0	25.0	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0
5 YC (30代後半)	12	58.3	0.0	41.7	41.7	8.3	33.3	16.7	16.7	41.7	8.3	8.3	0.0	16.7	8.3	16.7	0.0	0.0

図表5-41：ケアの内容（きょうだい）x YCの年代別（MA）

調査数 (n=)	（%）																	
	①家事 （食事の準備 や掃除、洗濯）	②きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	③身体的な介護（入浴やトイレ、食事のお世話など）	④外出の付き添い（買い物、散歩など）	⑤通院の付き添い	⑥入院や入所をしている家族との面会	⑦医療的ケア（経管栄養の管理や痰（たん）の吸引など）	⑧感情面のサポート（愚痴を聞く、話し相手になるなど）	⑨見守り	⑩通訳（日本語や手話など）	⑪金銭管理	⑫家計支援（仕送りや、家族のために働くなど）	⑬薬の管理	⑭障害や介護保険等の制度申請や手続きの管理	⑮支援を入れるための事業者との連絡・調整	⑯支援を入れるための家族との連絡・調整	⑰その他	
YC全体	45	37.8	6.7	11.1	22.2	17.8	2.2	6.7	24.4	40.0	4.4	13.3	6.7	4.4	6.7	11.1	6.7	2.2
1 YC (10代)	13	23.1	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	38.5	0.0	0.0	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	
2 YC (20代前半)	6	33.3	0.0	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0	50.0	33.3	0.0	16.7	0.0	16.7	33.3	33.3	0.0	
3 YC (20代後半)	14	50.0	14.3	7.1	21.4	28.6	0.0	0.0	21.4	50.0	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	
4 YC (30代前半)	4	75.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
5 YC (30代後半)	8	25.0	12.5	25.0	25.0	25.0	12.5	25.0	37.5	50.0	12.5	37.5	25.0	12.5	12.5	25.0	12.5	0.0

図表5-42：ケアの内容（配偶者・パートナー）x YCの年代別（MA）

調査数 (n=)	(%)																	
	①家事 (食事の準備 や掃除、洗濯)	②きょうだいや、あ なたのこども の世話、保 育所等 への送迎など	③身 体的な介 護(入 浴やトイ レ、食事 のお世話 など)	④外出 の付き 添い(買 い物、散 歩など)	⑤通院 の付き 添い	⑥入院 や入所 をして いる家 族との 面会	⑦医療 的ケア (経管 栄養の 管理や 痰(た ん)の 吸引 など)	⑧感情 面のサ ポート (愚痴 を聞 く、話 し相手 になる など)	⑨見守 り	⑩通訳 (日本 語や手 話など)	⑪金銭 管理	⑫家計 支援 (仕送 りや、 家族の ために 働くな ど)	⑬薬の 管理	⑭障害 手帳や 介護保 険等の 制度申 請や手 続きの 管理	⑮支援 を入れる ための 事業者 との連 絡・調 整	⑯支援 を入れる ための 家族 との連 絡・調 整	⑰そ 他	
YC全体	71	46.5	0.0	1.4	22.5	12.7	4.2	4.2	25.4	12.7	1.4	11.3	8.5	12.7	5.6	4.2	19.7	1.4
1 YC (10代)	1	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	8	25.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	25.0	0.0	25.0	0.0	12.5	0.0	0.0	50.0	0.0
3 YC (20代後半)	22	40.9	0.0	0.0	31.8	13.6	13.6	4.5	31.8	13.6	0.0	13.6	4.5	18.2	9.1	0.0	22.7	4.5
4 YC (30代前半)	15	40.0	0.0	6.7	26.7	0.0	0.0	13.3	20.0	6.7	6.7	13.3	20.0	6.7	13.3	6.7	13.3	0.0
5 YC (30代後半)	25	60.0	0.0	0.0	12.0	20.0	0.0	0.0	28.0	8.0	0.0	4.0	8.0	12.0	0.0	8.0	12.0	0.0

図表5-43：ケアの内容（こども）x YCの年代別（MA）

調査数 (n=)	(%)																	
	①家事 (食事の準備 や掃除、洗濯)	②きょうだいや、あ なたのこども の世話、保 育所等 への送迎など	③身 体的な介 護(入 浴やトイ レ、食事 のお世話 など)	④外出 の付き 添い(買 い物、散 歩など)	⑤通院 の付き 添い	⑥入院 や入所 をして いる家 族との 面会	⑦医療 的ケア (経管 栄養の 管理や 痰(た ん)の 吸引 など)	⑧感情 面のサ ポート (愚痴 を聞 く、話 し相手 になる など)	⑨見守 り	⑩通訳 (日本 語や手 話など)	⑪金銭 管理	⑫家計 支援 (仕送 りや、 家族の ために 働くな ど)	⑬薬の 管理	⑭障害 手帳や 介護保 険等の 制度申 請や手 続きの 管理	⑮支援 を入れる ための 事業者 との連 絡・調 整	⑯支援 を入れる ための 家族 との連 絡・調 整	⑰そ 他	
YC全体	46	60.9	32.6	19.6	28.3	15.2	8.7	10.9	19.6	21.7	0.0	4.3	8.7	8.7	15.2	15.2	21.7	2.2
1 YC (10代)	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	3	33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 YC (20代後半)	11	45.5	9.1	18.2	27.3	9.1	0.0	18.2	18.2	36.4	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	18.2	27.3	0.0
4 YC (30代前半)	6	66.7	66.7	16.7	50.0	33.3	16.7	0.0	16.7	16.7	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0
5 YC (30代後半)	25	68.0	32.0	24.0	28.0	16.0	12.0	12.0	24.0	20.0	0.0	8.0	12.0	12.0	16.0	16.0	24.0	4.0

「その他」の主な自由記述
(母親)
➤ 遠方在住の母に対する定期的なサポート
(祖父)
➤ 留守番
(きょうだい)
➤ 勉強のサポート
(配偶者・パートナー)
➤ 職場とのやり取り

⑤ 一緒にケアを行っている人 (MA) Q3\_5

一緒にケアを行っている人は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「母親」が最も多く、次いで30代後半を除き「父親」となっている。30代後半においては、次いで「自分のみ」となっている。

図表5-44：一緒にケアを行っている人 x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)										
		母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	子ども	配偶者・パートナー	親戚の人	自分のみ	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	その他
YC全体	522	38.5	26.8	4.4	1.5	16.1	3.3	10.3	3.3	23.8	6.1	0.0
1 YC (10代)	54	55.6	44.4	7.4	0.0	20.4	3.7	3.7	1.9	22.2	3.7	0.0
2 YC (20代前半)	66	33.3	28.8	7.6	3.0	6.1	1.5	6.1	4.5	27.3	6.1	0.0
3 YC (20代後半)	139	40.3	30.2	8.6	1.4	10.8	4.3	5.0	3.6	25.2	8.6	0.0
4 YC (30代前半)	104	33.7	24.0	0.0	1.9	23.1	3.8	15.4	2.9	18.3	3.8	0.0
5 YC (30代後半)	159	36.5	18.9	1.3	1.3	18.9	2.5	15.7	3.1	25.2	6.3	0.0

⑥ ケアの頻度 (MA) Q3\_6

ケアの頻度は、10代・20代前半においては「週に3～5日」が最も多く、20代後半においては「週に1～2日」が最も多く、30代前半・30代後半においては「ほぼ毎日」が最も多い。

図表5-45：ケアの頻度 x YCの年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)				
		ほぼ毎日	週に3～5日	週に1～2日	1か月に数日	その他
YC全体	522	39.3	22.2	24.1	13.4	1.0
1 YC (10代)	54	29.6	35.2	22.2	13.0	0.0
2 YC (20代前半)	66	30.3	33.3	22.7	13.6	0.0
3 YC (20代後半)	139	34.5	17.3	36.0	10.8	1.4
4 YC (30代前半)	104	36.5	29.8	14.4	18.3	1.0
5 YC (30代後半)	159	52.2	12.6	21.4	12.6	1.3

⑦ ケアを始めた時期 (MA) Q3\_8

ケアを始めた時期は、10代においては「高校生（高校生世代の時）から」、「中学生から」が多い一方、その他の年代においては「高校卒業して以降（高校卒業後の世代以降）」が最も多い。

図表5-46：ケアを始めた時期 (MA) x YC の年代別

	調査数 (n=)	(%)						
		小学校就学 以前から	小学校低学 年 (1-3 年生) から	小学校高学 年 (4-6 年生) から	中学生から	高校生 (高 校生世代の 時) から	高校を卒業 して以降 (高校卒業 後の世代以 降)	あなたの子 どもが生ま れて以降
YC全体	522	10.7	5.0	6.3	9.2	21.3	39.1	8.4
1 YC (10代)	54	9.3	11.1	16.7	25.9	31.5	5.6	0.0
2 YC (20代前半)	66	9.1	9.1	13.6	10.6	21.2	34.8	1.5
3 YC (20代後半)	139	10.1	4.3	5.0	10.8	23.0	40.3	6.5
4 YC (30代前半)	104	10.6	3.8	5.8	9.6	16.3	37.5	16.3
5 YC (30代後半)	159	12.6	2.5	1.3	1.3	19.5	52.2	10.7

⑧ お世話をすることでできなかったこと、あきらめたこと (MA) Q3\_10

お世話をすることでできなかったこと、あきらめたことは、18歳から30代後半のいずれの年代においても「特になかった」が最も多く、「睡眠が十分に取れなかった」、「自分の時間が取れなかった」も多い。特に、30代後半においては「自分の時間が取れなかった」の割合が他の世代に比べて多い。

図表5-47：お世話をすることでできなかったこと、あきらめたこと x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)									
		学校に行きたくても行けなかった	単位をとれなかった、留年・休学した	課題・予習復習をする時間が取れなかった	進学をあきらめた	留学をあきらめた	睡眠が十分に取れなかった	友人と遊ぶことができなかった	部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	就職・アルバイトができなかった
YC全体	522	3.1	3.4	6.1	5.4	3.8	22.2	16.9	5.6	4.8	9.0
1 YC (10代)	54	5.6	3.7	13.0	9.3	0.0	22.2	18.5	7.4	5.6	9.3
2 YC (20代前半)	66	3.0	3.0	6.1	9.1	3.0	19.7	18.2	10.6	4.5	3.0
3 YC (20代後半)	139	0.7	2.2	5.8	2.9	5.0	23.0	17.3	4.3	5.8	10.1
4 YC (30代前半)	104	2.9	5.8	5.8	2.9	5.8	20.2	13.5	4.8	5.8	9.6
5 YC (30代後半)	159	4.4	3.1	4.4	6.3	3.1	23.9	17.6	4.4	3.1	10.1

	調査数 (n=)	(%)								
		就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	勤務時間に制約があり、昇進・昇任できなかった	勤務地の移動ができなかった	就業後のレクリエーションに参加できなかった	一人暮らしをしたくてもできなかった	恋愛をしたくてもできなかった	自分の時間が取れなかった	その他	特になかった
YC全体	522	6.5	4.6	5.4	3.6	9.8	6.7	23.8	1.3	37.2
1 YC (10代)	54	7.4	3.7	0.0	0.0	7.4	3.7	20.4	1.9	40.7
2 YC (20代前半)	66	7.6	1.5	0.0	1.5	7.6	3.0	19.7	0.0	34.8
3 YC (20代後半)	139	5.8	5.8	8.6	4.3	7.9	5.8	20.1	2.2	35.3
4 YC (30代前半)	104	5.8	1.9	4.8	3.8	13.5	5.8	21.2	0.0	38.5
5 YC (30代後半)	159	6.9	6.9	6.9	5.0	10.7	10.7	31.4	1.9	37.7

⑨ 現在の悩みごと・困りごと (MA) Q3\_11

現在の悩みごと・困りごと（当てはまるものすべて）としては、10代・30代前半では「特  
にない」が最も多い。20代前半では「家族との人間関係」が最も多く、20代後半・30代後半  
には「収入・家計・借金等」が最も多い。

図表5-48：現在の悩みごと・困りごと（当てはまるものすべて）x YCの年代別（MA）

	調査数 (n=)	(%)									
		家族との人 間関係	家族以外と の人間関係	恋愛・性に 関すること	結婚・離婚 に関するこ と	いじめ、ハ ラスメント	生きがいに 関すること	自由にでき る時間がな いこと	収入・家 計・借金等	自分の病気 や心身の不 調	家族の病気 や介護
TC全体	522	28.9	18.2	15.3	10.3	6.9	23.0	18.8	31.2	21.5	16.1
1 YC (10代)	54	24.1	16.7	18.5	5.6	9.3	24.1	11.1	20.4	14.8	11.1
2 YC (20代前半)	66	34.8	18.2	7.6	4.5	4.5	21.2	12.1	24.2	18.2	9.1
3 YC (20代後半)	139	26.6	24.5	15.8	12.2	7.2	25.2	20.1	35.3	19.4	12.2
4 YC (30代前半)	104	28.8	15.4	15.4	12.5	6.7	21.2	18.3	27.9	22.1	22.1
5 YC (30代後半)	159	30.2	15.1	17.0	11.3	6.9	22.6	23.3	36.5	26.4	20.1

	調査数 (n=)	(%)								
		妊娠・出産	育児	家事	自分の学 業・受験・ 進学	こどもの教 育	自分の仕事	家族の仕事	その他	特にな い
TC全体	522	4.8	4.4	10.5	5.0	3.6	18.8	4.2	0.6	29.1
1 YC (10代)	54	3.7	1.9	9.3	20.4	3.7	11.1	1.9	0.0	37.0
2 YC (20代前半)	66	1.5	0.0	4.5	6.1	0.0	13.6	3.0	1.5	28.8
3 YC (20代後半)	139	5.0	2.2	7.2	2.2	2.2	18.7	2.9	0.0	27.3
4 YC (30代前半)	104	3.8	3.8	11.5	2.9	2.9	15.4	5.8	0.0	29.8
5 YC (30代後半)	159	6.9	9.4	15.7	3.1	6.9	25.8	5.7	1.3	27.7

現在の悩みごと・困りごと（最も当てはまるもの）を1つ選ぶという質問項目では、「特にない」が18歳から30代後半までのすべての年代で多かったが、次に多いのは「家族との人間関係」だった。10代では「自分の学業・受験・進学」、20代後半以降は「収入・家計・借金等」も1割以上見られた。

図表5-49：現在の悩みごと・困りごと（最も当てはまるもの）x YCの年代別（SA）

	調査数 (n=)	(%)									
		家族との人間関係	家族以外との人間関係	恋愛・性に関すること	結婚・離婚に関すること	いじめ、ハラスメント	生きがいに関すること	自由にできる時間が少ないこと	収入・家計・借金等	自分の病気や心身の不調	家族の病気や介護
YC全体	522	15.7	5.0	4.4	2.3	1.3	5.4	5.9	12.8	6.9	1.9
1 YC (10代)	54	13.0	7.4	5.6	1.9	5.6	5.6	0.0	1.9	1.9	1.9
2 YC (20代前半)	66	19.7	3.0	4.5	4.5	0.0	3.0	6.1	9.1	6.1	0.0
3 YC (20代後半)	139	13.7	8.6	3.6	0.7	2.2	9.4	5.8	18.7	7.9	0.0
4 YC (30代前半)	104	16.3	2.9	4.8	2.9	0.0	3.8	7.7	13.5	7.7	2.9
5 YC (30代後半)	159	16.4	3.1	4.4	2.5	0.6	3.8	6.9	12.6	7.5	3.8

	調査数 (n=)	(%)								
		妊娠・出産	育児	家事	自分の学業・受験・進学	こどもの教育	自分の仕事	家族の仕事	その他	特にない
YC全体	522	1.0	0.4	1.0	2.3	0.4	3.6	0.2	0.4	29.1
1 YC (10代)	54	1.9	0.0	0.0	13.0	0.0	3.7	0.0	0.0	37.0
2 YC (20代前半)	66	1.5	0.0	1.5	4.5	0.0	6.1	0.0	1.5	28.8
3 YC (20代後半)	139	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	27.3
4 YC (30代前半)	104	1.0	0.0	1.0	1.9	0.0	2.9	1.0	0.0	29.8
5 YC (30代後半)	159	1.3	1.3	1.3	0.0	1.3	5.0	0.0	0.6	27.7

⑩ 現在の悩みごと・困りごとがお世話による影響か否か (SA) Q3\_12

現在の悩みごと・困りごとがお世話による影響か否かについて、10代においては「影響があると感じる」と「わからない」が同率であったが、その他の年代においては「影響があると感じる」が最も多い。

図表5-50：現在の悩みごと・困りごとがお世話による影響か否か x YCの年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)		
		影響があると感じる	わからない	影響があると は感じない
YC全体	370	48.9	29.5	21.6
1 YC (10代)	34	35.3	35.3	29.4
2 YC (20代前半)	47	61.7	21.3	17.0
3 YC (20代後半)	101	44.6	33.7	21.8
4 YC (30代前半)	73	54.8	30.1	15.1
5 YC (30代後半)	115	47.8	27.0	25.2

⑪ 過去と比較してきつさが改善した理由 (MA) Q3\_17

過去と比較してきつさが改善したと答えた回答者に対し、その理由を尋ねたところ、10代・20代後半においては「家族や周囲からの支援や理解が増えた」が最も多い。20代前半においては「自分の気持ちの持ち方や考え方が変化した」が最も多い。30代前半・30代後半においては「お世話の内容や量が変化した(減った)」が最も多い。また、30代前半においては「相談できる人や場所ができた」も同率で最も多い。

図表5-51：過去と比較してきつさが改善した理由 x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)								
		家族や周囲からの支援や理解が増えた	福祉サービスや相談機関などから支援を受けられるようになった	お世話の内容や量が変化した(減った)	相談できる人や場所ができた	自分の気持ちの持ち方や考え方が変化した	学業や仕事など、生活環境が変化した	自分や家族の健康状態が変化した	その他	わからない
IC全体	127	29.1	21.3	27.6	23.6	27.6	11.0	8.7	6.3	3.1
1 YC (10代)	16	31.3	18.8	18.8	12.5	12.5	18.8	12.5	6.3	6.3
2 YC (20代前半)	19	15.8	21.1	31.6	26.3	47.4	15.8	5.3	0.0	5.3
3 YC (20代後半)	38	36.8	21.1	21.1	21.1	26.3	7.9	5.3	5.3	5.3
4 YC (30代前半)	18	22.2	16.7	33.3	33.3	27.8	11.1	16.7	5.6	0.0
5 YC (30代後半)	36	30.6	25.0	33.3	25.0	25.0	8.3	8.3	11.1	0.0

⑫ 過去と比較してきつさが悪化と感じる理由 (FA) Q3\_17

過去と比較してきつさが悪化したと答えた回答者に対し、その理由を尋ねたところ、以下のとおりであった。

主な自由記述
➤ 認知症は進行の一方だから
➤ 母が泣く頻度が増えた
➤ 理不尽なことが増えたり、毎日母と兄共に全てが自分中心でお金に関して執着心が強いこと。自分の居場所がなく(心も場所も)、毎日ビクビクして過ごしているから。
➤ 高齢化してきているので
➤ 母の要支援もだが自分も精神的に脆くなってきた
➤ こちらが理解できないことを察して機嫌を悪くされ、食事を摂らないなどの影響が出た
➤ 感謝の気持ちがなくなっている

⑬ ケアをする理由 (MA) Q3\_19

ケアをする理由は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「自分がお世話をしないと家族が困るため」が最も多く、次いで、「ほかにお世話をできる人がいないため」も多く見られる。また、10代においては「ほかの家族や親せき等から世話をしよう言われているため」が他年代と比較して多い一方、30代後半においては「わからない・考えたことがない」が他年代と比較して少ない。

図表5-52：ケアをする理由 x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)					
		自分がお世話をしたいと思うため	自分がお世話をしないと家族が困るため	ほかにお世話をできる人がいないため	ほかの家族や親せき等から世話をしよう言われているため	その他	わからない・考えたことがない
YC全体	522	23.9	39.1	30.7	8.6	1.7	21.8
1 YC (10代)	54	24.1	46.3	24.1	14.8	0.0	24.1
2 YC (20代前半)	66	15.2	39.4	25.8	9.1	3.0	24.2
3 YC (20代後半)	139	28.1	32.4	29.5	9.4	0.7	21.6
4 YC (30代前半)	104	15.4	35.6	30.8	9.6	2.9	31.7
5 YC (30代後半)	159	29.6	44.7	35.8	5.0	1.9	13.8

⑭ ケアが必要な家族のことやケアの悩みについての相談有無 (MA) Q3\_20

相談有無は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「相談したことはない」が最も多く、次いで「主な相談事項として相談したことがある」となっている。

図表5-53：相談有無 x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)				
		主な相談事項として相談したことがある	主な相談事項ではなかったが、相談したことがある	上記いずれの場合でも相談をしたことがある	その他	相談したことはない
YC全体	522	39.3	1.1	0.4	0.4	58.8
1 YC (10代)	54	31.5	0.0	0.0	1.9	66.7
2 YC (20代前半)	66	47.0	1.5	1.5	0.0	50.0
3 YC (20代後半)	139	44.6	0.7	0.7	0.7	53.2
4 YC (30代前半)	104	37.5	1.0	0.0	0.0	61.5
5 YC (30代後半)	159	35.2	1.9	0.0	0.0	62.9

⑮ ケア対象者のことを相談した相談相手・相談先 (MA・SA) Q3\_21

ケア対象者のことを相談した相談相手・相談先 (当てはまるものすべて) は、18歳から30代後半のいずれの年代でも「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も多く、次いで「友人」も20%台と多い。また、10・20代前半では「大学や専門学校の指導教員」が多い一方、年齢を重ねるごとに「職場の先輩や上司」、「病院などの医療機関」、「地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関」、「保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関」の回答が多く見られる。

また、最も相談してよかったと感じる相談相手・相談先については、上記と同様、いずれの年代においても「家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も多い。年代別の傾向についても上記と同様、10・20代前半においては「大学や専門学校の指導教員」が多い一方、年齢を重ねるごとに「職場の先輩や上司」、「病院などの医療機関」の回答が多く見られる。

図表5-54：ケア対象者のことを相談した相談相手・相談先  
(当てはまるものすべて) x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(%)										
		家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)	親戚(おじ、おばなど)	友人	交際相手、配偶者	大学や専門学校の指導教員	大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	職場の先輩や上司	ピアサポート等同じ境遇の人	SNS上での知り合い	民生委員・児童委員	子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関
YC全体	215	60.0	14.9	24.7	12.1	7.4	8.8	13.5	4.2	3.7	6.0	2.3
1 YC (10代)	18	55.6	11.1	22.2	5.6	22.2	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0	0.0
2 YC (20代前半)	33	63.6	6.1	21.2	6.1	9.1	12.1	9.1	3.0	3.0	6.1	3.0
3 YC (20代後半)	65	52.3	23.1	29.2	9.2	6.2	7.7	13.8	1.5	3.1	4.6	0.0
4 YC (30代前半)	40	55.0	15.0	27.5	12.5	5.0	15.0	15.0	10.0	5.0	7.5	5.0
5 YC (30代後半)	59	71.2	11.9	20.3	20.3	5.1	3.4	16.9	5.1	3.4	8.5	3.4

	調査数 (n=)	(%)										
		児童相談所、子ども家庭センターなどの、子どもに関する行政の相談機関	ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	地域若者サポートステーション・ハローワークなどの就労支援機関	病院などの医療機関	地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	相談支援事業所などの障害福祉関係機関	保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	フリースクール・子ども食堂などの民間団体	警察	その他
YC全体	215	3.3	3.7	2.8	14.4	10.7	7.4	3.7	6.5	2.8	5.6	3.3
1 YC (10代)	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
2 YC (20代前半)	33	0.0	0.0	3.0	6.1	3.0	3.0	0.0	12.1	0.0	0.0	3.0
3 YC (20代後半)	65	0.0	1.5	1.5	12.3	7.7	7.7	4.6	3.1	3.1	6.2	0.0
4 YC (30代前半)	40	10.0	7.5	5.0	17.5	12.5	10.0	5.0	7.5	2.5	7.5	5.0
5 YC (30代後半)	59	5.1	6.8	3.4	23.7	20.3	10.2	5.1	8.5	5.1	6.8	6.8

図表5-55：相談してよかったと一番感じる相談相手・相談先 x YCの年代別（SA）

	調査数 (n=)	（%）											
		家族（父、母、祖母、きょうだい）	親戚（おじ、おばなど）	友人	交際相手、配偶者	大学や専門学校の指導教員	大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	職場の先輩や上司	ピアサポート等同じ境遇の人	SNS上での知り合い	民生委員・児童委員	子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関	
YC全体	215	42.3	6.0	10.7	5.1	3.7	3.3	2.8	0.9	0.5	0.5	0.5	
1 YC（10代）	18	50.0	5.6	11.1	5.6	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
2 YC（20代前半）	33	51.5	0.0	15.2	3.0	6.1	3.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
3 YC（20代後半）	65	38.5	15.4	13.8	6.2	4.6	4.6	1.5	0.0	0.0	1.5	0.0	
4 YC（30代前半）	40	40.0	2.5	7.5	5.0	0.0	2.5	7.5	2.5	2.5	0.0	2.5	
5 YC（30代後半）	59	40.7	1.7	6.8	5.1	1.7	0.0	1.7	1.7	0.0	0.0	0.0	

	調査数 (n=)	（%）										
		児童相談所、子ども家庭センターなどの、子どもに関する行政の相談機関	ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	地域若者サポートステーションハローワークなどの就労支援機関	病院などの医療機関	地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	相談支援事業所などの障害福祉関係機関	保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	フリースクール・子ども食堂などの民間団体	警察	その他
YC全体	215	0.0	0.5	0.5	5.6	4.2	1.9	0.0	3.7	0.9	3.7	2.8
1 YC（10代）	18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0
2 YC（20代前半）	33	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	3.0	0.0	9.1	0.0	0.0	3.0
3 YC（20代後半）	65	0.0	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	0.0	0.0	1.5	4.6	0.0
4 YC（30代前半）	40	0.0	0.0	0.0	7.5	5.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0	5.0
5 YC（30代後半）	59	0.0	0.0	0.0	11.9	10.2	3.4	0.0	5.1	1.7	3.4	5.1

⑩ 相談してよかったと感じる理由（FA） Q3\_21\_3

最も相談してよかったと感じる相談相手について、相談してよかったと感じる理由は以下のとおり。

主な自由記述
（家族、親戚）
➤ 家族にしかわからない悩みを共有できたから
➤ 一人じゃないと思える
➤ 相談することで、手伝ってくれると感じたから
（友人）
➤ 1番寄り添って考えてくれた
➤ 無理に改善策を言うのではなく、ただ話を聞いて共感してくれたのが助かった。その後定期的にこちらの様子を心配してくれたり、褒めてくれる人がいるのが精神的にありがたい
➤ アドバイスをくれたから
（交際相手、配偶者）
➤ 協力してくれる。例えば、料理を作ってくれて、母に持っていくように、と。
➤ 否定せずに話を聞いてくれる。また、自分と両親の間に入ってくれる。

主な自由記述
(大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター)
➤ 学校カウンセラーさんに話したら頷きながら聞いてくれるから嬉しい。「私のこんな話でも真剣に聞いてくれている」と思い、すごく涙が出てくる。
➤ 自分が背負う必要は無いと言われて、それだけで嬉しかったから。
(職場の先輩や上司)
➤ 職場関係とか仕事などの改善をしてくれたから。
➤ 自分が思いつかなかった意見をもらえた
(ピアサポート等同じ境遇の人)
➤ ストレスが減った
(民生委員・児童委員)
➤ 気持ちが楽になった
(子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関)
➤ たいへんさをわかってもらった
(ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関)
➤ 誰にも話せなかったことを話せる相手になってもらった。
(病院などの医療機関)
➤ 専門的なアドバイスをもらったから。
➤ きちんと 根拠がある 医学的な知識において 正しい指導を行ってくれる 同居する家族が どのようなスタイルであるべきか 困った時にどうしたら良いのかというのを 教えてくれます 現代の医療の進化に伴い 医薬品や治療法も 選択肢が増えている そこをはっきりと教えてくれるのはありがたい
(地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関)
➤ ケアマネジャーが寄り添ってくれる。
➤ 訪問看護など介護サービスについて知れた
➤ 家族で介護をすべて背負わない、という余裕が生まれた。
(相談支援事業所などの障害福祉関係機関)
➤ 気持ちを分かってもらえる
➤ 親身になってくれた
(福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関)
➤ 介護器具の導入が楽
➤ 制度的に色々教えてもらった
(フリースクール・こども食堂などの民間団体)
➤ こちらの目線になって話をきいてもらったこと。

⑰ 誰にも相談したことがない理由 (SA) Q3\_23

誰にも相談したことがない理由は、30代前半のYCを除き「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も多い。次いで、「相談しても状況が変わると思わない」となっている。また、10代・20代前半においては「家族のこのため話しにくい」、20代後半においては「家族外の人に相談するような悩みではない」、30代前半においては「誰に相談するのがよいかかわからない」などの回答が多く見られるなど、世代毎に特化した理由も見られる。

図表5-56：誰にも相談したことがない理由 x YCの年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)								
		誰かに相談するほどの悩みではない	家族外の人に相談するような悩みではない	誰に相談するのがよいかかわからない	相談できる人が身近にいない	家族のこのため話しにくい	家族のことを知られたくない	家族に対して偏見を持たれたくない	相談しても状況が変わると思わない	その他
YC全体	307	39.7	14.3	11.7	14.0	13.0	9.4	6.2	27.0	1.3
1 YC (10代)	36	61.1	11.1	11.1	13.9	22.2	5.6	5.6	22.2	0.0
2 YC (20代前半)	33	36.4	12.1	9.1	6.1	21.2	6.1	0.0	33.3	0.0
3 YC (20代後半)	74	43.2	18.9	6.8	13.5	9.5	6.8	8.1	23.0	1.4
4 YC (30代前半)	64	23.4	12.5	20.3	15.6	12.5	9.4	4.7	32.8	3.1
5 YC (30代後半)	100	41.0	14.0	11.0	16.0	10.0	14.0	8.0	26.0	1.0

⑱ 周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援 (MA・SA) Q3\_25

周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援は、当てはまるものすべてで見たとところ、18歳から30代後半のいずれの年代においても「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が最も多い。また、「周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援（最も当てはまるもの）」を1つ選ぶという質問項目では、「特にない」がいずれの年代においても多かったが、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」が多く挙げられた。

また、年齢を重ねるごとに「自由に使える時間が欲しい」という回答が増加傾向にある。

図表5-57：周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援  
(当てはまるものすべて) x YCの年代別 (MA)

	調査数 (n=)	(% )										
		自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路・進級に関する相談にのってほしい	就職・転職に関する相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポートをしてほしい	結婚に関する相談にのってほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい
IC全体	522	35.1	19.5	13.6	14.4	0.8	18.2	3.6	7.1	2.5	3.6	9.8
1 YC (10代)	54	35.2	13.0	9.3	14.8	0.0	13.0	11.1	3.7	9.3	0.0	3.7
2 YC (20代前半)	66	33.3	12.1	13.6	6.1	1.5	12.1	4.5	6.1	4.5	3.0	9.1
3 YC (20代後半)	139	40.3	23.7	14.4	13.7	0.0	12.9	2.9	6.5	0.7	3.6	7.9
4 YC (30代前半)	104	31.7	16.3	14.4	18.3	1.0	18.3	1.9	8.7	1.0	6.7	12.5
5 YC (30代後半)	159	33.3	23.3	13.8	15.7	1.3	27.0	2.5	8.2	1.9	3.1	11.9

	調査数 (n=)	(% )										
		離家(親元を離れて別世帯で暮らすこと)のための経済的な支援をしてほしい	宿泊などで、一時的に家から離れられるような支援をしてほしい	奨学金等、学費への支援をしてほしい	ピアサポート等同じ境遇のひとと話せる場所がほしい	カウンセリングや心理療法を受けるための経済的な支援をしてほしい	年齢等に関わらず継続的に相談できる相手がほしい	柔軟な勤務時間・テレワークの導入等、家族のお世話をしながらでも働きやすい勤務環境を整備してほしい	家族のお世話に関する職場内での理解が、より進んでほしい	その他	特にない	わからない
IC全体	522	5.2	3.4	2.1	2.1	6.7	6.1	5.6	5.4	1.0	23.6	11.7
1 YC (10代)	54	5.6	5.6	5.6	0.0	3.7	5.6	0.0	1.9	0.0	33.3	5.6
2 YC (20代前半)	66	1.5	3.0	3.0	1.5	4.5	4.5	7.6	0.0	0.0	27.3	10.6
3 YC (20代後半)	139	7.2	4.3	2.2	2.2	3.6	6.5	5.0	4.3	1.4	21.6	12.2
4 YC (30代前半)	104	4.8	2.9	1.0	1.0	7.7	3.8	4.8	4.8	1.0	24.0	14.4
5 YC (30代後半)	159	5.0	2.5	1.3	3.8	10.7	8.2	7.5	10.1	1.3	20.1	11.9

図表5-58：周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援  
(最も当てはまるもの) x YCの年代別 (SA)

	調査数 (n=)	(%)										
		自分のいまの状況について話を聞いてほしい	家族のお世話について相談にのってほしい	家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	自分が行っているお世話のすべてを代わりにやってくれる人やサービスがほしい	自分が行っているお世話の一部を代わりにやってくれる人やサービスがほしい	自由に使える時間がほしい	進路・進級に関する相談にのってほしい	就職・転職に関する相談にのってほしい	大学の勉強や学習のサポートをしてほしい	結婚に関する相談にのってほしい	家庭への経済的な支援をしてほしい
YC全体	522	22.4	8.8	3.8	6.7	0.2	8.4	0.4	1.9	0.4	1.0	3.1
1 YC (10代)	54	24.1	7.4	1.9	9.3	0.0	1.9	3.7	0.0	1.9	0.0	1.9
2 YC (20代前半)	66	24.2	6.1	3.0	6.1	0.0	4.5	0.0	3.0	0.0	0.0	4.5
3 YC (20代後半)	139	28.1	11.5	5.0	8.6	0.0	5.0	0.0	0.7	0.0	0.0	2.9
4 YC (30代前半)	104	21.2	3.8	3.8	5.8	0.0	10.6	0.0	4.8	0.0	1.9	2.9
5 YC (30代後半)	159	17.0	11.3	3.8	5.0	0.6	13.8	0.0	1.3	0.6	1.9	3.1

	調査数 (n=)	(%)										
		離家(親元を離れて別世帯で暮らすこと)のための経済的な支援をしてほしい	宿泊などで、一時的に家から離れられるような支援をしてほしい	奨学金等、学費への支援をしてほしい	ピアサポート等同じ境遇の人と話せる場所がほしい	カウンセリングや心理療法を受けるための経済的な支援をしてほしい	年齢等に関わらず継続的に相談できる相手がほしい	柔軟な勤務時間・テレワークの導入等、家族のお世話をしながらでも働きやすい勤務環境を整備してほしい	家族のお世話に関する職場内での理解が、より進んでほしい	その他	特になし	わからない
YC全体	522	2.1	1.1	0.4	0.0	1.0	0.4	1.3	0.8	0.6	23.6	11.7
1 YC (10代)	54	3.7	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	33.3	5.6
2 YC (20代前半)	66	1.5	3.0	1.5	0.0	1.5	0.0	3.0	0.0	0.0	27.3	10.6
3 YC (20代後半)	139	2.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.7	21.6	12.2
4 YC (30代前半)	104	2.9	1.0	0.0	0.0	1.9	0.0	1.0	0.0	0.0	24.0	14.4
5 YC (30代後半)	159	1.3	0.6	0.0	0.0	1.3	1.3	1.9	1.9	1.3	20.1	11.9

主な自由記述
(自分のいまの状況について話を聞いてほしい)
➤ その悩みの根元が消えない限り自分の心の中では常に不安で何かを考えてこれでもいいのかを考えているため誰でもいいから話を聞いて欲しい
➤ 仕事から疲れて帰ってきてても、家族のお世話のため十分に休めないきつさをわかってほしい。
➤ 仕事も不安、将来のためお金を貯めたいがそれも不安、そこに介護が今後出てくると思うと金銭面での不安が大きい
➤ 悩んでいること、こんなことにイライラしたり悲しくなったりするという気持ちの部分を知ってほしい。
➤ 自分がどれだけ追い詰められているかを知ってほしいしそれを家族に伝えてほしい
(家族のお世話について相談にのってほしい)
➤ 自分ばかり無理をしている感じがする
➤ 今後の介護の見通し(費用等)の相談。
➤ 認知機能の低下
➤ 金銭面

主な自由記述
➤ このままずっと家で世話をしていくのがあっていいかどうか (家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい)
➤ メンタル不調な人に対してどう接するべきなのか。
➤ どこまでお世話をし、自分でできる範囲が分からず世話し過ぎるから程度を知りたい
➤ 自身がどのような疾患で今後どのような治療薬生活を送っていくべきかの説明、説得。
➤ 今、行っていることが合ってるか教えて欲しい
➤ 病気に対する関わり方 (自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい)
➤ 介護福祉士。とにかく介護できる人が家にいないから家族の誰かの人生を犠牲に介護するはめになる。家族が無償で、ストレスためながら
➤ 家事代行と介護代行
➤ 今やっていることを安い値段でやってもらえると助かる
➤ 要介護にならないと高い
➤ 高齢者の介護生活相談全般 (自由に使える時間がほしい)
➤ 自分の時間を自由に使いたい
➤ 普通なら一番楽しい時期に自由が奪われる
➤ 働く時間が欲しい
➤ 疲れが取れないから
➤ 趣味などのストレス発散の時間がほしい (就職・転職に関する相談にのってほしい)
➤ ブランクが長いので個人で活動する勇気が出ない
➤ 空白期間が長すぎるので相談しても相手にしてくれなさそう
➤ うつ病で働けないから (結婚に関する相談にのってほしい)
➤ 好感を持ってもらいやすい話の進め方、女性への効果的なエスコート
➤ 地元での婚活イベントの開催など、出会いの場づくり。 (家庭への経済的な支援をしてほしい)
➤ 経済的な心配が強い
➤ お金がないし、あまり使えないアドバイスは必要ないから
➤ 一人分の給料では賄えない生活費の工面
➤ 税金免除や給付金などの支援があると助かるからです。急な体調変化による病院代、通院のガソリン代などバカにならない程かかるからです。
➤ 生活費がギリギリで将来に不安しかないから。 (離家(親元を離れて別世帯で暮らすこと)のための経済的な支援をしてほしい)
➤ 一人親世帯などへの支援金の支給
➤ 金銭的な援助と気持ちの作り方
➤ これを必要とする時、大概は手元に自分のお金というものが無いから出来ない事が殆どなので新住居に行って終わりではなく、最低限の生活が回せる迄は継続してほしい
➤ とにかく逃げたい
➤ 家族からの監視の目で外にさえも出られず、その為お金もない。物理的に離れることが可能なら私は一時的ではあるが自分の身の安全を確保できる。 (宿泊などで、一時的に家から離れられるような支援をしてほしい)
➤ 学生のみが泊まれる場所があってほしい。ホテルでもどこでも寝れる場所が欲しい。自分一人しかいない空間がほしい。

主な自由記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 家にいてほしくないから</li> </ul>
(奨学金等、学費への支援をしてほしい)
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ お金がないから</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 奨学金免除などの制度をもっとほしい</li> </ul>
(カウンセリングや心理療法を受けるための経済的な支援をしてほしい)
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 通っている臨床心理士は個人営業のため、料金は保険適用外です。治療のために通っているクリニックはほとんど投薬ばかりで心理療法は無く、ただ症状を抑えるだけの状態です。田舎で専門家が少なく、現在の治療、状態が適切なのかも分かりません。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 病院などに通うことも考えたことがあるが、継続的に通院する際の費用を考えてやめたことがあるため</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ カウンセリングが保険適用になったり、自立支援医療のように補助が出ると嬉しい。</li> </ul>
(年齢等に関わらず継続的に相談できる相手がほしい)
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 気軽に愚痴を言える関係の人がほしい。カウンセリングなど専門的な知識がある人に話をきいてほしい</li> </ul>
(柔軟な勤務時間・テレワークの導入等、家族のお世話をしながらでも働きやすい勤務環境を整備してほしい)
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 職場は頑固でテレワークを許可してくれず、柔軟な対応をしてくれることは全くない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 家で仕事ができる方が安心できるから</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 柔軟に勤務できれば睡眠時間を確保しやすくなって肉体的な辛さが軽減されそうだから。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ フルタイムだと時間に余裕がなくなる</li> </ul>
(家族のお世話に関する職場内での理解が、より進んでほしい)
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 仕事をしながら介護をすることの大変さをもう少し理解してほしい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自分一人がたいへんだから</li> </ul>

- ⑩ 18歳未満の頃を振り返った時に、「当時あったらよかった」と感じる支援や、周りの大人からのサポート (FA) Q3\_26

周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援は以下のとおり。

主な自由記述
(ケア負担の軽減)
➤ 自分がお世話しなくてもいいこと
➤ 依存性患者のサポート
➤ 介護する側の負担ケア
➤ お母さんとかの声掛けのサポート
➤ 手伝ってくれる行政
➤ ヘルパーさんがほしかった
➤ 言葉でどうのこうのアドバイスするよりも 実際に行動してサポートして欲しかったと思います 周りの大人の中には 気の持ちよう 心の持ちようという精神論 みたいなことを言う人もいました 正直 余計な大人は排除したかったと思っている
(相談先)
➤ 1人寂しい時に話を聞いてくれる大人
➤ 何かあった時にすぐ話を聞いてくれる人
➤ LINE での相談などのカウンセリングをしたが、「時間が無いため早く送ってほしい」など明らかに忙しい、聞く気は無いというように受けとってしまうような文章で相談した際に返されたため、ほんとにちゃんと誰でもいいから話を聞いて欲しい
➤ 第三者の大人の介入、公的相談機関
➤ 家族関係について相談できる人や共有できる場所があること自体を教えて欲しかった
➤ 同じような悩みを持つ人と話す機会があること
➤ 匿名でネット上でチャットなどでやりとりできる所があればよかった
➤ 親から DV を受けていたから、助けて欲しいなんてどこに言えばいいかわからなかったし、保護してくれる場所なんて知らなかった。今も誰からか受けている傷を信用・信頼できる人に SOS を伝えられる場所をサポートをして欲しい。受けたキズは一生消えないから。
➤ 学校に行けない状態や受験しなかったことを家族に叱責され、かつての担任教師から失望され、当時の担当医にも恐怖を感じました。病院に無理やり入院させられ、体調も状況も悪化した記憶があります。それ以前に、家族の関係が悪くなったり、悩みを相談することでいじめの悪化を招いたり、教師に能力を利用されたうえで見放されたり、良い友人がそもそもいなかったり、誰も信用できませんでした。少なくとも家族以外には相談したことがばれないような第三者、専門家がいたら良かったのかもしれない。
➤ 具体的かつ内情に沿った実現可能なアドバイス “相談”を持ち掛けている時点で、本人に多少の火は点きかけているので無駄に消火しないでほしい。各々のケースに合わせて最適解や安牌を出せる人、またその手法が当事者の家庭内での立場やパワーバランスから実現可能かどうか、その辺りを汲める人
➤ 健康相談がオンラインでできる
➤ 自分が、好きなことや考えていることを、積極的に聞いてくれる大人など。
➤ 発達障害とうつ病どちらかでも理解がある人がほしかった
(金銭的支援)
➤ お金の支援や精神的サポート

主な自由記述
➤ 就職しなくても家族のサポートしたら支援金もらえる
➤ 各家族に月額給付金支給
➤ 支援に対しては満足しているが、金額が安すぎる為もっとあげてほしい
➤ 大学の授業料の無償化。元々家庭が貧しいので、大学に行く選択肢が与えられなかった。
➤ 大学に入る際の奨学金について、返済不要の奨学金制度がこの頃に導入されていてほしかった。
➤ 難民二世が進学先や就職先をどこに相談すればよいか分かるサポート（両親とも日本語が不自由で、進学でも就活でも日本のシステムがどんなものか理解していないし、説明されても日本語なので分かってもらえなかったと思うから。）経済面でそういう特殊な事情のある進学希望者への相談所や支援金制度があればよかった。
(学習支援)
➤ 不登校でも支障なく勉強できる仕組みがあればよかった。
➤ 不登校の子と遊ぶことが多かったなので、その子達の専用の勉強教室を作ってほしかった
(就労支援)
➤ 問題持ちの就活サポート
➤ 正社員で働くことのできる職場を提供してほしかった
➤ 職業選択の視野がもっと広がるような体験
➤ アルバイト、就労体験支援。
➤ 就職支援や職場紹介
➤ 将来の進路がはっきり決まっていなかったので、「こんな仕事があるよ」などの紹介や相談に乗ってほしかった。
➤ 進路を真剣に考えてくれて、サポートしてくれる支援があれば良かったと思います。
(周囲の理解)
➤ もっと周りに知ってもらえるだけでもいい
(その他)
➤ その時は異常性に気付かず洗脳状態だったから特にない。
➤ 料理の仕方
➤ 将来設計についての講座
➤ 当時の悩みなら光熱費と食費の計算方法を教えて欲しかった
➤ 母子シェルターや家庭環境が悪い子が入れるような施設がもっと身近で気軽にあったら良かったなと思う。
➤ 親からの信頼が欲しかった
➤ 精神科に私が当時通っていたら良かったのかな、と思いました
➤ 親の介護にこんなサポートがあると学校で教えてほしかった。
➤ 母親は私が12歳のころから鬱病だったから、そういう人間のサポートや手続きの方法

⑳ 18歳以上のヤングケアラーへの支援を行う上で、行政が知っておくべきこと（FA）

Q4\_9

行政に対する要望は以下のとおり。

主な自由記述
(YCへの理解)
➤ どれだけ苦しんでいるかをしっかりと知ってほしい
➤ 家族以外の他人を自宅に招き入れる事を嫌う人が多い事です。
➤ 他の人が思っている以上に辛いです。
➤ その家庭がどんな状況か知ることが必要だと思う
➤ つらさ、助けを言いにくいこと
➤ 事情が多様であること。
➤ どのくらい 18 歳以上のヤングケアラーがいるのか、どんな状況であるのか等実態を把握する
➤ 思っているよりいるということ
➤ 支援を求めない人もいるということ
➤ 進学を諦めざるを得ない人がいること
➤ 人間はひとりひとり自分の人生を楽しむ義務がある。支援をより広めなければ、ひとりの人生がたくさん潰されていることを知って欲しい。
➤ 親の気持ちと子供の気持ちは別であること
➤ 仕事や学業に集中したかったり、遊びたい時期であったりというようなことを理解しておいて欲しいと思う。
➤ 子どもは自分から助けを求めないし、本当に聞いて欲しいことは簡単には喋らない。
➤ 若い人に自由な時間が必要
➤ 家庭の事情を話すことは恥ずかしいことなので相当踏み込まないと名乗り出る人なんていないと思う。
➤ 何歳までをヤングケアラーとするのかわかりませんが、声をあげられず、どこにも何も言えない人がいることをまずは知っておくべきだと思います。声をあげないから大丈夫なのではないし、変に構うのも嫌がることがあると思います。ケアラーがしんどくても、ケアされる側(親)のことを想って何も言えないことがある。複雑な心境であり、行政の支援で解決できることも少ないと思います。特に心の問題は、行政が関わることで余計にこじれることもあります。表面上うまくいっているようでも、逆に追い詰められていることも多々あると私は思うので、難しい問題です。
➤ ケースバイケース、当事者にしかわからない、一緒に住んでいる人にしかわからない
➤ ヤングケアラーまたはそうかもしれない人たちにとって、支援を受けたくても状況によってはできない人々もいるということを理解して欲しい。
➤ 精神面の辛さや悩みを相談できずにキャパオーバーすること
➤ ヤングケアラーは見えないところにいるということ
➤ 働きたくても働けない人もいるし、お金も厳しいと思うので、そこをしっかりと知っておくべきだと思います。
➤ 家族のお世話をしなければいけなかったために、子どもらしい経験ができなかった人が多くいること。
➤ 介護に近い内容ではなくても、私のように両親に強制されている等で不自由な生活を強いられている人がいること

主な自由記述
➤ 苦しくても言えない相談できない子はたくさんいると思います。
➤ 歳は関係なくみんな色んなものをすり減らしていること。
➤ いやいややっている家庭とすすんでやっている家庭がある
➤ まず話を聞く時間すらとれないから学校など必ずいそうなところもしくはなんらかの形で家とかなど場合によりきてほしいくらいの形で話を聞くしかない人もいると思う
(支援者の姿勢)
➤ お世話することで我慢していることやお世話をしていることを知られたくないと思っ ていたりもすると思うので、介入には慎重に
➤ 心の負担に寄り添う覚悟
➤ 支援をうけたいかまたは自宅で見たいかの家族の意見を尊重してほしい。人それぞれ 事情も伴って考え方が違うので、どうか杓子定規での考えの無理強いや押し付けはや めてほしい。あくまでもまずは、聞いてあげるだけにしてほしい
➤ 支援していると思いついでいる
➤ 中途半端な支援をしないこと
➤ あまり踏み込みすぎない
➤ 介護はやったことがなければ辛さは絶対にわからないので、軽はずみにポジティブな 言葉を皆の目につく所で発言しないでほしい
➤ 自分自身がどうなりたいか親身になって考えてくれる団体を作るべき
➤ むやみやたらに話を聞き出そうとしないこと
➤ 障害のある親がいる家庭は特に気をつけたほうがいいと思う
➤ 一人ひとり状況は違うと思うので型にはめた対応をしないでほしいなと思う
➤ 気休めだったら必要ない、ちゃんと一人一人みてほしい
➤ 支援を受けるかどうかは自己決定できることを明記する
(支援内容)
➤ 行政機関は支援を行う以上、できる限り早い行動、場合によっては土日でも行動を行 う必要はあると思います。18歳以上であるということは、大学などの教育機関に通っ ている正規・非正規問わず就労をしているということがあります。そこにおいて、一 般的な時間帯や日時では対応できない場合もあると思う
➤ 勉強の時間や、遊ぶ時間が限られてしまうため、夜でも学校を開き深夜教室などの時 間をずらしての授業が大事だと思う
➤ 金銭的支援や人による支援を受けやすくしてほしい、ヤングケアラーの精神面のサ ポートをすべき
➤ 自身も病気になる人がいるから、ヤングケアラー自身も、お世話を必要としている人もど ちも支援してほしい
➤ 手当金を増やすべき
➤ ケアするのが習慣になっているので長期的なサポートが必要だと思うし、思考を ちょっとずつでも変えていけるように精神科などでの認知行動療法を進めるのが良い のではないかと思う
➤ 当事者の精神的なダメージを最優先に対処する（カウンセラーの設置など）
➤ 相談して何が変わるのか正直わからないので、何か変わるとしたらどう変わるのかの ビジョンを示されたい
➤ 世間一般的に、手伝って貰えたら嬉しいな、と感じることを手伝える人材を確保して 貰えたら嬉しいです。
➤ 本人が得られるはずの、将来に関する選択肢が見えにくくなっている現状。
➤ 将来への不安が大きいと思うからその支援をするべきだと思う

主な自由記述
(周知啓発)
➤ 行政に頼ることを知らない人もいるので、もっと広報活動をしてほしい
➤ どこに相談したらいいかわからない、相談する場所が無いと感じている方は多いと思います。その場所を知ってもらうこと、気軽に相談できる場所であることが大切だと考えます。
➤ 補助金や支援がある事自体知らない
➤ 将来こうなるよということを、未成年の間にもっと認知させないといけない。
➤ 学校教育に取り入れるのが良い
(企業の協力)
➤ 理解のある企業を見繕っておく

# 第6章 ヤングケアラー支援団体に対するアンケート調査

---

## 1. 調査目的

18歳以上のヤングケアラーへの効果的な支援の在り方を検討するために、若者世代へのアプローチ方法を探るとともに、当事者が担っているケアの様態（精神疾患を有する家族へのケア、通訳が必要な家族へのケア等）に応じた支援ニーズ等を把握・整理することを目的に実施した。

## 2. 調査概要

### (1) アンケート調査の対象

以下の団体を対象（計 371 件）に Web によるアンケート調査を実施した。

- 1) こども家庭庁、一般社団法人日本ケアラー連盟の HP に掲載されている、ヤングケアラー当事者・元当事者同士の交流会家族会などを開催する団体（3件）
- 2) 都道府県、政令市等のヤングケアラー関係の助成金、補助金の助成・補助団体（37件）
- 3) 令和5年度に当法人で実施した支援団体アンケートの調査対象（令和5年時点で、上記1、2の視点で選定した先）（31件）
- 4) 全国の子ども・若者総合相談センター（134件）
- 5) こども家庭庁の予算事業の補助申請等をしている支援団体（20件）
- 6) ケアラー条例（ヤングケアラーではない）を制定している自治体で、既出のリストに掲載されていない自治体（26件）
- 7) 生活困窮者自立支援事業のうち、自立相談支援事業を除く事業を4件以上委託されている団体（74件）
- 8) 社会的養護経験者向け情報ウェブサイト Iris に掲載されている全国の相談先（46件）

### (2) 調査の時期

令和7年12月15日（月）～令和8年1月16日（金）

### (3) 調査の方法

Web によるアンケート調査を実施した（メールにて調査専用サイトの URL を記した依頼状を送付し、WEB 上で回答を求めた）。

### (4) 調査項目

調査項目を以下に示す。なお、SA は単数回答、MA は複数回答、SAMT はマトリクス単数回答、MAMT はマトリクス複数回答、FA は自由回答、YC はヤングケアラーを示す。

図表 6-1：支援団体に対するアンケート調査項目

<p>&lt; 1 &gt;. 基本情報</p>	<p>Q1-1 団体名称(FA) Q1-2 事務所所在地(SA・FA) Q1-3 団体の設立主体(SA) Q1-4 実施しているヤングケアラー支援に関する自治体事業(MA)</p>
<p>&lt; 2 &gt;. 支援対象者の属性</p>	<p>Q2-1 支援実績(MA・FA) Q2-2 YC 支援を始める前の支援領域(MA)</p>
<p>&lt; 3 &gt;. ヤングケアラーとのつながり方</p>	<p>Q3-1 利用可能な初回相談経路 (MAMT) Q3-2 利用が最も多い初回相談経路(SAMT) Q3-3 YC 有無による相談経路の傾向の違い(SA・FA) Q3-4 YC と接点を持つために行っている施策(MAMT)</p>
<p>&lt; 4 &gt;. ヤングケアラーの支援ニーズ</p>	<p>Q4-1 YC のケア対象者 (MAMT) Q4-2 ケア対象者の状況(MAMT) Q4-3 YC の支援ニーズ(MAMT) Q4-4 年代・支援状況別による支援ニーズの傾向の違い(SAMT・FA) Q4-5 18 歳以上の YC の属性 (SAMT) Q4-6 18 歳以上の YC (属性別) の支援ニーズ (MAMT)</p>
<p>&lt; 5 &gt;. ヤングケアラーへの支援内容</p>	<p>Q5-1 YC に提供可能な支援サービス(MAMT) Q5-2 YC に提供したサービスのうち最も効果的だったもの(SAMT) Q5-3 効果的だと思う理由(FA) Q5-4 年代・支援状況別で効果的だと思う支援サービスの傾向の違い(SAMT・FA) Q5-5 18 歳以上の YC (属性別) を支援するにあたり最も効果的だと思う支援サービス (SAMT) Q5-6 効果的だと思う理由(FA) Q5-7 支援の終結に向けた取組のうち最も効果的なもの(MAMT)</p>
<p>&lt; 6 &gt;. ヤングケアラーを支援する上で他機関との連携</p>	<p>Q6-1 実績のある他機関連携先 (MAMT) Q6-2 最も効果的だと思う連携先(SAMT) Q6-3 効果的だと思う理由(FA) Q6-4 年代・支援状況別で効果的だと思う連携先の傾向の違い(SAMT・FA) Q6-5 18 歳以上の YC (属性別) を支援するにあたり最も効果的だと思う連携先 (SAMT) Q6-6 効果的だと思う理由(FA)</p>

<p>&lt; 7 &gt; . 18 歳以上の のヤング ケアラー 支援の課 題</p>	<p>Q7-1 18 歳以上の YC を支援する上での課題(MA・SA) Q7-2 最も課題と思うこと(FA) Q7-3 18 歳以上 40 歳未満の YC 支援の工夫・理由(FA) Q7-4 18 歳未満児にケアをしていた元 YC への支援有無(SA) Q7-5 18 歳未満児にケアをしていた元 YC への支援の課題(FA) Q7-6 YC の対象が 18 歳未満 40 歳以上に拡大されたことへの対応(SA) Q7-7 YC の対象が 18 歳未満 40 歳以上に拡大されたことへの国や地方自治体への要望(FA)</p>
<p>&lt; 8 &gt; . 直近の支 援事例</p>	<p>Q8-1 初回相談経路(SAMT) Q8-2 YC の判明時期(SAMT) Q8-3 YC の属性(SAMT) Q8-4 YC の判明経路(SAMT) Q8-5 YC 本人による支援ニーズ(SAMT) Q8-6 団体による支援ニーズ(SAMT) Q8-7 支援内容(MAMT) Q8-8 支援途中で YC だと判明したことによる支援内容の変化(SAMT) Q8-9 支援内容の変更の詳細(FA) Q8-10 現在の支援状況(SAMT) Q8-11 支援が終結に至った経緯(FA) Q8-12 支援終結後に再度支援対象となった YC の有無(SAMT) Q8-13 支援終結後に再度支援対象となった経緯(FA)</p>
<p>&lt; 9 &gt; . ヒアリン グ調査へ の協力可 否</p>	<p>Q9-1 ヒアリングへの協力可否(SA) Q9-2 回答者情報(FA)</p>

### 3. 調査結果

#### 【アンケート結果の記載に係る留意点】

- 第6章のアンケート結果では、全体像を捉える上で特に記述したいと考えた内容（第8章の考察に係る内容等）を抜粋して掲載している（アンケート結果の詳細については資料編を参照）。

#### (1) 基本情報

##### ① 設立主体 (SA) Q1\_3

回答団体の設立主体は、「市区町村（行政）」が最も多く、次いで「社会福祉法人」、「社団・財団法人」、「NPO」となっている。

図表6-2：設立主体（SA）

		回答数	%
全体		88	100.0
1	市区町村（行政）	36	40.9
2	社会福祉法人	17	19.3
3	社団・財団法人	12	13.6
4	学校法人	0	0.0
5	宗教法人	0	0.0
6	民間企業	4	4.5
7	NPO	12	13.6
8	個人	1	1.1
9	任意団体	2	2.3
10	共同設立	3	3.4
11	その他	1	1.1

② 支援対象 (MA) Q2\_1\_1

本調査では、支援対象者を「ヤングケアラー (18 歳未満)」、「ヤングケアラー (18、19 歳)」、「ヤングケアラー (20 代)」、「ヤングケアラー (30 代)」、「ヤングケアラー (18 歳未満)」、「ヤングケアラー以外 (18 歳未満)」、「ヤングケアラー以外 (18 歳以上、40 歳未満)」、「40 歳以上の方」に分類した上で分析した。

30 代の YC や 40 歳以上の人に対する支援は比較的少ないものの、全体的には概ね 4 ～ 7 割程度の支援団体が各年代の YC や YC 以外を支援対象として含めている。

図表 6-3 : 支援対象 x 支援対象者別 (FA)

		回答数	%
全体		88	100.0
1	ヤングケアラー (18歳未満)	69	78.4
2	ヤングケアラー (18、19歳)	50	56.8
3	ヤングケアラー (20代)	58	65.9
4	ヤングケアラー (30代)	38	43.2
5	ヤングケアラー以外 (18歳未満)	61	69.3
6	ヤングケアラー以外 (18歳以上、40歳未満)	51	58.0
7	40歳以上の方	25	28.4

## (2) 支援対象者の属性

### ① 支援件数 (NU) Q2\_1\_2\_1

令和6年度における支援件数は、全年代において概ね1～4件の支援団体が多い一方、YC以外の支援件数は50件以上の支援団体も一定数存在する。

図表6-4：支援件数 x 支援対象者別 (NU)

		%						
		ヤングケ アラ- (18歳未 満)	ヤングケ アラ- (18、19 歳)	ヤングケ アラ- (20代)	ヤングケ アラ- (30代)	ヤングケ アラ-以 外(18歳 未満)	ヤングケ アラ-以 外(18歳 以上、40 歳未満)	40歳以上 の方
(n)		69	50	58	38	57	47	24
1	0件	11.6	32.0	19.0	39.5	15.8	19.1	16.7
2	1～4件	27.5	40.0	60.3	39.5	17.5	21.3	45.8
3	5～9件	17.4	16.0	6.9	13.2	3.5	10.6	8.3
4	10～19件	13.0	12.0	5.2	0.0	10.5	6.4	4.2
5	20～29件	11.6	0.0	3.4	2.6	5.3	4.3	8.3
6	30～39件	5.8	0.0	3.4	2.6	7.0	10.6	0.0
7	40～49件	2.9	0.0	1.7	0.0	5.3	2.1	0.0
8	50件以上	10.1	0.0	0.0	2.6	35.1	25.5	16.7

② ヤングケアラー支援前の支援領域 (MA) Q2\_2

ヤングケアラー支援前の支援領域は、「児童福祉分野」が最も多く、次いで「若者支援分野」、「教育分野」が多くなっている。「最初から YC 支援を主な目的として活動」している支援団体は全体の 3.9%である。

図表 6-5 : ヤングケアラー支援前の支援領域 (MA)

		回答数	%
全体		77	100.0
1	児童福祉分野	41	53.2
2	教育分野	20	26.0
3	若者支援分野	40	51.9
4	高齢者福祉分野	11	14.3
5	障害福祉分野	14	18.2
6	母子保健分野	6	7.8
7	その他の福祉分野	7	9.1
8	医療分野	4	5.2
9	最初からヤングケアラー支援を主な目的として活動	3	3.9
10	その他	10	13.0

### (3) ヤングケアラーとのつながり方

#### ① 支援対象者が利用可能な初回相談経路 (MA) Q3\_1\_1

支援対象者が利用可能な初回相談経路は、「直接来所」「電話」「他機関からの紹介」が18歳から30代後半のいずれの年代においても8割を超えている。

図表6-6：支援対象者が利用可能な初回相談経路 xYC の年代別 (MA)

		(n)	1	2	3	4	5	6
			直接来所	電話	メール	SNS	他機関からの紹介	その他
1	18歳未満のヤングケアラー	69	82.6	81.2	65.2	40.6	89.9	27.5
2	18・19歳のヤングケアラー	50	80.0	82.0	72.0	44.0	86.0	38.0
3	20代のヤングケアラー	58	82.8	81.0	60.3	39.7	81.0	34.5
4	30代のヤングケアラー	38	81.6	81.6	71.1	42.1	81.6	34.2

「その他」の主な自由記述	
(アウトリーチ)	
➤ 家庭・学校以外のアウトリーチ	
➤ 家庭訪問	
➤ 校内居場所事業のアウトリーチ	
➤ 巡回相談	
(オンライン)	
➤ ホームページのフォーム	
(同機関内の別部署)	
➤ 同じ課のSSWから	

#### ② 最も利用が多い初回相談経路 (MA) Q3\_2\_1

最も利用が多い初回相談経路は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「他機関からの紹介」である。年齢を重ねるごとに「直接来所」、「電話」、「メール」等、自身で相談するケースも微増している。

図表6-7：最も利用が多い初回相談経路 xYC の年代別 (MA)

		(n)	1	2	3	4	5	6
			直接来所	電話	メール	SNS	他機関からの紹介	その他
1	18歳未満のヤングケアラー	69	8.7	11.6	0.0	5.8	58.0	15.9
2	18・19歳のヤングケアラー	50	2.0	16.0	0.0	10.0	50.0	22.0
3	20代のヤングケアラー	58	15.5	19.0	3.4	12.1	36.2	13.8
4	30代のヤングケアラー	38	15.8	23.7	5.3	7.9	31.6	15.8

③ 18歳以上のYCとYC以外の若者の相談経路の傾向の違い (SA) Q3\_3

18歳以上のYCとYC以外の若者の相談経路の傾向に違いがあると感じるかについては、「違いがあると感じる」が若干多かった。

図表6-8：18歳以上のYCとYC以外の若者の相談経路の傾向の違い (SA)

		回答数	%
全体		40	100.0
1	違いがあると感じる	15	37.5
2	違いがあるとは感じない	14	35.0
3	わからない	11	27.5

傾向の違いに関する主な自由記述	
➤	地域に埋もれているため、直接の繋がりが持てていないように感じる。
➤	ケアラーの場合は支援機関からの連絡
➤	ケアラーでない場合の相談は自身で、ケアラーと直接関係しない相談（深掘りすると関係するが・・・）
➤	ヤングケアラーは、本人にヤングケアラーの自覚がなく、困っている現状が当たり前であるため自ら相談には来ない。要介護者の支援者が気になって相談先を探す中でたどり着いている印象。ヤングケアラー以外は、本人やご家族からの相談が多い。
➤	総合相談窓口（ヤングケアラー含む）は、保護者（10代は8割方保護者）や若者本人がHPや支援機関からの紹介、口コミ等でセンターの存在を知り面談予約。その後担当制によりサポートが開始するというパターンが多いです。一方、ヤングケアラーに特化した事業では、学校訪問によるケースカンファレンスや、本人の生活圏へのアウトリーチなど、「その若者が一番安心でき、一番アクセスのしやすい場」まで、わたしたちが出向くことが多いです。また、SNS相談（LINE相談）を経由して、ある程度LINE相談員と信頼関係ができてからの対面支援になることが多いと感じます。まとめると①アウトリーチによる初回面談は、ヤングケアラーでない若者より有効性が高い②支援者や大人に「相談してもよい」と思ってもらえる関係づくりとしてSNSは一定有効と感じる

#### (4) ヤングケアラーの支援ニーズ

##### ① YC のケア対象者 (MA) Q4\_1\_1

YC のケア対象者は、18 歳から 30 代後半のいずれの年代においても「母親」が最も多い。次いで、18 歳未満から 20 代までの YC においては「きょうだい」が多く、30 代の YC においては「父親」が多い。また、YC の年代があがるにつれて「きょうだい」の割合が減少傾向にある。

図表 6-9 : YC のケア対象者 xYC の年代別 (MA)

		(n)	1	2	3	4	5	6	7	8
			母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	こども	配偶者・パート	その他
1	18歳未満のヤングケアラー	69	79.7	31.9	14.5	0.0	76.8	2.9	0.0	8.7
2	18・19歳のヤングケアラー	50	68.0	32.0	6.0	0.0	62.0	0.0	0.0	22.0
3	20代のヤングケアラー	58	72.4	36.2	24.1	5.2	46.6	0.0	1.7	12.1
4	30代のヤングケアラー	38	63.2	28.9	26.3	15.8	18.4	5.3	0.0	26.3

② YC のケア対象者の状況 (MA) Q4\_2\_1

YC のケア対象者の状況は、18 歳から 30 代後半のいずれの年代においても「精神疾患（疑いを含む）」が最も多い。また、「若い」、「依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）」、「日本語が苦手、わからない」などは若い YC ほど多く、「高齢（65 歳以上）」などはより年齢を重ねるほど多い。

図表 6-10：YC のケア対象者の状況 xYC の年代別 (MA)

			1	2	3	4	5	6	7
			高齢（65歳以上）	若い	要介護（介護が必要な状態）	認知症	身体障がい	知的障がい	発達障がい（疑いを含む）
(n)									
1	18歳未満のヤングケアラー	69	4.3	47.8	11.6	0.0	18.8	10.1	14.5
2	18・19歳のヤングケアラー	50	2.0	26.0	4.0	4.0	20.0	16.0	22.0
3	20代のヤングケアラー	58	15.5	13.8	15.5	3.4	12.1	12.1	20.7
4	30代のヤングケアラー	38	23.7	0.0	23.7	5.3	10.5	13.2	10.5

			8	9	10	11	12	13
			精神疾患（疑いを含む）	依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	上記「精神疾患（疑いを含む）」、「依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）」以外の病気	日本語が苦手、わからない	ひきこもり、不登校	その他
(n)								
1	18歳未満のヤングケアラー	69	65.2	18.8	10.1	15.9	5.8	10.1
2	18・19歳のヤングケアラー	50	58.0	12.0	8.0	14.0	2.0	24.0
3	20代のヤングケアラー	58	65.5	8.6	10.3	3.4	12.1	13.8
4	30代のヤングケアラー	38	42.1	5.3	7.9	2.6	2.6	31.6

「その他」の主な自由記述	
（18 歳未満のヤングケアラー）	
➤ 精神的に不安定	
➤ 父の仕事が忙しく家事を子どもがしている	
（18・19 歳のヤングケアラー）	
➤ 両親の離婚により母親代わりの家事、兄弟のサポートをしていた	
➤ 父母が多忙	
（20 代のヤングケアラー）	
➤ 疾患、DV	
（30 代のヤングケアラー）	
➤ 両親が祖父母の介護をしない。	
➤ 生活苦（家計）	

③ 支援ニーズ (MA) Q4\_3\_1

支援ニーズとしては、18歳から30代後半のいずれの年代においても「家族との人間関係」が最も多い。また、「家事」、「自分の学業・受験・進学」などは若い人の方が多い。「収入・家計・借金・貧困（食料の確保なども含む）等」、「就職・転職活動」、「離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）に関すること」などは18歳～20代が多く、「家族の病気や介護」、「自分の現在の仕事」などは年齢を重ねた人の方が多いなど、ライフステージによって異なる傾向を示す支援ニーズも見られる。

図表6-11：支援ニーズ xYC の年代別 (MA)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
		家族との人間関係	家族以外との人間関係	恋愛・性に関すること	結婚・離婚に関すること	いじめ、ハラスメント	生きがいに関すること	自由にできる時間がないこと	収入・家計・借金・貧困（食料の確保なども含む）等	自分の病気や心身の不調	家族の病気や介護	妊娠・出産
(n)												
1	18歳未満のヤングケアラー	69	49.3	10.1	0.0	0.0	4.3	26.1	23.2	10.1	14.5	0.0
2	18・19歳のヤングケアラー	50	42.0	8.0	2.0	0.0	2.0	18.0	38.0	14.0	14.0	0.0
3	20代のヤングケアラー	58	53.4	6.9	0.0	1.7	1.7	15.5	36.2	20.7	29.3	0.0
4	30代のヤングケアラー	38	39.5	2.6	0.0	2.6	7.9	21.1	21.1	7.9	26.3	0.0

		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
		育児	家事	自分の学業・受験・進学	こどもの教育	就職・転職活動	自分の現在の仕事	家族の仕事	離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）に関すること	その他	特になし	わからない	
(n)													
1	18歳未満のヤングケアラー	69	5.8	26.1	55.1	2.9	2.9	1.4	0.0	7.2	4.3	1.4	5.8
2	18・19歳のヤングケアラー	50	0.0	8.0	26.0	0.0	20.0	2.0	0.0	20.0	6.0	6.0	10.0
3	20代のヤングケアラー	58	0.0	12.1	10.3	1.7	20.7	10.3	1.7	12.1	6.9	1.7	5.2
4	30代のヤングケアラー	38	2.6	2.6	5.3	0.0	18.4	18.4	0.0	7.9	7.9	7.9	13.2

④ 年代・状況別による支援ニーズの傾向の違い (SA) Q4\_4\_1

18歳以上のYCでは支援ニーズに違いがあると感じる支援団体が57.9%で最も多い一方、18歳以上のYCとYC以外ではわからないと回答した支援団体も37.5%と多い。

図表6-12：年代・状況別による支援ニーズの傾向の違い (SA)

		(n)	1 違いがある と感じる	2 違いがある とは感じな い	3 わからない
1	18歳以上のヤングケアラーと 18歳未満のヤングケアラー	57	57.9	15.8	26.3
2	18歳以上のヤングケアラーと 18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	40	52.5	10.0	37.5

傾向の違いに関する主な自由記述	
(18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー)	
➤	18歳以上は現実的に自立ができる年齢のため、家族から離れる選択肢が取れる。そのため家を出ることへの葛藤や不安等で気持ちが揺れる状態への支援が必要と感じる。
➤	18歳以上のケアラーの多くは、もっと前から家庭内でケアを担っているケースが多く、中高生時代に友人との人間関係を築きづらい場合がある。そのため同世代の人に比べとても幼い考え方をしている面もあれば、同世代以上にしっかりしている面もあり、アンバランスさが目立つ。また、長年ケアをしていてそれが当たり前になっているため、問題が根深くなっている場合も少なくない。ケアの対象者、ケアラー本人双方に何等かの課題を抱えている。周りとの接点も薄い。
➤	18歳未満は今の環境でどのようにサバイブしていくかの悩み、18歳以上になり自身でお金を稼ぐことができるようになるとケア対象から離れて自身の人生を歩み始めることへの悩み
➤	18歳を超えると、自身の家庭環境が他とは違うことが見えてきて、その比較の中で苦しむことが多い。また、ケアラーの状態が長期化しているため疲弊あるいは限界を迎えている方も多く、学業を続けるための経済措置はあるか？家を出たいが、一人暮らしをスタートする方法はあるか？自分以外のケアの担い手を入れたいが、どのように家族を説得するとよいか？週に1回程度でいいので、自分ひとりきりになれる場所がほしいなど、自分と家族の状況に対して、「手ごたえのある具体的な解決策」を求めていることが多い。
➤	18歳以上のヤングケアラーでは焦燥感や現状への不満、他者との違いが明確になり、就学や就労、生活などにおける不安や障壁に対する課題の解決がニーズとして表れる。また、支援がされない中で家庭を主として支える立場として、金銭的や時間的な困難さを抱えていることが多い。18歳未満では現在への不満はあるものの、他の家庭との違いなどがはっきりしていないことも多い。金銭的に親に支援、管理されている場合が多いことから解決をニーズとして持っていることは少ないと感じる。現状の心身の状態への不安や、自身の気持ち的なつらさ、時間のなさに対して改善したいニーズが表出される。ただし、進学や就職については自身がしたいことを親が否定する、また

傾向の違いに関する主な自由記述	
	は環境に否定されることから、自立への意向や家庭からの離脱についてのニーズもみられる。
(18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者)	
➤	ヤングケアラー以外の支援対象者は自分の自立の問題に対して目が向いているが、ヤングケアラーは他者のことに目が向いている。
➤	要介護者から、離れて仕事等に行くために、介護を担ってくれる人や家事支援が必要。心理相談よりも実働部分の支援。介護のために仕事を制限される方もいるが、制限することは自己実現の機会を失ったり、将来的な収入の減退につながる。結婚や将来の自分のための貯蓄を考えると、仕事の制限が大きくなるような状況はよくないのではないかと考える。
➤	18歳を超える「ヤングケアラー」の若者は、年齢も上がり長期的にケアラーをしている方も多い。自身の環境も変化する（義務教育から学生へ、学生から社会人へ）中で、かわらずケアと自分の人生を両立している方だけあって、複数同時の処理能力が高い方、人の気持ちがわかる方、人間関係の間合いのうまい方など、高い能力を持つ方が多く、ヤングケアラーでない若者に必要な「支援」は不要な場合さえある。「大変だったね」「頑張っているね」などの、傾聴や肯定的なはげましは求めておらず、むしろ嫌だと感じる若者も多い（さんざん賞賛されたり同情されたりしたけれど、辛い状況が変わるわけではなかった・・・という体験があるため）。それよりは、「一緒に考える」、ケアラーの方の意見や希望をよく聞き「実現に向けて実行プランを立てる」など、対等な立場、時に支援者側が教えられる立場でのかわりが求められる。
➤	ヤングケアラーの場合、本人自身の生活のバランスを崩すことへの不安が強く、特に経済的な問題や、ケア対象への複雑な思い、離家できない状況に伴う葛藤などが背景にあります。こうした要因から、生活全般にわたる包括的な支援が求められる傾向があると考えています
➤	18歳以上のヤングケアラーでは家庭に頼られる期間が長いことから自身の生活よりも他者の生活を優先してしまうことや、自身の意向がはっきりしないことが多い。解決思考があっても相談をしたいという部分が強いと感じられる。精神的に不安定な方が多い、または一般常識に疎く、経験や体験が乏しい様子が見られる。ヤングケアラー以外に関しては意向がある程度ははっきりしている、またはヤングケアラー以外の方で精神的に不安定な方の相談が多い。前者では解決ニーズが高く、状況を変えるための伴走ニーズが見られる。後者では一旦の相談場所、居場所としてのニーズが高く感じられる。

⑤ 30代までのケアラーのケア状況別属性 (SA) Q4\_5\_1

本調査では、30代までのケアラーを、ケア対象者・家族構成別に4つのグループに分け、その状況に該当する人がいたかどうかを尋ねた。

支援団体が支援した30代までのケアラーをケア状況別に見ると、「家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし）」に該当する人がいたという回答が81.5%と最も多い。「障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー」「ダブルケアラー（子ども+家族のケア）」「家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし）」はそれに比べると少ないが、それでも15%前後は「いた」と回答している。ただし、有効回答数が65団体であることには留意が必要である。

図表6-13：30代までのケアラーのケア状況別属性 (SA)

		(n)	1 いた	2 いない	3 わからない
1	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	65	15.4	66.2	18.5
2	② ダブルケアラー（子ども+家族のケア） 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	65	16.9	63.1	20.0
3	③ 家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし） 【ケア対象者】家族（自分の子どもを除く）【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	65	13.8	67.7	18.5
4	④ 家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし） 【ケア対象者】家族（自分の子どもを除く）【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	65	81.5	9.2	9.2

⑥ 支援ニーズ x ケア状況別属性 (SA) Q4\_6\_1

支援ニーズ (ケア状況別) は、「障害・病気のある子どものみをケアするケアラー」を除き、「家族との人間関係」が最も多い。また、「自由にできる時間がないこと」、「収入・家計・借金・貧困 (食糧の確保なども含む) 等」、ケアに割ける時間と収入面のいずれかが支援ニーズとして表出している可能性がある。

図表 6-14：支援ニーズ (ケア状況別) (SA)

		(n)											
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
		家族との人間関係	家族以外との人間関係	恋愛・性に関すること	結婚・離婚に関すること	いじめ、ハラスメント	生きがいに関すること	自由にできる時間がないこと	収入・家計・借金・貧困 (食糧の確保なども含む) 等	自分の病気や心身の不調	家族の病気や介護	妊娠・出産	
1	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	10	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	60.0	10.0	20.0	40.0	0.0
2	② ダブルケアラー (子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない (未成年であることだけが理由の場合も含む)	11	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	45.5	36.4	27.3	45.5	0.0
3	③ 家族をケアするケアラー (既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族 (自分の子どもを除く) 【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	9	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	44.4	33.3	33.3	55.6	0.0
4	④ 家族をケアするケアラー (未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族 (自分の子どもを除く) 【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	53	54.7	5.7	0.0	0.0	0.0	9.4	20.8	41.5	18.9	34.0	0.0

		(n)											
		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
		育児	家事	自分の学業・受験・進学	子どもの教育	就職・転職活動	自分の現在の仕事	家族の仕事	離家 (親元を離れて別世帯で暮らすこと) に関する事	その他	特になし	わからない	
1	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	10	20.0	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0
2	② ダブルケアラー (子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない (未成年であることだけが理由の場合も含む)	11	18.2	0.0	18.2	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0
3	③ 家族をケアするケアラー (既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族 (自分の子どもを除く) 【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	9	0.0	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0
4	④ 家族をケアするケアラー (未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族 (自分の子どもを除く) 【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	53	0.0	5.7	20.8	3.8	24.5	17.0	0.0	20.8	1.9	0.0	0.0

## (5) ヤングケアラーへの支援内容

### ① 提供可能な支援サービス (MA) Q5\_1\_1

提供可能な支援サービスは、18歳から30代後半のいずれの年代においても「窓口での相談支援」が最も多く、次いで「支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整」となっている。また、支援サービスの中には、20・30代のYCに対して提供の割合が減っているものも見られる。

図表6-15：提供可能な支援サービス xYC の年代別 (MA)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
(n)		窓口での相談支援	オンラインでの相談支援	訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	福祉給付等の手続き支援	外国語対応通訳支援	家事・育児支援	配食支援	食糧支援（フードバンク）	こども食堂	
1	18歳未満のヤングケアラー	69	88.4	55.1	73.9	76.8	39.1	46.4	13.0	31.9	18.8	31.9	24.6
2	18・19歳のヤングケアラー	50	92.0	66.0	74.0	76.0	38.0	50.0	10.0	12.0	16.0	30.0	20.0
3	20代のヤングケアラー	58	93.1	62.1	70.7	70.7	34.5	46.6	10.3	12.1	15.5	29.3	19.0
4	30代のヤングケアラー	38	89.5	68.4	65.8	78.9	34.2	42.1	7.9	7.9	5.3	10.5	5.3

		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
(n)		ショートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	就労支援	トラウマケア、心理的支援	精神疾患を有する家族へのケア	通訳が必要な家族へのケア	その他	特になし	
1	18歳未満のヤングケアラー	69	23.2	39.1	4.3	27.5	36.2	23.2	15.9	7.2	11.6	1.4
2	18・19歳のヤングケアラー	50	10.0	40.0	6.0	16.0	40.0	26.0	16.0	6.0	16.0	2.0
3	20代のヤングケアラー	58	10.3	37.9	1.7	10.3	43.1	24.1	15.5	5.2	17.2	0.0
4	30代のヤングケアラー	38	5.3	34.2	2.6	7.9	44.7	21.1	15.8	2.6	18.4	0.0

② 最も効果的な支援サービス（年代別）(SA) Q5\_2\_1

提供可能な支援サービスのうち、最も効果的（利用頻度が高い等）だと思える支援サービスを1つ選ぶという質問項目では、「窓口での相談支援」や「訪問型（アウトリーチ型）の相談支援」が、18歳から30代後半のいずれの年代においても多かった。それでも年代別の傾向は見られ、20代のヤングケアラーにおいては「窓口での相談支援」が、20歳未満のヤングケアラーにおいては「訪問型（アウトリーチ型）の相談支援」が、他の年代より多くなっている。また、20・30代のYCに対しては「ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供」、「就労支援」などを挙げている団体も見られる一方、30代のYCに関しては「わからない」と回答した団体も15.8%見られる。

図表6-16：最も効果的な支援サービス xYC の年代別（SA）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
(n)		窓口での相談支援	オンラインでの相談支援	訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	福祉給付等の手続き支援	外国語対応通訳支援	家事・育児支援	配食支援	食糧支援（フードバンク）	こども食堂	
1	18歳未満のヤングケアラー	68	17.6	4.4	20.6	8.8	7.4	0.0	1.5	7.4	4.4	2.9	4.4
2	18・19歳のヤングケアラー	49	16.3	6.1	18.4	14.3	2.0	2.0	0.0	0.0	6.1	2.0	2.0
3	20代のヤングケアラー	58	32.8	6.9	10.3	8.6	8.6	1.7	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0
4	30代のヤングケアラー	38	18.4	10.5	10.5	10.5	10.5	2.6	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0

		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
(n)		ショートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	就労支援	トラウマケア、心理的支援	精神疾患を有する家族へのケア	通訳が必要な家族へのケア	その他	特になし	わからない	
1	18歳未満のヤングケアラー	68	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	8.8	2.9	5.9
2	18・19歳のヤングケアラー	49	0.0	0.0	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	0.0	10.2	4.1	12.2
3	20代のヤングケアラー	58	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.0	10.3	3.4	6.9
4	30代のヤングケアラー	38	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	2.6	0.0	0.0	5.3	5.3	15.8

最も効果的だと考える主な自由記述	
支援内容	効果的だと考える理由
➤ 窓口での相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 支援を始める1歩目として、自身のニーズを整理することが必要であると考えから</li> <li>➤ 継続的に相談できる場があることで、福祉サービスの導入などを考える時間が持てる。また、相談内容や本人の意向を受けて区内関係機関との調整にあたることことができる。</li> </ul>
➤ オンラインでの相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 仕事をする中での支援となること、SNS世代でもあることからオンラインでの相談があることで相談が時間外でも受け付けられることや、緩やかなつながりを持ち支援することができる。</li> </ul>
➤ 訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 家族以外の第三者が自宅へ入ること自体が支援になる</li> <li>➤ 訪問型の相談の場合、ヤングケアラーに負担をかけずに相談にのることができる。</li> </ul>

最も効果的だと考える主な自由記述	
支援内容	効果的だと考える理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 進路や生活について自身の意思決定を実現できるが金銭面等において不安定であり、必要な制度や支援方法につなげることが必要なケースが見られる。また、家族とのネゴシエーションやケアの状態の確認も必要なため支援調整が有効と考える。</li> <li>▶ 年齢を重ねる中で、複雑化・深刻化してきた家族や本人の状況に関して、「もう限界」「いますぐなんとかしてほしい」というSOSが高いため。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 長い間ひとりりで抱えてきたこともあるので、ひとりではないことを感じてもらう交流が必要ではないかと思う。</li> <li>▶ 個別相談よりは、同じ経験を持つ者同士の繋がりによって、孤独感の解消につながるため</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 配食支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ (若い世代の場合) 支援を受ける経験自体が乏しいため、相談することにより何か良いことがある(=配食支援を受けられる)という経験を重ねることで、困ったことがあれば相談しようと思ってもらいやすく、配食支援を契機として行政等の支援者との関係も築きやすい</li> <li>▶ 家族の世話をしている外に出られないヤングケアラーに対して配食支援を行い、配食の際に声かけをすることで社会との接点を作り、ヤングケアラーが外に出て来れるよう促す。</li> <li>▶ ケアラー世帯への介入のきっかけづくりになっている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 食糧支援(フードバンク)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 経済的な課題を抱えている家庭が多い</li> <li>▶ 本人が一番望む支援で、そのため約束や連絡が取りやすいなどメリットがある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ こども食堂</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ (若い世代の場合) 食事提供を通して、世帯丸ごと支援ができる点、家族と一緒に参加できることで、参加のハードルが下がる点</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 就労支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 現状の脱却・自立に向けた重要な柱であるため</li> <li>▶ 一般就労が困難なケースに対し、当社のプログラムで、少しずつ社会との繋がりをもち社会復帰をすることに効果がある</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他(趣味など今まであきらめてきたことの実現/家族と少し距離を置きたいときのレスパイトスペースの提供/家を離れる際の物件探し、引っ越し、家財道具の提供など/お小遣いが必要な際の有償プチ仕事の提供など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 学生時代が終わり、家を出ることを考えるタイミングを迎える方が多い。具体的な一人暮らしに関する全てのサポートができるよ!(物件探し、敷金礼金の工面、契約手続き、保証人問題の解決、家族の説得、引っ越し、家電等の提供、一人暮らしスタート後の困りごとに対するサポート)という提案が、若者本人の希望の光(本当にそんなことができるんだ!という驚きと選択肢があることに対する希望)になることが多いため。</li> <li>▶ 家に残ることを決めた方には、継続的に続くケアの疲弊に向き合わなくてはならない場合が多く、静かな場所でひとり休息ができる場所を求めているため。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他(相談会開催)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 支援者・自身・家族からの別案件での相談からヤングケアラーを発見できる</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ その他(就労体験(カフェ・ビストロ))</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本人や家族との信頼関係の構築が早い。本人や家族がエンパワメントできて制度につなぎやすい。多職種連携につなぎやすい</li> </ul>

③ 年代・状況別による支援サービスの傾向の違い (SA) Q5\_4\_1

18歳以上のYCと18歳未満のYCでは効果的な支援サービスに「違いがあると感じる」支援団体が45.3%で最も多く、次いで、「違いがあるとは感じない」支援団体が30.2%となっている。一方、18歳以上のYCとYC以外では「わからない」と回答した支援団体が最も多く44.4%となっている。

図表6-17：年代・状況別による支援サービスの傾向の違い x 支援対象者別 (SA)

		(n)	1 違いがあると感じる	2 違いがあるとは感じない	3 わからない
1	18歳以上のヤングケアラーと 18歳未満のヤングケアラー	53	45.3	30.2	24.5
2	18歳以上のヤングケアラーと 18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	36	33.3	22.2	44.4

傾向の違いに関する主な自由記述	
(18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー)	
➤	就労という観点から違いがあると考えている。
➤	自身の将来を考えることに主眼をおいたサービスと家庭から距離を置く時間をつくることを目的としたサービスに違いが必要
➤	18歳未満の場合、支援の要素を「関係性」や「遊び・学び」のなかに紛れ込ませる必要がありそう。
➤	18歳以上では本人への支援の割合が高くなる(就労・メンタル・制度へのつながり・住居)18歳未満では本人へは居場所支援・不登校支援・発達支援・進路支援が多く効果があるが、家族への制度への繋がりが割合としては高く、家族支援から生じる本人への効果も一番高い。
➤	18歳以上では面談等による関係づくりと支援機関へのつながりが有効である。ただし、仕事をしている場合は時間に余裕がないこともありオンラインでの支援が有効である。また、制度等を適切に案内することができれば自身で移動できる場合も多く、支援制度の適切な案内等が必要である。18歳未満では移動が困難であること、関係性構築のために訪問が有効であるが、学校や家庭に理解がある人がいない場合はオンラインや電話での対応になることがあった。学校やサービス事業者、病院から適切につないでもらえると、支援機関調整や家族への理解の促しなどが有効であった。
(18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者)	
➤	要介護者に対する、介護支援、日中の見守り、夜間の見守り(おむつ替え)、家事支援。
➤	ヤングケアラーの場合、支援サービス提供側と本人の関係性において、助ける/助けられるの「支援」ではなく、「同士」の関係性が効果的。
➤	18歳以上のヤングケアラーの場合、本人以外の家族にケアが必要な状況が多く、家庭内に複合的な課題が存在し、それを一度に解決することが難しいケースが目立ちます。そのため、複数の関係機関が連携しながら課題解決を進める必要があります。一方で、本人自身の課題や、過敏性からくる引きこもりなど、ヤングケアラー以外の若者と共

傾向の違いに関する主な自由記述	
	通するアプローチもありますが、ヤングケアラーの場合は家庭環境を含めた包括的な支援が求められ、解決の方法も多岐にわたると考えます
➤	車の送迎、夕食の準備など、家事や日々ある程度決まったルーティンが数年～数十年単位ですでに決まっているため、活動、面談スケジュールに制限がかかる
➤	18歳以上のヤングケアラーについては様々な支援を組み合わせることが有効である。電話、オンラインだけでは対応不可な場合も多く、対面での面談や支援機関への同行、手続き支援なども必要な場合が多かった。また、場当たりのだけでなく人生全体を考える場を持つことや、自身のこれまでの人生を振り返る、整理する場を設けることも有効と感じている。ヤングケアラー以外では支援制度への適切なつながりができること、心理的な支援とともに必要時の伴走ができるとより支援につながりやすいと感じる。

④ 最も効果的な支援サービス（ケア状況別）(SA) Q5\_5\_1

18歳以上のYCに提供した支援サービスのうち、最も効果的（利用頻度が高い等）だと思ふ支援サービスを1つ選ぶという質問項目では、「障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー」、「ダブルケアラー（こども+家族のケア）」においては「訪問型（アウトリーチ型）の相談支援」、「支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整」など、支援団体が積極的にアプローチする内容が多い。一方、「家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし）」、「家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし）」においては「窓口での相談支援」、「オンラインでの相談支援」、「ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供」など、本人がアクセスすることを前提とした内容が多い。

図表6-18：最も効果的な支援サービス x ケア状況別（SA）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
		窓口での相談支援	オンラインでの相談支援	訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	福祉給付等の手続き支援	外国語対応通訳支援	家事・育児支援	配食支援	食糧支援（フードバンク）	こども食堂	
(n)													
1	① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のこどものみ【こどものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	10	10.0	0.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	
2	② ダブルケアラー（こども+家族のケア） 【ケア対象者】自分のこども+そのほかの家族【こどものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	11	9.1	0.0	36.4	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	
3	③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし） 【ケア対象者】家族（自分のこどもを除く）【ケアラーの状況】既婚でこどもがいない	9	33.3	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
4	④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし） 【ケア対象者】家族（自分のこどもを除く）【ケアラーの状況】未婚でこどもがいない	53	32.1	7.5	13.2	7.5	5.7	0.0	0.0	0.0	7.5	5.7	3.8
(n)													
		12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	
		ショートステイ、トワイライトステイ	外出時の付き添い・同行支援	現金給付	学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	就労支援	トラウマケア、心理的支援	精神疾患を有する家族へのケア	通訳が必要な家族へのケア	その他	特になし	わからない	
1	① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のこどものみ【こどものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0	10.0	
2	② ダブルケアラー（こども+家族のケア） 【ケア対象者】自分のこども+そのほかの家族【こどものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	11	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	
3	③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし） 【ケア対象者】家族（自分のこどもを除く）【ケアラーの状況】既婚でこどもがいない	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	
4	④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし） 【ケア対象者】家族（自分のこどもを除く）【ケアラーの状況】未婚でこどもがいない	53	0.0	0.0	1.9	1.9	3.8	0.0	0.0	7.5	0.0	1.9	

⑤ 支援の終結に向けた効果的な取組 (MA) Q5\_7\_1

支援の終結に向けた効果的な取組は、18歳から30代後半のいずれの年代においても「ケアの負担の軽減・解消（他機関連携による家族支援も含む）」、「継続的な見守り」が多い。また、18歳未満のYC、18・19歳のYCにおいては「学業の継続・進学」が多い一方、20・30代のYCにおいては「精神的・健康面の回復」、「自立的生活への移行」、「就労・職業訓練への移行」が多い。

図表6-19：支援の終結に向けた効果的な取組 xYC の年代別 (MA)

		(n)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
			学業の継続・進学	就労・職業訓練への移行	ケア負担の軽減・解消（他機関連携による家族支援も含む）	精神的・健康面の回復	自立的生活への移行	居場所の提供	他機関への移行	援助希求力の習得	継続的な見守り	その他
1	18歳未満のヤングケアラー	69	46.4	4.3	59.4	20.3	10.1	39.1	20.3	10.1	49.3	1.4
2	18・19歳のヤングケアラー	50	26.0	12.0	46.0	22.0	22.0	22.0	26.0	14.0	40.0	10.0
3	20代のヤングケアラー	58	3.4	31.0	43.1	32.8	32.8	24.1	20.7	10.3	44.8	8.6
4	30代のヤングケアラー	38	0.0	31.6	39.5	31.6	26.3	10.5	28.9	13.2	28.9	21.1

(6) ヤングケアラーを支援する上での他機関との連携

① 連携先 (MA) Q6\_1\_1

他機関との連携先は、年齢を重ねると「ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）」、「小学校、中学校、高校、大学などの教育機関」、「子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）」、「社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）」、「民間支援団体（こども食堂、フリースクール、フードバンクなど）」との連携が減る一方、「就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）」、「介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業など）」の利用実績が増える傾向がある。

図表6-20：連携先xYCの年代別（MA）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
(n)		ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）	ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	小学校、中学校、高校、大学などの教育機関	子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、子ども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）	就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）	社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）	若者への居住支援機関（自立援助ホーム、子ども若者シエーターなど）	介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など）	障害福祉関係機関（基幹相談支援センター、相談支援事業所など）	
1	18歳未満のヤングケアラー	69	68.1	10.1	73.9	60.9	17.4	37.7	8.7	30.4	31.9
2	18・19歳のヤングケアラー	50	58.0	8.0	42.0	38.0	28.0	36.0	12.0	22.0	26.0
3	20代のヤングケアラー	58	53.4	17.2	20.7	37.9	37.9	34.5	10.3	22.4	22.4
4	30代のヤングケアラー	38	44.7	10.5	7.9	23.7	31.6	21.1	5.3	31.6	23.7

		10	11	12	13	14	15	16	17	
(n)		医療機関（病院・診療所、訪問看護ステーションなど）	警察	性暴力・DV被害者支援機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど）	民間支援団体（子ども食堂、フリースクール、フードバンクなど）	民間企業	その他	特にない	わからない	
1	18歳未満のヤングケアラー	69	31.9	7.2	4.3	43.5	8.7	11.6	10.1	0.0
2	18・19歳のヤングケアラー	50	24.0	4.0	2.0	28.0	16.0	16.0	12.0	6.0
3	20代のヤングケアラー	58	29.3	5.2	1.7	27.6	12.1	17.2	12.1	3.4
4	30代のヤングケアラー	38	23.7	0.0	0.0	10.5	15.8	15.8	15.8	7.9

② 最も効果的な連携先 (SA) Q6\_2\_1

最も効果的な連携先は、18歳未満のYCでは「小学校、中学校、高校、大学などの教育機関」、18歳未満から20代のYCでは「ヤングケアラー居住地域の自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）」、「子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）」が多い。一方、20・30代のYCは「就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）」が多いが、同時に「わからない」と回答している団体も一定数ある。

図表6-21：最も効果的な連携先 xYCの年代別 (SA)

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	
(n)		ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）	ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	小学校、中学校、高校、大学などの教育機関	子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）	就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）	社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）	若者への居住支援機関（自立援助ホーム、こども若者シェルターなど）	介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など）	障害福祉関係機関（基幹相談支援センター、相談支援事業所など）	
1	18歳未満のヤングケアラー	62	29.0	0.0	30.6	17.7	1.6	1.6	0.0	1.6	1.6
2	18・19歳のヤングケアラー	41	36.6	0.0	2.4	17.1	4.9	7.3	2.4	0.0	0.0
3	20代のヤングケアラー	49	34.7	0.0	0.0	12.2	12.2	8.2	0.0	4.1	2.0
4	30代のヤングケアラー	29	27.6	0.0	0.0	6.9	20.7	6.9	0.0	3.4	0.0

		10	11	12	13	14	15	16	17	
(n)		医療機関（病院・診療所、訪問看護ステーションなど）	警察	性暴力・DV被害者支援機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど）	民間支援団体（こども食堂、フリースクール、フードバンクなど）	民間企業	その他	特になし	わからない	
1	18歳未満のヤングケアラー	62	0.0	0.0	0.0	3.2	0.0	4.8	0.0	8.1
2	18・19歳のヤングケアラー	41	0.0	0.0	0.0	2.4	0.0	9.8	0.0	17.1
3	20代のヤングケアラー	49	2.0	0.0	0.0	4.1	0.0	6.1	0.0	14.3
4	30代のヤングケアラー	29	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	10.3	0.0	20.7

③ 年代・状況別による連携先の傾向の違い (SA) Q6\_4\_1

18歳以上のYCと18歳未満のYCでは効果的な連携先に「違いがあると感じる」支援団体が最も多く50.0%、次いで「違いがあるとは感じない」支援団体が35.4%である一方、18歳以上のYCとYC以外では「違いがあるとは感じない」団体が最も多く40.6%、次いで「わからない」団体が31.3%となっている。

図表6-22：年代・状況別による連携先の傾向の違い x 支援対象者別 (SA)

		(n)	1 違いがあると感じる	2 違いがあるとは感じない	3 わからない
1	18歳以上のヤングケアラーと 18歳未満のヤングケアラー	48	50.0	35.4	14.6
2	18歳以上のヤングケアラーと 18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	32	28.1	40.6	31.3

傾向の違いに関する主な自由記述	
(18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー)	
➤	現実的な社会自立のために就労の観点が入るかどうかが。
➤	児童保護法以前と以後で連携先が違う。また、18歳以上は特に、自立していくことも視野に入れていかなければならないため、仕事と介護のバランスについて包括とも相談する必要がある。
➤	効果的だと思う連携先は、ひとり一人違いがあり、年齢やヤングケアラーかどうか以前に、全ての若者に対して全てオーダーメイドで連携チームをつくっていく必要があると思う。その中でも特に、18歳を超えると、自身の人生について選択する機会が増えるため、そのオーダーメイド性はより高まると思う。
➤	学校（特に高校）と連携できるかできないかで、支援はかなり異なる。高校卒業により18歳以上のヤングケアラーを支援する社会資源が一気に減ると感じる
(18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者)	
➤	ヤングケアラーの支援は、要介護者の支援者への連携が主となる。介護や家事支援なしでは、彼らの生活がままならないため。
➤	関わりがある部局が広いため、幅広い期間と連携する必要がある。
➤	効果的だと思う連携先は、ひとり一人違いがあり、年齢やヤングケアラーかどうか以前に、全ての若者に対して全てオーダーメイドで連携チームをつくっていく必要があると思う。その中でも特に、ヤングケアラーは、ケアの対象や抱えるケアの深刻さ、ケアの長さなど一人として同じ状況がないため、そのオーダーメイド性はより高まると思う。
➤	18歳以上のヤングケアラーに関してはケアの支援機関につながることも、自身の境遇についての整理や伴走できる機関と繋がるのが重要である。18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者は主にニーズに合った支援機関につなぐことが必要。どちらも伴走できる機関が関わることは望ましい。

④ 最も効果的な連携先（ケア状況別）(SA) Q6\_5\_1

最も効果的な連携先（ケア状況別）は、いずれのケア状況においても「ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保険主管課等）が最も多い。

図表6-23：最も効果的な連携先 x ケア状況別（SA）

		1	2	3	4	5	6	7	8	9
(n)		ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）	ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	小学校、中学校、高校、大学などの教育機関	子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、子ども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）	就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）	社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）	若者への居住支援機関（自立援助ホーム、子ども若者シェルターなど）	介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など）	障害福祉関係機関（基幹相談支援センター、相談支援事業所など）
1	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	10	40.0	0.0	10.0	20.0	0.0	0.0	0.0	10.0
2	② ダブルケアラー（子ども+家族のケア）【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	11	36.4	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	0.0	9.1
3	③ 家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし）【ケア対象者】家族（自分の子どもを除く）【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	9	55.6	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	11.1
4	④ 家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし）【ケア対象者】家族（自分の子どもを除く）【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	53	34.0	0.0	3.8	17.0	9.4	9.4	0.0	5.7

		10	11	12	13	14	15	16	17
(n)		医療機関（病院・診療所、訪問看護ステーションなど）	警察	性暴力・DV被害者支援機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど）	民間支援団体（子ども食堂、フリースクール、フードバンクなど）	民間企業	その他	特になし	わからない
1	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	10	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	10.0
2	② ダブルケアラー（子ども+家族のケア）【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	11	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	18.2
3	③ 家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし）【ケア対象者】家族（自分の子どもを除く）【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0
4	④ 家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし）【ケア対象者】家族（自分の子どもを除く）【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	53	1.9	0.0	5.7	0.0	3.8	0.0	5.7

## (7) 18歳以上のヤングケアラー支援の課題

### ① 18歳以上のYCを支援する上での課題 (MA) Q7\_1\_1

18歳以上のYCを支援する上での課題は、「18歳以上のヤングケアラーの把握」が最も多く70.8%、次いで「18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築」が67.7%、「多様な年齢層、支援ニーズへの対応」、「他機関との連携」が55.4%となっている。

図表6-24：18歳以上のYCを支援する上での課題 (MA)

		回答数	%
全体		65	100.0
1	18歳以上のヤングケアラーの把握	46	70.8
2	18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築	44	67.7
3	多様な年齢層、支援ニーズへの対応	36	55.4
4	他機関との連携	36	55.4
5	支援の終結に向けた取組	23	35.4
6	支援者の確保・育成	29	44.6
7	資金・予算の確保	23	35.4
8	広報・啓発活動（周知不足等）	27	41.5
9	18歳以上のヤングケアラーの家族との信頼関係構築	34	52.3
10	その他	4	6.2
11	特にない	0	0.0
12	わからない	1	1.5

② 18歳以上のYCを支援する上で最も課題と思うもの (SA) Q7\_1\_2

18歳以上のYCを支援する上で最も課題と思うものを1つ選ぶ質問項目では、「18歳以上のヤングケアラーの把握」が最も多く29.2%、次いで「18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築」が20.0%となっている。

図表6-25：18歳以上のYCを支援する上で最も課題と思うもの (SA)

		回答数	%
全体		65	100.0
1	18歳以上のヤングケアラーの把握	19	29.2
2	18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築	13	20.0
3	多様な年齢層、支援ニーズへの対応	4	6.2
4	他機関との連携	5	7.7
5	支援の終結に向けた取組	4	6.2
6	支援者の確保・育成	2	3.1
7	資金・予算の確保	5	7.7
8	広報・啓発活動（周知不足等）	4	6.2
9	18歳以上のヤングケアラーの家族との信頼関係構築	5	7.7
10	その他	3	4.6
11	特にない	0	0.0
12	わからない	1	1.5

- ③ 18歳以上、40歳未満のヤングケアラーを支援するにあたり、特に工夫していること  
(FA) Q7\_3\_1

主な自由記述
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 年代によってアプローチの差はなく、いつでもその個人のメリットを把握して共有し、対応するだけ</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中間的就労支援では、一般就労への移行を念頭にプランを構築</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ①「支援&lt;同士」の関係性を意識し、ヤングケアラーの若者をリスペクトすること②傾聴面談の域を超えて、手応えのある対応をすること③来所を促すのではなく、こちらから生活圏に出向くこと④疲れた時、限界を感じた時に逃げられるレスパイト先を確保し、情報提供しておくこと⑤信頼関係ができた後であっても、センシティブな家族問題をテーマにしている以上、「それでもまだ、言えていないことが本人にあるはず」と思い続けること</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 信頼関係づくりを重視し、尊厳と尊重をもって関わることです。そのうえで、包括的なアセスメントを行い、課題解決の糸口を見つけるよう努めています。ヤングケアラーの場合、関係機関が多くなるため、情報共有や連携を円滑に進めるために、協働の意識を持って取り組むことが重要だと考えています</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 商工会や社労士会を訪問し、周知活動を行ったり、庁内の商工部と連携をとったりしている。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ケアラー本人ではなく、サービスを使わない理由を掘り下げようとしている。とくに高齢者の介護サービスは、高齢者自身がサービスを拒否されると家族が介護することに負担感がある。家族が説得することが難しい場合に、医療機関や行政とどのようにサービス利用に誘導するかを協議する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 伴走できるようラポール形成をすること、これまでの経過について話したいだけ話してもらえようとしている。</li> </ul>

④ 18歳未満時にケアをしていた元YCへの支援経験の有無 (SA) Q7\_4

18歳未満時にケアをしていた元YCへの支援は、「支援したことがある」が最も多く50.8%となっている。

図表6-26：18歳未満時にケアをしていた元YCへの支援経験の有無 (SA)

		回答数	%
全体		65	100.0
1	支援したことがある	33	50.8
2	支援したことはない	16	24.6
3	わからない	16	24.6

⑤ 18歳未満の時に家族へのケアを担っていた、元ヤングケアラーを支援するにあたり、最も課題だと思うこと (FA) Q7\_5

主な自由記述	
➤	家族のケアをしていた際に、自分の意向を優先してこなかったことで、自己肯定感の低さや、自身の優先順位が低い位置にあること。
➤	本人がケアラーの一面もありつつ、家庭への依存も少なくないため、就職後も仕事が続かず、次の就職にもつながりにくい状態があった。
➤	ヤングケアラーであったことが、現在の本人の身心の不調や現状（働けていない、結婚できないなど）に影響しているとしても、周りにはそのことが理解されにくいゆえに、ヤングケアラーであったことを悔やんだり恨んだりしてしまうことに繋がり、悪循環からなかなか抜け出せないこと。
➤	18歳未満の時に家族へのケアを担っていた元ヤングケアラーが、不登校になっているケースが多く、その結果、進路選択や学習に大きな影響を及ぼしている点です。学校に通っていないことで、学びや社会経験が不足し、関わりの中で得られる成長機会が失われていることは深刻な課題です。たとえケアが軽減されたり、家庭から分離できたとしても、次のステップに進むための基盤が整っていないことが、支援の難しさにつながっています
➤	当時（ヤングケアラー）吐き出せていなかった想いの行き場…。家事が「当たり前」になっているので、外に出にくい。家庭内の「役割」が固定し過ぎている。
➤	幼いころからYCだった若者は、ケアをしていたことからの影響以上に、自分が発達するためのケアを受けてこられなかった愛着やトラウマの課題の方が大きく、本人のメンタルや発達課題への支援が長引いています。結局、本人も安定した生活や育児ができず、またYCを再生産している場合や、精神疾患を発症して働けない場合が多いです。深刻な問題です。
➤	ケアが終わったからと言って、人生の立て直しができるわけではないことを理解している人が少ない。

⑥ YC の対象が 18 歳以上 40 歳未満に拡大されたことに対する対応 (SA) Q7\_6

YC の対象が 18 歳以上 40 歳未満に拡大されたことに対する対応は、「従来より支援対象である」が 63.6%で最も多く、次いで「未定」が 15.9%、「支援対象を拡大した」が 12.5%となっている。

図表 6-27：YC の対象が 18 歳以上 40 歳未満に拡大されたことに対する対応 (SA)

		回答数	%
全体		88	100.0
1	従来より支援対象である	56	63.6
2	支援対象を拡大した	11	12.5
3	今後、支援対象を拡大する予定である	4	4.5
4	今後、支援対象を拡大する予定はない	3	3.4
5	未定	14	15.9

⑦ ヤングケアラーの対象が 18 歳以上、40 歳未満まで拡大されたことに関して、よりよい支援を提供するため、国や地方自治体に求める要望等 (FA) Q7\_7

主な自由記述	
➤	ヤングケアラーのみを対象とした事業であると対象を見つけることに苦労するので、広報事業以外は、他の支援事業等でケアラーを支援した時の加算にすると支援としてやりやすいと感じる。
➤	若者だけでなく、親を頼れない 20 代、30 代を主に対象にしているが、孤立している環境は人それぞれ、このような一般的に自立しているであろう「大人」への国や自治体の支援は、限られている。当方では自主運営で行っており、支援拠点の維持について、何らかの支援があるとありがたい。
➤	ヤングケアラー支援において支援者を対象とする研修や意見交換の場が少ない。
➤	介護職やエッセンシャルワーカーの生活安定や賃金アップをし、十分な人数が継続的に働けるような雇用形態、環境を整える。また、入所施設やショートステイ施設等を増やし、負担金が少なく利用できるようにする。共働きが必須で、年金だけでは十分に生活できない世の中で、介護を理由に職業制限をされる方が出ると、その方の将来の生活維持も心配である。ヤングケアラーは、今後結婚・妊娠・出産・育児と金銭的にも体力的にも重要な局面を通過することを考えると、介護の負担が大きいと、結婚や出産控えが出ることも予想される。要介護者への支援を充実させて、若い人が安心して社会生活を送れるとよいと思う。以前、親が自殺企図をしているために不登校になった学生がいたが、訪問看護の人が来る日は 1 時間だけ学校に登校していた。学校に来たい気持ちはあるが、親の命が心配で見守りがいないと社会生活に参加できていなかった。
➤	食糧支援や給付、助成など利用しやすい制度が今後さらに増えるとありがたい。
➤	対象者が 40 歳未満までに拡大されたことはまだ認知していない人も多くいると思うので、広報活動をより広く行っていただきたいです。
➤	SNS 相談+オンラインサロンの定番化しつつあるフレームを超えて、よりヤングケアラーの子どもにとって必要なことを考えたい。ヤングケアラーの子ども・若者の家族

主な自由記述	
	への想いと自身の可能性。その両方を守ることでできる「支援の在り方」を追求するための、全国的な検討委員会等を開催してほしいです。
➤	特に課題だと感じるのは、経済的な困窮と、それに伴う学びや体験の不足です。多くの場合、家庭でのケアにより不登校や進路選択の制限があり、学習機会や社会経験が乏しいまま成人期を迎えます。その結果、就労は非常に難しく、学び直しや資格取得を希望しても、金銭的な負担を捻出できず、結局は引きこもりや生活保護に頼らざるを得ないケースが少なくありません。こうした状況は自己肯定感の低下を招き、メンタル面にも悪影響を及ぼし、負のスパイラルに陥る傾向があります。このような背景から、成人期を迎えるタイミングをもう少し柔軟に捉え、学び直しや資格取得の機会に対して、金銭面の支援を充実させることが必要だと考えます。経済的なハードルを下げることで、社会参加や自立へのステップを踏み出しやすくし、自己肯定感を回復できる仕組みを国や自治体に求めたいと思います
➤	「ヤングケアラー」というレッテルを幼少期からつけられることも家族やその子自身にとって辛いことだと思うので、そういったレッテル防止講座・研修を県・市には実施してほしい。
➤	①制度による同居家族に対する支援の柔軟性。文書が出ていても理解を得られていないのではないか。②ヘルパー、ケアマネの人手不足に対する予算の拡充。
➤	対象者を見つけて終わりではなく、その先の支援策をきちんと考えてほしい。見つけたところで、サービスを受けてほしい本人が拒否をされてしまうとケアラー自身の絶望感は計り知れない。希望を持たせるだけ持たせて、何もできませんでした、では話にならないと思う。
➤	自立支援施設のような、サポート付きで低所得でも住める場所を増やしてほしいです。保健師や精神保健相談員で、若者専門のような方をつくっていただくとありがたいです。現状は乳幼児や大人の支援がメインで、なかなかお願いしにくいです。カウンセリングもとても高いので、支援があるとありがたいです。もちろん18歳以上であっても家族支援は重要なので、介護保険や障がい福祉制度の改悪、医療費の負担増など、社会保障や福祉制度をしぼるのは、支援者にとって一番困ります。
➤	18歳以上もヤングケアラーであることを社会に周知啓発していただきたい。特に大学等の高等教育機関での理解が必要だと感じる。また各自治体で18歳以上のヤングケアラー相談窓口は進んでいるものの、対応にばらつきがあり、居住地域が異なるだけで支援の幅が異なることが気になっている。若者世代のヤングケアラーは金銭面で苦しんでいることが多いので、経済支援も検討いただきたい。
➤	住居支援と生活費の支援。家を出なければヤングケアラー状態が解消されないことが多い。
➤	対象者の支援方法について、都道府県での格差を少なくするための策（研修会等）を実施してほしい
➤	ヤングケアラーヘルパーの対象年齢が18歳の誕生日の前日までの為、高3の途中でとても大切な時期にヘルパー支援が出来なくなってしまうことが問題である。
➤	予算的にこれまで複数分野でしっかり支援をしてきたような人材を登用できる予算になっていない。しっかりと予算確保することと、予算の継続についてある程度明確にしてほしい。困難な事例を扱うノウハウや知識を持つ支援機関（集団面接やグループワークで判断可能）、支援者を活用したスーパービジョン機能などをつける、拠点相談機能を持ち加算ができるようにするなど検討願いたい。自治体や児童相談所の不適切な支援が行われていることも分野のソーシャルワークについて、学校や市町村に対しての仕組みづくりについて、実践者を入れて議論してほしい。例えば当県では要対協や児相との連携に使用できるツール(クラウド等を利用したセキュリティのあるもの)がないため、すべての連携を電話または会議で行わなければならない状況と聞いている。

## 第7章 ヒアリング調査

---

### 1. 調査目的

18歳以上のヤングケアラーへの効果的な支援の在り方を検討するために、若者世代へのアプローチ方法を探るとともに、当事者が担っているケアの様態等に応じた支援ニーズ等を把握・整理するためにヒアリング調査を実施した。

### 2. 調査概要

#### (1) アンケート調査の対象

##### 1) 18歳以上のヤングケアラー本人に対するヒアリング調査

アンケート調査で協力不可でない方のうち、ケアの開始時期、就学・就業状況、ケアの状況、年代の偏りに配慮して対象を選定した（回答数：9人）。

##### 2) 支援団体に対するヒアリング調査

アンケート調査で協力不可でない団体のうち、YC支援を行うに至った経緯、支援対象の年代、相談件数の偏りに配慮して対象を選定した（回答数：5団体）。

#### (2) 調査の時期

##### 1) 18歳以上のヤングケアラー本人に対するヒアリング調査

令和8年2月3日（火）～2月20日（金）

##### 2) 支援団体に対するアンケート調査

令和8年2月3日（火）～2月13日（金）

#### (3) 調査の方法

オンライン（Microsoft Teams）を用いて調査を実施した。

#### (4) 調査項目

調査項目を以下に示す。なお、YC はヤングケアラーを示す。

図表 7-1 : 18 歳以上のヤングケアラー本人に対するヒアリング調査項目

<p>&lt; 1 &gt; . ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響</p>	<p>Q1-1 ご自身やケアの状況について Q1-2 自身が YC であると自認した時期及びそれによる変化の有無 Q1-3 ケアが中長期間継続していることに対する生活への影響 Q1-4 ケアが中長期間継続していることに対する思い（自分がいなかった場合に家族はどうなると思うかを含む） Q1-5 性別による役割期待（女性がケアをすべき等）を感じることもあるか、また、そのように感じた場面 Q1-6 過去を振り返ったときに、「このような情報があるとよかった」（子どもの権利・YC 等の教育を含む）と感じること及びその理由</p>
<p>&lt; 2 &gt; . 他者への相談や支援サービスの利用経験</p>	<p>Q2-1 中長期間のケアの過程での困りごとや支援ニーズの変化 Q2-2 他者への相談・支援利用の有無（アンケート内容の確認） Q2-3 （相談・支援利用実績がある場合）ケアが中長期間継続している中で相談先や相談内容にどのような変化があったか Q2-4 （相談・支援利用実績がない場合）ケアが中長期間継続している中で相談・支援利用実績がない理由に変化があったか Q2-5 （相談・支援利用実績がない場合）どのような相談先があれば相談しやすいか</p>
<p>&lt; 3 &gt; . アンケート結果に対する所感</p>	<p>Q3-1 （YC の認知度向上のために必要だと思う事について、「必要だと思うことはない」と回答した場合）その理由 Q3-2 （必要としていることについて「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」と回答した場合）どのような説明を受けたいか Q3-3 （30 代後半の場合）お世話をしていることで「自分の時間が取れなかった」という回答が、30 代前半以下と比較して多かった。この結果について感じることもあるか</p>
<p>&lt; 4 &gt; . 必要な支援及び周囲への期待</p>	<p>Q4-1 YC の対象が 18 歳以上に引き上げられたことに対する思い Q4-2 友人や周囲の人たちにしてほしいこと（どのような人にどのように関わってほしい、もしくは、関わってほしかったか Q4-3 行政、支援団体への要望</p>

図表 7-2 : 支援団体に対するヒアリング調査項目

<p>&lt; 1 &gt; . 団体の基本情報</p>	<p>Q1-1 支援対象 Q1-2 団体が YC 支援を行うに至った経緯 Q1-3 提供可能な支援内容 Q1-4 (最初から YC 支援を目的として活動していたわけではない場合) 既存の支援メニューを YC に応用したのか、新たに支援メニューを設けたか Q1-5 18 歳以上の YC への支援状況等</p>
<p>&lt; 2 &gt; . 18 歳以上の YC に対する支援の在り方</p>	<p>Q2-1 18 歳以上の YC とのつながり方 (紹介いただきやすい関係機関等を含む) Q2-2 18 歳以上の YC に気づく方法、タイミング Q2-3 年代、就学・就業状況、ケアの様態に応じた支援ニーズ Q2-4 支援における工夫点 Q2-5 支援の終結に向けた取組 Q2-6 効果的だと考える連携先 (年代、ケア対象、ケア内容等による違いの有無及び、医療機関との連携状況を含む) Q2-7 (行政機関ではない場合) 行政につなぐタイミング、つなぐ際の留意点 Q2-8 連携先が限られる中での課題や工夫 Q2-9 支援を行う上での 18 歳未満の YC と 18 歳以上の YC との違い (課題や工夫点等) Q2-10 支援を行う上での 18 歳以上の YC とその他の 18 歳以上の支援対象者の違い (課題や工夫点等) Q2-11 18 歳未満の時からケアを担う YC と 18 歳以降にケアを担い始めた YC の違い (課題や工夫点等) Q2-12 支援が順調に進んだ事例の概要 (本人とのつながり方、本人のニーズ、支援内容、連携先、本人の変化等)</p>
<p>&lt; 3 &gt; . 団体アンケート結果に対する所感</p>	<p>Q3-1 支援ニーズとして「自分の病気や心身の不調」が 20 代までは増加傾向であったものの、30 代で減少していることに関する気づき Q3-2 連携先として「YC 居住地以外の地方自治体」と連携している団体が少ないことに関する気づき Q3-3 (連携先に「警察」が含まれる場合) 連携内容 Q3-4 金銭面に課題を抱える YC について、「個人のキャリア」、「家計支援のため」、「幼少期からのケアによる働く意欲の低下」など、様々な要因が考えられるが、どのように捉えているか、また、それぞれの割合としてはどの程度だと考えるか</p>
<p>&lt; 4 &gt; . 支援における課題及び周囲への期待</p>	<p>Q4-1 18 歳以上の YC への支援における課題 Q4-2 国や行政への要望</p>

### 3. 調査結果

【ヒアリング結果の記載に係る留意点】

- 第7章のヒアリング結果では、全体像を捉える上で特に記述したいと考えた内容（第8章の考察に係る内容等）を抜粋して掲載している。

#### (1) 18歳以上のヤングケアラー本人に対するヒアリング調査結果

	A-1さん	ご本人：30代独身男性 家族構成：母、兄1人 ケア対象：身体障害（要介護4、身体障害手帳1級）を有する母
ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高校2年生から介護、通院の付き添い、家事などを行っている。当時はYCの言葉も知らなかったため、自身がお世話をしなくてはいけないと思っていた。お世話でいっぱいだったため、言葉を知ったことで変わったことはない。</li> <li>➤ 母が入院中に看護師と接する機会が多かったため看護師を志望して専門学校に入学したが、家で母のお世話をした後に勉強していると寝る時間が遅くなり、次第に学業や実習で周囲の学生に追いつけなくなってきたため、2年目に退学した。</li> <li>➤ 長期間母を離れることができないことから、アルバイトや就職もできず、現在はアンケートサイトなどを通じてポイント等を得ている。</li> <li>➤ 母に育ててもらったため、恩返しとして介護をするのは当然だと考えている。兄は母と仲がよくないため、自身がいなくなった場合は怖くて考えたくない。</li> <li>➤ 介護を始めてから3、4年後、母の障害者手帳の更新に行った際、市役所のポスターや掲示板経由でサポートを受けられることを知った。現在は市役所によく行くが、もう少し早く市役所で情報を得られることを知りたかった。</li> </ul>	
他者への相談や支援サービスの利用経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 今後、マンションのバリアフリー化や物忘れの増加による認知的なケアも必要であるかもしれないと考えている。また、半身麻痺による嚥下機能の低下により、最近は食事中なども含めて日常で気を張る機会が増えている。</li> <li>➤ 高校生の頃は兄が定期的に実家に来てくれて、炊飯や洗濯の方法など、家事の方法を教えてくれていた。</li> <li>➤ 高校生の頃よりケアマネが月1回家に来ており、近年は相談できているが、高校生の時は登校中にケアマネが来ていたため接する機会がほぼなかった。過去にデイサービス、入浴介助サービス、訪問リハビリの利用経験があるが、母が気難しい人であるため利用が続いておらず、結局自身が介助を行った方が早く、経済的であると感じている。</li> <li>➤ 家計は自身の精神障害年金に加え、母の厚生年金と障害年金でどうにかやりくりしている。</li> </ul>	
必要な支援及び周囲への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 30代でも支援が得られるのであれば情報を知りたいが、介護が10年以上続いていることから、自分から新たに調べる機会がないため、郵便経由などで情報が届くとよい。</li> <li>➤ 高校在学時、周囲は自身のことを気にかけてくれた。頑張ると声をかけて見守ってくれていた。</li> <li>➤ 市役所に相談できることを知らなかったため、障害福祉の方が自宅に訪問してチラシなどを持ってきてくれていたら、選択の幅が広がったと思われる。</li> </ul>	

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

	A-2さん	ご本人：20代独身男性 家族構成：祖母、母、兄1人 ケア対象：高齢の祖母
ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 中学生より祖母と同居し、感情面のサポート、見守り、家事を行っている。母と兄は同マンションの別部屋に在住している。</li> <li>➤ <u>自身はYCであるとは認識しておらず、祖母と一緒に暮らして見守っている。</u></li> <li>➤ <u>祖母と2人で同居しているという状況は周囲と違うという実感はあるが、祖母とともに過ごすことが楽しい。祖母もたくさん喋ってくれるため、仲良くなれることがよいことであると感じている。</u></li> <li>➤ 異性であるため、祖母が自身に頼みづらいことがあるのではないかと思われる。</li> <li>➤ 中高生の時にYCについて勉強をする機会がなかったため、YCについて触れることができればよかった。<u>家族として接してきたが、高齢者として祖母を見て、自身にできることを知ることができるとよかった。</u></li> </ul>
他者への相談や支援サービスの利用経験		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>他者や支援機関への相談実績はない。祖母が介護認定を受けたこと、自身が大学進学して在宅時間が短くなったことから、1年前頃より母が主導で週1回の清掃サービスや1日1回の祖母へのお弁当サービスを導入したところ、祖母の負担が減った。</u></li> </ul>
必要な支援及び周囲への期待		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ YCの枠が広がったことで、本来であれば自身が対象外であったのが対象になるのはよいことである。一方、<u>対象が拡大されたことで受けられる支援についてはよくわかっていない。</u></li> <li>➤ <u>人は問わず、話し相手になってほしい。周囲に興味を持ってもらい、より詳しく話を聞いてもらえると、自身も思っていることを話せるかもしれない。</u></li> <li>➤ 周囲に祖母と住んでいる人が少なく、<u>背景にある家庭環境は当事者でなければわからないと思うため、同じ境遇の方がいればお話をしてみたい。</u></li> <li>➤ 祖母は自身や母がいるため新たな情報に触れる機会もあるが、<u>独居の高齢者であれば介護などの情報に触れづらい環境にあると思われるため、そのような方にも情報が触れられる機会や環境があるとよいと思われる。</u></li> </ul>

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

	<p>A-3 さん</p> <p>ご本人：20 代既婚女性 家族構成：父母、兄 2 人、夫、子ども ケア対象：精神疾患を有する母</p>
<p>ケアの状況 や中長期間 に及ぶケア の影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>中学生より、家事・炊事・通院サポート</u>を行っている。<u>母のお世話は父と分担しており、2人の兄は年が離れているため家を離れていることが多かった。</u>現在は結婚を契機に離家して夫と子どもと同居しているが、度々車で母の通院のサポートを行っている。</li> <li>➤ <u>10代の頃は YC という言葉を知らずに過ごしてきたため、お世話をする生活が当たり前であった。</u>家にいた際は家の環境を普通であると思っていたが、外に出ると自身の家庭状況が普通ではないと気づいた。人により普通の基準は異なると思うが、<u>夫と出会って家を離れてから気づいた。</u></li> <li>➤ 高校生の時にアルバイトをしながら通学していたが、母は精神的に一人であるのがつらくなると仕事に自身に電話をかけて帰ってきてほしいと言ってくるため、<u>アルバイトをしたくても続かなかった。</u>友人と遊びにしている間に母に何かがあったらどうしようという不安な気持ちが強かったため、<u>遊びに行きたかったがいけなかった。</u></li> <li>➤ 周囲の家庭とは状況が違ったため、<u>当時は憎しみや悲しみが多かったが、家を出て、依存しあっていた関係から環境が変わったことにより、今では感謝の気持ちも出てきた。</u>現在は自身を YC と認識していない。</li> <li>➤ 母と同姓であることから、お風呂や排せつのサポートは自身が行っていた。</li> <li>➤ 過去を振り返ったときに、学校でポスターやチラシがあれば誰かに頼ろうというきっかけになったと思われる。</li> </ul>
<p>他者への相談 や支援サービスの 利用経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>10代の頃は行政のサービスを知らなかったことが一番の理由で利用していなかった。</u>自身が家を出て、両親が離婚し、<u>母が一人暮らしになったことをきっかけに行政に頼ることになった。</u></li> <li>➤ 当時は LINE やメールでの相談窓口があるとよかった。</li> </ul>
<p>必要な支援 及び周囲への 期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ YC の対象が 18 歳以上に引き上げられたことはテレビかインターネットで知った。周囲の支援も増えるため、よいことだと感じている。</li> <li>➤ 友人には知られたくない、知られたら恥ずかしいという思いがあるため、<u>自身であれば話したくないと感じる。</u>自身も自分がおかれている状況について深く話せたのは高校の時に 1 人だけであった。その人も<u>おそらく YC であったため、お互いの状況を話せたと思われる。</u></li> <li>➤ 助けてほしいと思っている子どもは助けてあげた方がよいと思うが、<u>余計なお世話であると感じている子どもには関わり方を考えながら接してほしい。</u>ただし、<u>自身は助けてほしかった。</u></li> </ul>

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

	A-4 さん	ご本人：20代男性 家族構成：父母、兄 ケア対象：知的障害を有する兄
ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 父母、兄と同居しており、自身が小学校低学年より両親と協力しつつ、知的障害の兄に対して外出の付き添い、見守り等のお世話を実施している。</li> <li>➤ 小学校の頃は登下校の時間が合えば一緒に行動していた。中学校からは学校が違ったため、登下校の付き添いも行わず、お世話もほぼ行っていなかった。兄のお世話は自身の進路や生活に影響を及ぼしていない。</li> <li>➤ 来年から就職に伴い一人暮らしを始めようと考えているが、兄の送迎ができなくなる。両親が中心となりお世話をしていくと思うが、<u>いずれ親がいなくなってしまう際に兄をどのように生活させていけばよいかわからないという懸念がある。</u></li> <li>➤ 知的障害がどのような障害でどのようなことが起きるかというのを小さい頃から知っていれば、それに合わせた行動ができたと思われる。年齢に応じた適切な説明があれば、より理解できたと思われる。医師などはこどもからすると堅苦しいため、親からそのような説明があるとよかった。</li> </ul>
他者への相談や支援サービスの利用経験		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 兄は就労支援を利用している。過去には週末の体操教室や放課後等デイサービスなどを利用していた。</li> <li>➤ <u>両親としては、兄が特別支援学級に進学した際、同様に知的障害のこどもを持つ親同士で交流を持てたことが好影響だったようである。</u></li> <li>➤ 現在は親が中心にお世話をしているが、<u>今後に向けてグループホームへの入居や成年後見人をつけるといったことを考えている。</u></li> </ul>
必要な支援及び周囲への期待		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自身はそこまで深刻な状況には置かれていなかったが、就職活動とお世話の両立で家からあまり遠い職場には行けない、就業時間も調整しないといけない、というのは大変であると思われる。</li> <li>➤ 自身に限らず、<u>近しい人の中にケアをしている人がいたら優しく接してほしい。</u>自身の周囲がそのような人であり、兄に対しても馬鹿にすることは全くなかったため、それはよかった。</li> <li>➤ <u>親が環境を整備してくれたおかげで、自身はお世話を義務と感ずることなく、やりたいからやっていると感ずる状態であられた。精神的な負担も少なかった。</u></li> </ul>

※ <3>、アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

	<p>A-5 さん      ご本人：20 代独身女性   家族構成：母          ケア対象：精神疾患を有する母</p>
<p>ケアの状況 や中長期間 に及ぶケア の影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 母が精神疾患を発症した小学校高学年頃から母のお世話をしている。昔は母と祖母と3人で暮らしていたが、症状も酷かったため、週に1度は洗濯や料理といった家事なども行っていた。母は<u>現在独居であり、症状が落ち着いているため、月に数日、1時間程度の見守りのみとなっている。</u>普段から祖母と母の仲が悪く、<u>自身が社会人2年目の際に出ていくように祖母がいなくなったため、土地ごと家を売り、強制的に一人暮らしが始まった。</u>一方、お金が尽きたことで母も現実を見直さざるを得なくなったのか、母の症状は出てこなくなり、現在はパートとして働いているようである。</li> <li>➤ <u>自分のみが母を背負っている。母に何かがあると、自身が金銭的にも身体的にも制約を受けるのではないかと、といった将来への漠然とした不安がある。</u>母が今後生活保護を申請した場合、自身への影響が不安である。例えば役所から母の金銭支援をするように言われる、あるいは企業に母が生活保護を受けているといった情報が回るのではないかと、といったことが気になっている。</li> <li>➤ <u>自身に精神疾患の知識がなかったため、母の言動や発言が理解できず、母に対する嫌悪感や「なぜ自分だけこのような思いをしているのだろうか」といった思いを幼い頃から抱えて生きてきた。</u></li> <li>➤ 仮に自治体のサービスが存在していたとしても、<u>小中学生が自治体のサービスを調べる機会などないため、耳に入るタイミングや機会があればありがたかったと思われる。</u></li> </ul>
<p>他者への相談 や支援サービスの 利用経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 母に対する嫌悪感が大きすぎるため、母が病気だからという自己解決に至ることは全くなく、連絡もしたくない、距離を保ちたい、という気持ちである。<u>福祉サービスがどのようなものを指しているのかわからないほど身近ではないため、利用したことはない。</u></li> </ul>
<p>必要な支援 及び周囲への 期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 周囲の人にしてほしいことはない。<u>このような話は周囲に言えないため、友人に何かしてほしいという発想自体が芽生えないと思われる。</u>これからも同じ気持ちであると思われる。</li> <li>➤ 仮に母に何か起きた際に自身しか何かできる人がいないため、金銭的にも時間的にも相当厳しい。<u>行政や団体が何をしているか、どのようなときに頼れるか、というイメージが全く湧いてこないため、もう少し身近なものであるということと、自身のように他に頼れる人がいない方のように環境が悪い人へのサービス拡充については考えてほしい。</u></li> </ul>

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

	<p>A-6 さん</p> <p>ご本人：20代独身女性 家族構成：祖母、父、母 ケア対象：要介護3の祖母</p>
<p>ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 20代前半より父と分担して認知症の祖母の通院の付き添いや金銭管理等を実施している。母はパーパードライバーであることに加え、認知症による祖母の身体的な攻撃が母に集中したこともあり、母による介護は控えている。現在は父母と同居しており、祖母は独居である。</li> <li>➤ 祖母が要介護1から要介護3になり、症状が重くなった。一方、<u>2、3年前から利用を開始したデイサービスで服薬管理や食事管理をしていただいているため、それらのケア負担はない。</u></li> <li>➤ 現在は父をはじめとする家族がいるが、<u>父も過去に入院したことがあり、その間の祖母のお世話は自身が会社を休んで対応した経験もある。今後どうなるかについてはあまり考えられていない。</u></li> <li>➤ ケアマネジャーや第三者からのアドバイスがとてもよく、<u>早めに福祉の方に言う対応してくださっていたため、家族のみで抱え込む必要がなかった。</u>そのため、より早めに相談していればよかった。当初、認知症は物忘れが酷くなり、家族の顔を忘れるだけの病気であると思っていたが、人格が変わるほどの攻撃型の認知症があることを知らず、最初はどの科に相談すればよいかわからなかった。祖母の病気がどのように進行するのか、といった情報も早めに知りたかった。</li> </ul>
<p>他者への相談や支援サービスの利用経験</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 就職後はケアを父やデイサービスの方と分担している状況であるが、祖母の身体的な衰えが見え始めているため、今後のケアについて専門家に相談したい。会社には祖母の介護があることを共有しており、<u>急な有休を取得することがある。その際、自身には変わってもらえる父母がいないのか、と周囲に言われる。</u>家族の中でも年齢順でお世話を担っていくという風潮を持っている方も結構いるが、お世話ができない家族もいるため、必ずしも年齢順でケアするわけではないということを理解いただきたい。</li> <li>➤ 2、3年前より、デイサービスを週3回の頻度で利用している。<u>祖母と在住自治体が異なるため、その地域の情報を得る機会や役所に行く機会がなく、どこに福祉センターがあるのかも理解できていなかったため、サポートを得る機会が遅れたと思われる。</u></li> <li>➤ 周囲には父母や会社の直属の上司など、話を聞いてくれる人がいることから、自身に対する相談や支援は必要としていない。</li> </ul>
<p>必要な支援及び周囲への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ YCに限らず、介護をしている家族全体の要望として、適切な医療機関の受診や介護制度の利用情報の共有などを通じて、介護をする方の生活が破綻しないようにしていただきたい。</li> </ul>

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

	A-7さん	ご本人：30代独身女性 家族構成：母 ケア対象：高齢の母
ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 30歳以降、食料品や日用品の買い出しや通院を含めた外出時の支援や、自身の給料のみで生活していることによる金銭管理や家計支援等を行っており、現在は母と同居している。</li> <li>➤ <u>YCは自身より若い方が高齢者や両親の介助をしているイメージ。母のお世話は介護ではないと感じている。</u></li> <li>➤ <u>母と生活リズムが異なることから、出かける際に配慮するなどストレスの原因になっている部分はある。自身が一人であればもう少し自由にできる部分が多いと感じているため、ストレスは溜まっている。</u></li> <li>➤ <u>親族が自身しかいないため、自身が一人暮らしをすると母の生活が困難であると思われる。母は正社員で働いていた期間も短く、年金もおそらく貰えていない。</u></li> <li>➤ <u>過去に行政機関に相談したことはない。介護認定がされていないと介護の支援が受けられないというイメージがあるため、症状が軽微であっても支援が受けられるのであれば、自身が普段よく見る媒体などで、公的機関から発信してもらいたい。</u></li> </ul>
他者への相談や支援サービスの利用経験		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 最近は杖がないと歩けなくなったため、仮に自身の具合が悪くなった際に母が一人で外出できないことが不安である。</li> <li>➤ 支援を利用していない理由の一つは、<u>介護サービスがどこでやっているのかわからないから</u>である。</li> <li>➤ 役所や公的機関は土日に開所していないところがほとんどであるため、<u>仕事をしていると行きづらい</u>。そのため、例えば土日にも開所している、あるいは24時間営業しているとよい。SNSで気軽に相談できるところがあってもよい。</li> </ul>
アンケート結果に対する所感		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 10、20代に現在の状況になっても金銭的余裕がないため遊ぶ機会も限られる。一方、30代の今は自身で使える金額も増えてくるため色々やりたいことが出てくるが、<u>自身の時間がない</u>と感じる。</li> </ul>
必要な支援及び周囲への期待		<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 介護ほどではないため介護休暇は取れず、有休取得をしながらお世話をしている。それに対して職場の人の理解がほしい。母のために休暇が取りやすい職場に転職を考えているが、仮に現職で休暇が取りやすくなる、あるいは母のサポートが入るのであれば、<u>継続して現職で働きたい</u>。</li> <li>➤ 行政に行く時間がないため、高齢者が住んでいる家にはメールや郵便等で積極的に情報提供していただきたい。</li> </ul>

A-8 さん	ご本人：20 代既婚女性 家族構成：父母、兄 2 人、夫、こども ケア対象：精神疾患及び身体疾患（要介護 2）を有する母、身体疾患（要介護 1）を有する父
ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 母は自身が 12 歳からうつ病を患っており、その頃からメンタルケアを行っていたが、外出・通院支援等、本格的なケアは 20 歳頃から行っている。父は去年認知症も発症し、現在は自宅療養中である。外出、通院の支援を行っている。現在は夫とこどもと同居しており、<u>父母とは別居している方が自身のメンタルを保ちやすい。</u></li> <li>➤ <u>周囲のサポートが得られれば 2 人目のこどもも考えたが、母のお世話は体力的・時間的に負担が大きく、うつ病の波がいつ来るかわからないという不安が大きすぎるために、こどもは 1 人で諦めた。こどもには寂しい思いをさせていると感じる。</u></li> <li>➤ 2 年前に YC の事例を見た際、こどもの頃からうつ病の親をお世話することも含まれると知ったため、<u>ショックを感じた。他の人と自身の家が異なり、みんなができてることが母の体調によりできていなかったという過去を振り返った際にショックを受けた。</u></li> <li>➤ 高卒から 24 歳まで働いていたが、<u>母のお世話もあり、こどもが生まれたタイミングで退職した。</u>うつ病の波が酷い時は毎日電話がくる、通院の支援を求められるなど、<u>一時的に必要なケアが増えることがあるため、気軽に仕事を始められない。</u>自身が仕事を始めた後、<u>母の連絡が兄に行くことで、兄の仕事への負担になることも心配である。</u></li> <li>➤ <u>同性であるため母から頼まれやすく、自身もやってあげなくてはと思っている。</u>兄（長男）と母の関係性がよくないため、自身に対応してほしいという兄からの空気感は感じていた。</li> <li>➤ <u>お世話の範囲について行政に教えてほしかった。また、大人になってからの方が自身ができることが増えるため、お世話の線引きも含めて行政のサポートや障害の支援について知りたかった。</u></li> </ul>
他者への相談や支援サービスの利用経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 腰痛に関連して介護のデイサービスに行っているが、うつ病に関しては昔も現在も行政の支援は受けていない。<u>そもそもどこに相談するべきか知らなかった。</u>メンタルケアは心療内科しか思いつかず、行政に行っても対して変わらないのではないかと感じていた。</li> <li>➤ LINE での相談はよいアイデアである。<u>介護認定があると移動も負担であるため、移動を伴わない相談方法があるとよい。</u></li> </ul>
必要な支援及び周囲への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ こどもの頃は学校の先生が身近であるため学校の先生に気づいていただけるとよいが、<u>このようなことを先生に相談してもよいのだろうか、</u>という不安があり、<u>実際には先生に相談できなかった。</u>また、自身の家の話であるため、<u>自身で解決しなくてはいけないという思いもあった。</u></li> <li>➤ うつ病に関する相談のハードルを下げていただきたい。周知啓発を通じてうつ病に対する考え方や空気感を変えていただきたい。</li> </ul>

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

A-9 さん	ご本人：20 代独身男性 家族構成：母、弟 ケア対象：精神疾患及び慢性疾患を有する母
ケアの状況や中長期間に及ぶケアの影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 高校卒業後から母のお世話をしており、現在は週1、2回の家事に加え、月1回仕事を1、2時間休んで通院支援を実施している。通院時は母の要望で診察室と一緒に入り、薬局も別の場所にあるため、時間の都合をつけるのが大変である。母と同居しており、弟は遠方在住である。</li> <li>➤ <u>自分で時間の使い方を決めることが難しく、母の急変や状態の悪化を念頭において生活する必要がある。大学を経て現在は教職員として働いているが、大学進学は自宅から通学できる範囲で選んだ。そのような制約がなければ、別の仕事や違う学生生活を送っていたのではないかとたまに思うことがある。自身が不在時に母の身の回りの世話してくれるヘルパーがいれば、自身のやりたいことに集中できる環境になったかと思う。</u></li> <li>➤ 今後母の世話はいつまでするのか、経済的に自立して一人暮らしをするタイミングが訪れるのかについては、現時点での悩みの種であり、もやもやした状態が常にある。相談はしたことがなく、どこに相談すればよいのか、安易に口に出してもよいのか迷っている部分もある。<u>困ってはいないが、どうすればよいかわからない状態である。母が1人で生活することは難しいと思うが、いつまでも一緒にいるのもどうかと思う。もやもやしている。</u></li> <li>➤ <u>自身と同じような状況の人がどのように経済的に自立を果たしたのかという事例があれば、見通しを持ち、穏やかな気持ちでケアにあたれたと思う。自立していく上での居住支援の情報があるとよかったと思う。</u></li> </ul>
他者への相談や支援サービスの利用経験	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 自身に所用があった際に一緒に通院できない時が何回かあった。母の通院頻度がもう少し融通が利くとよいと思うこともある。</li> <li>➤ 現在の困りごとは収入に加え、自分の身体疾患の通院日と母の通院日が重なった場合のスケジュール調整が難しいことである。</li> <li>➤ 自治体等にはこれまで相談したことはない。相談することは悩んだが行動に移していない。<u>窓口を探してみたがYCという言葉がなく、キーワードで検索しても出てこなかったため、調べる意欲や足も遠のいてしまった。似たような境遇の方や、経験者が窓口となっている組織で、小グループで交流し、気持ちの面でガス抜きができる団体があるとよいと思う。</u></li> </ul>
必要な支援及び周囲への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 支援対象が18歳以上にも拡大されたが、ヤングという言葉でまとめられる年齢ではないという感想をもった。18歳未満のこどもという認識でいたが、18歳以上にも広がったなという印象を持った。</li> <li>➤ 行政に特段の要望はない。<u>こちらから助けを求めないと動かないだろう</u>と思っており、現時点では、<u>窓口</u>に相談に行った際に迅速に動いていただければよいと思う。</li> </ul>

※ <3>. アンケート結果に対する所感については、該当なしのため省略している

## (2) 支援団体に対するヒアリング調査結果

<p>【団体 B-1】 一般社団法人草 の根ささえあい プロジェクト</p>	<p>支援対象：地域で孤立する人（18 歳未満～30 代の YC 含 む） 支援内容：対面相談、アウトリーチ面談、オンライン面 談、オンライン相談、オンラインサロン、食料提供、居住 の支援、外国語の翻訳対応、同行支援、家庭訪問、居場所 の提供、家族支援、多職種連携等</p>
<p>団体の基本 情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 孤立者支援からスタートし、現在は市の委託事業（子ども・若者総合相談センター及び独自事業）を中心に若年層の支援を実施。2024 年より YC 事業を開始した。</li> <li>➤ YC 事業を開始した結果、相談件数は増えている。定時制高校、大学からの紹介が多く、家族機能の不全等により、奨学金が生活費に充当されてしまい授業料の支払いが困難で中退に至る、介護・世話のためアルバイトを断念せざるを得ない、多子世帯の長子として幼いきょうだいの面倒や家事を担い、自分の経験に時間を費やせない、など多様なケースがある。連携大学の教員やカウンセラー、ケースワーカー等へ、事業説明やヤングケアラーの基本講義を実施している。また、地域の基幹相談支援センター等障害福祉分野にも当団体の活動を周知し、本人ではなく家族に障害があり付き添う YC の存在を想定した連携を進めている。</li> </ul>
<p>18 歳以上 の YC に対 する支援の 在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 本人からの相談を受けてアウトリーチする際は、自由な時間が限られた本人の負担を減らすため、居住地付近のカフェ、飲食チェーン店に行く場合や、家庭訪問をする場合もある。また、大学、自治体のこども関係課、児童相談所、子ども家庭センターからケースの相談を受け、事例検討（スーパーバイジングを含む）を実施することも多い。YC と言われることに違和感のある当事者には、子・若センター経由でリファールを受けることで、当事者は YC というラベルに縛られずに相談できる。また、こども家庭センターとのケースカンファレンスに参加することで、主対象が 15 歳であっても、18 歳以上の兄・姉がケアを担っている状況も見えてくることがある。</li> <li>➤ <u>子・若センターで本人から話を聞く中で YC だと判明するケースは非常に多い。</u>初回面談で気づく場合もあれば、継続的な対話の中で徐々に見えてくる場合もある。<u>本人へ YC だと伝えるかは一律の対応ではなく、本人の受け止め方、家族関係、支援者との関係性、今後の支援方針を踏まえた個別判断である。</u>YC という枠組みを前面化して共に課題解決に取り組む方が適切な場合もあれば、ラベリングが当事者の負担になるかもしれないと考慮し、他の支援を進めつつ関係性を整えることもある。</li> <li>➤ 大学生で就職の内定があるなど、就労により経済的自立が見込まれるタイミングで、家族との距離の取り方をどうするかという重大な意思決定が生じる。この際、本人の人生を基点に考えられるよう伴走的に支える。一方で、<u>就労・在学中の当事者は家計面でも頼られやすく、YC の特性である経済的支援役割が過重化する傾向がある。</u></li> <li>➤ 自分を主語にした意思決定に不慣れな当事者は、家族やきょうだいと距離を置くことへの罪悪感、YC としての役割が本人のアイデンティティ</li> </ul>

<p>【団体 B-1】 一般社団法人草 の根ささえあい プロジェクト</p>	<p>支援対象：地域で孤立する人（18 歳未満～30 代の YC 含む） 支援内容：対面相談、アウトリーチ面談、オンライン面談、オンライン相談、オンラインサロン、食料提供、居住の支援、外国語の翻訳対応、同行支援、家庭訪問、居場所の提供、家族支援、多職種連携等</p>
--	---

化しているケースもあり、選択肢を提示しても選べないことがある。支援方針として、当人が選択した後に家族がどうなるかの見通しを示し、地域連携の中で家族側の支援も確実に提供する旨を伝え、「安心のイメージ」を本人に描いてもらうことで、実際の選択行動を後押ししていく。しかし、最終的には本人がどうしたいかを尊重する。支援を受けてこなかった 30 代の当事者は、目の前の課題が切迫しているケースが多い。経済的困窮、精神的負担の深刻さが目立つ。

- できるだけ早い段階で出会い、支援につなぐことが重要である。支援開始が遅れるほど、20～30 代でメンタルの不調が深刻化する場合が多い。20～30 代は居場所ニーズは相対的に低い、10 代は相談支援の意味が掴みにくく、知らない大人との対面に抵抗があるため、まず安心して来られる「居場所」が有効である。YC 専用の相談・集まりを前面に掲げるよりも、自然に参加できる場づくりや、役割を担ってもらえるようアプローチすると参加につながりやすい。YC を前面に出さないことがポイントである。
- 18～19 歳の YC は制度の狭間に置かれやすい。児童福祉の自立支援施設を退所せざるを得ない一方、自力で賃貸契約を結ぶのは難しく、就職先からは「20 歳未満なら保証人を」と求められるなど、制度上は大人として扱われるのに社会実務では大人として扱われない矛盾がある。そのため、18～20 歳に特化したコーディネーターを子・若センターに配置し、利用可能な支援を地域でかき集めて具体的な環境整備に動いている。
- 精神科の受診歴がある場合は、本人の許可をとった上で必ず主治医を訪問し、早期に通院先との連携体制を整える。医療機関側にも主治医訪問への抵抗はなく、情報共有や支援の調整がスムーズに進められる。企業には、橋渡し役として介入し、本人が家族を支えながら働くために必要な配慮を、事前に企業に丁寧に伝え、必要なサポートを得つつ活躍できる環境づくりを連携して進めている。特にこれから就職する当事者には、就職先の選定段階や見学実習に力を入れ、現在勤めている場合は、職場への具体的な働きかけも行う。企業側の反応は概ね 8 割以上が好意的で、協力的な対応が得られることが多い。
- 近隣市に在住の場合でもまず話を丁寧に聞いた上で、適切に近隣市へリファーする（逆のケースもある）。越境連携にはエネルギーが必要な分、そのエネルギーを持つ人が地域のキーパーソンになりやすく、その人と結びつくことが連携促進の近道となる。
- 相談のハードルを下げるため「どんなことでも話していいよ、家族のことを話さなくてもいいよ」と伝える姿勢を大切にしている。家族の課題は複雑で一団体では抱えきれないため、とにかく頭数をそろえ、関わる“役者”を増やして厚い支援網を組むことが重要である。必要に応じてリファーは行うが、紹介したからといって手を離さず、伴走を続ける。
- 18 歳未満からケアを担ってきた YC は、ケアが生活の一部という価値観

<p>【団体 B-1】 一般社団法人草 の根ささえあい プロジェクト</p>	<p>支援対象：地域で孤立する人（18 歳未満～30 代の YC 含む） 支援内容：対面相談、アウトリーチ面談、オンライン面談、オンライン相談、オンラインサロン、食料提供、居住の支援、外国語の翻訳対応、同行支援、家庭訪問、居場所の提供、家族支援、多職種連携等</p>
	<p>や思考様式が形成されている。一方で、<u>18 歳以降にケアを担い始めた場合は突如ケアが生じるため初期の葛藤は大きい</u>が、<u>ケア終了後の生活再構築や、ケアと自己の切り分け、親への感情の整理の仕方については、相対的に上手く対応できる。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 18 歳以上の YC には長年ケアを担ってきた当事者も多い。そのため、「相談者」としてその本人を助けられる側の役割固定として見るのではなく、「家族の人生、自分の人生を共に考える“同士”」として関わり、一緒に悩み、試行錯誤することを大事にしている。</li> </ul>
<p>支援における課題及び 周囲への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ オンライン面談・オンライン相談・オンラインサロンというパッケージのみが YC 支援だと固定化する前に、全国の大人の知見を結集し、<u>こどもの意見も反映した共通の指針を早急に定める必要がある。</u>支援に携わる一人ひとりがこの使命を担っているとの認識であり、国へは支援団体および自治体への実効的な支援を求める。</li> <li>➤ 人材育成に関しても、全国研修を導入するなど国のリードを求めている。</li> </ul>

<p>【団体 B-2】 東京都庁</p>	<p>支援対象：18 歳～30 代の YC やその関係者 支援内容：様々な相談を受ける一次窓口、関係機関との連携・調整</p>
<p>団体の基本情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 令和7年3月に策定した第3期東京都子供・若者計画において、困難を有する子供・若者の問題に対応するため、新たな項目としてヤングケアラーを位置付けた。これに伴い令和7年4月から東京都若者総合相談センター「若ナビα」を18歳以上のYCの一次的窓口として位置付けるとともに、若年支援事業課に専門的な知識・経験・ノウハウを持ったヤングケアラー・コーディネーターを設置し、個別ケースにも対応している。</li> <li>➤ 若者は相談慣れしていない方が多く、また、様々な課題が複雑に絡み合っている場合があるため、本人の状況や気持ちを整理し、必要に応じて関係機関と連携をしている。ヤングケアラー・コーディネーターを設置したことでYCに関するつなぎ先の選択肢が増えている。</li> </ul>
<p>18 歳以上の YC に対する支援の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 電話やメールなど複数の相談方法があるが、YCはLINE相談による本人からの相談が多い。YCであることを気づいていない場合もあれば、YCという言葉が普及していることもあり、自身がYCかもしれない、といった相談もある。YCであるかの判断は手探りであり、相談室内で検討しながら実施している。相談内容に一つでもYCに該当しそうな状況があれば気づけるよう工夫している。</li> <li>➤ ケアの内容と、本人がおかれた環境によりニーズは個々に違う。住居、生活金銭面、家族内の調整や進学の問題など様々である。</li> <li>➤ アセスメントをする際は、<u>家族の状況を丸ごと包括的にアセスメントすることに加え、本人の自立に向けたアセスメントも必要である</u>と考える。</li> <li>➤ 周知啓発は、ヤングケアラー・コーディネーターを設置した旨を各自治体や関係機関に共有している。また、ヤングケアラー・コーディネーターが通信制高校などに出向いて周知活動を行っている。今後は「若ナビα」が18歳以上のYCのための一次的相談窓口であることをインターネット及びSNS広告により周知していく予定である。</li> <li>➤ 「若ナビα」では、年に3回（5月のGW明け、9月の夏休み明け、1～3月の年度終わり）インターネット広告を配信する。広告配信時期は相談件数が増える。初めて相談する人もいるが、自身の困りごとがわからない、あるいは整理しきれていないことがある。最初の相談であまり聞いてもらえなかったとってしまうとまた困ったときに相談しない可能性もあるため、話がまとまっていなくても、初めて相談したことに敬意を払いながら傾聴するようにしている。</li> <li>➤ 他機関にリファーする際は、他機関に繋がっても「若ナビα」で相談できると伝え、<u>再相談可能な関係を残すことを意識</u>している。</li> <li>➤ 総合的な居場所の提供や行政の手続き等に対して丁寧に対応して下さるYC支援団体には感謝している。また、行政につなぐ際、本人は行政の支援を必要としていても、ケアを必要とする家族が行政の介入を拒むケースがある。連携に至るまでのつなぎについて、行政に抵抗感がある方もいるため、アウトリーチやソーシャルワークの視点で関わって下さる支援団体は貴重であると感じる。</li> <li>➤ 18歳未満のYCでは養育困難という観点が重視され、要対協の枠組みの</li> </ul>

【団体 B-2】  
東京都庁

支援対象：18 歳～30 代の YC やその関係者  
支援内容：様々な相談を受ける一次窓口、関係機関との連携・調整

中で、こどもの最善の利益を優先し、必要があれば本人の同意が十分に得られていない場合でも関係機関が連携して支援や介入が進められることがある。本人の意思よりも安全・成長保障が優先されやすく、家族全体への支援・介入も、比較的行いやすいなど、行政や関係機関が主導して支援を組み立てることが可能な場面が多い。一方、18 歳以上の YC では、本人は「成年者」として扱われ、自己決定と尊厳が強く尊重される。そのため、困難な状況が見られたとしても、本人が支援の必要性を感じていない場合は介入が難しく、支援は原則として本人の同意を前提に進める必要がある。また、本人が「支援が必要」と感じていたとしても、家族への支援や家族関係への介入は、本人の意向や家族側の同意の問題から、必ずしも容易ではなく、家族支援が本人の負担や葛藤を強めてしまう可能性もある。本人の思いや関係性に十分配慮しながら、慎重に支援を進める必要がある。

- 18 歳未満からケアをしてきた方は、成長過程の早い段階からケア役割を担うため、本来その年齢で経験すべき遊びや学び、などさまざまな機会が制限されやすい。発達段階に応じた体験、失敗を許される経験、安心できる大人との関係性などが不足していて、自己肯定感に影響を及ぼす場合がある。また、18 歳未満からの YC は、学校生活や交友関係がケアによって制限され、社会との接点が家庭内に閉じやすい。18 歳以上の YC については、ケアラー本人の問題解決力・レジリエンスについてアセスメントして、どのような支援が必要であるのかを考えている。

支援における課題及び周囲への期待

- 18 歳以上の YC を個別支援していくには各自治体との連携が不可欠であるが、各自治体も支援事例が少なく、支援体制も構築途上または未構築のところも多く、連携が難しい場合がある。なお、東京都では、今年度「ヤングケアラー支援マニュアル」を改訂（令和 8 年 3 月に完成予定）し、各自治体の 18 歳以上の YC 支援体制の構築のための情報提供をしていく予定である。今後、各自治体が重層的支援体制等、中心となる支援体制を構築・確立すると、連携が容易になる。
- 行政につながる前段階としてアウトリーチや中長期的な緩やかな支援が可能な支援団体の役割は大きい。その支援団体の補助として、東京都では 18 歳以上の YC 支援体制について新たに構築する場合に補助の加算を行っている。財政面の基盤を整備しつつ、実際の個別支援についても連携を深めていきたい。

<p>【団体 B-3】 特定非営利活動 法人虹色のかさ</p>	<p>支援対象：18 歳未満～30 代の YC、ひきこもり、不登校 支援内容：オンラインや窓口での相談、アウトリーチ、支 援を入れるための調整、居場所支援、外出時の付き添い、 トラウマケア、ピアサポート等</p>
<p>団体の基本 情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 当団体は、県の YC 支援事業を受託し、YC 支援を行うほか、県の委託事業でひきこもりや不登校の居場所づくりも行っている。</li> <li>➤ 委託事業の支援対象者は 39 歳までであるが、40 歳以上の方が相談に来た場合も断らずに対応している。</li> </ul>
<p>18 歳以上 の YC に対 する支援の 在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>年齢により児相に相談できない等、こどもの支援から外れた方の紹介を受けている。</u>県の YC 支援を調べると当団体の情報が出てくるため、定期的に LINE から当事者の相談が入る。また、ひきこもり支援で両親が精神疾患であると、こどもはずっと YC であった状態で 20、30 代になっている場合がある。<u>生活困窮のケースから相談につながることも多い。</u>YC 支援だけでは支援が必要な方につなげられない場合も多いため、より広い範囲での支援ができるよう間口を広げる方向で事業を展開している。ひきこもりや不登校の居場所づくりを実施することで、YC に気づくこともねらいの一つとしている。</li> <li>➤ <u>精神疾患の家族をケアする YC は本人も精神疾患を有している可能性が高いと感じる。</u>また、発達特性もかなり強い傾向がある。20 代で就職経験がない状態で、長期間ケアをしていた方から、履歴書に書けることができなく就職活動で困る、漠然と不安を感じているなどと相談があった。こういったケースでは社会的に孤立していることが多い。</li> <li>➤ <u>18 歳以上のケアラーは、ケアをしてきた期間が長く、家族の中での慣習による影響が強い傾向にある。</u>そこを急に変えようとトラブルになるため、本人の負担にならないように支援を実施できるようかなり注意を払っている。</li> <li>➤ 危機介入は DV や命の危険性の判断等、法律的なことも含めて知見が必要である。出来事の頻度、生活のライフライン、本人の意思などは丁寧に確認している。支援の流れの中でトラブルは自然と起こるものなので、<u>本人の支援ニーズが高まった際に支援に入れるような関係を構築している。</u></li> <li>➤ <u>支援に終結がないパターンも多い。</u>一度当団体との関係性を強め、その後、強い関係性をもつ団体を、地域に移していく形を取っているが、支援は終結しても、つながりは継続している。また、つなげた支援機関がうまくつながらないからということ団体に戻してくれるのであればよいが、そのままにしている団体や関係機関もあるため、定期的に関わりの有無などの確認を取ることにしている。</li> <li>➤ <u>居住支援法人との連携は効果的である。</u>DV や親の依存から逃げる際、18 歳以上であると親の了承がなく家を出られるが、お金がないことが多い。生活保護に行っても断られるケースが多いため、居住支援法人の支援等で伴走してもらうことが効果的であった。</li> <li>➤ 当団体ではアウトリーチを強化しているが、予算が課題である。本人の就労先と居住地など、広範囲に動くことが多く、市町村を跨ぐと人員を割かなければいけない。</li> <li>➤ リスクが把握できない中で数か月が過ぎてしまう可能性があるため、YC の疑いがある時点で当団体、または本人に関する情報を最も有しており、ノウハウがある機関に連絡するように、関係機関に対して伝えてい</li> </ul>

<p>【団体 B-3】 特定非営利活動 法人虹色のかさ</p>	<p>支援対象：18 歳未満～30 代の YC、ひきこもり、不登校 支援内容：オンラインや窓口での相談、アウトリーチ、支 援を入れるための調整、居場所支援、外出時の付き添い、 トラウマケア、ピアサポート等</p>
	<p>る。支援がうまくいかないケースも多いため、支援の開始だけでも早く しようと伝えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 行政につなぐタイミングは早い方がよいが、行政につなげたからといっ て行政が全て対応しなくてはいけないという認識で動いてはいないた め、なぜ関わっているか、考えられるリスクなどは行政に伝えるように している。18 歳以上の YC は介護保険や障害支援が絡みやすいため、YC 担当より、福祉担当課などが行っている重層的支援の担当につなぐ方が 進みやすい。</li> <li>➤ 18 歳以上は本人の意向を中心に動くことができるが、18 歳未満は虐待 等が発生した際に児相という支援体制や権限のある機関がある一方、18 歳以上になると支援機関がなくなることがある。</li> <li>➤ 幼少期の親との愛着関係や承認という観点で、YC 本人にこどもが生まれ ると、そのこどもと自身の経験を重ねてしまい、養育のしづらさを感じ ている方が少なくない。</li> <li>➤ 18 歳未満から継続的にケアを行っていると、18 歳以降にケアをはじめ た人と比較して役割意識が強く、比較対象がなく自身の家の異常さがわ からないため、ケアの対象者と同居が続いていると揺り戻しが強い。</li> </ul>
<p>団体 アン ケート 結果 に対する 所 感</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 20 代と 30 代では収入面で困窮感が大きく変わることもあり、自身の体 調不良などで仕事がうまくいかず、困窮感を感じている部分もあると思 われる。YC は自身の役割の一つとして家計の支援をしなくてはいけない と思っている方が多い。例えば本来は親が払うべきであるお金の使い方 や計画的な行動を教えられていないため、困窮に陥りやすい。一方で、 こどもが家計の管理をせざるを得ず、能力が伸び、結果として家計がう まくいっているケースもある。</li> <li>➤ 自治体の機能として、居住地以外の方に対する関心がとても低いと感じ る。</li> </ul>
<p>支援におけ る課題及び 周囲への期 待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 支援を体系化することが重要である。市町村と都道府県の役割がざっく りしすぎているため、市町村はやらなくてよい、やらなくてはいけない、 という役割分担がはっきりしない。また、ケースに行政が関わる際に、 どこが舵取りを行うかの判断が非常に難しい。行政は担当者が頻繁に変 わるため、YC 支援の浸透はかなり厳しいと感じる。</li> <li>➤ 行政と情報共有を行う際、個人情報の共有を含めて連携が取れるツール がない。支援会議や要保護児童対策地域協議会はあるが、あくまで会議 であり情報共有ツールではない。そのため支援が適切に行われず、うま くいかないうケースが散見される。</li> <li>➤ 18 歳以上の YC 支援は夜間帯の支援が必要になる。結果として夜間の対 応が増えて人件費は明らかに上がっているものの、予算は変わっていない 現状がある。</li> </ul>

<p>【団体 B-4】 株式会社チャーム・ ケア・コーポレーション</p>	<p>支援対象：18 歳未満～30 代の YC（18 歳未満の YC が中心） 支援内容：レスパイト、中間的就労（アルバイト・就労訓練）、奨学金支援、小中学生向け体験活動</p>
<p>団体の基本 情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ YC に関して発生した事件を契機に、<u>社内有志による支援チームを発足した</u>。自治体や支援団体と連携し、物品提供や当事者会の会場手配や設営準備を支援するなどした。それらの取組の実績が社内で評価され、CSR・サステナビリティ領域としての位置づけとなり、<u>現在は、社内研修や IR での発信等を行っている</u>。支援開始後、<u>社員の意識変化や研修実施等によりボランティア参加者も増加し、良い効果が出ている</u>。</li> <li>➤ <u>活動開始当時は大学教員、支援団体、元当事者へのヒアリング等を起点に「あったらよかった支援」を具現化していった</u>。</li> <li>➤ <u>16 歳以上の YC に対する就労支援の受入実績は計 13 名である</u>。短期離職者はゼロで、平均勤続は一年強である。雇用形態は一般のアルバイト・パートと同等（給与・福利厚生同等）で、<u>障害者雇用枠とは別に社内に「インクルージョン」特別枠を採用し、個別に業務・時間を調整している</u>。各家庭の状況を丁寧に把握し、一人ひとりに合った就労や社会参加の入口を設計し、<u>社会経験の有無に応じて段階的に社会との接点を作るプログラムを組成している</u>。清掃、洗濯、食事の配膳、対人接点が苦手な方には人と接しない配置も選択できるようにしている。また、自治体の相談員と連携し、精神疾患のある当事者には医師の意見も取り入れながら、<u>継続的な支援を行っている</u>。「失敗体験をさせない」受入・運用を方針としており、断らず相談に応じる姿勢である。受け入れキャパは十分であるが、逆に、自治体からの相談ケースはまだまだ少ない。</li> </ul>
<p>18 歳以上の YC に対する支援の在り方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ <u>自治体・相談機関が YC に気づき、当社に紹介する前提である</u>。受入後はフォロー担当が本人と月 1 回程度で面談し、内容を自治体へフィードバックし、自治体と今後の支援方針を協議している。</li> <li>➤ <u>自治体側が SSW やケースワーカー等と連携し、SSW 等→自治体→当社の流れで紹介されるケースが増加している</u>。自治体との連携は、当社から積極的に働きかける形で進めてきた。<u>協定が進む自治体は、既に YC 当事者とつながっており、具体的な対象者像が思い浮かぶため導入がスムーズに進んでいる</u>。本取組は、補助金・助成金は受けず、すべて自社の負担で実施している。</li> <li>➤ <u>高校生は当社にて働くことにより社会接点や居場所の創出が期待できる</u>。大学生は<u>金銭的困窮を加味しつつ、精神的負担を考慮して週 1 回から開始し段階的に勤務時間を増やしている</u>。<u>20 代は現状では就労経験のある方が少なく、挨拶等の基礎から一般アルバイトと同等の業務まで段階的に行うことができるようなプログラムを実施している</u>。</li> <li>➤ <u>初回面談から支援が始まっており、制服や靴代などの初期費用が障壁にならないよう即応している</u>。家族のケア等により欠勤が生じた場合も問題視せず、次に来た際に面談を行い、必要時は家庭を含めた支援をしている。保護者が就労に難色を示す場合は、保護者にも就労場所を見学してもらおうなど、<u>安心してもらえるよう意識している</u>。当社で中間的就労を行った後、卒業時はお祝いを実施し、<u>成功体験化している</u>。</li> <li>➤ <u>支援の終結は中間的就労、就労訓練としてできることを増やし、次のス</u></li> </ul>

<p>【団体 B-4】 株式会社チャーム・ ケア・コーポレーション</p>	<p>支援対象：18 歳未満～30 代の YC（18 歳未満の YC が中心） 支援内容：レスパイト、中間的就労（アルバイト・就労訓練）、奨学金支援、小中学生向け体験活動</p>
	<p>テップへ移行することを意識している。本人の「やりたいこと」の探索を重視し、当社への正社員化はあくまで選択肢の一つとし、本人の意思や希望を最優先としている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 18 歳未満の場合は、SSW との連携が最重要である。児童家庭支援センターや子ども家庭支援センターとの連携も有効である。18 歳以上の場合、自治体が連携先の中心となっている。医療機関との連携については、自治体から医療機関へ相談し、医療機関が本人の希望（勤務時間増など）の妥当性判断を行う。会社側は自治体からの相談をもとに、プログラム調整を行うなどの働きかけを行っている。</li> <li>➤ 本支援について、介護事業者にはぜひ真似してほしい。同様の建物があるなら同様のサービスは十分に実現可能である。ただし、支援には細心の配慮が不可欠である。最も重要なのは当事者がどう感じるかであり、<u>ここでさらに傷つくようなことがあってはならない。企業の支援が当事者にとってマイナスになるなら意味がないため、十分に考えた上で推進することが重要である。</u></li> </ul>
<p>団体アンケート結果に対する所感</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ コミュニティ参加や関わりにより、PCEs/PEACE（保護的／肯定的体験）を蓄積でき、メンタルの落ち込みが減り、良い状態の時間が延びている傾向を実感しており、苦手なことを強いるのではなく、まずは得意分野から経験を積んでもらうのが効果的であると考えている。</li> </ul>
<p>支援における課題及び周囲への期待</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 18 歳以上の YC は学校との関係が切れ、見つけ出しにくい年代であると認識しているが、<u>自治体が一生涯懸命に探索しており、月に複数件の相談を頂くこともある。相談員が YC をきめ細かく見守り、関係機関を丹念に回って課題を抱える方を拾い上げているからだと考える。現在は四自治体と協定を締結しているが、他自治体とはうまく進まないケースもある。18 歳以上の YC については自治体が把握しきれていない印象があり、他地域でも仕組みを整えば、埋もれている当事者を当社につなげられると考える。一方で「うちはそもそも YC とつながっていないため紹介は難しい」という自治体からの声もあり、連携の下地づくりが課題である。</u></li> <li>➤ <u>これまではシンポジウム等で当社での取組を伝えてきたが、最近では発信の場が減ってきたと感じている。自治体・行政を通じて再び発信できる場が設けられることを強く望んでいる。</u></li> <li>➤ 他方、企業として社会貢献活動（サステナビリティ）の一環として広く発信したい思いはあるものの、ホームページ等で広く告知すれば、<u>来所することもたちが「自分のことを言われている」と感じて傷つく可能性があり、それは絶対に避けねばならない。そのため積極的な広報は控えており、取材依頼に対しても極力オブラートに包んだ表現を求めている。望ましいのは、いわゆるケアラー当事者の目に触れにくく、支援すべき大人に的確に届く形での発信であり、そのような機会があるとありがたい。</u></li> </ul>

<p>団体 B-5 株式会社 東海道シ グマ</p>	<p>支援対象：18 歳未満～30 代の YC、社会的養護を必要とする児童 や困窮児童 支援内容：居場所運営、学習支援、カフェ運営、支援者養成研修・ セミナーの運営</p>
<p>団体の基本 情報</p>	<p>➤ 当団体は社会的養護の就労支援事業から始まり、地域の NPO 法人と連携して昨年度より YC の居場所提供を共同運営や YC を取り巻く環境整備の補助を実施している。YC 専用の窓口ではなく、本人に必要な支援に適切につなぐことを意識している。<u>社内の CSR の位置づけとして、利益追求より社会的意義を重視している。</u></p>
<p>18 歳以上 の YC 対 する支援の 在り方</p>	<p>➤ 別の支援の入口から関わる中で実は YC であったと判明した事例が過去に 2 件ある。民間のこどもの居場所運営団体、NPO 法人、YC 協会などから紹介・相談が入る。就職先候補となる企業から相談を受けたケースもある。</p> <p>➤ 現在は職種を選ばず自己分析ができれば就職が可能な状況にある中で、<u>就職が難しい方が相談・支援を希望される。過去の経緯を丁寧に聴取し、違和感のある点を掘り下げると、実は YC であったと判明するケースが多い。本人が自身を YC と認識していない場合と、経済的困窮と思われたくないため隠す公表を避ける場合の両極がある。どこまでを YC と捉えるかの判断が難しく、本人に自覚がないまま過ぎている事例も少なくない。</u></p> <p>➤ 学生や離転職を繰り返している方からの相談が多い。共依存になっている方の支援は難しい。障害であれば公共サービスに乗せると上手くいくケースがあるが、親の精神障害のケースだと泥沼化してくる部分が多い。母親だと切るに切れないところが多い。</p> <p>➤ <u>保護者の話を丁寧に聞き、保護者も含めて適切な支援機関へ繋ぐ。同時に、本人が安定して自立した生活を送れることを目標とし、就職か進学かを含め、給付金・助成金の活用も視野に入れながら、本人が本当に望む進路を一緒に考える。キャリア支援では、「経験に無駄はない」という前提に立ち、長い介護経験がある場合は資格がなくても介護職で活躍し得る点や、献身性・ホスピタリティといった特性が強みになることを示し、履歴書での表現方法を工夫している。就労の空白期間は企業に対して事情を適切に伝えたほうが良いと考える。家庭だけが居場所になり過ぎないように、第三の居場所を紹介するなどの支援をしている。収入が家庭に吸い上げられる課題に対しては、世帯分離が合理的な選択肢になり得る一方、本人の心理的ハードルが高いため、共倒れを防ぐ観点で助言は行う。ただし、気持ちの切り替えは本人の大きな負担となる。</u></p> <p>➤ 支援は早期介入が望ましい。<u>企業の理解を得ることが重要で、事前の情報齟齬を防ぐために職場体験等を実施し、本人のイメージと、企業側の受け止めにズレがないようミスマッチを防ぐ取組をしている。支援先企業は、後日の状況確認がしやすく、企業側からも近況共有が得られるなど、双方向の関係を築けるところを選定している。情報開示は本人の同意の上で、企業との自己交渉が難しい場合は支援者が仲介する。仲介に入る際は、仲介が必要な人材である点を企業に理解してもらう。門前払いもゼロではないので、なるべくそうならないよう働きかけている。</u></p> <p>➤ <u>多くの企業は YC への理解が不足しており、実情の啓発・普及が必要。</u></p>

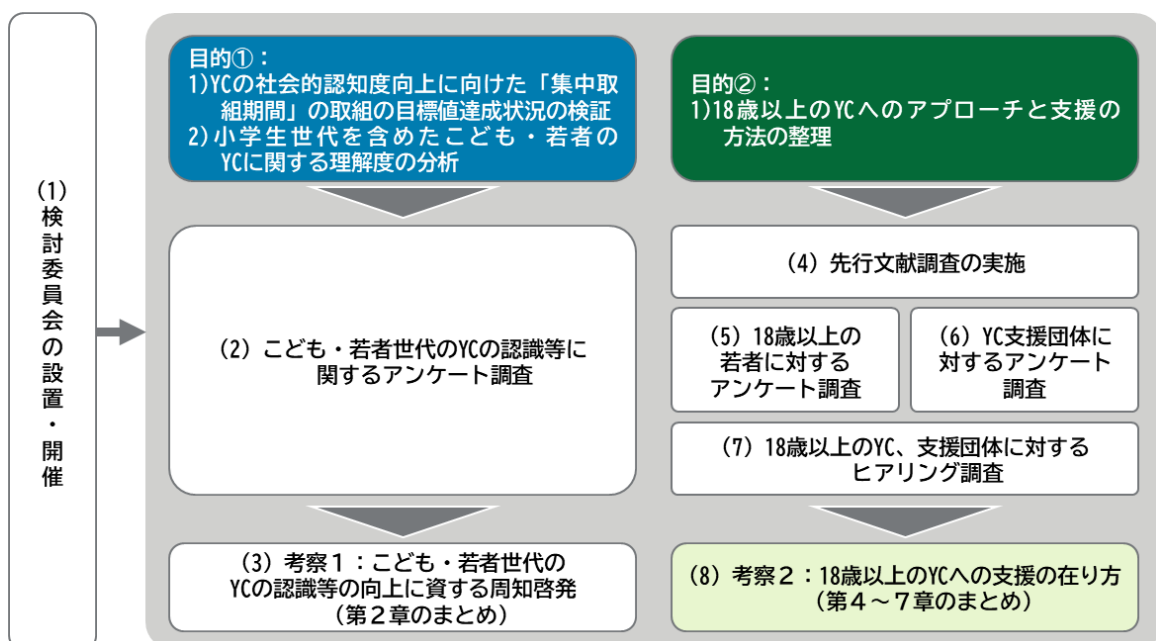
団体 B-5 株式会社 東海道シ グマ	支援対象：18 歳未満～30 代の YC、社会的養護を必要とする児童 や困窮児童 支援内容：居場所運営、学習支援、カフェ運営、支援者養成研修・ セミナーの運営
------------------------------	--

	<p>精神的安定の観点では、こどもの居場所や子ども食堂などに月 1 回でも参加することが有用である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 行政への連携は可能な限り早期が望ましい。本人がたらい回しにされていると感じないように、勝手に繋がらず、事前に丁寧な説明と同意を得てから連携する。</li> <li>➤ YC への接し方を理解した居場所が増えてほしい。こどもの居場所のスタッフが YC を見つけ出し、適切な支援へつなげられる知識や能力を身につけられるような政策の必要性を感じている。</li> <li>➤ <u>18 歳未満は就労への動機づけが弱く、家族のケアを自分の役割だと捉えやすいが、適切にケア負担を外せば軌道修正しやすい。18 歳以上は周囲が働いている状況と比較して自分ばかりが負担しているという感情が生じやすい。18 歳以上でケア歴が長いほど、進路や生活の立て直しが難しくなる。18 歳以降に担い始めた場合は当たり前とは捉えにくく、負担感や葛藤が生じやすい。周囲による発見は 18 歳以上のほうがしやすい。</u></li> </ul>
団体アンケート結果に対する所感	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 20 代の段階で適切な支援につながり、うつ傾向などが改善に向かった可能性がある一方、別の見方として、精神的問題や生活困窮により障害福祉や生活困窮者支援など他制度へ移行し、当該枠組みの集計から外れるケースが一定数存在する。20 代が回復の分岐点にあたり、その結果が 30 代での減少として表れている可能性がある。</li> <li>➤ 自治体間の連携が難しいこと、他機関へつなぐより自団体で抱え込みやすい気質が児童福祉業界にあることが背景として挙げられる。本人が自ら動かないと支援につながりにくい構造が生じている。広域的には県が主導して連携を進めることが理想だが、財政面の制約により予算化が難しい現状がある。県としての啓発事業は十分に展開されておらず、自治体の縦割りに依存した体制が課題と感じる。</li> <li>➤ 承認欲求と自己肯定感が満たされていればお世話に対する前向きな役割意識が生まれ、支援職等への関心や進路につながる可能性がある。一方で、<u>親からの愛情不足や多忙による関わりの希薄さは、自己肯定感の低下を招き、働く意欲の低下につながりやすいと感じる。重症化している人は若年期から自己肯定感が低い傾向がある。YC である自覚が薄く自分の役割として自然に担っている場合でも、周囲からの感謝や承認が得られていれば、ポジティブに捉えている。周囲の承認と本人が自分の価値を適切に調整できるかが重要なポイントになると考えている。</u></li> </ul>
支援における課題及び周囲への期待	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 国の YC 支援の方向性が不明確で、<u>周知の先にある具体的な支援像が見えにくい。支援が有志に依存しており、制度化が進んでいない。具体的には、YC 支援を子ども支援全体の枠組みに組み込んだ形の複合的・包括的な対応、YC の早期発見を促す広報戦略、子どもの居場所の運営を基盤とし、その中で現場が YC への適切な対応や支援の方法を学べる仕組みの整備等が、事業の長期的な継続に繋がる。</u></li> </ul>

## 第8章 18歳以上のヤングケアラーへの支援の在り方 (第4～7章のまとめ)

第1章の事業概要でも述べた通り、本事業は、子どもや若者が「ヤングケアラー」をどの程度理解しているのかを認識すること、そして、ケアのために大人への移行が難しくなっている18歳以上の若者の実態と支援の在り方を調べることを二本の柱となっており、本章では、第4章から第7章の内容を基に、後者についての考察を行う。

図表8-1：本事業の全体像



### 【考察の記載に係る留意点】

- 18歳以上の若者に対するアンケート調査より得られた示唆は(若者アンケート QX\_X)、支援団体に対するアンケート調査より得られた示唆は(団体アンケート QX\_X)、18歳以上のヤングケアラー本人に対するヒアリング調査より得られた示唆は(IntA-X)、支援団体に対するヒアリング調査より得られた示唆は(IntB-X)を追記することで整理している。※Xには数字が付与されている。

ヤングケアラーに関する国の調査研究は平成30年度(2018年度)から行われているが、ケアを担う18歳以上の若者を正面から扱う調査は今回が初めてであり、その意義は大きい。子どもの頃からケアを担ってきたことの蓄積が18歳以上～30代になってどのような影響をもたらしているのか、そうした長期的な視点で「ヤングケアラー」を捉えることにもつながる。

しかし、考察を示すにあたって最初に認めておかなければならないのは、今回はケアを担う18歳以上の若者を初めて扱った試行錯誤の調査であったがゆえ、調査や分析を進める上で言葉の揺らぎやズレが生じた点である。中でも混乱を大きくしたのは、「18歳以上のヤングケアラー」の上限をどう捉えるかだった。

日本において「ヤングケアラー」を法的に位置づけたのは「子ども・若者育成支援推進法」であるが、日本の「若者支援」は概ね30代までを対象としている。一方で、英語でいう「young carer」の「young」は「若い」を意味し、それゆえ、多くの国において、「ヤングケアラー」は18歳未満とされてきた。ヤングケアラー支援の進むイギリスでは、18歳になるとヤングケアラーとしての支援が打ち切られてしまうことへの疑問から、ケアを担う18~25歳を指して「ヤングアダルトケアラー」という言葉も使われるようになり、オーストラリアでは、イギリスでいう「ヤングケアラー」と「ヤングアダルトケアラー」を合わせ、25歳までを対象に「ヤングケアラー」という言葉が用いられている。いずれにしても、ヤングケアラー支援は子ども向けの支援を基本としており、そこに「大人への移行」を補助する支援が加わる形で、ケアを担う18歳以上の若者へのサポートが考えられている。

しかし、日本ではカタカナの「ヤング」が日本語の「若者」と同義であるかのように捉えられ、特に「20代後半~30代のケアラー」をどう扱うのかをめぐり、今回の調査主体や検討委員会のメンバー、こども家庭庁の関係者の間で、解釈がずれた。しかも、そのずれが生じていることに気づいたのが、かなり後になってからだった。「20代後半~30代」は、「若者支援」が対象とする年代でもありながら、家族形成や子育てをする年代でもあり、「家族」が何を意味するのか、ケア対象が誰なのか、そもそも結婚や出産をしている人は「young carer (若いケアラー)」の枠で捉えていいのか、データを分析する中で矛盾が浮かび上がってきたのである。

第5章のアンケート調査では、10代(18、19歳)、20代、30代の若者を抽出し、そのうち、「家族の中でお世話をしている人がいる」と答えた人を「ヤングケアラー」としてカウントしている。しかし、「ヤングケアラー」が世話をするケア対象者には、「配偶者」や「子ども」も入ってくる場合がある。また、第6章では「ヤングケアラー(20代)」「ヤングケアラー(30代)」という区分も使われたが、ケアの状況は「①障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー」「②ダブルケアラー(こども+家族ケア)」「③家族をケアするケアラー(既婚・こどもなし)」「④家族をケアするケアラー(未婚・こどもなし)」で分類された。このうちの①~③は既婚者やこどものいる人であり、young carerを「若いケアラー」と捉える立場の検討委員からは、「大人への移行」が難しくなっている18歳以上という観点で「ヤングケアラー」として捉えることへの違和感が示された。

今回の調査を通して見えてきたのは、ケアを担う 18 歳以上～30 代の人が置かれている多様な状況であり、その中には「18 歳以上のヤングケアラー」の枠組みで支援するのがふさわしい人もいるが、そうでない人もいる、ということだった。従来の「大人への移行」の議論をふまえるのであれば、20 代半ばまでの未婚者でケアのために「大人への移行」が難しい状況になっている人は「ヤングケアラー」としての支援方法が合っているが、他のタイプの 20 代・30 代のケアラーを考える際には、それだけでは足りないところがある。また、20 代後半～30 代のケアラーは、教育機関を出てからそれなりの年月が経っており、「young carer (若いケアラー)」と捉えるよりも、「若者支援」の中に「ケアラー」という視点や分類を入れて整理したほうが、現状に合っている。

本章では、第4章から第7章をまとめるにあたり、本調査の「18 歳以上のヤングケアラー」という言葉の使い方に揺らぎがあったこと、そのこと自体が調査で見えてきたことの一環であったことを、まずは振り返り、その上で以降の考察を進めたい。

## (1) 18 歳以上のヤングケアラーがおかれている状況

### 1) ケア対象者

- ケア対象者としては、母親が最も多く、次いで祖母や父親が多かった（若者アンケート Q3\_2）。年代別で見ると、母親、父親は年代により多少の増減があるが、全般的には増減の傾向は見られなかった。一方、きょうだいは、YC の年代が上がるにつれ、「幼い」といった理由が減り、「障害や不登校・ひきこもり」といった理由が目立つようになる様子がみられた。
- ケア対象者の状況としては、18 歳から 30 代後半にかけて「高齢」「要介護」の割合が大きくなる傾向にあり、団体アンケート（Q4\_2）でも上記と同様の傾向が見られた。一方、ケア対象者の状況として「精神疾患」と回答した割合が、若者アンケートと比較して、団体アンケートの方が大きかった。18 歳以上の YC 本人に対するヒアリングでは「自身に精神疾患の知識がなかったため、母の言動や発言が理解できず」（IntA-5）といった回答が見られるなど、自身でケアを担っている状況では「高齢」や「要介護」といった比較的わかりやすい状態像に留まっているものの、支援団体につながり、自身の家庭の状況を共有すると、実際は「精神疾患」をはじめとする様々な状況であったことが判明することも上記の結果の一因である可能性が示唆される。
- このように、18 歳以上の YC は全体的に高齢や介護を要する父母を中心とした方に対してケアを担っているが、一部のケア対象者においては本人や周囲に自覚のない形で精神疾患である可能性もある。ヤングケアラー支援団体や地方自治体等が聞き取りをする際には、こうした精神疾患の可能性も踏まえ、家庭状況やケア対象者の状況を丁寧に確認することが重要である。

## 2) ケア内容

- YCの年齢が上がるにつれて、父母などに対し「身体的な介護」、「外出時の付き添い」、「通院の付き添い」等を行う割合が大きくなる傾向があった(若者アンケート Q3\_4)。また、必要としている支援として、「自由に使える時間が欲しい」という回答が YC の年齢が上がるにつれて増加傾向にある (若者アンケート Q3\_25)。考えられる理由としては、18 歳以上の YC 本人に対するヒアリング調査にて、「30 代になると自身で使える金額も増えてくるため色々やりたいことが出てくる」(IntA-7) と回答するなど、自身の社会人生活、婚姻等に伴う自身の家庭をはじめとした、ケア以外の生活に目が行く機会が増えることが一因である可能性が示唆される。
- 年齢とともにケア内容が変遷する可能性にも留意した関わり方が有効であると考えられる。

## 3) 現在の生活への影響

- 同居家族について、18 歳から 30 代後半のいずれの年代においても YC の方が家族と同居している割合が高かった (若者アンケート Q1\_7)。内訳を見たところ、20 代前半までは YC 以外の方が父母と同居する割合が高いが、20 代後半以降は、YC の方が父母と同居している割合が高く、「母親」のみに着目すると 20 ポイント近くの差がみられた。18 歳以上の YC は、ケアのために家族と同居せざるを得ない状況があることが推察される (若者アンケート Q1\_8)。
- また、18 歳以上の YC 本人に対するヒアリングでは、ケア対象の家族のことを想い、離家することをためらう声も聞かれた (IntA-7 など)。一方、離家することで、YC が精神的に安定したと感じたケースもある (IntA-3、8 など)。
- 本調査において、就学・就業状況については YC と YC 以外で大きな差は見られなかった (若者アンケート Q1\_2)。ヒアリングの中でも YC のケアの負担感には差がある様子が見られ、例えばケア対象者が精神疾患であることから就職が難しい場合 (IntA-1、8)、休暇取得がより容易な会社への転職を検討しながら就業している場合 (IntA-7)、時間休等を取得してケアを担っている場合 (IntA-7) など様々であった。
- 結婚願望については、18 歳から 30 代後半のいずれの年代でも YC の方が YC 以外と比較して結婚願望を持っている傾向があった (若者アンケート Q2\_7)。また、20 代前半から 30 代前半にかけてはわずかではあるが YC の方が既婚率も高く、こどもがいる割合も高かった (若者アンケート Q1\_5)。18 歳以上の YC においては、自身の家族を相対化していく方法として結婚に希望を見出す方もいれば、自身が頼れる存在がほしいと思う方もいると思われるため、上記の結果となった可能性が考えられる。
- また、YC 以外では、30 代後半になると、30 代前半と比較して「結婚したい」という回答が約 11 ポイント程度低下し、「結婚したくない」が 17 ポイント程度上昇してお

り、結婚に対する意識や態度が明確になる様子がみられた。YCにおいても「結婚したい」という回答が9ポイント程度減っていたが、「結婚したくない」という回答の上昇はわずかに1ポイント程度であり、代わりに「どちらともいえない」という回答が8ポイント程度上昇していた。「お世話をすることでできなかったこと、あきらめたこと」を聞く設問（若者アンケート Q3\_10）では、30代後半で「恋愛をしたくてもできなかった」という回答が30代前半と比較して5ポイント程度上昇していたことを踏まえると、ケアなどの理由から、結婚が難しいと感じる人がいる様子も見られた。

- ダブルケアラーにおいては、ケア対象者のお世話の負担が大きいことから、**こどもに寂しい思いをさせていると感じているケースや、2人目のこどもを諦めるケースが生じている**など、離家した後もケアが継続し、YCの家庭に影響が出る状況が生じうる（IntA-8）。また、「幼少期の親との愛着関係や承認という観点で、YC本人にこどもが生まれると、そのこどもと自身の経験を重ねてしまい、養育のしづらさを感じている方が少なくない」という声も聞かれるなど（IntB-3）、**18歳以上のYCにおいては育児に関する支援ニーズが大きい可能性がある。**
- 今後の支援においては、18歳以上のYCの特徴として、ケアにより、離家、就業、結婚、育児等に影響が出ている可能性に留意して、状況の把握を行うことが効果的であると考えられる。

#### 4) 生活満足度

- 生活満足度はYCの方がYC以外より低い傾向が見られた（若者アンケート Q2\_1）。
- 就業別で見ると、非就業者の生活満足度が就業者や学生より低く、収入の不安や社会的なつながりの薄さなどが要因として考えられる。
- 今後の支援においては、特に非就業者のYCにおいて、収入の不安や社会的なつながりの薄さに伴う生活満足度の低下に留意しつつ、主観的な生活満足度の根底にある本人のニーズを適切に捉えたうえで、支援を組み立てる必要がある。

#### 5) 現在の健康状態

- 主観的な身体面・精神面の健康状態はYCとYC以外で明確な違いが見られなかった（若者アンケート Q2\_3）。一方、孤独感、無気力、消えてしまいたいと感じるか、という点では、全般的にYCの方がネガティブな結果であった。つらい状況であったとしても、それが普段の生活の当たり前の状況となってしまう場合には、大丈夫ではない状態を自覚することが難しいと考えられる。ただし、より具体的な状況を聞かれると自分の本当のしんどさに気づくことができる可能性が示唆された。
- 年代別で健康状態を見ると、ケア開始時期が18歳未満の場合と比較し、18歳以上（高校卒業後の世代以降）の方が精神面の健康状態が悪い傾向があった。18歳以上

でケアを開始する場合、ケアをしていない状況との比較の観点でストレスを抱えやすい可能性が示唆された（若者アンケート Q2\_4）。

- カウンセリングや心理療法を受けた経験は、18 歳から 30 代後半のいずれの年代でも、YC の方が多い傾向にあった（若者アンケート Q2\_5）。また、カウンセリングや心理療法を受けるための経済的支援を求める回答は年代が上がるにつれてわずかではあるが増加傾向にあり、精神的な疲労の蓄積や、支援を受けた経験がないまま大人になっていくことのしんどさは大人になるほど増す可能性が示唆された（若者アンケート Q3\_25）。
- 今後の支援においては、定点的な健康状態の把握に留まらず、YC 本人にとってケアが当たり前になっていることにより、自身の健康状態について十分自覚できていない場合や、18 歳以上でケアが開始したことでこれまでの生活と比較し、よりしんどい思いをされている場合があることなどにも留意が必要である。

#### 6) ケアをしていることでやりかたができなかったこと、あきらめたこと

- 18 歳から 30 代後半のいずれの年代でも「自分の時間が取れなかった」、「睡眠が十分に取れなかった」、「友人と遊ぶことができなかった」という影響が出ており、ケアを中心とした生活の裏で、自分の時間を犠牲にしている様子が見られた（若者アンケート Q3\_10）。
- その他、一つ一つの選択肢の回答割合は 10%を下回る値であるが、5%を超える回答として、「一人暮らしをしたくてもできなかった」、「就職・アルバイトができなかった」、「恋愛をしたくてもできなかった」、「進学をあきらめた」、「就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した」など、大人への移行に伴う内容が多く挙げられた。ヒアリングにおいても、ケアを理由として専門学校を退学し、就職ができなかったケース（IntA-1）、休みを取りやすい職場への転職を検討するケース（IntA-7）、こどもが生まれたタイミングで退職したケース（IntA-8）、進学先を自宅から通える範囲で検討したケース（IntA-9）などの声が聞かれた。ヒアリングでは、ヒアリング協力者がアンケートで回答していなかった内容以外にもあきらめたことについて話を聞くことができおり、ケアが生活の前提条件となっているために、「あきらめた」という感覚を持っていない可能性も示唆された。
- これらの結果から、本人の自覚の有無に関わらず、ケアを担うことが自身の送りたい人生と衝突している場面が多々生じていることが示唆される。支援の中で本人がこれから送りたい人生について支援者とともに考える際、これまで行ってきたケアが自身の人生の阻害要因になっている等、支援者側が本人の経験をネガティブなものとして捉えることのないよう留意する必要がある。

#### 7) 相談してよかったと一番に感じる相談先

- 若者アンケート (Q3\_23) では「家族 (父、母、祖父、祖母、きょうだい)」が最も多く、次いで「友人」、「親戚」という回答が多かった。ただし、年代別で見ると、これらの回答は、年代が上がるにつれて若干の減少傾向が見られた。一方、「病院などの医療機関」、「地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関」などは年代が上がるにつれて増加傾向であった。これらの結果から、18 歳以上の YC は中長期間、家族などの身近な人にしか話せないと考えている方が多く、状況が複雑になり、家族内での対応が困難になった 30 代以降ではじめて外部の相談機関に連絡を試みる可能性が示唆される。
- 一方、相談したことがない人にその理由を尋ねたところ、「誰かに相談するほどの悩みではない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」が 18 歳から 30 代後半のいずれの年代でも多く挙げられた。年代別で見ると、10 代や 20 代前半では「家族のこのため話しにくい」という回答が他の年代よりも多く、また、「相談できる人が身近にいない」、「家族のことを知られたくない」といった回答は、年代が上がるにつれて増加傾向であった。
- 今後の支援においては、相談への心理的障壁を下げることが重要である。「プライベートな話題であり、外部に相談するものではない」と YC が認識しがちな家族や家庭内の状況に関する相談も、安心して受けることができると周知啓発することが効果的であると考えられる。

## 8) 必要としている支援・サポート

- YC がおかれている状況は多岐にわたり、本人も精神疾患を有する、あるいは就労経験がないなどの本人の課題もあり、様々な課題が絡まりあい、ケアだけで切り分けられない方が多い様子がヒアリングからも明らかとなった (IntA-1 など)。
- 若者アンケート (Q3\_23) では 10% を超える回答割合の項目として、「自分のいまの状況について話を聞いてほしい」、「家族のお世話について相談にのってほしい」、「自由に使える時間がほしい」、「自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい」、「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」といった選択肢が挙げられた。また、年代別で見ると、必要としている支援・サポートの回答量全体が増加していた。ヒアリングでも「今後ずっとケアをしていくべきなのか、常にもんもんとしている」(IntA-7) など、年齢を重ねて将来への不安がより強まる可能性や、「30 代は目の前の課題が切迫しているケースが多い」(IntB-1) といった声が聞かれるなど、家族で支え続けることに困難が生じ、支援ニーズがより高まりやすい可能性が考えられ、必要に応じ、早めに支援機関につながっておくことの重要性が示唆された。
- 家族のお世話に限らず、現在悩んでいることとして、「収入・家計・借金等」が最も多く挙げられた (若者アンケート Q3\_11) ことから、長期間のケアに伴う経済的負担

については特に留意が必要である。

- 若者アンケートの結果と同様、団体アンケート（Q4\_3）では、支援ニーズとして「家族との人間関係」、「収入・家計・借金・貧困（食糧の確保なども含む）等」が挙げられたほか、「自由にできる時間がないこと」、「就職・転職活動」の支援ニーズが18歳から30代後半のいずれの年代でも高く、若い年代では「自分の学業・受験・進学」、「離家」の支援ニーズが高く、年代が上がるほど「家族の病気や介護」、「自分の現在の仕事」、「生きがいに関すること」の支援ニーズが高まる傾向があった（「自分の病気や心身の不調」は20代まで増加傾向にあるが、30代で減少していた）。
- 今後の支援においては、単にケアの軽減に注目するのではなく、本人のニーズを探るにあたり、世代間のニーズの傾向を加味した聴き取りを実施することが効果的だと考えられる。また、相談時期や年代によっては支援ニーズの自覚がない、あるいはニーズの程度が低い状況もあり得るが、ニーズが今後高まる可能性も踏まえた継続的な関わりが重要となる。

## 9) 性別役割意識

- 特にきょうだいに男女がいる場合、女性がケアを求められやすい空気感があるという声がヒアリングで聞かれた。
- 女性の仕事に関する考え方については、世代間ギャップもあると考えられる。特に、近年の若い人は20、30代で働かなければいけないと感じ、成長を実感したいという気持ちがある一方で、上の世代の家族観として家族は助け合うのが当たり前という感覚を持つ方も少なくないと考えられる。
- 今後の支援においては、性差によるケアの葛藤などにも留意されたい。

## (2) 支援の在り方

### 1) 気づき、情報共有

- 第4章の先行文献調査では、18歳未満のYCと異なり、18歳以上のYCは学校等の所属先や中心となる支援機関が明確でないことが多く、YCであることの自覚や支援の希望がなければ、支援者が気づかない可能性が示唆された。また、18歳以上のYCが抱える困難は複雑であることが多い上、支援につながったとしても支援機関が本人のことだけでなく家庭の様子を併せて聞く機会が少ないこと、また、支援環境の整備が不十分である等、情報集約に困難が伴う可能性が示唆された。
- 本事業の団体アンケートでは、初回の相談経路のうち、最も多い回答は「他機関からの紹介」であった。ただし、YCの年代が上がるにつれ、他機関からの紹介は減少傾向となり、直接来所や電話が増加する傾向が見られた。
- YCの年代別の支援件数（令和6年度）は5件未満である団体が最も多く（Q2\_1\_2）、また、18歳以上のYC支援の課題として、「18歳以上のヤングケアラーの把握」が最

も多い課題として挙げられており (Q7\_1\_2)、支援が必要な人に十分リーチできていない様子が見られた。

- 支援に対する意識について、若者アンケートでは、「誰かに相談するほどの悩みではない」、「相談しても状況が変わるとは思わない」という回答も多く挙げられた (Q3\_23)。また、近年 YC 支援や若者支援はより充実してきているものの、「YC は 18 歳未満の認識」であるケース、「新聞記事で自分よりも大変な様子の YC を見たことで、自身が YC に当てはまるかわからないと考えた」ケース、「過去に支援窓口を探したが見つからずそのままの状態」であるケースも見られた。18 歳以上で学校などの所属先がなくなると、身近で相談できる先がなくなってしまう可能性もあるため、若者をターゲットとした情報発信がより重要になると考えられる。
- YC がおかれている状況は多岐にわたり、複合的な課題を抱えやすいという特徴がある。その際、複合的な課題の一つにケアがあり、そこへの対応の入口の一つに YC 支援があると考えることが有効である。一方、非行、発達障害、精神疾患等、様々な課題を抱えているケースにおいては必ずしも YC の観点から支援を始める必要はなく、YC であることに固執することで支援が進まない可能性もあるため、本人のニーズや先の見通しを持つ支援を行うことが重要である。

#### 効果的な支援策の例

- ◇ 家族のケアをしているという「自分を主語にできない」心理的障壁により、既存の窓口にはつながりにくい。発見には、「アウトリーチ」や生活の中に溶け込んだ「非福祉的」な入口が不可欠である。支援の入口においては、「ヤングケアラー」という概念整理が支援者側には有効である一方、必ずしもその言葉を前面に出さず、「生活の困りごと」「進路」「住まい」「しんどさ」などから入る方がつながりやすい場合がある。
- ◇ 高齢者福祉、障害福祉等の枠組みにおいて、支援対象者の同居家族である若者に対して情報提供（子ども・若者総合相談センター等の若者支援の窓口に関する情報等）をすることは効果的である可能性がある。YC 本人へのヒアリングでも、家族をケアする福祉専門職からのチラシの配布等が有効であるという声が挙げられた (IntA-1、A-3)。
- ◇ 生活に変化が生じやすい時期（5月のGW明け、9月の夏休み明け、1～3月の年度終わりなど）にインターネット広告を配信することで、初めて相談にくる方もいる (IntB-2) ことから、当該時期における周知啓発やインターネット広告による Web 上での周知啓発は有効と考えられる。
- ◇ 専門職のかかわりなどを含めた、支援につながるまでの過程及び支援内容や生活の変化などを可視化したモデルケースに関する情報を発信すること (IntA-9) や、YC・福祉などを前面に押し出さない形でのつながり方 (カフェや YC が興味

を持つことに関するイベント、お楽しみ会、配食など）は、支援への心理的障壁を下げる事が期待できる。

- ◇ 18歳以上のYCの中には日中働いている方も一定数いるため、LINEやオンライン相談等の土日や夜間でも受け付け可能な相談方法は効果的である（ただし、即時に対応する必要がある場合には、時間外対応による人的コストが課題となる（IntB-4)）。なお、オンライン相談はアクセスのしやすさや匿名性の面で有効である一方、家族関係の調整や生活全体の再構築、自立に向けた伴走には対面支援や他機関との連携が重要であり、両者を組み合わせた支援設計が求められる。

## 2) 支援

### ① 支援の基本姿勢

- 第4章の先行文献調査では、ダブルケアや支援メニューの減少といった18歳以上であることによる特有の課題に加え、支援者のノウハウ不足によって支援が不足している可能性が示唆された。
- 本調査の結果では、ノウハウ不足により、多様な環境におかれている若者に対して 個々のケースに応じて柔軟に支援を組み立てていくことが困難 があることが示唆された（団体アンケート自由記述）。
- 18歳以上の特徴として、YC本人が相談に来るケースもあり、18歳未満と比較して支援ニーズが明確な場合もあることが挙げられる。一方で、若者アンケート(Q3\_25)では、サポートしてほしいことは特になく、わからないという回答の合計がどの年代においても3割を超えており、また、YC支援は他の若者支援と異なり、YC本人のニーズではなく、ケア対象者をはじめとした他者のニーズに目が向いている傾向がある（アンケート自由記述）という声もあった。支援ニーズが明確でない場合や、明確であったとしてもケア対象者に対する支援ニーズに焦点が当たっている可能性があることには留意が必要である。そのため、18歳から30代後半のいずれの年代でも支援ニーズが生じやすい内容、年代により生じやすい支援ニーズの傾向等を把握しておくことも重要である。本人への支援ニーズを聞く際は、ケア期間が長いと自分に目を向けることが難しくなる可能性が考えられるため、「数十年後の将来を見据えたときに、どうなっていたいか」、「そこに向けて、今どのような支援があるとよいか」、「今後、どのような人生を歩みたいか」、「自分の人生の中で絶対やってみたいこと、チャレンジしてみたいことは何か」という聞き方なども効果的であると考えられる。
- 18歳未満のYCへの支援と同様、1回の相談では解決しない場合が多いことから、本人や家族に負担をかけないように、支援を急ぐのではなく、基本は伴走支援で信頼関係を構築しつつ、支援ニーズが高まったときにサポートできる関係性を築くのが

有効である (IntB-3)。また、YC はケアを自分がやるしかないと思い込んでいる場合もある。その考え方から抜け出すには時間もエネルギーも要するため、トライアンドエラーを繰り返しながら、伴走し、よりよい支援を YC とともに考え続ける姿勢が重要である。

- さらに、本人への支援と併せて、ケア対象者への適切なサービス導入や家族全体の状況把握を行うことが、本人の負担軽減および将来の選択肢の拡大につながる場合がある。
- 支援対象者と関係構築をする際、支援者に依存してしまうことでサービス利用につながりづらくなる場合がある一方、距離感が遠く、信頼関係の構築が困難な場合もあり、慎重に信頼関係を構築する必要がある。その際、本人が家族に対して抱く愛着や責任感、葛藤や罪悪感といった複雑な感情を前提に、支援を急ぎすぎず、本人のペースと自己決定を尊重した関わりが求められる。

## ② 若者に効果的であると考えられる支援 (YC 本人に対する情報共有)

- 若者アンケート (Q3\_25) では、周りの大人にサポートしてほしいこと、必要としている支援について、最も当てはまるものとして「家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい」という内容が全体で 3.8%、各年代で約 2～5% 見られた。また、18 歳以上の YC 本人に対するヒアリング調査 (IntA-4、A-5 など) でも同様に、「知的障害がどのような障害でどのようなことが起きるかというのを小さい頃から知っていれば、それに合わせた行動ができたと思われる。年齢に応じた適切な説明があれば、より理解できたと思われる」、「自身に精神疾患の知識がなかったため、母の言動や発言が理解できず、母に対する嫌悪感や「なぜ自分だけこのような思いをしているのだろうか」といった思いを幼い頃から抱えて生きてきた」といった声があることから、こどもであることを理由に家族の状況や受けられる支援の選択肢について十分な説明を受けず、巻き込まれながら長期間苦しんできている状況にある YC が一定数存在しており、重要なニーズであることが示唆される。

### 効果的な支援策の例

- ◇ 仮にこどもや若者・家族が相談時点で支援を必要としていない場合においても、ケア対象者が抱えている障がいや疾患の状況や見込み、対応方法等の説明をすることは常に大きな意味がある。
- ◇ 受けられる支援に対する選択肢とその先の見込み (メリット・デメリット) を含めてわかりやすく提示した上で、YC 本人や家族が選ぶという考え方が重要である。たとえその場では支援を希望しない結果となった場合においても、いつか必要となった際に使える選択肢があると知ることは、YC 本人や家族の安心に

つながる可能性がある。

- ③ 若者に効果的であると考えられる支援（就労支援）
- 団体アンケート（Q6\_2）では、最も効果的な連携先として、「居住地域の自治体」の次に「就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）」が挙げられたこともあり、就労支援は効果的な支援策となり得る。
  - 就労支援の意義として、YCが自身のキャリアを築くことは自身の人生の基盤を作る上で重要であることが挙げられる。仕事を選ばなければ就職先は見つけやすい時代ではあるものの、仕事の空白期間が長くなると企業側からはネガティブに捉えられる可能性がある（社会人経験がない若者と、新卒を比較した際に、新卒の方が優先される可能性がある）（IntB-5）ことから、支援機関がサポートすることでYCであることに伴うハードルを取り除くことが期待される。
  - 一方、ケアと自分の人生の両方に対応していることから、複数の事項を同時に処理する能力が高い方、共感力が高い方、人間関係の間合いのうまい方など、高い能力を持つ方が多い（団体アンケート自由記述）という声もあり、就労支援をはじめとする支援が不要だという意見も一部で見られる。ただし、長期間、家族やケア対象など周りのことを優先してきた結果、自分のしんどさに気づけないケアラーの特性を踏まえ、本人の能力が高い場合においても、声かけやサポートが不要とは言えない状況がある点には留意が必要である。
  - 就労支援は、YCが働き始めるという入口部分の支援だけでなく、ケアがあっても働き続けられる仕組みづくりを実現することが有効である。そのため、連携先として企業の参画は必要不可欠であり、企業への呼びかけや企業の協力は効果的である。その際、行政や専門職を中心として家族の将来のことも見越したアセスメントを行い、本人のニーズに応じて企業もそのプランに参画する形が望ましいと考えられる。
  - 一方、義務として個人情報や介入範囲が決められ、罰則も定められている専門職とは異なり、企業関係者は専門知識を有する方や監督者の参画が不十分である可能性もある。今後も企業の参画を盛り上げていくには、契約や約束事を書面で交わす、介入範囲を定める、定期的に支援状況の確認や当事者への聞き取りを行うなど、YC本人や家族の安全を適切に守っていくためのガイドラインを国が策定する必要があると考えられる。

#### 効果的な支援策の例

- ◇ 就労支援を行う際は、特定の企業への就職をゴールにするのではなく、本人の「やりたいこと」の探索を重視することが重要である。その方法として、中間的就労、就労訓練を提供することで本人ができることを増やし、次のステップ

へ移行することが有効である (IntB-4)。

- ◇ ケアフレンドリーな企業を増やすことも重要である。民間企業に対し、採用時の「ものさし」として「職務経験」や「学生時代に力を入れたこと」といった家庭外での活動を評価するだけでなく、ケアに関わるキャリアやスキルを評価する取組が広がることは、YC の採用・社会での活躍につながる可能性がある。実際、支援団体の一部では、長い介護経験がある YC は資格がなくても介護職で活躍し得る点や献身性・ホスピタリティといった特性が強みになることを示し、履歴書での表現方法を工夫している、就労の空白期間は企業に対して事情を適切に伝える等、企業の理解を得るための活動を実施している。事前の情報齟齬を防ぐために職場体験等を実施し、本人・企業間にズレがないようミスマッチを防ぐことが有効である (IntB-1、IntB-5)。

#### ④ 若者に特に効果的であると考えられる支援 (離家)

- 離家は、大学進学、初就職等のイベントが発生し得る年代で、支援ニーズが高まる傾向にある。ただし、離家を実現するに当たり、収入面や家族のケアが課題となる場合があり、特に 20 歳未満の場合は保証人が必要となることが課題となる (IntB-1) ため、離家の実現に向けては外部からの支援が必要とされる場合が多い。
- 離家は単なる住居の確保にとどまらず、物理的な距離を作ることから本人が家族との心理的距離を再調整し、自身の生活を主体的に再構築する契機となりうる。一方で、家族への責任感や罪悪感、経済的課題等により選択が難しい場合も多く、段階的な支援が求められる。
- 離家は DV ケースや親子が依存しあっている場合は特に効果的であり、親子で程よい距離感を保つことにより精神面での安定につながることを期待できる (IntA-3、A-8)。特にケア期間が長いと、支援が入って状況が改善しても揺り戻し (支援が入る前の状態に戻る) が生じる可能性があるため (IntB-3)、YC が長期間ケアを担っている家庭においては離家を支援メニューの一つとして考慮することが考えられる。
- 離家の実現に当たり、効果的な連携先としては、「若者への居住支援機関 (自立援助ホーム、こども若者シェルターなど)」、「居住支援法人」などが挙げられる。

#### 効果的な支援策の例

- ◇ これまでケアを生活の一部として担ってきた YC 本人にとって、離家は大きな決断となることが多い。そのため、段階を踏み、完全に家を出る前に、居場所や宿泊などを通して一時的に距離を取ることができる支援メニューは高い効果が期待される。
- ◇ 居住支援法人等を活用し、下校途中で家に帰らずに居住地を変更するケース (DV など身の危険も伴う場合など) や、離家に際しケア対象者が暴れてしまう

ケース等においては、警察による保護及び関係機関への紹介、捜索願不受理願届を通じた安全な避難への協力等、警察との連携が必要な場面もある。同時に、中長期的には警察に YC について知っていただく機会を作ることが、より円滑な連携につながる (IntB-3)。

#### ⑤ ケア状況別の違い

- 支援団体に繋がる件数は少ないものの、特に 18 歳以上の YC においては「未婚で家族をケア」している方だけではなく、「障害があるこどものケア」や、「こども以外の家族+こども」をケアするダブルケアラーも一定数存在することには留意が必要である。特にダブルケアラーは、ケア負担が他のケアラーより重く、自身から支援につながるための時間やエネルギーが不足しているケースがあることから、その支援においては、訪問型(アウトリーチ型)の相談支援が効果的(団体アンケート Q5\_5)な場合がある。
- 上記のように、YC 本人の状態像は多様であることを認識した上で、それらの状態像に応じて、アウトリーチ等、支援団体が積極的にアプローチする支援と、窓口相談等、本人がアクセスすることを前提とした支援を使い分けることが、より効果的な支援につながる。

#### ⑥ その他

- 大学等の教育機関に所属している 18 歳以上の YC においては、キャンパスソーシャルワーカーと連携することが有効である場合がある。しかし、効果的な運用には、カウンセリングといった心理的な支援だけではなく、学費にかかわる経済的支援、授業の出席配慮等に関する学業面での支援、就活での支援など、包括的な取組が必要だと考えられる。制度や議論もまだ不十分であることから、丁寧な論点の提起が求められる。
- ライフストーリーを作成することは、自分や周囲を客観的に捉えなおす上で有効である可能性がある (IntB-3)。ただし、ライフストーリーの作成はトラウマインフォームドケアなどの十分な知識を有する専門家が実施することが望まれる。

### 3) 終結・見守り

- 第4章の先行文献調査では、18 歳以上の YC に所属機関がない場合、継続的な関わりやモニタリングが困難であることが多く、結果的にケアのバランスの崩れなどに気づきにくい環境が発生する可能性が示唆された。
- 団体アンケートで支援の終結に向けた効果的な取組を尋ねたところ、18 歳から 30 代後半のいずれの年代でも「ケア負担の軽減」「継続的な見守り」が効果的だとする回答が多かったものの、それらは年齢が上がるにつれて減少傾向であった。一方で、

「就労・職業訓練への移行」「精神的・健康面の回復」「自立的生活への移行」は年齢が上がるにつれて増加傾向であった。これらの結果より、精神面の健康の回復を図りながら、就労に向けた取組が一例として効果的であることが示唆される。

- また、YC 本人が学校等の所属機関を失うことが継続的な支援において明確なデメリットになることから、多機関連携においては、紹介や情報提供のみに留まらず、本人が新たな支援先と関係を築けているか、支援の隙間が生じていないかを確認しながら関わるのが重要である。特に 18 歳以上の場合、本人の意思が尊重される一方で支援が途切れやすくなるため、丁寧なつなぎと継続的な関係性の視点が求められる。また、支援は終結しても関係性は継続するという姿勢を持ち、いつでも相談に戻ってきてよいことを伝えることも重要である (IntB-3)。本人に伴走し、ライフコースを一緒に考え、自己決定を促すアプローチを取ることができるコーディネーターがつくことは有効である。
- いずれの年代においても、YC が自分らしく生きられるような仕組みを作っていくことをゴールとして設定することが有効であるため、ケアの負担軽減だけではなく、支援の目的を本人の目標に合わせて設定していくことが重要である。

#### 4) 今後の課題

##### ① 自治体間の連携

- 特に若者の世代は活動圏域が広域になること等を踏まえ、自治体間の連携の重要性が増すと考えられる。一方で、団体アンケートでは、所在地域以外の他自治体との連携が少ない様子が見られており、結果として、進学、就職、離家等、生活環境の変化に伴いこれまで継続してきた支援が途切れることが懸念される。自治体間の連携が少ない要因としては、18 歳以上の YC 支援は、支援体制が構築途上、または未構築のところも多いことが挙げられる。各自治体を中心となる支援体制を構築することで、連携が容易になる可能性がある (IntB-2)。なお、18 歳未満のこどもについても、進学に際して異なる自治体の学校に通学をする場合も少なくないため、自治体間の連携の円滑化は 18 歳未満の YC 支援においても効果的であると考えられる。
- 支援団体は、活動地域の支援メニューや社会資源には詳しくなるが、自治体によって状況が異なるため他自治体に関しては十分な知識がなく、所在地域以外の自治体との連携がしづらい状況がある。18 歳未満の場合は、要保護児童対策地域協議会を通じて本人の転居時にも本人の希望なしで引継ぎや連携が可能だが、若者になると本人より連絡してほしいと言われると連携しづらい状況が生じる。ヤングケアラー・コーディネーターも増えているため、全国で YC を担当している方が集まって交流することで、担当者間で顔の見える状態となり、結果的に自治体間の連携が促進されると考えられる (IntB-1)。

② 若者支援との類似性

- これまで 18 歳以上の YC について見てきたが、20 代後半～30 代の支援内容や「出口」の部分は、実際には他の若者支援と重なる部分が非常に多い。支援の「入口」や経過の中で「ケアラーである」という特徴や個別の関わりは確かにあるが、最終的には包括的な若者支援として捉えることで、ある程度網羅することが期待できる。ケアラー支援、ひきこもり支援、若者困窮支援などが分野横断的に連携できると効果的である。

## 付録 資料編

---

資料編への掲載内容

- 各種アンケート調査票
- 各種アンケート集計結果

みほん  
見本

せいかつじったいとう かん







# 「こどもの生活実態等に関するアンケート」




※ こちらは、アンケートで回答いただく内容を確認するための見本です。  
実際に回答する際は、タブレットやスマホ、パソコンなどからお願いします。

## 1. 子どもの権利について

子どもの権利条約では様々な子どもの権利が定められています。下の図表でその一部を紹介し  
ます（アンケートは図表の下（P3以降）にあります）。

図表1：子どもの権利条約で定める子どもの権利の具体例（一部抜粋）

<p><b>第28条 教育を受ける権利</b></p>  <p>子どもは教育を受ける権利をも っています。国は、すべての子 どもが小学校に行けるようにしなけれ ばなりません。さらに上の学校に進みた いときには、みんなにそのチャンスが与 えられなければなりません。学校のきま りは、子どもの尊厳が守られるという 考え方からはずれるものであってはな りません。</p>	<p><b>第31条 休み、遊ぶ権利</b></p>  <p>子どもは、休んだり、遊ん だり、文化芸術活動に参加 する権利をもっています。</p>
<p><b>第3条 子どもにもっともよいことを</b></p>  <p>子どもに関係のあることを行 うときには、子どもにもっともよ いことは何かを第一に考えなけ ればなりません。</p>	<p><b>第6条 生きる権利・育つ権利</b></p>  <p>すべての子どもは、生きる 権利・育つ権利をもっていま す。</p>
<p><b>第12条 意見を表す権利</b></p>  <p>子どもは、自分に関係のあるこ とについて自由に自分の意見を 表す権利を持っています。その 意見は、子どもの発達に応じて、じゆ うぶん考慮されなければなりません。</p>	<p><b>第13条 表現の自由</b></p>  <p>子どもは、自由な方法でいろ いろな情報や考えを伝える 権利、知る権利をもっていま す。</p>

<p>第16条 プライバシー・名誉の保護</p>  <p>子どもは、自分や家族、住んでいるところ、電話やメールなどのプライバシーが守られます。また、他人から誇りを傷つけられない権利をもっています。</p>	<p>第24条 健康・医療への権利</p>  <p>子どもは、健康でいられ、必要な医療や保健サービスを受ける権利をもっています。</p>
<p>第26条 社会保障を受ける権利</p>  <p>子どもは、生活していくのにじゅうぶんなお金がないときには、国からお金の支給などを受ける権利をもっています。</p>	<p>第27条 生活水準の確保</p>  <p>子どもは、心やからだのすこやかな成長に必要な生活を送る権利をもっています。親（保護者）はそのための第一の責任者ですが、親の力だけで子どものくらしが守れないときは、国も協力します。</p>
<p>第32条 経済的搾取・有害な労働からの保護</p>  <p>子どもは、むりやり働かされたり、そのために教育を受けられなくなったり、心やからだによくない仕事をさせられたりしないように守られる権利を持っています。</p>	<p>第36条 あらゆる搾取からの保護</p>  <p>国は、どんなかたちでも、子どもの幸せをうばって利益を得るようなことから子どもを守らなければなりません。</p>

出所：公益財団法人日本ユニセフ協会 ホームページ

Q1. 「子どもの権利」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。（あてはまる番号1つに○）

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

Q2. 「子どもの権利」について、Q1で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2. 聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「子どもの権利」という言葉をどこで知りましたか。（あてはまる番号すべてに○）

- |                |                                |
|----------------|--------------------------------|
| 1. テレビや新聞、ラジオ  | 5. イベントや交流会など                  |
| 2. 雑誌や本        | 6. 学校                          |
| 3. SNSやインターネット | 7. 友人・知人から聞いた                  |
| 4. 広報やチラシ、掲示物  | 8. その他（                      ） |

Q3. 周囲の大人や友人が、困っているように見えるこどもに声をかけることは大切だと思いますか？（あてはまる番号1つに○）

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. とてもそう思う   | 4. あまりそう思わない  |
| 2. ややそう思う    | 5. まったくそう思わない |
| 3. どちらともいえない |               |

## 2. ヤングケアラーについて

ヤングケアラーとは、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」のことを言います。責任や負担の重さにより、学業や友人関係などに影響が出てしまうことがあります。

図表2：ヤングケアラーのイメージ（例）

 <p>しょう びょうき 障がいや病気の ある家族に代 わり、買い物・ 料理・掃除・ 洗濯などの家事 をしている</p>	 <p>かぞく か 家族に代わり、 おさな 幼いきょうだい のせわをしてい る。</p>	 <p>しょう びょうき 障がいや病気の あるきょうだい のせわや見守り をしている。</p>	 <p>め はな 目の離せない かぞく みまも 家族の見守りや こえ 声かけなどの気 づかいをしてい る。</p>	 <p>にほんご だいいげんご 日本語が第一言語で かぞく しょう ない家族や障がい のある家族のために つうやく 通訳をしている</p>
 <p>かけい ささ 家計を支えるた めに労働をし て、障がいや びょうき 病気のある家族 を助けている。</p>	 <p>アルコール・ やくぶつ 薬物・ギャンブ ル問題を抱える かぞく たいおう 家族に対応して いる。</p>	 <p>がん・難病・ せいしんしつかん 精神疾患など まんせいてき びょうき 慢性的な病気の かぞく かんびょう 家族の看病をし ている。</p>	 <p>しょう びょうき 障がいや病気の あるかぞく み ある家族の身の まわ 回りの世話をし ている。</p>	 <p>しょう びょうき 障がいや病気のあ るかぞく にゅうよく る家族の入浴やト イレの介助をして いる。</p>

出所：子ども家庭庁ホームページ (<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/about/>)

### ◆「ヤングケアラー」と「お手伝い」の違い◆

- お父さん、お母さんは、毎日、仕事や家事など多くのことをしています。そんなときに、あなたが食事の片づけやお風呂の掃除、庭の草むしりなどのお手伝いをしてくれると、きっと喜びます。また、お手伝いをするのでいろいろな体験ができ、その体験は未来のあなたの力につながります。
- しかし、家族の一員として無理なく行う「お手伝い」と、大人に代わって家事や家族のお世話をしなければならない「ヤングケアラー」とは、ちょっと違うことをご理解ください。
- 「ヤングケアラー」について詳しく知りたい人は、子ども家庭庁ホームページ (<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/>) もご覧ください。

Q4. 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

(あてはまる番号1つに○)

1. 聞いたことがあり、内容も知っている
2. 聞いたことはあるが、よく知らない
3. 聞いたことはない

Q5. 「ヤングケアラー」について、Q4で「1. 聞いたことがあり、内容も知っている」「2.

聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(あてはまる番号すべてに○)

- |                |               |
|----------------|---------------|
| 1. テレビや新聞、ラジオ  | 5. イベントや交流会など |
| 2. 雑誌や本        | 6. 学校         |
| 3. SNSやインターネット | 7. 友人・知人から聞いた |
| 4. 広報やチラシ、掲示物  | 8. その他 ( )    |

Q6. ヤングケアラーの人はどんな悩みがあると思いますか。(あてはまる番号すべてに○)

1. 学校に行きたくても行けない
2. どうしても学校を遅刻・早退してしまう
3. 宿題をする時間や勉強する時間が取れない
4. 睡眠時間が十分に取れない
5. 友人と遊ぶことができない
6. 部活や習い事ができない、またはやめなければならなかった
7. 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変えた
8. 自分の時間が取れない
9. その他 ( )

Q7. 友人や周りに、「ヤングケアラー」にあてはまるこどもがいた場合、どうしますか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 学校の先生に相談する
2. 家族（親、きょうだいなど）に相談する
3. 知り合いの大人（学童の先生、近所の人、スポーツ少年団のコーチ、じゅくの先生など）に相談する
4. 別の友人に相談する
5. 相談できる場所（相談窓口など）を教えてあげる
6. 何もしない（いままでと変わらずに、一緒に遊ぶなどして過ごすなど）
7. わからない
8. その他（ ）

Q8. より多くの人にヤングケアラーのことを知ってもらうためには、どのようにお知らせしたらいいでしょうか。（あてはまる番号すべてに○）

1. ヤングケアラーについて学ぶことができる場所や時間をつくる
2. 学校の先生など、こどもとかかわる大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる
3. 大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる
4. テレビやテレビのコマーシャルを使ってみんなに知らせる
5. SNSや動画など、インターネットを使ってみんなに知らせる
6. パンフレットやちらしなどをを使ってみんなに知らせる
7. その他（ ）
8. 必要だと思わない

Q9. ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等なんでも、自由に書いてください。

### 3. あなたのこと

Q10. あなたの学年もしくは所属する学校を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. 小学6年生      | 4. 定時制高校2年生相当 |
| 2. 中学2年生      | 5. 通信制高校生     |
| 3. 高校2年生（全日制） | 6. あてはまるものはない |

Q11. あなたの性別を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

- |      |           |
|------|-----------|
| 1. 男 | 3. その他    |
| 2. 女 | 4. 答えたくない |

Q12. 現在住んでいる都道府県を教えてください。（あてはまる番号1つに○）

※ 47都道府県の選択肢より回答

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

## アンケートが終わった後に注意してほしいこと

- アンケートにより、周りの友だちのことが頭に浮かぶことがあるかもしれません。でも、このアンケートは、ヤングケアラーが前向きに「誰かを頼ってもいい」と思えるような社会をつくるためのアンケートです。決してうわさ話や友人へのからかいをしないようにしてください。アンケートが終われば、この話は終わりにしてください。

家族のお世話をすることは、とても価値のある大切なことです。  
ただ、お世話の負担が大きいと気持ちや体力の面で大変な思いをすることがあるかもしれません。

あなた自身、あるいは友だちなどで、家族のお世話をすることで悩みや心配なことがある場合には、学校の先生や、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーなど、身近な大人に相談してください。

- ※ 「スクールソーシャルワーカー」、「スクールカウンセラー」のどちらも、困っているこどもの相談に乗ってくれる人たちです。

### 【参考】

- 子どもの権利についてもっと知りたい人は、公益財団法人日本ユニセフ協会「(子ども向け学習サイト) 子どもの権利を考えよう」(<https://www.unicef.or.jp/crc/kodomo/>) もご覧ください。
- ヤングケアラーについてもっと知りたい人は、こども家庭庁ホームページ(<https://kodomoshien.cfa.go.jp/young-carer/about/>) もご覧ください。
- ※ 上記URL から相談できる場所を探すことも可能です。

18歳以上の若者に対するアンケート調査票/  
子ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査票(若者)

## ■アンケート(若者票)見本

若者の生活実態に関するアンケート  
ご協力をお願い(所要時間:20分程度)こども家庭庁 子ども・子育て支援推進調査研究事業事務局  
(有限責任監査法人トーマツ)

- ☑このアンケートは、生活の中で抱える悩みや困りごと、家族のお世話の状況などをお聞かせいただき、その解決に必要な支援策を検討するために行うものです。
- ☑このアンケートに回答するかどうかはみなさんの自由です。
- ☑このアンケートは無記名で行い、回答内容はすべて統計的に処理するため、あなたの回答が特定されたり、外部に知られることはありません(ただし、無記名のため、回答した後は、回答内容を修正したり、取り消すことはできません)。
- また、ご回答いただいた内容は、本調査研究や関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用しませんので、安心して回答してください。
- ☑みなさんの回答の一つ一つが大事な意見であり、よりよいサービスを検討していくためにも、できるだけ多くの方のご意見をお聞きしたいと考えています。
- ぜひアンケートへのご協力をお願いします。

(※)報告書は令和7年度末を目途に、当法人及びこども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

## 【ご回答にあたってのお願い】

- このアンケートへの協力に同意してくださる場合のみ、ご回答ください。
- アンケートは携帯電話またはパソコン等をお使いいただき、インターネット上でご回答ください。
- 回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- このアンケートは、一時保存ができません。回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されませんので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。なお、回答は1人1回限りです。
- 集計結果を含めた報告書は、個人の回答が特定できないように編集した上で、当法人ウェブサイトなどで公表します。

## 【アンケートに関するお問合せ先】

有限責任監査法人トーマツ ヘルスケア 木村(健太郎)、平岡  
メールアドレス: jimukyoku@tohatsu.co.jp

## 0. 基本情報①

回答者: 全員

改ページ

SQ1 FA あなたの年齢を教えてください。

 歳

SQ2 SA あなたの性別を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)

- 1 男
- 2 女
- 3 その他
- 4 答えたくない

SQ3 SA 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(当てはまるものを1つ選択)  
※ ここで「お世話」とは家族の介護その他の日常生活上の世話などをすることをいいます。  
また、「お世話」には、家族の感情面のサポート等も含まれます。

- 1 現在いる
- 2 現在はいない

回答者: SQ3=○1

改ページ

SQ4 SA あなたがお世話をしている対象及びお世話を必要とする方の状況について教えてください。(当てはまるものを1つ選択)

- 1 お世話をしている対象が「子ども」で、未成年であることだけが理由でお世話が必要な状況
- 2 上記以外の状況

※ お世話をしている対象が「子ども」であっても、未成年であること以外に障害や病気などの理由がある場合、または「子ども」以外の家族【高齢者、障害者、病気の方など】のお世話が必要な場合は選択肢○2「上記以外の状況」を選択ください。

## 1. 基本情報②

回答者: 全員

改ページ

Q1-1 SA あなたが住んでいる都道府県はどこですか。(当てはまるものを1つ選択)  
※都道府県名プルダウン

Q1-2 SA あなたの職種を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)

- 1 経営者・役員
- 2 会社員(正社員)
- 3 会社員(契約社員・派遣社員)
- 4 パート・アルバイト
- 5 公務員(教職員除く)
- 6 教職員
- 7 医療関係者
- 8 自営業・自由業
- 9 専業主婦・主夫
- 10 学生
- 11 工業
- 12 NGO・NPO 法人職員
- 13 無職
- 14 その他(具体的に )

回答者: Q1-2≠○9,10,13

改ページ

Q1-3 SA あなたの業種を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)

- 1 農業、林業
- 2 漁業
- 3 鉱業、採石業、砂利採取業
- 4 建設業
- 5 製造業
- 6 電気・ガス・熱供給・水道業
- 7 情報通信業
- 8 運輸業、郵便業
- 9 卸売業、小売業
- 10 金融業、保険業
- 11 不動産業、物品賃貸業
- 12 学術研究、専門・技術サービス業
- 13 宿泊業、飲食サービス業
- 14 生活関連サービス業、娯楽業
- 15 教育、学習支援業
- 16 医療、福祉
- 17 複合サービス事業
- 18 その他サービス業
- 19 公務

**回答者：全員** 改ページ

Q1-4 SA 現在の婚姻状態を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)  
1 未婚  
2 既婚(離死別を含む)

Q1-5 SA こどもの有無を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)  
1 いる  
2 いない

**回答者：Q1-5=○1** 改ページ

Q1-6 MA こどもの年代を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)  
 (※小学生と中学生のお子様がいる場合には「小学生」「中学生」を選択、小学生が2人いる場合には「小学生」のみ選択をしてください。)  
1 小学校入学前  
2 小学生  
3 中学生  
4 高校生  
5 社会人、その他

**回答者：全員** 改ページ

Q1-7 SA あなたの現在の住まい方を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)  
1 家族と同居  
2 一人暮らし  
3 その他(具体的に )

**回答者：Q1-7=○1** 改ページ

Q1-8 MA あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(当てはまるものすべてを選択)  
1 母親  
2 父親  
3 兄( 人)  
4 姉( 人)  
5 弟( 人)  
6 妹( 人)  
7 祖母  
8 祖父  
9 曾祖母  
10 曾祖父  
11 叔母  
12 叔父  
13 あなたの配偶者・パートナー  
14 あなたの子ども( 人)  
15 いとこ( 人)  
16 甥、姪( 人)  
17 母親のパートナー  
18 父親のパートナー  
19 その他(具体的に )

**2. ふだんの生活についてお伺いします。**

**回答者：全員** 改ページ

Q2-1 SA 現在の生活に満足しているか教えてください。(当てはまるものを1つ選択)  
1 満足している  
2 どちらともいえない  
3 満足していない

Q2-2 SAMT 自身の状況について教えてください。(それぞれ当てはまるものを1つ選択)

① 他者とのコミュニケーション	1. 得意	2. どちらともいえない	3. 苦手	
② 外出頻度(プライベート)	1. 多い	2. どちらともいえない	3. 少ない	
③ 普段の生活で抱えるストレス	1. 多い	2. どちらともいえない	3. 少ない	
④ 友人	1. 多い	2. どちらともいえない	3. 少ない	
⑤ 親との関係	1. 良好	2. どちらともいえない	3. 良好ではない	4. 該当しない
⑥ きょうだいとの関係	1. 良好	2. どちらともいえない	3. 良好ではない	4. 該当しない
⑦ 配偶者との関係	1. 良好	2. どちらともいえない	3. 良好ではない	4. 該当しない
⑧ こどもとの関係	1. 良好	2. どちらともいえない	3. 良好ではない	4. 該当しない
⑨ 職場・学校の人間関係	1. 良好	2. どちらともいえない	3. 良好ではない	4. 該当しない

Q2-3 SAMT あなたの健康状態について教えてください。(当てはまるものを1つ選択)

	1. よい	2. まあよい	3. ふつう	4. あまりよくない	5. よくない
① 身体面の健康状態	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
② 精神面の健康状態	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**回答者：Q2-3②=○4、5** 改ページ

Q2-4 SAMT 最近の1週間の精神面の健康状態について教えてください。(当てはまるものを1つ選択)

	1. ある	2. まあある	3. どちらともいえない	4. あまりない	5. ない
① 孤独を感じることはありませんか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
② 無気力な気持ちになることがありますか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
③ 消えてしまいたいと思うことはありますか？	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q2-5 SAMT あなたは、つらい経験や心の傷を整理するためのカウンセリングや心理療法を受けたことがありますか。(当てはまるものを1つ選択)  
1 現在、受けている  
2 過去に受けたことがあるが、今は受けていない  
3 受けたことはない

**回答者：Q2-5=○2、3** 改ページ

Q2-6 SA つらい経験や心の傷を整理するためのカウンセリングや心理療法が、もし身近にあったら利用したいと思いますか。(当てはまるものを1つ選択)  
1 利用したい(選択肢2を除く)  
2 安価であれば利用したい  
3 あまり利用したいと思わない  
4 まったく利用したいと思わない

**回答者：Q1-6=○1** 改ページ

Q2-7 SA 今後の結婚願望について教えてください。(当てはまるものを1つ選択)  
1 結婚したい(パートナー証明等を含む)  
2 どちらともいえない  
3 結婚したくない

回答者：Q2-7=O3

改ページ

- Q2-8 MA 結婚したくない理由について教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
- 1 お金を自由に使いたいから
  - 2 時間を自由に使いたいから
  - 3 結婚相手に気を使いたくないから
  - 4 結婚したいと思う人がいないから
  - 5 相手の家族との付き合いが面倒だから
  - 6 仕事や趣味を優先したいから
  - 7 家族を養う自信がないから
  - 8 結婚までの過程が面倒だから
  - 9 同性婚などの制度が十分ではないから
  - 10 その他(具体的に )

回答者：全員

改ページ

- Q2-9 SA あなた個人の現在の年収について教えてください。(当てはまるものを1つ選択)
- 01 収入なし
  - 02 1円以上~200万円未満
  - 03 200万円以上~400万円未満
  - 04 400万円以上~600万円未満
  - 05 600万円以上~800万円未満
  - 06 800万円以上~1,000万円未満
  - 07 1,000万円以上~2,000万円未満
  - 08 2,000万円以上
  - 09 わからない

**3. 家庭や家族のことについてお伺いします。**

回答者：全員

改ページ

- Q3-1 SA 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(当てはまるものを1つ選択)
- ※ ここで「お世話」とは家族の介護その他の日常生活上の世話などをするをいいます。また、「お世話」には、家族の感情面のサポート等も含まれます。
- 01 現在いる
  - 02 現在はいるが、過去にいた
  - 03 現在も過去もない ⇒ Q3-27へ

回答者：Q3-1=O1、O2

改ページ

- Q3-2 MA あなたのお世話を必要としている人はどなたですか。(当てはまるものすべてを選択)
- ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人について教えてください。
- ※現在お世話をしている人と、過去にお世話をしていた人が異なる場合は、現在お世話をしている人について教えてください。
- 01 母親
  - 02 父親
  - 03 祖母
  - 04 祖父
  - 05 きょうだい
  - 06 子ども
  - 07 配偶者・パートナー
  - 08 その他(具体的に )

回答者：Q3-1=O1、O2

改ページ

- Q3-3 MAMT お世話を必要としている方の状況を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
- ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人について教えてください。

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	子ども	配偶者・パートナー	その他
①高齢(65歳以上)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②若い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③要介護(介護が必要な状態)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④認知症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤身体障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥知的障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦発達障がい(疑いを含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧精神疾患(疑いを含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨依存症(アルコール依存症、ギャンブル依存症など)(疑い含む)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ ⑧、⑨以外の病気	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪日本語が苦手、わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ひきこもり、不登校	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬その他(具体的に )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q3-4 MAMT

- あなたがやっているお世話の内容を教えてください。(当てはまるものすべてを選択)
- ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人について教えてください。

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	子ども	配偶者・パートナー	その他
①家事(食事の準備や掃除、洗濯)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②きょうだいや、あなたの子どもの世話、保育所等への送迎など	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③身体的な介護(入浴やトイレ、食事のお世話など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④外出の付き添い(買い物、散歩など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤通院の付き添い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥入院や入所をしている家族との面会	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦医療的ケア(経管栄養の管理や痰(たん)の吸引など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨見守り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩通訳(日本語や手話など)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪金銭管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫家計支援(仕送りや、家族のために働くなど)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬業の管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮支援を入れるための事業者との連絡・調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯支援を入れるための家族との連絡・調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑰その他(具体的に )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q3-5～9は、お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。

回答者：Q3-1=○1、○2

改ページ

- Q3-5 MA お世話は誰と行っていますか。(当てはまるものすべてを選択)  
 ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人がいたときのことを教えてください。
- 1 母親
  - 2 父親
  - 3 祖母
  - 4 祖父
  - 5 きょうだい
  - 6 こども
  - 7 配偶者・パートナー
  - 8 親戚の人
  - 9 自分のみ
  - 10 福祉サービス(ヘルパーなど)を利用
  - 11 その他(具体的に )
- Q3-6 SA あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか。(当てはまるものを1つ選択)  
 ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人がいたときのことを教えてください。
- 1 ほぼ毎日
  - 2 週に3～5日
  - 3 週に1～2日
  - 4 1か月に数日
  - 5 その他(具体的に )
- Q3-7 SA 平日にお世話は何時間程度行っていますか。(日によって異なる場合は、この1か月の中で最も長かった日の時間を教えてください) (当てはまるものを1つ選択)  
 ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人がいたときのことを教えてください。
- 1 1時間未満
  - 2 1時間以上3時間未満
  - 3 3時間以上5時間未満
  - 4 5時間以上7時間未満
  - 5 7時間以上
- Q3-8 SA あなたはいつからお世話を行っていますか。(はっきりとわからない場合は、だいたいでもかまいません) (当てはまるものを1つ選択)  
 ※現在お世話を必要としている人がいない場合は、過去にお世話を必要としていた人がいたときのことを教えてください。
- 1 小学校就学以前から
  - 2 小学校低学年(1～3年生)から
  - 3 小学校高学年(4～6年生)から
  - 4 中学生から
  - 5 高校生(高校生世代の時)から
  - 6 高校を卒業して以降(高校卒業後の世代以降)(選択肢7を除く) ⇒ ( )歳ごろから
  - 7 あなたのこどもが生まれて以降 ⇒ ( )歳ごろから

回答者：Q3-1=○2

改ページ

- Q3-9 SA あなたはいつまでお世話をしていましたか。(はっきりとわからない場合は、だいたいでもかまいません) (当てはまるものを1つ選択)
- 1 中学入学以前まで
  - 2 高校入学以前まで
  - 3 専門学校や大学入学以前まで
  - 4 社会人になる前まで
  - 5 10年前まで
  - 6 5年前まで
  - 7 直近(1年以内)まで
  - 8 その他(具体的に )

回答者：Q3-1=○1、○2

改ページ

- Q3-10 MA お世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことはありますか。(当てはまるものすべてを選択)
- 1 学校に行きたくても行けなかった
  - 2 単位をとれなかった、留年・休学した
  - 3 課題・予習復習をする時間が取れなかった
  - 4 進学をあきらめた
  - 5 留学をあきらめた
  - 6 睡眠が十分に取れなかった
  - 7 友人と遊ぶことができなかった
  - 8 部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった
  - 9 課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった
  - 10 就職・アルバイトができなかった
  - 11 就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した
  - 12 勤務時間に制約があり、昇進・昇任できなかった
  - 13 勤務地の移動ができなかった
  - 14 就業後のレクリエーションに参加できなかった
  - 15 一人暮らしをしたくてもできなかった
  - 16 恋愛をしたくてもできなかった
  - 17 自分の時間が取れなかった
  - 18 その他(具体的に )
  - 19 特になかった

Q3-11 MAMT, SAMT 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることはありますか。

	Q3-11-1 当てはまる ものすべて に○	Q3-11-2 もっとも当 てはまるも の1つに○
① 家族との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 家族以外との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 恋愛・性に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 結婚・離婚に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ いじめ、ハラスメント	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 生きがいに関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 自由にできる時間がないこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 収入・家計・借金等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 自分の病気や心身の不調	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 家族の病気や介護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 妊娠・出産	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 育児	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 家事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 自分の学業・受験・進学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮ こどもの教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯ 自分の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑰ 家族の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑱ その他(具体的に )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑲ 特にない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q3-11-3. 上記Q3-11-2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、悩んだり、困ったりしていることの内容を教えてください。(任意)

回答者：Q3-11-2#○19

改ページ

Q3-12 SA 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることとして、Q3-11-2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、家族のお世話をしていることによる影響だと感じることはありますか。（当てはまるものを1つ選択）

- 1 影響があると感じる
- 2 わからない
- 3 影響があるとは感じない

どのような影響があると感じるか、具体的な内容について教えてください。（任意）

Q3-13 MA 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることとして、Q3-11-2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、今後、どうしていきたいと考えているかについて教えてください。（当てはまるものすべてを選択）

- 1 自分で解決したい
- 2 周囲の人や専門家に相談したい
- 3 その他（具体的に）
- 4 特に何もする予定はない

今後、どうしていきたいか、具体的に考えていることがあれば教えてください。（任意）

回答者：Q3-14=○1、○2

改ページ

Q3-14 MAMT お世話をすることにきつさを感じていますか。（当てはまるものすべてを選択）

		1. 身体的 にきつい	2. 精神的 にきつい	3. 時間的 余裕がない	4. 特にき つさは感じ ていない
お世話を必 要としてい る方	① 母親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	② 父親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	③ 祖母	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	④ 祖父	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑤ きょうだい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑥ こども	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑦ 配偶者・パートナー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	⑧ その他	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q3-14①～⑧=□1～3

改ページ

Q3-15 FA これまでお世話をしてきたなかで、きつかったこととして印象に残っていることは何ですか。（任意）

Q3-16 SA Q3-15で回答した頃と今を比較して、きつさの程度に変化はありましたか。（当てはまるものを1つ選択）

- ※ お世話を必要としている方が複数いる場合も、それぞれの方ごとではなく一括でお答えください。
- 1 とても改善した
- 2 少し改善した
- 3 変わらない
- 4 少し悪化した
- 5 とても悪化した

回答者：Q3-16=○1～2

改ページ

Q3-17 MA 過去と比較して、きつさが改善したとを感じる主な理由について教えてください。（当てはまるものすべてを選択）

- 1 家族や周囲からの支援や理解が増えた
- 2 福祉サービスや相談機関などから支援を受けられるようになった
- 3 お世話の内容や量が変化した（減った）
- 4 相談できる人や場所ができた
- 5 自分の気持ちの持ち方や考え方が変化した
- 6 学業や仕事など、生活環境が変化した
- 7 自分や家族の健康状態が変化した
- 8 その他（具体的に）
- 9 わからない

回答者：Q3-16=○4～5

改ページ

Q3-18 FA 過去と比較して、きつさが悪化したとを感じる主な理由について教えてください。（任意）

回答者：Q3-1=○1、○2

改ページ

Q3-19 MA ご自身がお世話をする理由をどのようにとらえていますか。（当てはまるものすべてを選択）

- 1 自分がお世話をしたいと思うため
- 2 自分がお世話をしないと家族が困るため
- 3 ほかにお世話をできる人がいないため
- 4 ほかに家族や親せき等から世話をしよう言われているため
- 5 その他（具体的に）
- 6 わからない・考えたことがない

Q3-20 SA お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。（当てはまるものを1つ選択）

- 1 主な相談事項として相談したことがある
- 2 主な相談事項ではなかったが、相談したことがある  
⇒ 主な相談事項（ ）
- 3 上記1、2いずれの場合でも相談をしたことがある  
⇒ 主な相談事項（ ）
- 4 その他（具体的に）
- 5 相談したことはない

回答者：Q3-20=O1~4  
Q3-21 MAMT, SAMT

改ページ

お世話を必要としている家族のことを相談した相談相手・相談先として該当するものを教えてください。

	Q3-21-1 当てはまる ものすべて に○	Q3-21-2 相談してよ かったと一 番感じる 相談相手・ 相談先に一 つに○
① 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 親戚（おじ、おばなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 友人	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 交際相手、配偶者	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 大学や専門学校の指導教員	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 職場の先輩や上司	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ ピアサポート等同じ境遇の人	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ SNS上での知り合い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 民生委員・児童委員	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 地域若者サポートステーションハローワークなどの就労支援機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮ 病院などの医療機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯ 地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑰ 相談支援事業所などの障害福祉関係機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑱ 保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑲ 福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑳ フリースクール・こども食堂などの民間団体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
㉑ 警察	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
㉒ その他（具体的に	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q3-21-3. 上記Q3-21-2で選択した相談相手・相談先について、相談してよかったと感じる理由を教えてください。（任意）

回答者：Q3-21-2=O11~20  
Q3-22 FA

改ページ

Q3-21-2で選択した相談先の名称を教えてください。（任意）

※本事業では、2025年11月に、「家族のお世話をする若者」を支援する団体等を対象としたアンケートを実施する予定です。  
上記で挙げただいた相談先を当該アンケートの対象に加える可能性がありますので、その点ご容赦いただけますと幸いです。  
なお、相談先名称を含め回答は任意です。

回答者：Q3-20=O5  
Q3-23 MA

改ページ

誰にも相談したことがない理由として、もっとも当てはまるものをお答えください。（当てはまるものすべてを選択）

- 1 誰かに相談するほどの悩みではない
- 2 家族外の人に相談するような悩みではない
- 3 誰に相談するのがよいかわからない
- 4 相談できる人が身近にいない
- 5 家族のここのため話にくい
- 6 家族のことを知られたくない
- 7 家族に対して偏見を持たれたくない
- 8 相談しても状況が変わるとは思わない
- 9 その他（具体的に

Q3-24 SA

お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人はいますか。（当てはまるものを1つ選択）

- 1 いる
- 2 いない

回答者：Q3-1=O1、O2  
Q3-25 MAMT, SAMT

改ページ

周りの大人（大学、職場、自治体等を含む）にサポートしてほしいことや、必要としている支援はありますか。

	Q3-25-1 当てはまる ものすべて に○	Q3-25-2 もっとも当 てはまるも の1つに○
① 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② 家族のお世話について相談にのってほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい ＝具体的にどんなお世話、もしくはどんな時ですか（	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ 自由に使える時間がほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ 進路・進級に関する相談にのってほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ 就職・転職に関する相談にのってほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ 大学の勉強や学習のサポートをしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 結婚に関する相談にのってほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑪ 家庭への経済的な支援をしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑫ 離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）のための経済的な支援をしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑬ 宿泊などで、一時的に家から離れられるような支援をしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑭ 奨学金等、学費への支援をしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑮ ピアサポート等同じ境遇の人と話せる場所がほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑯ カウンセリングや心理療法を受けるための経済的な支援をしてほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑰ 年齢等に関わらず継続的に相談できる相手がほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑱ 柔軟な勤務時間・テレワークの導入等、家族のお世話をしながらでも働きたい勤務環境を整備してほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑲ 家族のお世話に関する職場内での理解が、より進んでほしい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
㉑ その他（具体的に	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
㉒ 特にない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
㉓ わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q3-25-3. 上記Q3-25-2で選択した項目について、その具体的な内容を教えてください。（任意）

Q3-26 FA

18歳未満の頃を振り返った時に、「当時あったらよかった」と感じる支援や、周りの大人からのサポートがあれば教えてください。（任意）

回答者：Q3-1=O3

改ページ

- Q3-27 SA 今後 5年間のうちに、あなたの家族に介護が必要となる可能性はありますか。(当てはまるものを1つ選択)
- O1 可能性がかなり高い
  - O2 可能性が少しある
  - O3 可能性はほとんどない

回答者：Q3-27=O1、2

改ページ

- Q3-28 MA 将来あなたが介護する可能性のあるご家族・親族はどなたですか。(当てはまるものすべてを選択)
- O1 母親
  - O2 父親
  - O3 祖母
  - O4 祖父
  - O5 きょうだい
  - O6 こども
  - O7 配偶者・パートナー
  - O8 その他(具体的に )

- Q3-29 SA 将来、あなたが直面することになる介護について、どの程度の不安を感じますか。(当てはまるものを1つ選択)
- O1 非常に不安を感じる
  - O2 不安を感じる
  - O3 少し不安を感じる
  - O4 どちらともいえない
  - O5 不安を感じない

回答者：Q3-29=O1~3

改ページ

- Q3-30 MA 将来、あなたが直面することになる介護について、どのような不安を感じますか。(当てはまるものすべてを選択)
- O1 経済的な負担(介護費用・医療費など)が心配
  - O2 仕事や学業との両立ができるか不安
  - O3 自分の時間や生活が制限されることへの不安
  - O4 介護サービスや支援制度の利用方法が分からない
  - O5 介護による心身のストレス・疲労が心配
  - O6 家族や周囲の理解・協力が得られるか不安
  - O7 介護する相手との関係悪化やコミュニケーションの難しさ
  - O8 介護がいつまで続くかわからず、結婚や育児などの将来の見通しを立てにくいことへの不安
  - O9 その他(具体的に )

#### 4. ヤングケアラーについてお伺いします。

回答者：全員

改ページ

ヤングケアラーとは、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」のことを言います。

ヤングケアラーのイメージ(例)



出所：子ども家庭庁HP (<https://www.cfa.go.jp/policies/young-carer>)

回答者：全員

改ページ

- Q4-1 SA 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。(当てはまるものを1つ選択)
- O1 聞いたことがあり、内容も知っている
  - O2 聞いたことはあるが、よく知らない
  - O3 聞いたことはない

回答者：Q4-1=O1、O2

改ページ

- Q4-2 SA 「ヤングケアラー」には、家族の介護等のために「こどもから大人への移行」が難しくなっている18歳以上の若者が含まれることを、これまでに聞いたことがありますか。(当てはまるものを1つ選択)
- O1 聞いたことがある
  - O2 聞いたことはない

- Q4-3 MA 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。(当てはまるものすべてを選択)

- O1 テレビ
- O2 新聞
- O3 雑誌や本
- O4 国・自治体などの行政の広報誌
- O5 講演会やイベント
- O6 学校
- O7 webサイト
- O8 SNS
- O9 友人・知人から聞いた
- O10 家族から聞いた
- O11 その他(具体的に )

回答者：全員 改ページ

Q4-4 SA あなた自身は「ヤングケアラー」に当てはまると思いますか。(当てはまるものを1つ選択)

○1 現在、当てはまる  
○2 現在は当てはまらないが、かつて当てはまったと思う  
○3 当てはまらない  
○4 わからない

Q4-5 MA 仮に身の回りに「ヤングケアラー」と思われることも、若者がいた場合、どのような対応をしますか。(当てはまるものすべてを選択)

□1 関係機関に相談する  
□2 家族、知人、友人に相談する  
□3 本人に様子を聞く  
□4 何もしない  
□5 わからない  
□6 その他(具体的に )

回答者：Q4-5=□1 改ページ

Q4-6 MA Q4-5で「1. 関係機関に相談する」と回答した方にお聞きします。どのような機関に相談しようと思いますか。(当てはまるものすべてを選択)

□1 学校や教育委員会  
□2 民生委員・児童委員  
□3 子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関  
□4 児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関  
□5 ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関  
□6 地域若者サポートステーションハローワークなどの就労支援機関  
□7 病院などの医療機関  
□8 地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関  
□9 相談支援事業所などの障害福祉関係機関  
□10 保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関  
□11 福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関  
□12 フリースクール・こども食堂などの民間団体  
□13 警察  
□14 職場の相談窓口(人事・総務部門等への相談を含む)  
□15 その他(具体的に )

回答者：Q4-5=□4 改ページ

Q4-7 SA Q4-5で「4. 何もしない」と回答した理由としてもっとも当てはまるものをお答えください。(当てはまるものを1つ選択)

○1 どのように対応したらよいかわからないため  
○2 家庭の問題に関わることに抵抗感があるため  
○3 家族が家族の世話をすることは当たり前であるため  
○4 相談する余裕がないため  
○5 その他(具体的に )

回答者：全員 改ページ

Q4-8 MAMT, SAMT ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うこととして当てはまるものをお答えください。(当てはまるものすべてを選択)

	Q4-8-1	Q4-8-2
	当てはまるものすべてに○	もっとも当てはまるもの一つに○
① こどもや若者が学校でヤングケアラーについて学ぶ時間を増やす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
② こどもや若者が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③ こどもや若者と関わる大人が研修等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④ 大人が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑤ 大人とこどもや若者が一緒に学ぶ機会を増やす	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑥ テレビ番組やテレビCMを活用した広報活動を拡充する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑦ SNS や動画共有サイト、インターネットを活用した広報活動を拡充する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑧ パンフレットやチラシなどの印刷物を用いた広報活動を拡充する	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑨ その他(具体的に )	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
⑩ 必要だと思うことはない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4-8-3. 上記Q4-8-2で選択した項目について、その具体的な内容を教えてください。(任意)

回答者：Q3-1=○1、○2 改ページ

Q4-9 FA 18歳以上のヤングケアラーへの支援を行う上で、行政が知っておくべきことがあれば教えてください。(任意)

回答者：全員 改ページ

Q4-10 FA ヤングケアラーへの支援を広げていくために必要だと思うことや、要望等があれば教えてください。(任意)

回答者：Q3-1=○1、○2 改ページ

Q4-11 SA 本調査研究では、行政がみなさんに提供するサービスをよりよくするため、家族のお世話をを行う若者の方にインタビュー(オンライン等により30分程度、2025年12月～2026年2月頃実施予定)を実施したいと考えています。インタビューにご協力いただくことは可能でしょうか。(当てはまるものを1つ選択)

なお、ご協力いただけました際はインタビュー対象者に対して薄謝を進呈いたします。  
※ 安心した環境でインタビューにご協力いただけるよう、必要に応じて他の方(ご家族や支援団体等)に同席していただくことも可能です。  
※ インタビューは、主に「1. 協力が可能」と回答された方の中から選定し、実際にお願いただいた方に対しては、12月ごろに入力いただいたメールアドレスに対してご連絡させていただきます。

○1 協力が可能  
○2 どちらともいえない  
○3 協力できない

【ご連絡先】

名前(ペンネームや仮名等でも可)	
連絡先(メールアドレス)	

本アンケートへのご協力ありがとうございました。  
(アンケートへの回答はPDFではなくアンケートサイトよりお願いいたします。)

■アンケート（団体票）見本

**18歳以上のヤングケアラーへの支援に関するアンケート  
ご協力のお願い**

こども家庭庁 子ども・子育て支援推進調査研究事業事務局  
(有限責任監査法人トーマツ)

・有限責任監査法人トーマツでは、令和7年度こども家庭庁 子ども・子育て支援推進調査研究事業として「ヤングケアラーの実態把握等に関する調査研究」を行っております。  
この事業は、18歳以上のヤングケアラーに対する効果的な支援の在り方を検討し、ヤングケアラー支援の更なる充実・改善への一助にすることを旨とするために行うものです。  
このアンケートは、本事業で設置した有識者で構成する検討委員会の委員からの助言を踏まえつつ、子ども・若者総合相談センターや過年度のヤングケアラーに関する子ども・子育て支援推進調査研究事業の調査にご協力いただきました皆様、ヤングケアラー支援に係る地方自治体の事業を行うヤングケアラー支援団体等から対象を選定し、ご案内しています。  
ご回答内容は、すべて統計的に処理するため、回答者様が特定される形で公表されることはございません。また、ご回答内容は本調査研究や関連する調査研究事業、学術研究の目的以外には使用せず、取扱いに十分注意いたします。  
皆様におかれましては、ご多用の折に大変恐れ入りますが、アンケートにご協力いただけると幸いです。

(※)報告書は令和7年度末を目途に、当法人及びこども家庭庁ホームページにて公開を予定しております

回答期日 **令和7年12月26日(金)まで**  
 回答はこちらから <https://rsch.jp/6b679385f4ae0acc/login.php>  
 (アンケートへの回答は上記アンケートサイトよりお願いいたします。)

【ご回答にあたってのお願い】

- > このアンケートへの協力に同意して下さる場合のみ、ご回答ください。
- > アンケートは携帯電話またはパソコン等をお使いいただき、インターネット上でご回答ください。
- > 回答は、選択肢から選ぶ場合と、数字や具体的な内容をご入力いただく場合があります。設問文の注意書きに従ってご回答ください。
- > このアンケートは、一時保存ができません。回答を途中で中断する場合は、その時点までの回答が保存されませんので、最後までご回答いただくか、改めて初めからご回答をお願いいたします。なお、回答は1団体1回限りです。
- > 集計結果を含めた報告書は、個別の団体及び個人の回答が特定できないように編集した上で、当法人ウェブサイトなどで公表します。

【アンケートに関するお問合せ先】  
 有限責任監査法人トーマツ ヘルスケア 木村（健太郎）、平岡  
 メールアドレス: jimukyoku@tohmatu.co.jp

**1. 貴団体の基本情報**

回答者：全員 改ページ

Q1-1 FA 貴団体名称を教えてください。

Q1-2 SA・FA 貴団体の主たる事務所の所在地を教えてください。  
 Q1-2-1 ※都道府県名プルダウン  
 Q1-2-2 市区町村

Q1-3 SA 貴団体の設立主体を教えてください。(当てはまるものを1つ選択)  
 O1 市区町村(行政)  
 O2 社会福祉法人  
 O3 社団・財団法人  
 O4 学校法人  
 O5 宗教法人  
 O6 民間企業  
 O7 NPO  
 O8 個人  
 O9 任意団体  
 O10 共同設立(具体的に： )  
 O11 その他(具体的に： )

Q1-4 MA 貴団体において実施しているヤングケアラー支援に関する自治体の事業について教えてください。(当てはまるものをすべて選択)  
 Q1 ヤングケアラー支援体制強化事業<sup>※1</sup>  
 Q2 ヤングケアラー相互ネットワーク形成推進事業<sup>※2</sup>  
 Q3 その他(具体的に： )  
 Q4 実施していない

※1 ヤングケアラー支援体制強化事業：ヤングケアラーの実態調査、調査の効率化やヤングケアラーを早期かつ恒常的に把握できる仕組みの構築、18歳以上のヤングケアラーの支援体制の強化や支援の質の向上を図ることを目的とした事業。詳細は以下のリンク先を参照。  
[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/40acef9f-f018-4913-9ee7-ffa98da27c89/ce89a291/20250716\\_policies\\_jidouyokutai\\_sogoshienijitoku\\_69.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/40acef9f-f018-4913-9ee7-ffa98da27c89/ce89a291/20250716_policies_jidouyokutai_sogoshienijitoku_69.pdf)  
[https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic\\_page/field\\_ref\\_resources/e0eb9d18-d7da-43cc-a4e3-51d34ec335c1/151d7c8/20250716\\_policies\\_young-career\\_33.pdf](https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/e0eb9d18-d7da-43cc-a4e3-51d34ec335c1/151d7c8/20250716_policies_young-career_33.pdf)

※2 ヤングケアラー相互ネットワーク形成推進事業：民間団体等で全国規模のイベントやシンポジウムを開催し、地域ごとの当事者、支援者同士の相互交流を促すことにより、ヤングケアラー支援の相互ネットワークの形成を図ることを目的とした事業。詳細は以下のリンク先を参照。  
<https://www.cfa.go.jp/procurement/3726abd9>

**2. 貴団体における支援対象者の属性**

回答者：全員 改ページ

Q2-1 MA・FA 貴団体における支援対象者及び、令和6年度における支援実績を教えてください。  
 ※本人がヤングケアラーと認識していなくても、ヤングケアラーの可能性ある場合等を含めてご回答ください。  
 ※18歳以上の選択肢について、通常は支援対象外としている場合でも、未成年の方の支援継続等で支援実績がある場合は○を選択してください。  
 ※きょうだいを支援している場合は、世帯数ではなくきょうだいの人数を支援実績としてください(例：きょうだい2人と親1人を支援している場合、支援実績は2人と記載)

		1	2
		支援対象に含まれるか否か(当てはまるものをすべて選択)	おおよその支援件数
	18歳未満		
1.1	ヤングケアラー(18歳未満)	<input type="checkbox"/>	
1.2	ヤングケアラー以外(18歳未満)	<input type="checkbox"/>	
	18歳以上、40歳未満		
2.1	ヤングケアラー(18、19歳)	<input type="checkbox"/>	
2.2	ヤングケアラー(20代)	<input type="checkbox"/>	
2.3	ヤングケアラー(30代)	<input type="checkbox"/>	
2.4	ヤングケアラー以外(18歳以上、40歳未満)	<input type="checkbox"/>	
	40歳以上		
3.1	40歳以上の方	<input type="checkbox"/>	

回答者：Q2-1の1.1、2.1~3.0のいずれかが○

Q2-2 MA 貴団体がヤングケアラー支援を行うに至った経緯として、ヤングケアラー支援を始める際に、もともと活動していた支援領域について教えてください。(当てはまるものをすべて選択)

Q1 児童福祉分野  
 Q2 教育分野  
 Q3 若者支援分野  
 Q4 高齢者福祉分野  
 Q5 障害福祉分野  
 Q6 母子保健分野  
 Q7 その他の福祉分野  
 Q8 医療分野  
 Q9 最初からヤングケアラー支援を主な目的として活動  
 Q10 その他(具体的に： )

**3. 貴団体におけるヤングケアラーとのつながり方**

回答者：Q2-1の1、2、1~3のいずれかがON

改ページ

Q3-1 MAMT 貴団体を利用する支援対象者が利用可能な初回相談経路を教えてください。（当てはまるものをすべて選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 直接来所	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 電話	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 メール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 SNS	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 他機関からの紹介	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q2-1の1、2、1~3のいずれかがON

改ページ

Q3-2 SAMT 令和6年度における貴団体を利用した支援対象者の初回相談経路のうち、最も多い相談経路を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 直接来所	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 電話	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 メール	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 SNS	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 他機関からの紹介	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 その他（具体的に：）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答者：Q2-1の2、1、2、1~3のいずれかがON、かつ、Q2-1の2、4がON（18歳以上のYC、YC以外のいずれも支援対象）

改ページ

Q3-3 SA 18歳以上の支援対象者について、ヤングケアラーとヤングケアラー以外で、相談経路の傾向に違いがあると感じますか。（当てはまるものを1つ選択）

- O1 違いがあると感じる
- O2 違いがあるとは感じない
- O3 わからない

Q3-3-1. 18歳以上の支援対象者について、ヤングケアラーとヤングケアラー以外で、相談経路の傾向にどのような違いがあると感じますか。（任意）

回答者：Q2-1の1、2、1~3のいずれかがON

改ページ

Q3-4 MAMT 令和6年度における貴団体としてヤングケアラーと接点を持つために行っている施策を教えてください。（当てはまるものをすべて選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 支援対象者である旨をHP・SNS等で明記	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 他機関に活動内容を共有	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 ポスター・チラシ等の配布や掲示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 学会やイベントへの参加・講演	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**4. 貴団体におけるヤングケアラーの支援ニーズ**

回答者：Q2-1の1、2、1~3のいずれかがON

改ページ

Q4-1 MAMT 令和6年度で、貴団体が支援しているヤングケアラーがお世話をする対象の方として多いものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 母親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 父親	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 祖母	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 祖父	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 きょうだい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 こども	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 配偶者・パートナー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4-2 MAMT 令和6年度で、貴団体が支援しているヤングケアラーがお世話をする対象の方の状況として多いものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 高齢（65歳以上）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 若い	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 要介護（介護が必要な状態）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 認知症	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 身体障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 知的障がい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 発達障がい（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 精神疾患（疑いを含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 依存症（アルコール依存症、ギャンブル依存症など）（疑い含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 上記8、9以外の病氣	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 日本語が苦手、わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 ひきこもり、不登校	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q4-3 MAMT 令和6年度で、貴団体が支援しているヤングケアラーが抱えている支援ニーズとして多いものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 家族との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 家族以外との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 恋愛・性に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 結婚・離婚に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 いじめ、ハラスメント	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 生きがいに関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 自由にできる時間がないこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 収入・家計・借金・貧困（食糧の確保なども含む）等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 自分の病気や心身の不調	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 家族の病気や介護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 妊娠・出産	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 育児	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 家事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 自分の学業・受験・進学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 こどもの教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就職・転職活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 自分の現在の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 家族の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q2-1の2、1～3のいずれかが〇、かつ、Q2-1の1、1または2、4が〇

改ページ

Q4-4 SAMT・FA 年代や支援対象者がおかれている状況による支援ニーズの傾向の違いについて教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3
	違いがあると感じる	違いがあるとは思わない	わからない
1 18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q4-4-1. 支援ニーズの傾向の違いについて具体的に教えてください。（任意）

1 18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー	
2 18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	

回答者：Q2-1の2、1～3のいずれかが〇

改ページ

Q4-5 SAMT 貴団体が支援をした18歳以上のヤングケアラーについて、令和6年度で、以下の状況に該当する方はいましたか。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3
	いた	いない	わからない
1 ① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のこどものみ 【こどものケアが必要な理由】 未成年であること以外に障害や病気などがあるため	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 ② ダブルケアラー（こども+家族のケア） 【ケア対象者】自分のこども+そのほかの家族 【こどものケアが必要な理由】 理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 ③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし） 【ケア対象者】家族（自分のこどもを除く） 【ヤングケアラーの状況】既婚でこどもがいない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 ④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし） 【ケア対象者】家族（自分のこどもを除く） 【ヤングケアラーの状況】未婚でこどもがいない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答者：Q4-5の1～4のいずれか〇1が〇

改ページ

Q4-6 MAMT 貴団体が支援している、18歳以上のヤングケアラーが抱えている支援ニーズとして多いものをケアの状況別で教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

	1	2	3	4
	① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー	② ダブルケアラー（こども+家族のケア）	③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし）	④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし） ←Q4-5の〇1が〇のみ表示
1 家族との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 家族以外との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 恋愛・性に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 結婚・離婚に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 いじめ、ハラスメント	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 生きがいに関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 自由にできる時間がないこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 収入・家計・借金・貧困（食糧の確保なども含む）等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 自分の病気や心身の不調	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 家族の病気や介護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 妊娠・出産	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 育児	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 家事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 自分の学業・受験・進学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 こどもの教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就職・転職活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 自分の現在の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 家族の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

5. 貴団体におけるヤングケアラーへの支援内容

回答者：Q2-1の1、2、1～3のいずれかがON

改ページ

Q5-1 MAMT 貴団体においてヤングケアラーに提供可能な支援サービスを教えてください。（当てはまるものをすべて選択）  
※貴団体で直接提供可能な支援サービスについてのみご回答ください。

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 窓口での相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 オンラインでの相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 福祉給付等の手続き支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 外国語対応通訳支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 家事・育児支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 配食支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 食糧支援（フードバンク）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 こども食堂	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 ショートステイ、トワイライトステイ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 外出時の付き添い・同行支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 現金給付	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就労支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 トラウマケア、心理的支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 精神疾患を有する家族へのケア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 通訳が必要な家族へのケア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q2-1の1、2、1～3のいずれかがON

改ページ

Q5-2 SAMT 貴団体においてヤングケアラーに提供した支援サービスのうち、最も効果的（利用頻度が高い等）だと思う支援サービスを教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 窓口での相談支援	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 オンラインでの相談支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
3 訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
5 ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
6 福祉給付等の手続き支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
7 外国語対応通訳支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
8 家事・育児支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
9 配食支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
10 食糧支援（フードバンク）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
11 こども食堂	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
12 ショートステイ、トワイライトステイ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
13 外出時の付き添い・同行支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
14 現金給付	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
15 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
16 就労支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
17 トラウマケア、心理的支援	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
18 精神疾患を有する家族へのケア	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
19 通訳が必要な家族へのケア	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
21 特になし	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
22 わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

回答者：Q5-2≠21、22

改ページ

Q5-3 FA 上記Q5-2で選択した支援サービスについて効果的だと考える理由を教えてください。（任意）

1 18歳未満のヤングケアラー	
2 18・19歳のヤングケアラー	
3 20代のヤングケアラー	
4 30代のヤングケアラー	

回答者：Q2-1の2、1～3のいずれかがON、かつ、Q2-1の1または2、4がON、かつ、Q5-2の1～4≠21、22

改ページ

Q5-4 SAMT・FA 年代や支援対象者がおかれている状況ごとの、効果的だと思う支援サービスの傾向の違いについて教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3
	違いがあると感じる	違いがあるとは感じない	わからない
1 18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
2 18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

Q5-4-1. 効果的だと思う支援サービスの傾向の違いについて具体的に教えてください。（任意）

1 18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー	
2 18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	

回答者：Q4-5の1～4のいずれかがON

改ページ

Q5-5 SAMT 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーに提供した支援サービスのうち、最も効果的（利用頻度が高い等）だと思ふ支援サービスをケアの状況別で教えてください。（当てはまるものを1～

	1	2	3	4
	① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー	② ダブルケアラー（こども+家族のケア）	③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし）	④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし）
1 窓口での相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 オンラインでの相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 福祉給付等の手続き支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 外国語対応通訳支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 家事・育児支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 配食支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 食糧支援（フードバンク）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 こども食堂	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 ショートステイ、トワイライトステイ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 外出時の付き添い・同行支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 現金給付	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就労支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 トラウマケア、心理的支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 精神疾患を有する家族へのケア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 通訳が必要な家族へのケア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q5-5≠21、22

改ページ

Q5-6 FA 上記Q5-5で選択した支援サービスについて効果的だと思ふ理由を教えてください。（任意）

1	① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー
2	② ダブルケアラー（こども+家族のケア）
3	③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし）
4	④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし）

回答者：Q2-1の1、2、3のいずれかがON

改ページ

Q5-7 MAMT 貴団体が提供している支援の終結に向けた取組のうち、最も効果的と思ふ上位3項目について教えてください。（当てはまるもの3つに○）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 学業の継続・進学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 就労・職業訓練への移行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 ケア負担の軽減・解消（他機関連携による家族支援も含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 精神的・健康面の回復	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 自立の生活への移行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 居場所の提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 他機関への移行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 援助希求力の習得	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 継続的な見守り	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

6. 貴団体におけるヤングケアラーを支援する上での他機関との連携

回答者：Q2-1の1、2、3のいずれかがON

改ページ

Q6-1 MAMT 令和6年度で、貴団体がヤングケアラーを支援するにあたり他機関と連携した実績がある先を教えてください。（当てはまるものをすべて選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 小学校、中学校、高校、大学などの教育機関（フリースクールや学習支援を行う民間支援団体の場合は選択肢13を選択ください。）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 若者への居住支援機関（自立援助ホーム、こども若者シェルターなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 障害福祉関係機関（基幹相談支援センター、相談支援事業所など）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 医療機関（病院、診療所、訪問看護ステーションなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 警察	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 性暴力・DV被害者支援機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 民間支援団体（こども食堂、フリースクール、フードバンクなど）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 民間企業	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q2-1の1、2、1~3のいずれかがON

改ページ

Q6-2 SAMT 令和6年度で、貴団体がヤングケアラーを支援するにあたり最も効果的だと思う連携先を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3	4
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
1 ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）	○	○	○	○
2 ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	○	○	○	○
3 小学校、中学校、高校、大学などの教育機関（フリースクールや学習支援を行う民間支援団体の場合は選択肢13を選択ください。）	○	○	○	○
4 子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）	○	○	○	○
5 就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）	○	○	○	○
6 社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）	○	○	○	○
7 若者への居住支援機関（自立援助ホーム、こども若者シェルターなど）	○	○	○	○
8 介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など）	○	○	○	○
9 障害福祉関係機関（基幹相談支援センター、相談支援事業所など）	○	○	○	○
10 医療機関（病院・診療所、訪問看護ステーションなど）	○	○	○	○
11 警察	○	○	○	○
12 性暴力・DV被害者支援機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど）	○	○	○	○
13 民間支援団体（こども食堂、フリースクール、フードバンクなど）	○	○	○	○
14 民間企業	○	○	○	○
15 その他（具体的に：）	○	○	○	○
16 特になし	○	○	○	○
17 わからない	○	○	○	○

回答者：Q6-2≠16、17

改ページ

Q6-3 FA 上記Q6-2で選択した連携先について効果的だと考える理由を教えてください。（任意）

1 18歳未満のヤングケアラー	
2 18・19歳のヤングケアラー	
3 20代のヤングケアラー	
4 30代のヤングケアラー	

回答者：Q2-1の2、1~3のいずれかがON、かつ、Q2-1の1または2がON、かつ、Q6-2の1~4≠○16、17

改ページ

Q6-4 SAMT・FA 年代や支援対象者がおかれている状況ごとの、効果的だと思う連携先の傾向の違いについて教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3
	違いがあると感じる	違いがあるとは感じない	わからない
1 18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー	○	○	○
2 18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	○	○	○

Q6-4-1. 効果的だと思う連携先の違いについて具体的に教えてください。（任意）

1 18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー	
2 18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者	

回答者：Q4-5の1~4のいずれか○1がON

改ページ

Q6-5 SAMT 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーを支援するにあたり最も効果的だと考える連携先について、ケアの状況別で教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1	2	3	4
	① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー	② ダブルケアラー（こども+家族のケア）	③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし）	④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし）
1 ヤングケアラー居住地域の地方自治体（児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等）	○	○	○	○
2 ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	○	○	○	○
3 小学校、中学校、高校、大学などの教育機関（フリースクールや学習支援を行う民間支援団体の場合は選択肢13を選択ください。）	○	○	○	○
4 子ども・若者に関する行政の相談・支援機関（児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等）	○	○	○	○
5 就労・自立相談支援機関（地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等）	○	○	○	○
6 社会福祉に関する行政の相談機関（福祉事務所など）	○	○	○	○
7 若者への居住支援機関（自立援助ホーム、こども若者シェルターなど）	○	○	○	○
8 介護関係機関（地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など）	○	○	○	○
9 障害福祉関係機関（基幹相談支援センター、相談支援事業所など）	○	○	○	○
10 医療機関（病院・診療所、訪問看護ステーションなど）	○	○	○	○
11 警察	○	○	○	○
12 性暴力・DV被害者支援機関（性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど）	○	○	○	○
13 民間支援団体（こども食堂、フリースクール、フードバンクなど）	○	○	○	○
14 民間企業	○	○	○	○
15 その他（具体的に：）	○	○	○	○
16 特になし	○	○	○	○
17 わからない	○	○	○	○

回答者：Q6-5≠16、17

改ページ

Q6-6 FA 上記Q6-5で選択した連携先について効果的だと考える理由を教えてください。（任意）

1 ① 障害・病気等のあるこどものみをケアするケアラー	
2 ② ダブルケアラー（こども+家族のケア）	
3 ③ 家族をケアするケアラー（既婚・こどもなし）	
4 ④ 家族をケアするケアラー（未婚・こどもなし）	

**7. 貴団体における18歳以上のヤングケアラー支援の課題**

回答者：Q2-1の2\_1~3のいずれかがON

改ページ

Q7-1 MA・SA 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーを支援をする上での課題について教えてください。

	Q7-1-1 当てはまる ものをすべ て	Q7-1-2 最も課題と 思うもの
1 18歳以上のヤングケアラーの把握	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 多様な年齢層、支援ニーズへの対応	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 他機関との連携	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 支援の継続に向けた取組	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 支援者の確保・育成	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 資金・予算の確保	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 広報・啓発活動（周知不足等）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 18歳以上のヤングケアラーの家族との信頼関係構築	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q7-1-2の○1~10のいずれかがON

改ページ

Q7-2 FA 上記Q7-1-2で選択した内容について、最も課題だと思うことについてより詳しく教えてください。（任意）

回答者：Q2-1の2\_2~3のいずれかがON

改ページ

Q7-3 FA 18歳以上、40歳未満のヤングケアラーを支援するにあたり、特に工夫していることについて、理由とともに教えてください。（任意）

Q7-4 SA 貴団体では、18歳未満の時に家族へのケアを担っていた、元ヤングケアラーへの支援をしたことがありますか。（当てはまるものを1つ選択）  
 ○1 支援したことがある  
 ○2 支援したことはない  
 ○3 わからない

回答者：Q7-4の○1がON

改ページ

Q7-5 FA 18歳未満の時に家族へのケアを担っていた、元ヤングケアラーを支援するにあたり、最も課題だと思うことについて、理由とともに教えてください。（任意）

回答者：全員

改ページ

Q7-6 SA ヤングケアラーの対象が18歳以上、40歳未満まで拡大されたことに対する貴団体の対応について教えてください。（当てはまるものを1つ選択）  
 ○1 従来より支援対象である  
 ○2 支援対象を拡大した  
 ○3 今後、支援対象を拡大する予定である  
 ○4 今後、支援対象を拡大する予定はない  
 ○5 未定

Q7-7 FA ヤングケアラーの対象が18歳以上、40歳未満まで拡大されたことに関して、よりよい支援を提供するため、国や地方自治体に求める要望等がございましたらご自由に記載してください。（任意）

**8. 貴団体における直近の支援事例について**

以下の設問は、令和6年度に支援を行った18歳以上のヤングケアラーについてご回答ください。

回答者：Q2\_1~3の○1~ONの場合、2\_1~3の支援件数に応じて、年代別で最大2枠表示

改ページ

Q8-1 SAMT 令和6年度に、貴団体が支援を行った18歳以上のヤングケアラーについて、初回の相談経路を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）  
 ※以降の設問は同じ方を想定して回答してください。  
 ※初回相談時の年齢を基に回答してください。

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 直接来所	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 電話	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 メール	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 SNS	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 他機関からの紹介	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8-2 SAMT 支援対象者によっては、支援開始時に限らず、様々な段階においてヤングケアラーであると判明する場合があります。支援のどの段階でヤングケアラーであると判明したか教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 相談時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 インテーク（初回）面談時	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 支援期間中	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 支援終了後	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8-3 SAMT ヤングケアラーの方がおかれている状況を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 ①障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 ②ダブルケアラー（子ども+家族のケア）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 ③家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 ④家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8-4 SAMT どのような方法でヤングケアラーであると判明したか教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 本人からの開示	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 本人の相談内容から判明	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 周囲（他機関を含む）からの情報共有	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8-5 SAMT 初回相談時に、ヤングケアラー本人から訴えがあった主な支援ニーズを教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 家族との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 家族以外との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 恋愛・性に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 結婚・離婚に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 いじめ、ハラスメント	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 生きがいに関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 自由にできる時間がないこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 収入・家計・借金・貧困（食糧の確保なども含む）等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 自分の病気や心身の不調	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 家族の病気や介護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 妊娠・出産	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 育児	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 家事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 自分の学業・受験・進学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 こどもの教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就職・転職活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 自分の現在の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 家族の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8-6 SAMT 初回相談時に、貴団体が感じた主な支援ニーズを教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 家族との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 家族以外との人間関係	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 恋愛・性に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 結婚・離婚に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 いじめ、ハラスメント	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 生きがいに関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 自由にできる時間がないこと	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 収入・家計・借金・貧困（食糧の確保なども含む）等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 自分の病気や心身の不調	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 家族の病気や介護	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 妊娠・出産	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 育児	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 家事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 自分の学業・受験・進学	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 こどもの教育	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就職・転職活動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 自分の現在の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 家族の仕事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 離家（親元を離れて別世帯で暮らすこと）に関すること	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Q8-7 MAMT 提供した支援内容を教えてください。（当てはまるものをすべて選択）

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 窓口での相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 オンラインでの相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5 ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
6 福祉給付等の手続き支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7 外国語対応通訳支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8 家事・育児支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9 配食支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
10 食糧支援（フードバンク）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11 こども食堂	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12 ショートステイ、トワイライトステイ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13 外出時の付き添い・同行支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14 現金給付	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
15 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
16 就労支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
17 トラウマケア、心理的支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
18 精神疾患を有する家族へのケア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
19 通訳が必要な家族へのケア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
20 その他（具体的に：）	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
21 特になし	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
22 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q8-7の□1～20=ON  
Q8-8 SAMT 支援途中にヤングケアラーであると判明した段階で支援内容は変わりましたが。（当てはまるものを1つ選択）

改ページ

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 変わった	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2 変わっていない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3 わからない	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

回答者：Q8-8の□1=ON  
Q8-9 FA 支援内容が変わった場合、どのように変わったか教えてください。（任意）

改ページ

	1 18・19歳のヤングケアラー		2 20代のヤングケアラー		3 30代のヤングケアラー	
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)
1 支援内容						

回答者：Q2\_1~3の○1=0Nの場合、2\_1~3の支援件数に応じて、年代別で最大2枠表示  
 Q8-10 SAMT 現在の支援状況を教えてください。（当てはまるものを1つ選択）

改ページ

	1		2		3		4		5		6	
	18・19歳のヤングケアラー		20代のヤングケアラー		30代のヤングケアラー							
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)						
1 支援継続中	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
2 支援中断中	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
3 支援終結済（継続的な見守りを含む）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
4 その他（具体的に：）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
5 わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						

回答者：Q8-10の○3が0N

Q8-11 FA 支援が終結に至った経緯について教えてください。（任意）

改ページ

	1		2		3		4		5		6	
	18・19歳のヤングケアラー		20代のヤングケアラー		30代のヤングケアラー							
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)						
1 終結に至った経緯												

回答者：Q2\_1~3の○1=0Nの場合、2\_1~3の支援件数に応じて、年代別で最大2枠表示

Q8-12 SAMT 支援終結後に再び支援対象となったことがある方はいますか。（当てはまるものを1つ選択）

改ページ

	1		2		3		4		5		6	
	18・19歳のヤングケアラー		20代のヤングケアラー		30代のヤングケアラー							
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)						
1 支援終結後に再び支援対象となったことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
2 支援終結後に再び支援対象となったことはない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						
3 わからない	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>						

回答者：Q8-12-1の○1が0N

Q8-13 FA 支援終結後に再び支援対象となった方の経緯を教えてください。（任意）

改ページ

	1		2		3		4		5		6	
	18・19歳のヤングケアラー		20代のヤングケアラー		30代のヤングケアラー							
	1人目 (Aさん)	2人目 (Bさん)	1人目 (Cさん)	2人目 (Dさん)	1人目 (Eさん)	2人目 (Fさん)						
1 再支援の経緯（再度つながった方法を含む）												

**9. ヒアリング調査へのご協力可否**

回答者：全員

【ヒアリングへのご協力可否について】

Q9-1 SA 本調査研究では、アンケートにご協力いただいた方の中から数名に、ヤングケアラーへの支援に関するヒアリング（オンラインにより1時間程度、2026年1~2月頃実施予定）をお願いしたいと考えています。ヒアリングにご協力いただくことは可能でしょうか。（当てはまるものを1つ選択）  
 なお、ご協力いただけました際はヒアリング対象者に薄謝を進呈いたします。  
 ○1 協力してもよい  
 ○2 どちらともいえない  
 ○3 協力できない

改ページ

回答者：全員

Q9-2 FA

回答者情報  
 ※数値は半角でご入力ください。  
 ※電話番号は、半角数字にてハイフンを除いて入力してください。

改ページ

部署名	
ご担当者名	
連絡先 (TEL)	
連絡先 (Email)	

本アンケートへのご協力ありがとうございました。  
 （アンケートへの回答はアンケートサイトよりお願いいたします。）

01 「子どもの権利」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。（SA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 聞いたことがあります、内容も知っている	6,449	1,655	1,679	2,715	100	253	47	21.0	27.4	15.5	23.0	17.4	21.6	20.6
2 聞いたことはあるが、よく知らない	17,607	3,212	6,074	7,255	312	638	116	57.5	53.3	56.2	61.4	54.3	54.3	50.9
3 聞いたことはない	6,584	1,164	3,058	1,851	163	283	65	21.5	19.3	28.3	15.7	28.3	24.1	28.5

02 「子どもの権利」について、Q1で「聞いたことがあります、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「子どもの権利」という言葉をどこで知りましたか。（MA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	24,056	4,867	7,753	9,970	412	891	163	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 テレビや新聞、ラジオ	9,081	1,924	3,430	3,183	142	324	78	37.7	39.5	44.2	31.9	34.5	36.4	47.9
2 雑誌や本	2,106	606	763	604	32	79	22	8.8	12.5	9.8	6.1	7.8	8.9	13.5
3 SNSやインターネット	6,896	1,325	2,747	2,281	147	348	48	28.7	27.2	35.4	22.9	35.7	39.1	29.4
4 広報やチラシ、掲示物	2,083	461	901	571	51	69	30	8.7	9.5	11.6	5.7	12.4	7.7	18.4
5 イベントや交流会など	6,427	179	2,275	196	18	19	5	27.1	3.7	29.1	2.0	4.4	2.1	3.1
6 学校	15,949	3,167	4,437	7,462	256	561	66	66.3	65.1	57.2	74.8	62.1	63.0	40.5
7 友人・知人から聞いた	1,439	541	583	254	21	30	10	6.0	11.1	7.5	2.5	5.1	3.4	6.1
8 その他	745	344	221	132	11	28	9	3.1	7.1	2.9	1.3	2.7	3.1	5.5

03 周囲の大人や友人が、困っているようにみえることに声をかけることは大切だと思いますか。（SA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 とてもそう思う	18,159	3,783	6,304	6,983	320	652	117	59.3	62.7	58.3	59.1	55.7	55.5	51.3
2 ややそう思う	9,993	1,775	3,617	3,937	190	396	68	32.6	29.4	33.5	33.3	33.0	33.7	29.8
3 どちらともいえない	2,059	379	744	759	51	100	26	6.7	6.3	6.9	6.4	8.9	8.5	11.4
4 あまりそう思わない	274	64	84	96	7	19	4	0.9	1.1	0.8	0.8	1.2	1.6	1.8
5 まったくそう思わない	165	30	62	46	7	7	13	0.5	0.5	0.6	0.4	1.2	0.6	5.7

04 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。（SA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 聞いたことがあります、内容も知っている	13,708	1,509	3,679	7,308	281	812	119	44.7	25.0	34.0	61.8	48.9	69.2	52.2
2 聞いたことはあるが、よく知らない	6,799	1,290	2,599	2,527	147	194	42	22.2	21.4	24.0	21.4	25.6	16.5	18.4
3 聞いたことはない	10,133	3,232	4,533	1,986	147	168	67	33.1	53.6	41.9	16.8	25.6	14.3	29.4

05 「ヤングケアラー」について、Q4で「聞いたことがあります、内容も知っている」「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した方にお聞きします。「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（MA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	20,507	2,799	6,278	9,835	428	1,066	161	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 テレビや新聞、ラジオ	10,894	1,270	3,227	5,504	206	585	102	53.1	45.4	51.4	56.0	48.1	59.2	63.4
2 雑誌や本	2,690	484	640	1,139	57	146	24	13.1	17.3	13.4	11.6	13.3	14.5	14.9
3 SNSやインターネット	7,917	814	2,327	3,962	189	558	67	38.6	29.1	37.1	40.3	44.2	55.5	41.6
4 広報やチラシ、掲示物	3,609	589	1,495	1,231	91	168	35	17.6	21.0	23.8	12.5	21.3	16.7	21.7
5 イベントや交流会など	557	81	154	250	27	38	7	2.7	2.9	2.5	2.5	6.3	3.8	4.3
6 学校	11,399	1,309	3,084	6,154	253	551	48	55.6	46.8	49.1	62.6	59.1	54.8	29.8
7 友人・知人から聞いた	1,330	292	432	498	33	64	11	6.5	10.4	6.9	5.1	7.7	6.4	6.8
8 その他	537	217	176	111	11	16	6	2.6	7.8	2.8	1.1	2.6	1.6	3.7

06 ヤングケアラーの人はどんな悩みがあると思いますか。（MA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 学校に行きたくても行けない	21,133	4,413	7,683	7,787	374	732	144	69.0	73.2	71.1	65.9	65.0	62.4	63.2
2 どうしても学校を遅刻・早退してしまう	16,709	3,534	6,198	5,935	278	641	123	54.5	58.6	57.3	50.2	48.3	54.6	53.9
3 宿題をする時間や勉強する時間が取れない	19,191	3,724	6,651	7,558	300	820	138	62.6	61.7	61.5	63.9	52.2	69.8	60.5
4 睡眠時間が十分に取れない	19,642	3,965	6,906	7,503	336	801	131	64.1	65.7	63.9	63.5	58.4	68.2	57.5
5 友人と遊ぶことができない	20,492	4,125	7,217	7,843	328	826	153	66.9	68.4	68.8	66.3	57.0	70.4	67.1
6 部活や習い事ができない、またはやめなければならなかった	16,867	3,419	6,058	6,348	259	653	130	55.0	56.7	56.0	53.7	45.0	55.6	57.0
7 進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変えた	16,766	2,990	5,792	6,750	293	803	138	54.7	49.6	53.6	57.1	51.0	68.4	60.5
8 自分の時間が取れない	20,093	4,133	7,082	7,491	348	880	159	65.6	68.5	65.5	63.4	60.5	75.0	69.7
9 その他	842	276	325	174	17	33	17	2.7	4.6	3.0	1.5	3.0	2.8	7.5

07 友人や周りに、「ヤングケアラー」にあてはまることもいた場合、どうしますか。（MA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 学校の先生に相談する	12,398	3,026	4,551	4,130	210	400	81	40.5	50.2	42.1	34.9	36.5	34.1	35.5
2 家族（親、きょうだいなど）に相談する	11,536	2,794	4,199	3,904	174	392	73	37.7	46.3	38.8	33.0	30.3	33.4	32.0
3 知り合いの大人（学童の先生、近所の人、スポーツ少年団のコーチ、じゅく先生など）に相談する	5,212	1,375	1,929	1,622	90	159	37	17.0	22.8	17.8	13.7	15.7	13.5	16.2
4 別の友人に相談する	6,008	1,516	2,337	1,891	90	144	30	19.6	25.1	21.6	16.0	15.7	12.3	13.2
5 相談できる場所（相談窓口など）を教えてあげる	10,773	2,535	3,688	3,788	192	489	81	35.2	42.0	34.1	32.0	33.4	41.7	35.5
6 何もしない（いまままで変わらずに、一緒に遊ぶなどして過ごすなど）	3,795	389	1,284	1,856	82	162	22	12.4	6.5	11.9	15.7	14.3	13.8	9.6
7 わからない	3,806	593	1,280	1,514	109	173	37	12.4	9.8	12.8	12.8	19.0	14.7	16.2
8 その他	908	231	326	277	13	49	10	3.0	3.8	3.0	2.3	2.3	4.2	4.4

08 より多くの人にヤングケアラーのことを知ってもらうためには、どのようにお知らせしたいでしょうか。（MA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 ヤングケアラーについて学ぶことができる場所や時間をつくる	18,993	4,009	6,805	7,015	339	698	127	62.0	66.5	62.9	59.3	59.0	59.5	55.7
2 学校の先生など、こどもとかかわる大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる	14,421	3,222	5,152	5,134	239	572	102	47.1	53.4	47.7	43.4	41.6	48.7	44.7
3 大人がヤングケアラーについて学ぶ時間をつくる	9,764	1,847	3,306	3,845	192	493	81	31.9	30.6	30.6	32.5	33.4	42.0	35.5
4 テレビやテレビのCMやネットを使ってみんなに知らせる	10,552	2,271	3,741	3,882	171	416	71	34.4	37.7	34.6	32.8	29.7	35.4	31.1
5 SNSや動画など、インターネットを使ってみんなに知らせる	12,835	2,305	4,625	4,985	240	586	94	41.9	38.2	42.8	42.2	41.7	49.9	41.2
6 パンフレットやチラシなどを使ってみんなに知らせる	6,696	2,136	2,502	1,708	93	210	47	21.9	35.4	23.1	14.4	16.2	17.9	20.6
7 その他	255	94	91	41	7	17	5	0.8	1.6	0.8	0.3	1.2	1.4	2.2
8 必要だと思うことはない	753	159	297	232	23	21	21	2.5	2.6	2.7	2.0	4.0	1.8	9.2

010 あなたの学年もしくは所属する学校を教えてください。（SA）

	回答数(件)							割合(%)						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0					

Q11 あなたの性別を教えてください。（SA）

	回答数（件）							割合（％）						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 男	14,076	2,930	5,303	5,142	289	352	60	45.9	48.6	49.1	43.5	50.3	30.0	26.3
2 女	15,402	2,802	5,166	6,314	253	740	127	50.3	46.5	47.8	53.4	44.0	63.0	55.7
3 その他	231	40	71	76	11	26	7	0.8	0.7	0.7	0.6	1.9	2.2	3.1
4 答えたくない	931	259	271	289	22	56	34	3.0	4.3	2.5	2.4	3.8	4.8	14.9

Q12 居住地

	回答数（件）							割合（％）						
	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない	全体	小学6年生	中学2年生	全日制高校2年生	定時制高校2年生相当	通信制高校生	あてはまるものはない
全体	30,640	6,031	10,811	11,821	575	1,174	228	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 北海道	336	106	182	39	0	0	9	1.1	1.8	1.7	0.3	0.0	0.0	3.9
2 東北	1,200	86	368	648	29	59	10	3.9	1.4	3.4	5.5	5.0	5.0	4.4
3 関東	11,497	2,864	3,852	4,456	54	217	54	37.5	47.5	35.6	37.7	9.4	18.5	23.7
4 北陸	1,095	78	234	706	30	39	8	3.6	1.3	2.2	6.0	5.2	3.3	3.5
5 東山	1,522	411	285	725	60	8	33	5.0	6.8	2.6	6.1	10.4	0.7	14.5
6 東海	4,922	707	2,227	1,643	106	205	34	16.1	11.7	20.6	13.9	18.4	17.5	14.9
7 近畿	4,100	997	1,795	1,185	64	23	36	13.4	16.5	16.6	10.0	11.1	2.0	15.8
8 中国	1,689	165	804	444	58	201	17	5.5	2.7	7.4	3.8	10.1	17.1	7.5
9 四国	1,568	271	391	780	29	93	4	5.1	4.5	3.6	6.6	5.0	7.9	1.8
10 北九州	1,664	332	331	721	61	217	2	5.4	5.5	3.1	6.1	10.6	18.5	0.9
11 南九州	1,047	14	342	474	84	112	21	3.4	0.2	3.2	4.0	14.6	9.5	9.2

子ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査結果（若者）

GROUP グループ（SA）

		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	若者／10代／男性	200	16.7
2	若者／10代／女性	200	16.7
3	若者／20代／男性	200	16.7
4	若者／20代／女性	200	16.7
5	若者／30代／男性	200	16.7
6	若者／30代／女性	200	16.7

SQ2 あなたの性別を教えてください。（SA）

		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	男	574	47.8
2	女	600	50.0
3	その他	8	0.7
4	答えたくない	18	1.5

Q1\_1 あなたが住んでいる都道府県はどこですか。（SA）

		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	北海道	55	4.6
2	青森県	14	1.2
3	岩手県	18	1.5
4	宮城県	32	2.7
5	秋田県	11	0.9
6	山形県	11	0.9
7	福島県	18	1.5
8	茨城県	28	2.3
9	栃木県	19	1.6
10	群馬県	13	1.1
11	埼玉県	80	6.7
12	千葉県	50	4.2
13	東京都	208	17.3
14	神奈川県	82	6.8
15	新潟県	16	1.3
16	富山県	11	0.9
17	石川県	15	1.3
18	福井県	4	0.3
19	山梨県	7	0.6
20	長野県	20	1.7
21	岐阜県	17	1.4
22	静岡県	19	1.6
23	愛知県	66	5.5
24	三重県	14	1.2
25	滋賀県	8	0.7
26	京都府	32	2.7
27	大阪府	81	6.8
28	兵庫県	41	3.4
29	奈良県	10	0.8
30	和歌山県	6	0.5
31	鳥取県	3	0.3
32	島根県	4	0.3
33	岡山県	18	1.5
34	広島県	22	1.8

子ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査結果（若者）

35	山口県	8	0.7
36	徳島県	6	0.5
37	香川県	6	0.5
38	愛媛県	8	0.7
39	高知県	4	0.3
40	福岡県	54	4.5
41	佐賀県	2	0.2
42	長崎県	4	0.3
43	熊本県	18	1.5
44	大分県	13	1.1
45	宮崎県	7	0.6
46	鹿児島県	10	0.8
47	沖縄県	7	0.6

Q4\_1 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありますか。（S A）

		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	聞いたことがあります、内容も知っている	483	40.3
2	聞いたことはあるが、よく知らない	352	29.3
3	聞いたことはない	365	30.4

Q4\_2 「ヤングケアラー」には、家族の介護等のために " 子どもから大人への移行 " が難しくなっている18歳以上の若者が含まれることを、これまでに聞いたことがありますか。（S A）

		回答数	%
全体		835	100.0
1	聞いたことがある	424	50.8
2	聞いたことはない	411	49.2

Q4\_3 「ヤングケアラー」という言葉をどこで知りましたか。（M A）

		回答数	%
全体		835	100.0
1	テレビ	517	61.9
2	新聞	75	9.0
3	雑誌や本	63	7.5
4	国・自治体などの行政の広報誌	66	7.9
5	講演会やイベント	44	5.3
6	学校	177	21.2
7	webサイト	178	21.3
8	SNS	152	18.2
9	友人・知人から聞いた	33	4.0
10	家族から聞いた	38	4.6
11	その他	16	1.9

Q4\_4 あなた自身は「ヤングケアラー」に当てはまると思いますか。（S A）

		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	現在、当てはまる	28	2.3
2	現在は当てはまらないが、かつて当てはまったと思う	65	5.4
3	当てはまらない	868	72.3
4	わからない	239	19.9

子ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査結果（若者）

Q4\_5 仮に身の回りに「ヤングケアラー」と思われることも、若者がいた場合、どのような対応をしますか。（MA）

		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	関係機関に相談する	219	18.3
2	家族、知人、友人に相談する	245	20.4
3	本人に様子を聞く	324	27.0
4	何もしない	267	22.3
5	わからない	381	31.8
6	その他	1	0.1

Q4\_6 Q4-5で「関係機関に相談する」と回答した方にお聞きします。どのような機関に相談しようと思いますか。（MA）

		回答数	%
全体		219	100.0
1	学校や教育委員会	92	42.0
2	民生委員・児童委員	50	22.8
3	子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関	88	40.2
4	児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関	74	33.8
5	ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	21	9.6
6	地域若者サポートステーションハローワークなどの就労支援機関	31	14.2
7	病院などの医療機関	31	14.2
8	地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	44	20.1
9	相談支援事業所などの障害福祉関係機関	25	11.4
10	保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	31	14.2
11	福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	44	20.1
12	フリースクール・こども食堂などの民間団体	20	9.1
13	警察	10	4.6
14	職場の相談窓口（人事・総務部門等への相談を含む）	15	6.8
15	その他	0	0.0

Q4\_7 Q4-5で「何もしない」と回答した理由としてもっとも当てはまるものをお答えください。（SA）

		回答数	%
全体		267	100.0
1	どのように対応したらよいかわからないため	70	26.2
2	家庭の問題に関わることに抵抗感があるため	47	17.6
3	家族が家族の世話をすることは当たり前であるため	37	13.9
4	相談する余裕がないため	106	39.7
5	その他	7	2.6

子ども・若者世代のヤングケアラーの認識等に関するアンケート調査結果（若者）

Q4\_8\_1 ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うこととして当てはまるものをお答えください。／当てはまるものすべてに○（MA）

全体		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	子どもや若者が学校でヤングケアラーについて学ぶ時間を増やす	554	46.2
2	子どもや若者が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	240	20.0
3	子どもや若者と関わる大人が研修等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	242	20.2
4	大人が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	258	21.5
5	大人と子どもや若者が一緒に学ぶ機会を増やす	243	20.3
6	テレビ番組やテレビCMを活用した広報活動を拡充する	297	24.8
7	SNSや動画共有サイト、インターネットを活用した広報活動を拡充する	296	24.7
8	パンフレットやチラシなどの印刷物を用いた広報活動を拡充する	159	13.3
9	その他	10	0.8
10	必要だと思うことはない	430	35.8

Q4\_8\_2 ヤングケアラーの認知度向上のために必要だと思うこととして当てはまるものをお答えください。／もっとも当てはまるもの一つに○（SA）

全体		回答数	%
全体		1,200	100.0
1	子どもや若者が学校でヤングケアラーについて学ぶ時間を増やす	344	28.7
2	子どもや若者が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	51	4.3
3	子どもや若者と関わる大人が研修等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	40	3.3
4	大人が講演会やイベント等でヤングケアラーについて学ぶ機会を増やす	46	3.8
5	大人と子どもや若者が一緒に学ぶ機会を増やす	74	6.2
6	テレビ番組やテレビCMを活用した広報活動を拡充する	76	6.3
7	SNSや動画共有サイト、インターネットを活用した広報活動を拡充する	110	9.2
8	パンフレットやチラシなどの印刷物を用いた広報活動を拡充する	20	1.7
9	その他	9	0.8
10	必要だと思うことはない	430	35.8

S02 あなたの性別を教えてください。(S A)

		回答数(件)						割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	男	293	29	34	84	54	92	56.1	53.7	51.5	60.4	51.9	57.9
2	女	222	24	30	55	48	65	42.5	44.4	45.5	39.6	46.2	40.9
3	その他	5	0	2	0	2	1	1.0	0.0	3.0	0.0	1.9	0.6
4	答えたくない	2	1	0	0	0	1	0.4	1.9	0.0	0.0	0.0	0.6

S03 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(S A)

		回答数(件)						割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	現在いる	466	38	59	127	98	144	89.3	70.4	89.4	91.4	94.2	90.6
2	現在はいない	56	16	7	12	6	15	10.7	29.6	10.6	8.6	5.8	9.4

S04 あなたがお世話をしている対象及びお世話を必要とする方の状況について教えてください。(S A)

		回答数(件)						割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		466	38	59	127	98	144	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お世話をしている対象が「こども」で、未成年であることだけが理由でお世話がが必要な状況	34	8	3	9	8	6	7.3	21.1	5.1	7.1	8.2	4.2
2	上記以外の状況	432	30	56	118	90	138	92.7	78.9	94.9	92.9	91.8	95.8

Q1\_1 あなたが住んでいる都道府県はどこですか。(S A)

		回答数(件)						割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	北海道・東北地方	78	4	11	20	16	27	14.9	7.4	16.7	14.4	15.4	17.0
2	関東地方	200	22	26	47	53	52	38.3	40.7	39.4	33.8	51.0	32.7
3	中部地方	68	8	7	20	11	22	13.0	14.8	10.6	14.4	10.6	13.8
4	近畿地方	85	6	12	26	15	26	16.3	11.1	18.2	18.7	14.4	16.4
5	中国・四国地方	42	8	2	13	3	16	8.0	14.8	3.0	9.4	2.9	10.1
6	九州地方	49	6	8	13	6	16	9.4	11.1	12.1	9.4	5.8	10.1

Q1\_2 あなたの職種を教えてください。(S A)

		回答数(件)						割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	経営者・役員	4	1	1	0	1	1	0.8	1.9	1.5	0.0	1.0	0.6
2	会社員(正社員)	210	3	19	73	44	71	40.2	5.6	28.8	52.5	42.3	44.7
3	会社員(契約社員・派遣社員)	19	0	1	4	6	8	3.6	0.0	1.5	2.9	5.8	5.0
4	パート・アルバイト	69	3	13	14	13	26	13.2	5.6	19.7	10.1	12.5	16.4
5	公務員(教職員除く)	16	0	0	4	5	7	3.1	0.0	0.0	2.9	4.8	4.4
6	教職員	8	0	1	3	0	4	1.5	0.0	1.5	2.2	0.0	2.5
7	医療関係者	21	0	4	9	4	4	4.0	0.0	6.1	6.5	3.8	2.5
8	自営業・自由業	26	0	2	6	2	16	5.0	0.0	3.0	4.3	1.9	10.1
9	専業主婦・主夫	30	0	1	5	17	7	5.7	0.0	1.5	3.6	16.3	4.4
10	学生	64	45	17	2	0	0	12.3	83.3	25.8	1.4	0.0	0.0
11	主婦	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	NGO・NPO 法人職員	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	無職	52	2	7	17	12	14	10.0	3.7	10.6	12.2	11.5	8.8
14	その他	3	0	0	2	0	1	0.6	0.0	0.0	1.4	0.0	0.6

Q1.3 あなたの業種を教えてください。(SA)

	回答数(件)					割合(%)						
	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体	376	7	41	115	75	138	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 農業、林業	7	0	0	4	0	3	1.9	0.0	0.0	3.5	0.0	2.2
2 漁業	1	0	0	0	0	1	0.3	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
3 鉱業、採石業、砂利採取業	2	0	0	0	0	2	0.5	0.0	0.0	0.0	2.7	0.0
4 建設業	16	2	1	6	6	5	4.3	28.6	2.4	5.2	6.7	1.4
5 製造業	66	1	8	19	11	27	17.6	14.3	19.5	16.5	14.7	19.6
6 電気・ガス・熱供給・水道業	6	0	4	1	0	1	1.6	0.0	9.8	0.9	0.0	0.7
7 情報通信業	21	0	2	5	8	6	5.6	0.0	4.9	4.3	10.7	4.3
8 運輸業、郵便業	19	2	4	7	2	11	5.1	28.6	2.4	2.6	2.7	8.0
9 卸売業、小売業	34	11	4	7	7	15	9.0	14.3	9.8	6.1	9.3	10.9
10 金融業、保険業	13	0	0	5	2	6	3.5	0.0	0.0	4.3	2.7	4.3
11 不動産業、物品賃貸業	12	0	2	8	2	0	3.2	0.0	4.9	7.0	2.7	0.0
12 学術研究、専門・技術サービス業	12	0	0	7	2	3	3.2	0.0	0.0	6.1	2.7	2.2
13 宿泊業、飲食サービス業	17	1	0	9	3	4	4.5	14.3	0.0	7.8	4.0	2.9
14 生活関連サービス業、娯楽業	6	0	0	2	2	2	1.6	0.0	0.0	1.7	2.7	1.4
15 教育、学習支援業	16	0	2	4	1	9	4.3	0.0	4.9	3.5	1.3	6.5
16 医療、福祉	47	0	6	14	11	16	12.5	0.0	14.6	12.2	14.7	11.6
17 複合サービス事業	7	0	3	3	0	1	1.9	0.0	7.3	2.6	0.0	0.7
18 その他サービス業	54	0	7	14	10	23	14.4	0.0	17.1	12.2	13.3	16.7
19 公務	20	0	1	4	6	9	5.3	0.0	2.4	3.5	8.0	6.5

Q1.4 現在の婚姻状態を教えてください。(SA)

	回答数(件)					割合(%)						
	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体	585	38	66	193	109	179	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 未婚	10	0	0	3	3	4	1.7	0.0	0.0	1.6	2.8	2.2
2 既婚(離死別を含む)	575	38	66	190	106	175	98.3	100.0	100.0	98.4	97.2	97.8

Q1.5 こどもの有無を教えてください。(SA)

	回答数(件)					割合(%)						
	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 いる	125	0	5	29	39	52	23.9	0.0	7.6	20.9	37.5	32.7
2 いない	397	54	61	110	65	107	76.1	100.0	92.4			

Q1.6 こどもの年代を教えてください。(MA)

	回答数(件)					割合(%)						
	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体	125	0	5	29	39	52	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0
1 小学校入学前	78	0	4	21	29	24	62.4	-	80.0	72.4	74.4	46.2
2 小学生	48	0	1	9	9	29	38.4	-	20.0	31.0	23.1	55.8
3 中学生	14	0	0	0	4	10	11.2	-	0.0	0.0	10.3	19.2
4 高校生	8	0	0	0	1	7	6.4	-	0.0	0.0	2.6	13.5
5 社会人、その他	2	0	0	0	1	1	1.6	-	0.0	0.0	2.6	1.9

Q1.7 あなたの現在の住まい方を教えてください。(SA)

	回答数(件)					割合(%)						
	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)	YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家族と同居	422	43	49	110	84	136	80.8	79.6	74.2	79.1	80.8	85.5
2 一人暮らし	91	9	15	28	20	19	17.4	16.7	22.7	20.1	19.2	11.9
3 その他	9	2	2	1	0	4	1.7	3.7	3.0	0.7	0.0	2.5

Q1.8 あなたが現在一緒に住んでいる家族について教えてください。(MA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		422	43	49	110	84	136
1	母親	283	40	38	74	49	82
2	父親	225	37	31	63	35	59
3	兄	28	10	3	2	6	7
4	姉	22	6	4	2	3	7
5	弟	36	11	6	12	1	6
6	妹	29	8	5	11	1	4
7	祖母	58	9	12	16	8	13
8	祖父	27	5	6	7	3	6
9	曾祖母	1	0	0	1	0	0
10	曾祖父	1	0	0	1	0	1
11	叔母	6	1	0	2	2	1
12	叔父	2	0	1	1	0	0
13	あなたの配偶者・パートナー	125	2	5	31	33	54
14	あなたのこども	96	0	3	22	26	45
15	いとこ	1	0	0	1	0	0
16	甥・姪	0	0	0	0	0	0
17	母親のパートナー	2	0	0	1	0	1
18	父親のパートナー	2	0	0	1	1	0
19	その他	1	0	0	0	1	0

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	母親	67.1	93.0	77.6	67.3	58.3	60.3
2	父親	53.3	86.0	63.3	57.3	41.7	43.4
3	兄	6.6	23.3	6.1	1.8	7.1	5.1
4	姉	5.2	14.0	8.2	1.8	3.6	5.1
5	弟	8.5	25.6	12.2	10.9	1.2	4.4
6	妹	6.9	18.6	10.2	10.0	1.2	2.9
7	祖母	13.7	20.9	24.5	14.5	9.5	9.6
8	祖父	6.4	11.6	12.2	6.4	3.6	4.4
9	曾祖母	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
10	曾祖父	0.5	0.0	0.0	0.9	0.0	0.7
11	叔母	1.4	2.3	0.0	1.8	2.4	0.7
12	叔父	0.5	0.0	2.0	0.9	0.0	0.0
13	あなたの配偶者・パートナー	29.6	4.7	10.2	28.2	39.3	39.7
14	あなたのこども	22.7	0.0	6.1	20.0	31.0	33.1
15	いとこ	0.2	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0
16	甥・姪	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
17	母親のパートナー	0.5	0.0	0.0	0.9	0.0	0.7
18	父親のパートナー	0.5	0.0	0.0	0.9	1.2	0.0
19	その他	0.2	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0

Q2.1 現在の生活に満足しているか教えてください。(SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	満足している	174	28	22	52	28	44
2	どちらともいえない	187	17	26	47	42	55
3	満足していない	161	9	18	40	34	60

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	満足している	33.3	51.9	33.3	37.4	26.9	27.7
2	どちらともいえない	35.8	31.5	39.4	33.8	40.4	34.6
3	満足していない	30.8	16.7	27.3	28.8	32.7	37.7

Q2.2.1 自身の状況について教えてください。／他者とのコミュニケーション (SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	得意	133	19	21	42	14	37
2	どちらともいえない	201	16	20	42	59	64
3	苦手	188	19	25	55	31	58

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	得意	25.5	35.2	31.8	30.2	13.5	23.3
2	どちらともいえない	38.5	29.6	30.3	30.2	56.7	40.3
3	苦手	36.0	35.2	37.9	39.6	29.8	36.5

Q2.2.2 自身の状況について教えてください。／外出頻度 (プライベート) (SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	多い	178	18	26	54	29	51
2	どちらともいえない	176	20	17	46	42	51
3	少ない	168	16	23	39	33	57

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	多い	34.1	33.3	39.4	38.8	27.9	32.1
2	どちらともいえない	33.7	37.0	25.8	33.1	40.4	32.1
3	少ない	32.2	29.6	34.8	28.1	31.7	35.8

Q2.2.3 自身の状況について教えてください。／普段の生活で抱えるストレス (SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	多い	271	30	37	87	48	89
2	どちらともいえない	194	18	19	55	46	56
3	少ない	57	6	10	17	10	14

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	多い	51.9	55.6	56.1	48.2	46.2	56.0
2	どちらともいえない	37.2	33.3	28.8	39.6	44.2	35.2
3	少ない	10.9	11.1	15.2	12.2	9.6	8.8

		回答数 (件)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		766	280	73	149	97	167
1	母親	543	272	65	94	40	72
2	父親	450	228	54	82	31	55
3	兄	62	37	6	11	1	7
4	姉	55	24	8	12	2	9
5	弟	100	62	10	15	8	5
6	妹	86	55	11	8	5	7
7	祖母	57	28	11	7	8	3
8	祖父	32	21	7	2	2	0
9	曾祖母	0	0	0	0	0	0
10	曾祖父	0	0	0	0	0	0
11	叔母	3	0	1	1	1	0
12	叔父	3	1	0	1	1	0
13	あなたの配偶者・パートナー	192	0	4	46	50	92
14	あなたのこども	144	0	2	24	38	80
15	いとこ	1	0	0	1	0	0
16	甥・姪	1	0	0	0	0	1
17	母親のパートナー	1	0	0	1	0	0
18	父親のパートナー	2	0	0	1	1	0
19	その他	2	0	1	1	0	0

		割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	母親	70.9	97.1	89.0	63.1	41.2	43.1
2	父親	58.7	81.4	74.0	55.0	32.0	32.9
3	兄	8.1	13.2	8.2	7.4	1.0	4.2
4	姉	7.2	8.6	11.0	8.1	2.1	5.4
5	弟	13.1	22.1	13.7	10.1	8.2	3.0
6	妹	11.2	19.6	15.1	5.4	5.2	4.2
7	祖母	7.4	10.0	15.1	4.7	8.2	1.8
8	祖父	4.2	7.5	9.6	1.3	2.1	0.0
9	曾祖母	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10	曾祖父	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11	叔母	0.4	0.0	1.4	0.7	1.0	0.0
12	叔父	0.4	0.4	0.0	0.7	1.0	0.0
13	あなたの配偶者・パートナー	25.1	0.0	5.5	30.9	51.5	55.1
14	あなたのこども	18.8	0.0	2.7	16.1	39.2	47.9
15	いとこ	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
16	甥・姪	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
17	母親のパートナー	0.1	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0
18	父親のパートナー	0.3	0.0	0.0	0.7	1.0	0.0
19	その他	0.3	0.0	1.4	0.7	0.0	0.0

Q2.2.4 自身の状況について教えてください。／友人 (SA)

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	多い	72	15	12	17	12	16	13.8	27.8	18.2	12.2	11.5	10.1
2	どちらともいえない	185	20	24	46	44	51	35.4	37.0	36.4	33.1	42.3	32.1
3	少ない	265	19	30	76	48	92	50.8	35.2	45.5	54.7	46.2	57.9

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	多い	120	54	12	28	10	16	11.1	15.0	11.0	11.2	7.2	7.3
2	どちらともいえない	378	133	46	87	46	66	35.1	36.9	42.2	34.7	33.1	30.1
3	少ない	580	173	51	136	83	137	53.8	48.1	46.8	54.2	59.7	62.6

Q2.2.5 自身の状況について教えてください。／親との関係 (SA)

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	255	30	28	73	39	85	48.9	55.6	42.4	52.5	37.5	53.5
2	どちらともいえない	166	13	21	37	43	52	31.8	24.1	31.8	26.6	41.3	32.7
3	良好ではない	90	11	13	28	20	18	17.2	20.4	19.7	20.1	19.2	11.3
4	該当しない	11	0	4	1	2	4	2.1	0.0	6.1	0.7	1.9	2.5

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	576	208	59	127	69	113	53.4	57.8	54.1	50.6	49.6	51.6
2	どちらともいえない	357	109	32	94	52	70	33.1	30.3	29.4	37.5	37.4	32.0
3	良好ではない	108	34	12	22	14	26	10.0	9.4	11.0	8.8	10.1	11.9
4	該当しない	37	9	6	8	4	10	3.4	2.5	5.5	3.2	2.9	4.6

Q2.2.6 自身の状況について教えてください。／きょうだいとの関係 (SA)

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	182	25	21	47	30	59	34.9	46.3	31.8	33.8	28.8	37.1
2	どちらともいえない	163	11	23	37	44	48	31.2	20.4	34.8	26.6	42.3	30.2
3	良好ではない	76	11	8	24	12	21	14.6	20.4	12.1	17.3	11.5	13.2
4	該当しない	101	7	14	31	18	31	19.3	13.0	21.2	22.3	17.3	19.5

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	407	137	39	91	56	84	37.8	38.1	35.8	36.3	40.3	38.4
2	どちらともいえない	294	90	24	78	41	61	27.3	25.0	22.0	31.1	29.5	27.9
3	良好ではない	144	34	19	32	15	44	13.4	9.4	17.4	12.7	10.8	20.1
4	該当しない	233	99	27	50	27	30	21.6	27.5	24.8	19.9	19.4	13.7

Q2.2.7 自身の状況について教えてください。／配偶者との関係 (SA)

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	109	6	12	27	18	46	20.9	11.1	18.2	19.4	17.3	28.9
2	どちらともいえない	99	4	10	17	32	16	15.1	7.4	15.2	12.2	30.8	10.1
3	良好ではない	41	4	6	12	7	12	7.9	7.4	9.1	8.6	6.7	7.5
4	該当しない	293	40	38	83	47	85	56.1	74.1	57.6	59.7	45.2	53.3

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	175	10	8	41	48	68	16.2	2.8	7.3	16.3	34.5	31.1
2	どちらともいえない	129	34	15	39	14	27	12.0	9.4	13.8	15.5	10.1	12.3
3	良好ではない	37	7	4	8	6	12	3.4	1.9	3.7	3.2	4.3	5.5
4	該当しない	737	309	82	163	71	112	68.4	85.8	75.2	64.9	51.1	51.1

Q2.2.8 自身の状況について教えてください。／子どもとの関係 (SA)

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	85	2	7	27	10	39	16.3	3.7	10.6	19.4	9.6	24.5
2	どちらともいえない	65	4	10	9	29	13	12.5	7.4	15.2	6.5	27.9	8.2
3	良好ではない	30	2	4	6	9	9	5.7	3.7	6.1	4.3	8.7	5.7
4	該当しない	342	46	45	97	56	98	65.5	85.2	68.2	69.8	53.8	61.6

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	118	3	2	20	33	60	10.9	0.8	1.8	8.0	23.7	27.4
2	どちらともいえない	107	22	11	29	14	31	9.9	6.1	10.1	11.6	10.1	14.2
3	良好ではない	33	9	5	8	4	7	3.1	2.5	4.6	3.2	2.9	3.2
4	該当しない	820	326	91	194	88	121	76.1	90.6	83.5	77.3	63.3	55.3

Q2.2.9 自身の状況について教えてください。／職場・学校の人間関係 (SA)

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	156	30	16	41	25	44	29.9	55.6	24.2	29.5	24.0	27.7
2	どちらともいえない	209	14	26	53	50	66	40.0	25.9	39.4	38.1	48.1	41.5
3	良好ではない	81	5	14	24	12	26	15.5	9.3	21.2	17.3	11.5	16.4
4	該当しない	76	5	10	21	17	23	14.6	9.3	15.2	15.1	16.3	14.5

		回答数 (件)						割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	良好	366	154	34	78	39	61	34.0	42.8	31.2	31.1	28.1	27.9
2	どちらともいえない	437	136	43	105	59	94	40.5	37.8	39.4	41.8	42.4	42.9
3	良好ではない	108	35	11	19	10	33	10.0	9.7	10.1	7.6	7.2	15.1
4	該当しない	167	35	21	49	31	31	15.5	9.7	19.3	19.5	22.3	14.2

Q2\_3\_1 あなたの健康状態について教えてください。/身体面の健康状態 (SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	よい	94	18	16	23	14	23
2	まあよい	129	18	18	43	16	34
3	かつう	181	8	16	47	52	58
4	あまりよくない	81	6	11	17	15	32
5	よくない	37	4	5	9	7	12

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	よい	18.0	33.3	24.2	16.5	13.5	14.5
2	まあよい	24.7	33.3	27.3	30.9	15.4	21.4
3	かつう	34.7	14.8	24.2	33.8	50.0	36.5
4	あまりよくない	15.5	11.1	16.7	12.2	14.4	20.1
5	よくない	7.1	7.4	7.6	6.5	6.7	7.5

Q2\_3\_2 あなたの健康状態について教えてください。/精神面の健康状態 (SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	よい	60	13	8	13	11	15
2	まあよい	106	12	19	29	15	31
3	かつう	194	12	17	55	46	64
4	あまりよくない	96	11	9	25	22	29
5	よくない	66	6	13	17	10	20

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	よい	11.5	24.1	12.1	9.4	10.6	9.4
2	まあよい	20.3	22.2	28.8	20.9	14.4	19.5
3	かつう	37.2	22.2	25.8	39.6	44.2	40.3
4	あまりよくない	18.4	20.4	13.6	18.0	21.2	18.2
5	よくない	12.6	11.1	19.7	12.2	9.6	12.6

Q2\_4\_1 最近の1週間の精神面の健康状態について教えてください。/孤独を感じることはありませんか。(SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		162	17	22	42	32	49
1	ある	66	8	13	20	12	13
2	まあある	52	4	4	11	11	22
3	どちらともいえない	13	2	0	6	1	4
4	あまりない	18	3	2	3	5	5
5	ない	13	0	3	2	3	5

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ある	40.7	47.1	59.1	47.6	37.5	26.5
2	まあある	32.1	23.5	18.2	26.2	34.4	44.9
3	どちらともいえない	8.0	11.8	0.0	14.3	3.1	8.2
4	あまりない	11.1	17.6	9.1	7.1	15.6	10.2
5	ない	8.0	0.0	13.6	4.8	9.4	10.2

Q2\_4\_2 最近の1週間の精神面の健康状態について教えてください。/無気力な気持ちになることはありませんか。(SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		162	17	22	42	32	49
1	ある	81	8	13	25	14	21
2	まあある	50	6	4	10	12	18
3	どちらともいえない	8	1	1	3	2	1
4	あまりない	10	2	1	2	1	4
5	ない	13	0	3	2	3	5

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ある	50.0	47.1	59.1	59.5	43.8	42.9
2	まあある	30.9	35.3	18.2	23.8	37.5	36.7
3	どちらともいえない	4.9	5.9	4.5	7.1	6.3	2.0
4	あまりない	6.2	11.8	4.5	4.8	3.1	8.2
5	ない	8.0	0.0	13.6	4.8	9.4	10.2

Q2\_4\_3 最近の1週間の精神面の健康状態について教えてください。/消えてしまいたいと思うことはありませんか？(SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		162	17	22	42	32	49
1	ある	76	6	12	26	15	17
2	まあある	39	4	4	8	10	13
3	どちらともいえない	20	3	4	2	2	9
4	あまりない	13	3	0	4	2	4
5	ない	14	1	2	2	3	6

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ある	46.9	35.3	54.5	61.9	46.9	34.7
2	まあある	24.1	23.5	18.2	19.0	31.3	26.5
3	どちらともいえない	12.3	17.6	18.2	4.8	6.3	18.4
4	あまりない	8.0	17.6	0.0	9.5	6.3	8.2
5	ない	8.6	5.9	9.1	4.8	9.4	12.2

Q2\_5 あなたは、つらい経験や心の傷を整理するためのカウンセリングや心理療法を受けたことがありますか。(SA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		162	17	22	42	32	49
1	現在、受けている	37	3	9	15	4	6
2	過去に受けたことがあるが、今は受けていない	36	3	5	11	8	9
3	受けたことはない	89	11	8	16	20	34

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	現在、受けている	22.8	17.6	40.9	35.7	12.5	12.2
2	過去に受けたことがあるが、今は受けていない	22.2	17.6	22.7	26.2	25.0	18.4
3	受けたことはない	54.9	64.7	36.4	38.1	62.5	69.4

		回答数 (件)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		280	90	32	61	29	68
1	現在、受けている	49	24	4	10	1	10
2	過去に受けたことがあるが、今は受けていない	48	14	7	12	4	11
3	受けたことはない	183	52	21	39	24	47

		割合 (%)					
		YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	現在、受けている	17.5	26.7	12.5	16.4	3.4	14.7
2	過去に受けたことがあるが、今は受けていない	17.1	15.6	21.9	19.7	13.8	16.2
3	受けたことはない	65.4	57.8	65.6	63.9	82.8	69.1

Q2.6 づらい経験や心の傷を整理するためのカウンセリングや心理療法が、もし身近にあったら利用したいと思いますか。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		125	14	13	27	28	43
1	利用したい	13	1	0	3	4	5
2	安否であれば利用したい	46	3	4	13	11	15
3	あまり利用したいと思わない	42	8	3	7	7	17
4	まったく利用したいと思わない	24	2	6	4	6	6

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	利用したい	10.4	7.1	0.0	11.1	14.3	11.6
2	安否であれば利用したい	36.8	21.4	30.8	48.1	39.3	34.9
3	あまり利用したいと思わない	33.6	57.1	23.1	25.9	25.0	39.5
4	まったく利用したいと思わない	19.2	14.3	46.2	14.8	21.4	14.0

		回答数(件)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		231	66	28	51	28	58
1	利用したい	11	4	1	4	0	2
2	安否であれば利用したい	65	26	9	8	9	13
3	あまり利用したいと思わない	60	10	3	16	7	24
4	まったく利用したいと思わない	95	26	15	23	12	19

		割合(%)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	利用したい	4.8	6.1	3.6	7.8	0.0	3.4
2	安否であれば利用したい	28.1	39.4	32.1	15.7	32.1	22.4
3	あまり利用したいと思わない	26.0	15.2	10.7	31.4	25.0	41.4
4	まったく利用したいと思わない	41.1	39.4	53.6	45.1	42.9	32.8

Q2.7 今後の結婚願望について教えてください。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		363	54	59	103	57	90
1	結婚したい(パートナー証明等を含む)	145	29	24	43	22	27
2	どちらともいえない	127	17	20	34	19	37
3	結婚したくない	91	8	15	26	16	26

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	結婚したい(パートナー証明等を含む)	39.9	53.7	40.7	41.7	38.6	30.0
2	どちらともいえない	35.0	31.5	33.9	33.0	33.3	41.1
3	結婚したくない	25.1	14.8	25.4	25.2	28.1	28.9

		回答数(件)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		854	357	105	194	85	113
1	結婚したい(パートナー証明等を含む)	269	133	33	58	25	20
2	どちらともいえない	290	129	34	61	31	35
3	結婚したくない	295	95	38	75	29	58

		割合(%)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	結婚したい(パートナー証明等を含む)	31.5	37.3	31.4	29.9	29.4	17.7
2	どちらともいえない	34.0	36.1	32.4	31.4	36.5	31.0
3	結婚したくない	34.5	26.6	36.2	38.7	34.1	51.3

Q2.8 結婚したくない理由について教えてください。(MA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		91	8	15	26	16	26
1	お金を自由に使いたくないから	39	4	4	15	7	9
2	時間を自由に使いたくないから	44	4	5	14	7	14
3	結婚相手に気を使いたくないから	40	5	4	12	5	14
4	結婚したいと思う人がいないから	46	3	10	11	8	14
5	相手の家族との付き合いが面倒だから	28	1	5	7	6	9
6	仕事や趣味を優先したいから	20	2	2	6	5	5
7	家族を養う自信がないから	28	3	3	11	4	7
8	結婚までの過程が面倒だから	22	3	5	7	3	4
9	同性婚などの制度が十分ではないから	8	1	1	3	3	0
10	その他	9	1	1	3	3	1

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お金を自由に使いたくないから	42.9	50.0	26.7	57.7	43.8	34.6
2	時間を自由に使いたくないから	48.4	50.0	33.3	53.8	43.8	53.8
3	結婚相手に気を使いたくないから	44.0	62.5	26.7	46.2	31.3	53.8
4	結婚したいと思う人がいないから	50.5	37.5	66.7	42.3	50.0	53.8
5	相手の家族との付き合いが面倒だから	30.8	12.5	33.3	26.9	37.5	34.6
6	仕事や趣味を優先したいから	22.0	25.0	13.3	23.1	31.3	19.2
7	家族を養う自信がないから	30.8	37.5	20.0	42.3	25.0	26.9
8	結婚までの過程が面倒だから	24.2	37.5	33.3	26.9	18.8	15.4
9	同性婚などの制度が十分ではないから	8.8	12.5	6.7	11.5	18.8	0.0
10	その他	9.9	12.5	6.7	11.5	18.8	3.8

		回答数(件)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		295	95	38	75	29	58
1	お金を自由に使いたくないから	135	46	14	33	13	29
2	時間を自由に使いたくないから	130	48	12	30	13	22
3	結婚相手に気を使いたくないから	101	33	12	22	12	22
4	結婚したいと思う人がいないから	117	46	12	22	12	25
5	相手の家族との付き合いが面倒だから	72	26	7	15	8	16
6	仕事や趣味を優先したいから	89	31	11	19	7	21
7	家族を養う自信がないから	78	31	7	15	6	19
8	結婚までの過程が面倒だから	71	17	11	16	9	18
9	同性婚などの制度が十分ではないから	43	15	3	16	3	6
10	その他	14	2	3	3	4	2

		割合(%)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	お金を自由に使いたくないから	45.8	48.4	36.8	44.0	44.8	50.0
2	時間を自由に使いたくないから	44.1	50.5	31.6	40.0	44.8	46.6
3	結婚相手に気を使いたくないから	34.2	34.7	31.6	29.3	41.4	37.9
4	結婚したいと思う人がいないから	39.7	48.4	31.6	29.3	41.4	43.1
5	相手の家族との付き合いが面倒だから	24.4	27.4	18.4	20.0	27.6	27.6
6	仕事や趣味を優先したいから	30.2	32.6	28.9	25.3	24.1	36.2
7	家族を養う自信がないから	26.4	32.6	18.4	20.0	20.7	32.8
8	結婚までの過程が面倒だから	24.1	17.9	28.9	21.3	31.0	31.0
9	同性婚などの制度が十分ではないから	14.6	15.8	7.9	21.3	10.3	10.3
10	その他	4.7	2.1	7.9	4.0	13.8	3.4

Q2.9 あなた個人の現在の年収について教えてください。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	収入なし	77	18	7	17	22	13
2	1万円以上~200万円未満	107	26	19	16	17	29
3	200万円以上~400万円未満	117	3	19	42	15	38
4	400万円以上~600万円未満	103	1	7	36	19	40
5	600万円以上~800万円未満	40	3	2	12	10	13
6	800万円以上~1,000万円未満	22	1	5	6	4	6
7	1,000万円以上~2,000万円未満	13	0	1	2	6	4
8	2,000万円以上	4	1	0	2	1	0
9	わからない	39	1	6	6	10	16

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	収入なし	14.8	33.3	10.6	12.2	21.2	8.2
2	1万円以上~200万円未満	20.5	48.1	28.8	11.5	16.3	18.2
3	200万円以上~400万円未満	22.4	5.6	28.8	30.2	14.4	23.9
4	400万円以上~600万円未満	19.7	1.9	10.6	25.9	18.3	25.2
5	600万円以上~800万円未満	7.7	5.6	3.0	8.6	9.6	8.2
6	800万円以上~1,000万円未満	4.2	1.9	7.6	4.3	3.8	3.8
7	1,000万円以上~2,000万円未満	2.5	0.0	1.5	1.4	5.8	2.5
8	2,000万円以上	0.8	1.9	0.0	1.4	1.0	0.0
9	わからない	7.5	1.9	9.1	4.3	9.6	10.1

		回答数(件)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		1,078	360	109	251	139	219
1	収入なし	227	133	10	38	21	25
2	1万円以上~200万円未満	290	145	39	34	27	45
3	200万円以上~400万円未満	177	10	23	56	37	51
4	400万円以上~600万円未満	121	4	8	54	22	33
5	600万円以上~800万円未満	45	1	3	12	9	20
6	800万円以上~1,000万円未満	22	1	1	8	4	8
7	1,000万円以上~2,000万円未満	11	0	2	3	2	4
8	2,000万円以上	8	2	2	1	2	1
9	わからない	177	64	21	45	15	32

		割合(%)					
		YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	収入なし	21.1	36.9	9.2	15.1	15.1	11.4
2	1万円以上~200万円未満	26.9	40.3	35.8	13.5	19.4	20.5
3	200万円以上~400万円未満	16.4	2.8	21.1	22.3	26.6	23.3
4	400万円以上~600万円未満	11.2	1.1	7.3	21.5	15.8	15.1
5	600万円以上~800万円未満	4.2	0.3	2.8	4.8	6.5	9.1
6	800万円以上~1,000万円未満	2.0	0.3	0.9	3.2	2.9	3.7
7	1,000万円以上~2,000万円未満	1.0	0.0	1.8	1.2	1.4	1.8
8	2,000万円以上	0.7	0.6	1.8	0.4	1.4	0.5
9	わからない	16.4	17.8	19.3	17.9	10.8	14.6

Q3.1 家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか。(

Q3.3.1 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/母親 (MA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		209	20	24	51	50	64
1	高齢 (65歳以上)	107	3	11	21	17	55
2	若い	0	0	0	0	0	0
3	要介護 (介護が必要な状態)	53	1	1	7	20	24
4	認知症	13	0	0	2	4	7
5	身体障がい	27	3	3	5	8	8
6	知的障がい	4	1	1	1	1	0
7	発達障がい (疑いを含む)	7	1	2	1	2	1
8	精神疾患 (疑いを含む)	27	7	4	7	6	3
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	8	0	1	4	2	1
10	精神疾患、依存症以外の病気	25	0	3	9	7	6
11	日本語が苦手、わからない	4	1	0	0	3	0
12	ひきこもり、不登校	8	1	2	2	2	1
13	その他	13	4	0	8	0	1

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢 (65歳以上)	51.2	15.0	45.8	41.2	34.0	85.9
2	若い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	要介護 (介護が必要な状態)	25.4	5.0	4.2	13.7	40.0	37.5
4	認知症	6.2	0.0	0.0	3.9	8.0	10.9
5	身体障がい	12.9	15.0	12.5	9.8	16.0	12.5
6	知的障がい	1.9	5.0	4.2	2.0	2.0	0.0
7	発達障がい (疑いを含む)	3.3	5.0	8.3	2.0	4.0	1.6
8	精神疾患 (疑いを含む)	12.9	35.0	16.7	13.7	12.0	4.7
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	3.8	0.0	4.2	7.8	4.0	1.6
10	精神疾患、依存症以外の病気	12.0	0.0	12.5	17.6	14.0	9.4
11	日本語が苦手、わからない	1.9	5.0	0.0	0.0	6.0	0.0
12	ひきこもり、不登校	3.8	5.0	8.3	3.9	4.0	1.6
13	その他	6.2	20.0	0.0	15.7	0.0	1.6

Q3.3.2 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/父親 (MA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		117	16	16	25	19	41
1	高齢 (65歳以上)	71	5	8	14	12	32
2	若い	0	0	0	0	0	0
3	要介護 (介護が必要な状態)	21	3	0	4	3	11
4	認知症	7	0	1	2	1	3
5	身体障がい	12	0	2	0	3	7
6	知的障がい	4	0	1	0	1	2
7	発達障がい (疑いを含む)	8	3	0	0	2	3
8	精神疾患 (疑いを含む)	11	4	1	0	2	4
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	14	1	1	3	2	7
10	精神疾患、依存症以外の病気	11	0	1	2	3	5
11	日本語が苦手、わからない	6	1	1	0	2	2
12	ひきこもり、不登校	7	1	1	2	0	3
13	その他	5	2	0	1	0	2

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢 (65歳以上)	60.7	31.3	50.0	56.0	63.2	78.0
2	若い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	要介護 (介護が必要な状態)	17.9	18.8	0.0	16.0	15.8	26.8
4	認知症	6.0	0.0	6.3	8.0	5.3	7.3
5	身体障がい	10.3	0.0	12.5	0.0	15.8	17.1
6	知的障がい	3.4	0.0	6.3	0.0	5.3	4.9
7	発達障がい (疑いを含む)	6.8	18.8	0.0	0.0	10.5	7.3
8	精神疾患 (疑いを含む)	9.4	25.0	6.3	0.0	10.5	9.8
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	12.0	6.3	6.3	12.0	10.5	17.1
10	精神疾患、依存症以外の病気	9.4	0.0	6.3	8.0	15.8	12.2
11	日本語が苦手、わからない	5.1	6.3	6.3	0.0	10.5	4.9
12	ひきこもり、不登校	6.0	6.3	6.3	8.0	0.0	7.3
13	その他	4.3	12.5	0.0	4.0	0.0	4.9

Q3.3.3 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/祖母 (MA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		130	19	18	34	25	34
1	高齢 (65歳以上)	116	15	15	30	23	33
2	若い	0	0	0	0	0	0
3	要介護 (介護が必要な状態)	55	7	6	10	11	21
4	認知症	37	6	6	8	6	11
5	身体障がい	23	5	1	5	3	9
6	知的障がい	3	0	1	1	1	0
7	発達障がい (疑いを含む)	3	0	1	0	2	0
8	精神疾患 (疑いを含む)	2	1	0	0	1	0
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	3	1	0	0	1	1
10	精神疾患、依存症以外の病気	5	0	0	1	4	0
11	日本語が苦手、わからない	2	0	0	0	1	1
12	ひきこもり、不登校	1	0	0	0	1	0
13	その他	1	0	1	0	0	0

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢 (65歳以上)	89.2	78.9	83.6	88.2	92.0	97.1
2	若い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	要介護 (介護が必要な状態)	42.3	36.8	33.3	29.4	44.0	61.8
4	認知症	28.5	31.6	33.3	23.5	24.0	32.4
5	身体障がい	17.7	26.3	5.6	14.7	12.0	26.5
6	知的障がい	2.3	0.0	5.6	2.9	4.0	0.0
7	発達障がい (疑いを含む)	2.3	0.0	5.6	0.0	8.0	0.0
8	精神疾患 (疑いを含む)	1.5	5.3	0.0	0.0	4.0	0.0
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	2.3	5.3	0.0	0.0	4.0	2.9
10	精神疾患、依存症以外の病気	3.8	0.0	0.0	2.9	16.0	0.0
11	日本語が苦手、わからない	1.5	0.0	0.0	0.0	4.0	2.9
12	ひきこもり、不登校	0.8	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
13	その他	0.8	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0

Q3.3.4 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/祖父 (MA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		56	5	4	21	12	12
1	高齢 (65歳以上)	48	4	4	18	11	11
2	若い	0	0	0	0	0	0
3	要介護 (介護が必要な状態)	16	0	3	6	2	5
4	認知症	13	0	2	4	2	5
5	身体障がい	5	0	0	2	2	1
6	知的障がい	0	0	0	0	0	0
7	発達障がい (疑いを含む)	2	0	1	0	1	0
8	精神疾患 (疑いを含む)	0	0	0	0	0	0
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	2	0	1	1	0	0
10	精神疾患、依存症以外の病気	1	0	1	0	0	0
11	日本語が苦手、わからない	3	1	0	0	0	2
12	ひきこもり、不登校	1	0	0	1	0	0
13	その他	0	0	0	0	0	0

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢 (65歳以上)	85.7	80.0	66.7	85.7	91.7	91.7
2	若い	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	要介護 (介護が必要な状態)	28.6	0.0	50.0	28.6	16.7	41.7
4	認知症	23.2	0.0	33.3	19.0	16.7	41.7
5	身体障がい	8.9	0.0	0.0	9.5	16.7	8.3
6	知的障がい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	発達障がい (疑いを含む)	3.6	0.0	16.7	0.0	8.3	0.0
8	精神疾患 (疑いを含む)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	3.6	0.0	16.7	4.8	0.0	0.0
10	精神疾患、依存症以外の病気	1.8	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0
11	日本語が苦手、わからない	5.4	20.0	0.0	0.0	0.0	16.7
12	ひきこもり、不登校	1.8	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0
13	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q3.3.5 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/きょうだい (MA)

		回答数 (件)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		45	13	6	14	4	8
1	高齢 (65歳以上)	0	0	0	0	0	0
2	若い	9	5	1	1	1	1
3	要介護 (介護が必要な状態)	4	0	1	0	0	3
4	認知症	4	1	0	1	0	2
5	身体障がい	6	1	1	1	1	2
6	知的障がい	8	3	1	3	0	1
7	発達障がい (疑いを含む)	8	1	1	4	1	1
8	精神疾患 (疑いを含む)	4	0	0	2	0	2
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	3	0	0	1	0	2
10	精神疾患、依存症以外の病気	6	0	1	2	0	3
11	日本語が苦手、わからない	3	2	0	0	0	1
12	ひきこもり、不登校	3	0	0	1	0	2
13	その他	2	0	0	1	1	0

		割合 (%)					
		YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	高齢 (65歳以上)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	若い	20.0	38.5	16.7	7.1	25.0	12.5
3	要介護 (介護が必要な状態)	8.9	0.0	16.7	0.0	0.0	37.5
4	認知症	8.9	7.7	0.0	7.1	0.0	25.0
5	身体障がい	13.3	7.7	16.7	7.1	25.0	25.0
6	知的障がい	17.8	23.1	16.7	21.4	0.0	12.5
7	発達障がい (疑いを含む)	17.8	7.7	16.7	28.6	25.0	12.5
8	精神疾患 (疑いを含む)	8.9	0.0	0.0	14.3	0.0	25.0
9	依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	6.7	0.0	0.0	7.1	0.0	25.0
10	精神疾患、依存症以外の病気	13.3	0.0	16.7	14.3	0.0	37.5
11	日本語が苦手、わからない	6.7	15.4	0.0	0.0	0.0	12.5
12	ひきこもり、不登校	6.7	0.0	0.0	7.1</		

Q3.3.7 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/配偶者・パートナー (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	71	1	8	22	15	25	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 高齢 (65歳以上)	5	0	0	3	2	0	7.0	0.0	0.0	13.6	13.3	0.0
2 若い	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 要介護 (介護が必要な状態)	1	0	0	1	0	0	1.4	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
4 認知症	1	0	0	1	0	0	1.4	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0
5 身体障がい	2	0	0	1	0	1	2.8	0.0	0.0	4.5	0.0	4.0
6 知的障がい	1	1	0	0	0	0	1.4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7 発達障がい (疑いを含む)	2	0	1	1	0	0	2.8	0.0	12.5	4.5	0.0	0.0
8 精神疾患 (疑いを含む)	18	0	2	4	3	9	25.4	0.0	25.0	18.2	20.0	36.0
9 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	4	0	1	2	0	1	5.6	0.0	12.5	9.1	0.0	4.0
10 精神疾患、依存症以外の病気	10	0	1	3	2	4	14.1	0.0	12.5	13.6	13.3	16.0
11 日本語が苦手、わからない	10	1	2	2	3	2	14.1	100.0	25.0	9.1	20.0	8.0
12 ひきこもり、不登校	11	0	1	4	3	3	15.5	0.0	12.5	18.2	20.0	12.0
13 その他	9	0	0	2	2	5	12.7	0.0	0.0	9.1	13.3	20.0

Q3.3.8 お世話を必要としている方の状況を教えてください。/その他 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	9	0	1	3	1	4	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 高齢 (65歳以上)	4	0	1	1	1	1	44.4	0.0	100.0	33.3	100.0	25.0
2 若い	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 要介護 (介護が必要な状態)	3	0	0	1	1	1	33.3	0.0	0.0	33.3	100.0	25.0
4 認知症	2	0	1	0	0	1	22.2	0.0	100.0	0.0	0.0	25.0
5 身体障がい	1	0	0	1	0	0	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
6 知的障がい	1	0	0	1	0	0	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
7 発達障がい (疑いを含む)	1	0	0	1	0	0	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0
8 精神疾患 (疑いを含む)	3	0	0	1	1	1	33.3	0.0	0.0	33.3	100.0	25.0
9 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑いを含む)	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
10 精神疾患、依存症以外の病気	1	0	0	0	0	1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
11 日本語が苦手、わからない	1	0	0	0	0	1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0
12 ひきこもり、不登校	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13 その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q3.4.1 あなたが行っているお世話を内容を教えてください。/母親 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	209	20	24	51	50	64	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	133	13	15	30	33	42	63.6	65.0	62.5	58.8	66.0	65.6
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	43	1	5	4	19	14	20.6	5.0	20.8	7.8	38.0	21.9
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	87	5	9	25	15	33	41.6	25.0	37.5	49.0	30.0	51.6
5 通院の付き添い	67	2	6	15	15	29	32.1	10.0	25.0	29.4	30.0	45.3
6 入院や入所をしている家族との面会	12	0	0	5	1	6	5.7	0.0	0.0	9.8	2.0	9.4
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	9	0	3	2	1	3	4.3	0.0	12.5	3.9	2.0	4.7
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	61	5	8	16	14	18	29.2	25.0	33.3	31.4	28.0	28.1
9 見守り	39	3	2	7	8	19	18.7	15.0	8.3	13.7	16.0	29.7
10 通訳 (日本語や手話など)	4	0	0	2	1	1	1.9	0.0	0.0	3.9	2.0	1.6
11 金銭管理	25	1	1	6	4	13	12.0	5.0	4.2	11.8	8.0	20.3
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	24	2	0	7	3	14	11.5	10.0	0.0	13.7	6.0	18.8
13 障の手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	28	1	2	6	5	14	13.4	5.0	8.3	11.8	10.0	21.9
14 障を手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	16	0	0	5	4	7	7.7	0.0	0.0	9.8	8.0	10.9
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	15	1	0	4	2	7	7.2	5.0	0.0	7.8	6.0	10.9
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	17	0	2	5	4	6	8.1	0.0	8.3	9.8	8.0	9.4
17 その他	3	0	1	0	0	2	1.4	0.0	4.2	0.0	0.0	3.1

Q3.4.2 あなたが行っているお世話を内容を教えてください。/父親 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	117	16	16	25	19	41	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	46	6	5	12	5	18	39.3	37.5	31.3	48.0	26.3	43.9
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	25	0	2	3	4	16	21.4	0.0	12.5	12.0	21.1	39.0
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	32	1	3	9	4	15	27.4	6.3	18.8	36.0	21.1	36.6
5 通院の付き添い	37	1	2	5	5	24	31.6	6.3	12.5	20.0	26.3	58.5
6 入院や入所をしている家族との面会	16	2	2	1	2	9	13.7	12.5	12.5	4.0	10.5	22.0
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	4	1	0	0	0	3	3.4	6.3	0.0	0.0	0.0	7.3
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	24	3	2	4	5	10	20.5	18.8	12.5	16.0	26.3	24.4
9 見守り	25	3	0	4	5	13	21.4	18.8	0.0	16.0	26.3	31.7
10 通訳 (日本語や手話など)	5	0	0	0	1	4	4.3	0.0	0.0	0.0	5.3	9.8
11 金銭管理	14	0	2	2	1	9	12.0	0.0	12.5	8.0	5.3	22.0
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	14	1	0	3	2	8	12.0	6.3	0.0	12.0	10.5	19.5
13 障の管理	10	0	1	2	1	6	8.5	0.0	6.3	8.0	5.3	14.6
14 障を手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	9	0	0	1	0	8	7.7	0.0	0.0	4.0	0.0	19.5
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	10	1	0	3	1	5	8.5	6.3	0.0	12.0	5.3	12.2
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	12	0	3	2	1	6	10.3	0.0	18.8	8.0	5.3	14.6
17 その他	3	0	1	1	0	1	2.6	0.0	6.3	4.0	0.0	2.4

Q3.4.3 あなたが行っているお世話を内容を教えてください。/祖母 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	130	19	18	34	25	34	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	69	11	7	15	16	20	53.1	57.9	38.9	44.1	64.0	58.8
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	36	4	5	6	5	16	27.7	21.1	27.8	17.6	20.0	47.1
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	52	7	5	11	10	19	40.0	36.8	27.8	32.4	40.0	55.9
5 通院の付き添い	47	4	2	17	9	15	36.2	21.1	11.1	50.0	36.0	44.1
6 入院や入所をしている家族との面会	18	3	1	5	2	7	13.8	15.8	5.6	14.7	8.0	20.6
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	7	0	2	2	1	2	5.4	0.0	11.1	5.9	4.0	5.9
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	29	3	4	5	8	9	22.3	15.8	22.2	14.7	32.0	26.5
9 見守り	39	7	4	9	4	15	30.0	36.8	22.2	26.5	16.0	44.1
10 通訳 (日本語や手話など)	2	0	0	0	1	1	1.5	0.0	0.0	0.0	4.0	2.9
11 金銭管理	12	0	1	1	5	3	9.2	0.0	5.6	8.8	20.0	8.8
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	16	0	1	4	4	4	12.3	0.0	5.6	11.8	16.0	11.8
13 障の管理	10	0	0	2	4	4	7.7	0.0	0.0	5.9	16.0	11.8
14 障を手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	11	0	1	3	2	5	8.5	0.0	5.6	8.8	8.0	14.7
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	12	1	0	2	4	5	9.2	5.3	0.0	5.9	16.0	14.7
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	12	1	0	2	4	5	9.2	5.3	0.0	5.9	16.0	14.7
17 その他	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q3\_4.4 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。／祖父 (MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	56	5	6	21	12	12
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	24	2	3	6	6	7
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0	0	0	0	0	0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	14	1	3	5	0	5
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	19	3	1	7	3	5
5 通院の付き添い	16	0	3	8	4	1
6 入院や入所をしている家族との面会	7	0	2	1	0	4
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	7	0	3	2	0	2
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	7	1	0	2	2	2
9 見守り	10	1	0	2	2	5
10 通訳 (日本語や手話など)	1	0	0	0	0	1
11 金銭管理	5	0	1	2	1	1
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	5	0	2	3	0	0
13 薬の管理	6	0	1	3	0	2
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	6	0	2	3	0	1
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	5	0	2	1	0	2
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	5	0	2	2	1	0
17 その他	1	0	0	0	1	0

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	42.9	40.0	50.0	28.6	50.0	58.3
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	25.0	20.0	50.0	23.8	0.0	41.7
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	33.9	60.0	16.7	33.3	25.0	41.7
5 通院の付き添い	28.6	0.0	50.0	38.1	33.3	8.3
6 入院や入所をしている家族との面会	14.3	20.0	33.3	4.8	0.0	33.3
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	12.5	0.0	50.0	9.5	0.0	16.7
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	12.5	20.0	0.0	9.5	16.7	16.7
9 見守り	17.9	20.0	0.0	9.5	16.7	41.7
10 通訳 (日本語や手話など)	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
11 金銭管理	8.9	0.0	16.7	9.5	0.0	8.3
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	8.9	0.0	33.3	14.3	0.0	0.0
13 薬の管理	10.7	0.0	16.7	14.3	0.0	16.7
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	10.7	0.0	33.3	14.3	0.0	8.3
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	8.9	0.0	33.3	4.8	0.0	16.7
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	8.9	0.0	33.3	9.5	8.3	0.0
17 その他	1.8	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0

Q3\_4.5 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。／きょうだい (MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	45	13	6	14	4	8
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	17	3	2	7	3	2
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	3	0	0	2	0	1
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	5	1	1	1	0	2
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	10	1	3	3	1	2
5 通院の付き添い	8	0	1	4	1	2
6 入院や入所をしている家族との面会	1	0	0	0	0	1
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	3	1	0	0	0	2
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	11	1	3	3	1	3
9 見守り	18	5	2	7	0	4
10 通訳 (日本語や手話など)	2	0	0	1	0	1
11 金銭管理	6	0	1	1	1	3
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	3	0	0	0	1	2
13 薬の管理	2	0	1	0	0	1
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	3	0	1	1	0	1
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	5	1	2	1	0	2
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	3	0	2	0	0	1
17 その他	1	0	0	1	0	0

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	37.8	23.1	33.3	50.0	75.0	25.0
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	6.7	0.0	0.0	14.3	0.0	12.5
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	11.1	7.7	16.7	7.1	0.0	25.0
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	22.2	7.7	50.0	21.4	25.0	25.0
5 通院の付き添い	17.8	0.0	16.7	28.6	25.0	25.0
6 入院や入所をしている家族との面会	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	12.5
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	6.7	7.7	0.0	0.0	0.0	25.0
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	24.4	7.7	50.0	21.4	25.0	37.5
9 見守り	40.0	38.5	33.3	50.0	0.0	50.0
10 通訳 (日本語や手話など)	4.4	0.0	0.0	7.1	0.0	12.5
11 金銭管理	13.3	0.0	16.7	7.1	25.0	37.5
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	6.7	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0
13 薬の管理	4.4	0.0	16.7	0.0	0.0	12.5
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	6.7	0.0	16.7	7.1	0.0	12.5
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	11.1	7.7	33.3	0.0	0.0	25.0
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	6.7	0.0	33.3	0.0	0.0	12.5
17 その他	2.2	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0

Q3\_4.6 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。／こども (MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	46	1	3	11	6	25
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	28	1	1	5	4	17
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	15	0	2	1	4	8
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	9	0	0	2	1	6
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	13	0	0	3	3	7
5 通院の付き添い	7	0	0	1	2	4
6 入院や入所をしている家族との面会	4	0	0	1	1	3
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	5	0	0	2	0	3
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	9	0	0	2	1	6
9 見守り	10	0	0	4	1	5
10 通訳 (日本語や手話など)	0	0	0	0	0	0
11 金銭管理	2	0	0	0	0	2
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	4	0	0	1	0	3
13 薬の管理	4	0	0	0	1	3
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	7	0	0	2	1	4
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	7	0	0	2	1	4
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	10	0	0	3	1	6
17 その他	1	0	0	0	0	1

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	60.9	100.0	33.3	45.5	66.7	68.0
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	32.6	0.0	66.7	9.1	66.7	32.0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	19.6	0.0	0.0	18.2	16.7	24.0
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	28.3	0.0	0.0	27.3	50.0	28.0
5 通院の付き添い	15.2	0.0	0.0	9.1	33.3	16.0
6 入院や入所をしている家族との面会	8.7	0.0	0.0	0.0	16.7	12.0
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	10.9	0.0	0.0	18.2	0.0	12.0
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	19.6	0.0	0.0	18.2	16.7	24.0
9 見守り	21.7	0.0	0.0	36.4	16.7	20.0
10 通訳 (日本語や手話など)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
11 金銭管理	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	8.7	0.0	0.0	9.1	0.0	12.0
13 薬の管理	8.7	0.0	0.0	0.0	16.7	12.0
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	15.2	0.0	0.0	18.2	16.7	16.0
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	15.2	0.0	0.0	18.2	16.7	16.0
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	21.7	0.0	0.0	27.3	16.7	24.0
17 その他	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0

Q3\_4.7 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。／配偶者・パートナー (MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	71	1	8	22	15	25
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	33	1	2	9	6	15
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0	0	0	0	0	0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	1	0	0	0	1	0
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	16	1	1	7	4	3
5 通院の付き添い	9	0	1	3	0	5
6 入院や入所をしている家族との面会	3	0	0	3	0	0
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	3	0	0	1	2	0
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	18	0	1	7	3	7
9 見守り	9	1	2	3	1	2
10 通訳 (日本語や手話など)	1	0	0	0	1	0
11 金銭管理	8	0	2	3	2	1
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	6	0	0	1	3	2
13 薬の管理	9	0	1	4	1	3
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	4	0	0	2	2	0
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	3	0	0	0	1	2
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	14	0	4	5	2	3
17 その他	1	0	0	1	0	0

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家事 (家事の準備や掃除、洗濯)	46.5	100.0	25.0	40.9	40.0	60.0
2 きょうだいや、あなたのこどもの世話、保育所等への送迎など	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 身体的な介護 (入浴やトイレ、食事のお世話など)	1.4	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
4 外出の付き添い (買い物、散歩など)	22.5	100.0	12.5	31.8	26.7	12.0
5 通院の付き添い	12.7	0.0	12.5	13.6	0.0	20.0
6 入院や入所をしている家族との面会	4.2	0.0	0.0	13.6	0.0	0.0
7 医療的ケア (経管栄養の管理や痰 (たん) の吸引など)	4.2	0.0	0.0	4.5	13.3	0.0
8 感情面のサポート (愚痴を聞く、話し相手になるなど)	25.4	0.0	12.5	31.8	20.0	28.0
9 見守り	12.7	100.0	25.0	13.6	6.7	8.0
10 通訳 (日本語や手話など)	1.4	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0
11 金銭管理	11.3	0.0	25.0	13.6	13.3	4.0
12 家計支援 (仕送りや、家族のために働くなど)	8.5	0.0	0.0	4.5	20.0	8.0
13 薬の管理	12.7	0.0	12.5	18.2	6.7	12.0
14 障害手帳や介護保険等の制度申請や手続きの管理	5.6	0.0	0.0	9.1	13.3	0.0
15 支援を入れるための事業者との連絡・調整	4.2	0.0	0.0	0.0	6.7	8.0
16 支援を入れるための家族との連絡・調整	19.7	0.0	50.0	22.7	13.3	12.0
17 その他	1.4	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0

Q3\_4.8 あなたが行っているお世話の内容を教えてください。／その他 (MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	9	0	1	3	1</	

Q3.5 お世話は誰と行っていますか。(MA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	母親	201	30	22	56	35	58
2	父親	140	24	19	42	25	30
3	祖母	23	4	5	12	0	2
4	祖父	8	0	2	2	2	2
5	きょうだい	84	11	4	15	24	30
6	子ども	17	2	1	6	4	4
7	配達者・パートナー	54	2	4	7	16	25
8	親戚の人	17	1	3	5	3	5
9	自分のみ	124	12	18	35	19	40
10	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	32	2	4	12	4	10
11	その他	0	0	0	0	0	0

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	母親	38.5	55.6	33.3	40.3	33.7	36.5
2	父親	26.8	44.4	28.8	30.2	24.0	18.9
3	祖母	4.4	7.4	7.6	8.6	0.0	1.3
4	祖父	1.5	0.0	3.0	1.4	1.9	1.3
5	きょうだい	16.1	20.4	6.1	10.8	23.1	18.9
6	子ども	3.3	3.7	1.5	4.3	3.8	2.5
7	配達者・パートナー	10.3	3.7	6.1	5.0	15.4	15.7
8	親戚の人	3.3	1.9	4.5	3.6	2.9	3.1
9	自分のみ	23.8	22.2	27.3	25.2	18.3	25.2
10	福祉サービス(ヘルパーなど)を利用	6.1	3.7	6.1	8.6	3.8	6.3
11	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q3.6 あなたはどのくらいの頻度でお世話をしていますか。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	ほぼ毎日	205	16	20	48	38	83
2	週に3~5日	116	19	22	24	31	20
3	週に1~2日	126	12	15	50	15	34
4	1か月に数日	70	7	9	15	19	20
5	その他	5	0	0	2	1	2

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	ほぼ毎日	39.3	29.6	30.3	34.5	36.5	52.2
2	週に3~5日	22.2	35.2	33.3	17.3	29.8	12.6
3	週に1~2日	24.1	22.2	22.7	36.0	14.4	21.4
4	1か月に数日	13.4	13.0	13.6	10.8	18.3	12.6
5	その他	1.0	0.0	0.0	1.4	1.0	1.3

Q3.7 平日にお世話は何時間程度行っていますか。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	1時間未満	119	19	16	27	23	34
2	1時間以上3時間未満	217	19	27	67	36	68
3	3時間以上5時間未満	121	12	14	31	35	29
4	5時間以上7時間未満	29	0	5	7	6	11
5	7時間以上	36	4	4	7	4	17

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	1時間未満	22.8	35.2	24.2	19.4	22.1	21.4
2	1時間以上3時間未満	41.6	35.2	40.9	48.2	34.6	42.8
3	3時間以上5時間未満	23.2	22.2	21.2	22.3	33.7	18.2
4	5時間以上7時間未満	5.6	0.0	7.6	5.0	5.8	6.9
5	7時間以上	6.9	7.4	6.1	5.0	3.8	10.7

Q3.8 あなたはいつからお世話をしていますか。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	小学校就学以前から	56	5	6	14	11	20
2	小学校低学年(1~3年生)から	26	6	6	6	4	4
3	小学校高学年(4~6年生)から	33	9	9	7	6	2
4	中学生から	48	14	7	15	10	2
5	高校生(高校生世代の時)から	111	17	14	32	17	31
6	高校を卒業して以降(高校卒業後の世代以降)	204	3	23	56	39	83
7	あなたのこともがまれて以降	44	0	1	9	17	17

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	小学校就学以前から	10.7	9.3	9.1	10.1	10.6	12.6
2	小学校低学年(1~3年生)から	5.0	11.1	9.1	4.3	3.8	2.5
3	小学校高学年(4~6年生)から	6.3	16.7	13.6	5.0	5.8	1.3
4	中学生から	9.2	25.9	10.6	10.8	9.6	1.3
5	高校生(高校生世代の時)から	21.3	31.5	21.2	23.0	16.3	19.5
6	高校を卒業して以降(高校卒業後の世代以降)	39.1	5.6	34.8	40.3	37.5	52.2
7	あなたのこともがまれて以降	8.4	0.0	1.5	6.5	16.3	10.7

Q3.9 あなたはいつまでお世話をしていましたか。(SA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		56	16	7	12	6	15
1	中学入学以前まで	2	1	1	0	0	0
2	高校入学以前まで	6	4	1	2	0	0
3	専門学校や大学入学以前まで	10	5	1	2	0	2
4	社会人になる前まで	7	0	2	4	1	0
5	10年前まで	7	0	2	0	1	4
6	5年前まで	6	0	0	0	1	5
7	最近(1年以内)まで	16	4	1	4	3	4
8	その他	1	1	0	0	0	0

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	中学入学以前まで	3.6	6.3	14.3	0.0	0.0	0.0
2	高校入学以前まで	10.7	25.0	0.0	16.7	0.0	0.0
3	専門学校や大学入学以前まで	17.9	31.3	14.3	16.7	0.0	13.2
4	社会人になる前まで	14.3	6.3	28.6	33.3	16.7	0.0
5	10年前まで	12.5	0.0	28.6	0.0	16.7	26.7
6	5年前まで	10.7	0.0	0.0	0.0	16.7	33.3
7	最近(1年以内)まで	28.6	25.0	14.3	33.3	50.0	26.7
8	その他	1.8	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0

Q3.10 お世話をしていることで、やりたかったができなかったこと、あきらめたことはありますか。(MA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	学校に行きたくても行けなかった	16	3	2	1	3	7
2	単位をとれなかった・留年・休学した	18	2	2	3	6	5
3	課題・予習復習をする時間が取れなかった	32	7	4	8	6	7
4	進学をあきらめた	28	5	6	4	3	10
5	進学をあきらめた	20	0	2	7	6	5
6	睡眠が十分に取れなかった	116	12	13	32	21	38
7	友人と遊ぶことができなかった	88	10	12	24	14	28
8	部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	29	4	7	6	5	7
9	課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	25	3	3	8	6	5
10	就職・アルバイトができなかった	47	5	2	14	10	16
11	就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	34	4	5	8	6	11
12	勤務時間に制約があり、昇進・昇任できなかった	24	2	1	8	2	11
13	勤務地の移動ができなかった	28	0	0	12	5	11
14	就業後のレクリエーションに参加できなかった	19	0	1	6	4	8
15	一人暮らしをしたくてもできなかった	51	4	5	11	14	17
16	恋愛をしたくてもできなかった	35	2	2	8	6	17
17	自分の時間が取れなかった	124	11	13	28	22	50
18	その他	7	1	0	3	0	3
19	特になかった	194	22	23	49	40	60

		割合(%)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	学校に行きたくても行けなかった	3.1	5.6	3.0	0.7	2.9	4.4
2	単位をとれなかった・留年・休学した	3.4	3.7	3.0	2.2	5.8	3.1
3	課題・予習復習をする時間が取れなかった	6.1	13.0	6.1	5.8	5.8	4.4
4	進学をあきらめた	5.4	9.3	9.1	2.9	2.9	6.3
5	進学をあきらめた	3.8	0.0	3.0	5.0	5.8	3.1
6	睡眠が十分に取れなかった	22.2	22.2	19.7	23.0	20.2	23.9
7	友人と遊ぶことができなかった	16.9	18.5	18.2	17.3	13.5	17.6
8	部活動・サークル活動ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	5.6	7.4	10.6	4.3	4.8	4.4
9	課外活動・習い事ができなかった、もしくは辞めざるを得なかった	4.8	5.6	4.5	5.8	5.8	3.1
10	就職・アルバイトができなかった	9.0	9.3	3.0	10.1	9.6	10.1
11	就職先・進路の変更を考えざるを得なかった、変更した	6.5	7.4	7.6	5.8	5.8	6.9
12	勤務時間に制約があり、昇進・昇任できなかった	4.6	3.7	1.5	5.8	1.9	6.9
13	勤務地の移動ができなかった	5.4	0.0	0.0	8.6	4.8	6.9
14	就業後のレクリエーションに参加できなかった	3.6	0.0	1.5	4.3	3.8	5.0
15	一人暮らしをしたくてもできなかった	9.8	7.4	7.6	7.9	13.5	10.7
16	恋愛をしたくてもできなかった	6.7	3.7	3.0	5.8	5.8	10.7
17	自分の時間が取れなかった	23.8	20.4	19.7	20.1	21.2	31.4
18	その他	1.3	1.9	0.0	2.2	0.0	1.9
19	特になかった	37.2	40.7	34.8	35.3	38.5	37.7

Q3.11.1 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることはありますか。／当てはまるものすべてに○(MA)

		回答数(件)					
		YC全体	YC(10代)	YC(20代前半)	YC(20代後半)	YC(30代前半)	YC(30代後半)
全体		522	54	66	139	104	159
1	家族との人間関係	151	13	23	37	30	48
2	家族以外との人間関係	95	9	12	34	16	24
3	恋愛・性に関すること	80	10	5	22	16	27
4	結婚・離婚に関すること	54	3	3	10	13	18
5	いじめ・いじめ防止	36	5	3	10	7	11
6	生活がいそぎすぎる	120	13	14	35	22	36

Q3.11.2 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることはありませんか。／もっとも当てはまるもの一つに○ (SA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 家族との人間関係	82	7	13	19	17	26	15.7	13.0	19.7	13.7	16.3	16.4
2 家族以外との人間関係	26	4	2	12	3	5	5.0	7.4	3.0	8.6	2.9	3.1
3 恋愛・性に関すること	23	3	3	5	5	7	4.4	5.6	4.5	3.6	4.8	4.4
4 結婚・離婚に関すること	12	1	3	1	3	4	2.3	1.9	4.5	0.7	2.9	2.5
5 いじめ、ハラスメント	7	3	2	3	0	1	1.3	5.6	0.0	2.2	0.0	0.6
6 生きがいに関すること	28	3	2	13	4	6	5.4	5.6	3.0	9.4	3.8	3.8
7 自由にできる時間がないこと	31	0	4	8	8	11	5.9	0.0	6.1	5.8	7.7	6.9
8 収入・家計・借金等	67	1	6	26	14	20	12.8	1.9	9.1	18.7	13.5	12.6
9 自分の病気や心身の不調	36	1	4	11	8	12	6.9	1.9	6.1	7.0	7.7	7.5
10 家族の病気や介護	10	1	1	0	3	6	1.9	1.9	0.0	0.0	2.9	3.8
11 妊娠・出産	5	0	0	0	1	2	1.0	1.9	0.0	0.0	1.0	1.3
12 家事	5	0	0	0	0	2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
13 家事	5	0	1	1	1	2	1.0	0.0	1.5	0.7	1.0	1.3
14 自分の学業・受験・進学	12	7	3	0	2	0	2.3	13.0	4.5	0.0	1.9	0.0
15 こどもの教育	2	0	0	0	0	2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
16 自分の仕事	19	2	4	2	3	8	3.6	3.7	6.1	1.4	2.9	5.0
17 家族の仕事	1	0	0	0	1	0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
18 その他	2	0	1	0	0	1	0.4	0.0	1.5	0.0	0.0	0.6
19 特になし	152	20	19	38	31	44	29.1	37.0	28.8	27.3	29.8	27.7

Q3.12 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることとして、Q3-11-2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、家族のお世話をしていることによる影響だと感じることはありませんか。(SA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	370	34	47	101	73	115	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 影響があると感じる	181	12	29	45	40	55	48.9	35.3	61.7	44.6	54.8	47.8
2 わからず	109	12	10	34	22	31	29.5	35.3	21.3	33.7	30.1	27.0
3 影響があると感じない	80	10	8	22	11	29	21.6	29.4	17.0	21.8	15.1	25.2

Q3.13 家族のお世話に限らず、現在、悩んだり困っていることとして、Q3-11-2で「もっとも当てはまるもの」として選択した項目について、今後、どうしていきたいと考えているかについて教えてください。(MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	370	34	47	101	73	115	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 自分で解決したい	200	20	34	53	44	49	54.1	58.8	72.3	52.5	60.3	42.6
2 周囲の人や専門家に相談したい	138	6	12	37	30	53	37.3	17.6	25.5	36.6	41.1	46.1
3 その他	11	1	0	3	2	5	3.0	2.9	0.0	3.0	2.7	4.3
4 特に何もする予定はない	76	9	9	24	13	21	20.5	26.5	19.1	23.8	17.8	18.3

Q3.14.1 お世話をすることにきつさを感じていますか。／母親 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	209	20	24	51	50	64	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	45	3	5	8	13	16	21.5	15.0	20.8	15.7	26.0	25.0
2 精神的にきつい	75	6	7	23	16	23	35.9	30.0	29.2	45.1	32.0	35.9
3 時間的余裕がない	73	5	5	17	21	25	34.9	25.0	20.8	33.3	42.0	39.1
4 特にきつさは感じていない	69	10	11	15	9	24	33.0	50.0	49.8	29.4	18.0	37.5

Q3.14.2 お世話をすることにきつさを感じていますか。／父親 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	117	16	16	25	19	41	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	28	1	3	5	6	13	23.9	6.3	18.8	20.0	31.6	31.7
2 精神的にきつい	46	2	7	11	6	19	39.3	18.8	43.8	44.0	31.6	46.3
3 時間的余裕がない	36	5	3	8	5	15	30.8	31.3	18.8	32.0	26.3	36.6
4 特にきつさは感じていない	40	8	6	5	6	15	34.2	50.0	37.5	20.0	31.6	36.6

Q3.14.3 お世話をすることにきつさを感じていますか。／祖母 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	130	19	18	34	25	34	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	25	3	3	8	5	6	19.2	15.8	16.7	23.5	20.0	17.6
2 精神的にきつい	58	8	9	13	14	14	44.6	42.1	50.0	38.2	56.0	41.2
3 時間的余裕がない	48	6	7	11	11	13	36.9	31.6	38.9	32.4	44.0	38.2
4 特にきつさは感じていない	39	7	4	12	6	10	30.0	36.8	22.2	35.3	24.0	29.4

Q3.14.4 お世話をすることにきつさを感じていますか。／祖父 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	56	5	6	21	12	12	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	16	1	3	5	3	4	28.6	20.0	50.0	23.8	25.0	33.3
2 精神的にきつい	22	1	4	8	3	6	39.3	20.0	66.7	38.1	25.0	50.0
3 時間的余裕がない	20	1	1	12	3	3	35.7	20.0	16.7	57.1	20.0	25.0
4 特にきつさは感じていない	15	2	1	5	4	3	26.8	40.0	16.7	23.8	33.3	25.0

Q3.14.5 お世話をすることにきつさを感じていますか。／きょうだい (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	45	13	6	14	4	8	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	11	3	1	2	3	2	24.4	23.1	16.7	14.3	75.0	25.0
2 精神的にきつい	17	4	2	7	1	3	37.8	30.8	33.3	50.0	25.0	37.5
3 時間的余裕がない	12	1	1	5	1	4	26.7	7.7	16.7	35.7	25.0	50.0
4 特にきつさは感じていない	16	5	2	5	1	3	35.6	38.5	33.3	35.7	25.0	37.5

Q3.14.6 お世話をすることにきつさを感じていますか。／子ども (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	46	1	3	11	6	25	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	10	0	1	3	2	4	21.7	0.0	33.3	27.3	33.3	16.0
2 精神的にきつい	15	0	1	4	2	8	32.6	0.0	33.3	36.4	33.3	32.0
3 時間的余裕がない	15	0	0	2	2	11	32.6	0.0	0.0	18.2	33.3	44.0
4 特にきつさは感じていない	16	1	2	3	1	9	34.8	100.0	66.7	27.3	16.7	36.0

Q3.14.7 お世話をすることにきつさを感じていますか。／配偶者・パートナー (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	71	1	8	22	15	25	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	12	0	1	7	1	3	16.9	0.0	12.5	31.8	6.7	12.0
2 精神的にきつい	23	0	4	6	3	10	32.4	0.0	50.0	27.3	20.0	40.0
3 時間的余裕がない	26	0	1	5	9	11	36.6	0.0	12.5	22.7	60.0	44.0
4 特にきつさは感じていない	22	1	3	6	4	8	31.0	100.0	37.5	27.3	26.7	32.0

Q3.14.8 お世話をすることにきつさを感じていますか。／その他 (MA)

	回答数 (件)						割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	9	0	1	3	1	4	100.0	-	100.0	100.0	100.0	100.0
1 身体的にきつい	4	0	0	2	1	1	44.4	-	0.0	66.7	100.0	25.0
2 精神的にきつい	4	0	1	2	0	1	44.4	-	100.0	66.7	0.0	25.0
3 時間的余裕がない	2	0	0	1	0	1	22.2	-	0.0	33.3	0.0	25.0
4 特にきつさは感じていない	3	0	0	1	0	2	33.3	-	0.0	33.3	0.0	50.0

Q3.16 Q3-15で回答した頃と今を比較して、きつさの程度に変化はありましたか。(SA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	361	30	44	95	81	111
1 とても改善した	25	6	4	4	4	7
2 少し改善した	102	10	15	34	14	29
3 変わらない	172	8	19	43	47	55
4 少し悪化した	32	3	3	6	8	12
5 とても悪化した	30	3	3	8	8	8

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	6.9	20.0	9.1	4.2	4.9	6.3
2	28.3	33.3	34.1	35.8	17.3	26.1
3	47.6	26.7	43.2	45.3	58.0	49.5
4	8.9	10.0	6.8	6.3	9.9	10.8
5	8.3	10.0	6.8	8.4	9.9	7.2

Q3.17 過去と比較して、きつさが改善したと感じる主な理由について教えてください。(MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	127	16	19	38	18	36
1 家族や周囲からの支援や理解が増えた	37	5	3	14	4	11
2 福祉サービスや相談機関などから支援を受けられるようになった	27	3	4	8	3	9
3 お世話の内容や量が変化した(減った)	35	3	6	8	6	12
4 相談できる人や場所ができた	30	2	5	8	6	9
5 自分の気持ちの持ち方や考え方が変化した	35	2	9	10	5	9
6 学業や仕事など、生活環境が変化した	14	3	3	2	2	3
7 自分や家族の健康状態が変化した	11	2	1	2	3	3
8 その他	8	1	0	2	1	4
9 わからない	4	1	1	2	0	0

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	29.1	31.3	15.8	36.8	22.2	30.6
2	21.3	18.8	21.1	21.1	16.7	25.0
3	27.6	18.8	31.6	21.1	33.3	33.3
4	23.6	12.5	26.3	21.1	33.3	25.0
5	27.6	12.5	47.4	26.3	27.8	25.0
6	11.0	18.8	15.8	7.9	11.1	8.3
7	8.7	12.5	5.3	5.3	16.7	8.3
8	6.3	6.3	0.0	5.3	5.6	11.1
9	3.1	6.3	5.3	5.3	0.0	0.0

Q3.19 ご自身がお世話をする理由をどのようにとらえていますか。(MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159
1 自分がお世話をしたいと思うため	125	13	10	39	16	47
2 自分がお世話をしないと家族が困るため	204	25	26	45	37	71
3 ほかにお世話をできる人がいないため	160	13	17	41	32	57
4 ほかに家族や親せき等から世話をしよう言われているため	45	8	6	13	10	8
5 その他	9	0	2	1	3	3
6 わからない・考えたことがない	114	13	16	30	33	22

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	23.9	24.1	15.2	28.1	15.4	29.6
2	39.1	46.3	39.4	32.4	35.6	44.7
3	30.7	24.1	25.8	29.5	30.8	35.8
4	8.6	14.8	9.1	9.4	9.6	5.0
5	1.7	0.0	3.0	0.7	2.9	1.9
6	21.8	24.1	24.2	21.6	31.7	13.8

Q3.20 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したことはありますか。(SA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159
1 主な相談事項として相談したことがある	205	17	31	62	39	56
2 主な相談事項ではなかったが、相談したことがある	6	0	1	1	1	3
3 上記いずれの場合でも相談をしたことがある	2	0	1	1	0	0
4 その他	2	1	0	1	0	0
5 相談したことはない	307	36	33	74	64	100

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	39.3	31.5	47.0	44.6	37.5	35.2
2	1.1	0.0	1.5	0.7	1.0	1.9
3	0.4	0.0	1.5	0.7	0.0	0.0
4	0.4	1.9	0.0	0.7	0.0	0.0
5	58.8	66.7	50.0	53.2	61.5	62.9

Q3.21 お世話を必要としている家族のことを相談した相談相手・相談先として該当するものを教えてください。/当てはまるものすべてに○(MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	215	18	33	65	40	59
1 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	129	10	21	34	22	42
2 親戚(おじ、おばなど)	32	2	2	15	0	7
3 友人	53	4	7	19	11	12
4 交際相手・配偶者	26	1	2	6	5	12
5 大学や専門学校等の指導教員	16	4	2	4	2	3
6 大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	19	2	4	5	6	2
7 職場の先輩や上司	29	1	3	9	6	10
8 ピアサポート等同じ境遇の人	9	0	1	1	4	3
9 SNS上での知り合い	8	1	1	2	2	2
10 民生委員・児童委員	13	0	2	3	3	5
11 子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関	5	0	1	0	2	2
12 児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関	7	0	0	0	4	3
13 ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	8	0	0	1	3	4
14 地域若者サポートステーションハロワークなどの就労支援機関	6	0	1	1	2	2
15 病院などの医療機関	31	0	2	8	7	14
16 地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	23	0	1	5	5	12
17 相談支援事業所などの障害福祉関係機関	16	0	1	5	4	6
18 保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	8	0	0	3	2	3
19 福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	14	0	4	2	3	5
20 フリースクール・こども食堂などの民間団体	6	0	0	2	1	3
21 警察	12	1	0	4	3	4
22 その他	7	0	1	0	2	4

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	60.0	55.6	63.6	52.3	55.0	71.2
2	14.9	11.1	6.1	23.1	15.0	11.9
3	24.7	22.2	21.2	29.2	27.3	20.3
4	12.1	5.6	6.1	9.2	12.5	20.3
5	7.4	22.2	9.1	6.2	5.0	5.1
6	8.8	11.1	12.1	7.7	15.0	3.4
7	13.5	5.6	9.1	13.8	15.0	16.9
8	4.2	0.0	3.0	1.5	10.0	5.1
9	3.7	5.6	3.0	3.1	5.0	3.4
10	6.0	0.0	6.1	4.6	7.5	8.5
11	2.3	0.0	3.0	0.0	5.0	3.4
12	3.3	0.0	0.0	0.0	10.0	5.1
13	3.7	0.0	0.0	1.5	7.5	6.8
14	2.8	0.0	3.0	1.5	5.0	3.4
15	14.4	0.0	6.1	12.3	17.5	23.7
16	10.7	0.0	3.0	7.7	12.5	20.3
17	7.4	0.0	3.0	7.7	10.0	10.2
18	3.7	0.0	0.0	4.6	5.0	5.1
19	6.5	0.0	12.1	3.1	7.5	8.5
20	2.8	0.0	0.0	3.1	2.5	5.1
21	5.6	5.6	0.0	6.2	7.5	6.8
22	3.3	0.0	3.0	0.0	5.0	6.8

Q3.22 お世話を必要としている家族のことを相談した相談相手・相談先として該当するものを教えてください。/相談してよかった一番感じる相談相手・相談先一つに○(SA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	215	18	33	65	40	59
1 家族(父、母、祖父、祖母、きょうだい)	91	9	17	25	16	24
2 親戚(おじ、おばなど)	13	1	0	10	1	1
3 友人	23	2	5	9	3	4
4 交際相手・配偶者	11	1	1	4	2	3
5 大学や専門学校等の指導教員	8	2	2	3	0	1
6 大学の学生相談室やキャリア支援室・保健センター	7	2	1	3	1	0
7 職場の先輩や上司	6	0	1	1	3	1
8 ピアサポート等同じ境遇の人	2	0	0	0	1	1
9 SNS上での知り合い	1	0	0	0	1	0
10 民生委員・児童委員	1	0	0	1	0	0
11 子ども・若者総合相談センターなどの子ども・若者に関する行政の相談機関	1	0	0	0	1	0
12 児童相談所、こども家庭センターなどの、こどもに関する行政の相談機関	0	0	0	0	0	0
13 ひきこもり地域支援センターなどのひきこもりに関する行政の相談機関	1	0	0	1	0	0
14 地域若者サポートステーションハロワークなどの就労支援機関	1	0	0	1	0	0
15 病院などの医療機関	12	0	1	1	3	7
16 地域包括支援センターや介護事業所などの介護関係機関	9	0	0	1	2	6
17 相談支援事業所などの障害福祉関係機関	4	0	1	1	0	2
18 保健所などの健康・衛生に関する行政の相談機関	0	0	0	0	0	0
19 福祉事務所などの社会福祉に関する行政の相談機関	8	0	3	0	2	3
20 フリースクール・こども食堂などの民間団体	2	0	0	1	0	1
21 警察	8	1	0	3	2	2
22 その他	6	0	1	0	2	3

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	42.3	50.0	51.5	38.5	40.0	40.7
2	6.0	5.6	0.0	15.4	2.5	1.7
3	10.7	11.1	15.2	13.8	7.5	6.8
4	5.1	5.6	3.0	6.2	5.0	5.1
5	3.7	11.1	6.1	4.6	0.0	1.7
6	3.3	11.1	3.0	4.6	2.5	0.0
7	2.8	0.0	3.0	1.5	7.5	1.7
8	0.9	0.0	0.0	0.0	2.5	1.7
9	0.5	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
10	0.5	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0
11	0.5	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
13	0.5	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0
14	0.5	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0
15	5.6	0.0	3.0	1.5	7.5	11.9
16	4.2	0.0	0.0	1.5	5.0	10.2
17	1.9	0.0	3.0	1.5	0.0	3.4
18	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
19	3.7	0.0	9.1	0.0		

Q3.23 誰にも相談したことがない理由として、もっとも当てはまるものをお答えください。(MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	307	36	33	74	64	100
1 誰かに相談するほどの悩みではない	122	22	12	32	15	41
2 家族外の人に相談するような悩みではない	44	4	4	14	8	14
3 誰に相談するのがよいか分からない	36	4	3	5	13	11
4 相談できる人が身近にいない	43	5	2	10	10	16
5 家族のこのため話にくい	40	8	7	7	8	10
6 家族のことを知られたくない	29	2	2	5	6	14
7 家族に対して偏見を持たれたくない	19	2	0	6	3	8
8 相談しても状況が変わるとは思わない	83	8	11	17	21	26
9 その他	4	0	0	1	2	1

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	39.7	61.1	36.4	43.2	23.4	41.0
2	14.3	11.1	12.1	18.9	12.5	14.0
3	11.7	11.1	9.1	6.8	20.3	11.0
4	14.0	13.9	6.1	13.5	15.6	16.0
5	13.0	22.2	21.2	9.5	12.5	10.0
6	9.4	5.6	6.1	6.8	9.4	14.0
7	6.2	5.6	6.0	8.1	4.7	8.0
8	27.0	22.2	33.3	23.0	32.8	26.0
9	1.3	0.0	0.0	1.4	3.1	1.0

Q3.24 お世話を必要としている家族のこのことや、お世話を聞いてくれる人はいますか。(SA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	307	36	33	74	64	100
1 いる	116	8	8	32	16	40
2 いない	191	16	25	42	48	60

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	37.8	55.6	24.2	43.2	25.0	40.0
2	62.2	44.4	75.8	56.8	75.0	60.0

Q3.25.1 周りの大人 (大学、職場、自治体等を含む) にサポートしてほしいことや、必要としている支援はありますか。/当てはまるものすべてに○ (MA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159
1 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	183	19	22	56	33	53
2 家族のお世話について相談のってほしい	102	7	8	33	17	37
3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	71	5	9	20	15	22
4 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	75	8	4	19	19	25
5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	4	0	1	0	1	2
6 自由に使える時間がほしい	95	7	8	18	19	43
7 進路・進級に関する相談のってほしい	19	6	3	4	2	4
8 就職・転職に関する相談のってほしい	37	2	4	9	9	13
9 大学の勉強や学習のサポートをしてほしい	13	5	3	1	1	3
10 結婚に関する相談のってほしい	19	0	2	5	7	5
11 家庭への経済的な支援をしてほしい	51	2	6	11	13	19
12 離家 (親元を離れて別世帯で暮らすこと) のための経済的な支援をしてほしい	27	3	1	10	5	8
13 宿泊などで、一時的に家から離れられるような支援をしてほしい	18	3	2	6	3	4
14 奨学金等、学費への支援をしてほしい	11	3	2	3	1	2
15 ピアサポート等同じ境遇の人と話せる場所がほしい	11	0	1	3	1	6
16 カウンセリングや心理療法を受けるための経済的な支援をしてほしい	35	2	3	5	8	17
17 年齢等に関わらず継続的に相談できる相手がほしい	32	3	3	9	4	13
18 柔軟な勤務時間・テレワークの導入等、家族のお世話をしながらでも働しやすい勤務環境を整備してほしい	29	0	5	7	5	12
19 家族のお世話に関する職場内での理解が、より進んでほしい	28	1	0	6	5	16
20 その他	5	0	0	2	1	2
21 特になし	123	18	18	30	25	32
22 わからない	61	3	7	17	15	19

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	35.1	35.2	33.3	40.3	31.7	33.3
2	19.5	13.0	12.1	23.7	16.3	23.3
3	13.6	9.3	13.6	14.4	14.4	13.8
4	14.4	14.8	6.1	13.7	18.3	15.7
5	0.8	0.0	1.5	0.0	1.0	1.3
6	18.2	13.0	12.1	12.9	18.3	27.0
7	3.6	11.1	4.5	2.9	1.9	2.5
8	7.1	3.7	6.1	6.5	8.7	8.2
9	2.5	9.3	4.5	0.7	1.0	1.9
10	3.6	0.0	3.0	3.6	6.7	3.1
11	9.8	3.7	9.1	7.9	12.5	11.9
12	5.2	5.6	1.5	7.2	4.8	5.0
13	3.4	5.6	3.0	4.3	2.9	2.5
14	2.1	5.6	3.0	2.2	1.0	1.3
15	2.1	0.0	1.5	2.2	1.0	3.8
16	6.7	3.7	4.5	3.6	7.7	10.7
17	6.1	5.6	4.5	6.5	3.8	8.2
18	5.6	0.0	7.6	5.0	4.8	7.5
19	5.4	1.9	0.0	4.3	4.8	10.1
20	1.0	0.0	0.0	1.4	1.0	1.3
21	23.6	33.3	27.3	21.6	24.0	20.1
22	11.7	5.6	10.6	12.2	14.4	11.9

Q3.25.2 周りの大人 (大学、職場、自治体等を含む) にサポートしてほしいことや、必要としている支援はありますか。/もっとも当てはまるもの一つに○ (SA)

	回答数 (件)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	522	54	66	139	104	159
1 自分のいまの状況について話を聞いてほしい	117	13	16	39	22	27
2 家族のお世話について相談のってほしい	46	4	4	16	4	18
3 家族の病気や障がい、ケアのことなどについてわかりやすく説明してほしい	20	1	2	7	4	6
4 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	35	5	4	12	6	8
5 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	1	0	0	0	0	1
6 自由に使える時間がほしい	44	1	3	7	11	22
7 進路・進級に関する相談のってほしい	2	2	0	0	0	0
8 就職・転職に関する相談のってほしい	10	0	2	1	5	2
9 大学の勉強や学習のサポートをしてほしい	2	1	0	0	0	1
10 結婚に関する相談のってほしい	5	0	0	2	3	3
11 家庭への経済的な支援をしてほしい	16	1	3	4	3	5
12 離家 (親元を離れて別世帯で暮らすこと) のための経済的な支援をしてほしい	11	2	1	3	3	2
13 宿泊などで、一時的に家から離れられるような支援をしてほしい	6	1	2	1	1	1
14 奨学金等、学費への支援をしてほしい	2	1	1	0	0	0
15 ピアサポート等同じ境遇の人と話せる場所がほしい	0	0	0	0	0	0
16 カウンセリングや心理療法を受けるための経済的な支援をしてほしい	5	0	1	0	2	2
17 年齢等に関わらず継続的に相談できる相手がほしい	2	0	0	0	0	2
18 柔軟な勤務時間・テレワークの導入等、家族のお世話をしながらでも働しやすい勤務環境を整備してほしい	7	0	2	1	1	3
19 家族のお世話に関する職場内での理解が、より進んでほしい	4	1	0	0	0	3
20 その他	3	0	0	1	0	2
21 特になし	123	18	18	30	25	32
22 わからない	61	3	7	17	15	19

	割合 (%)					
	YC全体	YC (10代)	YC (20代前半)	YC (20代後半)	YC (30代前半)	YC (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	22.4	24.1	24.2	28.1	21.2	17.0
2	8.8	7.4	6.1	11.5	3.8	11.3
3	3.8	1.9	3.0	5.0	3.8	3.8
4	6.7	9.3	6.1	8.6	5.8	5.0
5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
6	8.4	1.9	4.5	5.0	10.6	13.8
7	0.4	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0
8	1.9	0.0	3.0	0.7	4.8	1.3
9	0.4	1.9	0.0	0.0	0.0	0.6
10	1.0	0.0	0.0	0.0	1.9	1.9
11	3.1	1.9	4.5	2.9	2.9	3.1
12	2.1	3.7	1.5	2.2	2.9	1.3
13	1.1	1.9	3.0	0.7	1.0	0.6
14	0.4	1.9	1.5	0.0	0.0	0.0
15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
16	1.0	0.0	1.5	0.0	1.9	1.3
17	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
18	1.3	0.0	3.0	0.7	1.0	1.9
19	0.8	1.9	0.0	0.0	0.0	1.9
20	0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3
21	23.6	33.3	27.3	21.6	24.0	20.1
22	11.7	5.6	10.6	12.2	14.4	11.9

Q3.27 今後 5年間のうちに、あなたの家族に介護が必要となる可能性はありますか。(SA)

	回答数 (件)					
	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体	1,007	354	105	235	120	193
1 可能性がかなり高い	29	12	3	7	2	5
2 可能性が少しある	241	81	24	44	29	63
3 可能性はほとんどない	737	261	78	184	89	125
4 NA	71	6	4	16	19	26

	割合 (%)					
	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	2.9	3.4	2.9	3.0	1.7	2.6
2	23.9	22.9	22.9	18.7	24.2	32.6
3	73.2	73.7	74.3	78.3	74.2	64.8
4	7.1	1.7	3.8	6.8	15.8	13.5

Q3.28 将来あなたが介護する可能性のあるご家族・親族はどなたですか。(MA)

	回答数 (件)					
	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体	270	93	27	51	31	68
1 母親	163	48	15	31	20	49
2 父親	141	39	14	25	17	46
3 祖母	75	41	12	12	6	4
4 祖父	36	24	7	3	2	0
5 きょうだい	13	2	1	5	1	4
6 子ども	2	0	0	0	0	2
7 配偶者・パートナー	8	0	1	4	2	1
8 その他	3	2	0	0	0	1

	割合 (%)					
	YC以外全体	YC以外 (10代)	YC以外 (20代前半)	YC以外 (20代後半)	YC以外 (30代前半)	YC以外 (30代後半)
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	60.4	51.6	55.6	60.8	64.5	72.1
2	52.2	41.9	51.9	49.0	54.8	68.6
3	27.8	44.1	44.4	23.5	19.4	5.9
4	13.3	25.8	25.9	5.9	6.5	0.0
5	4.8	2.2	3.7	9.8	3.2	5.9
6	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
7	3.0	0.0	3.7	7		

18歳以上の若者に対するアンケート調査結果

Q3\_29 将来、あなたが直面することになる介護について、どの程度の不安を感じますか。(SA)

	回答数(件)						割合(%)					
	YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)	YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体	270	93	27	51	31	68	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 非常に不安を感じる	60	14	7	11	8	20	22.2	15.1	25.9	21.6	25.8	29.4
2 不安を感じる	84	25	7	13	9	30	31.1	26.9	25.9	25.5	29.0	44.1
3 少し不安を感じる	87	37	10	15	11	14	32.2	39.8	37.0	29.4	35.5	20.6
4 どちらともいえない	29	12	1	9	3	4	10.7	12.9	3.7	17.6	9.7	5.9
5 不安を感じない	10	5	2	3	0	0	3.7	5.4	7.4	5.9	0.0	0.0

Q3\_30 将来、あなたが直面することになる介護について、どのような不安を感じますか。(MA)

	回答数(件)						割合(%)					
	YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)	YC以外全体	YC以外(10代)	YC以外(20代前半)	YC以外(20代後半)	YC以外(30代前半)	YC以外(30代後半)
全体	231	76	24	39	28	64	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1 経済的な負担(介護費用・医療費など)が心配	163	51	14	28	22	48	70.6	67.1	58.3	71.8	78.6	75.0
2 仕事や学業との両立ができるか不安	103	40	9	16	10	28	44.6	52.6	37.5	41.0	35.7	43.8
3 自分の時間や生活が制限されることへの不安	98	40	12	13	10	23	42.4	52.6	50.0	33.3	35.7	35.9
4 介護サービスや支援制度の利用方法が分からない	65	21	3	12	9	20	28.1	27.6	12.5	30.8	32.1	31.3
5 介護による心身のストレス・疲労が心配	109	37	9	16	13	34	47.2	48.7	37.5	41.0	46.4	53.1
6 家族や周囲の理解・協力が得られるか不安	38	12	2	10	2	12	16.5	15.8	8.3	25.6	7.1	18.8
7 介護する相手との関係悪化やコミュニケーションの難しさ	59	26	4	8	8	13	25.5	34.2	16.7	20.5	28.6	20.3
8 介護がいつまで続くかわからず、結婚や育児などの将来の見通しを立てにくいことへの不安	46	18	5	5	5	13	19.9	23.7	20.8	12.8	17.9	20.3
9 その他	6	3	1	0	2	0	2.6	3.9	4.2	0.0	7.1	0.0

Q1\_2.1 貴団体の主たる事務所の所在地を教えてください。／都道府県（SA）

	回答数 (件)	割合 (%)
全体	88	100.0
1 北海道	7	8.0
2 青森県	1	1.1
3 岩手県	2	2.3
4 宮城県	1	1.1
5 秋田県	0	0.0
6 山形県	1	1.1
7 福島県	1	1.1
8 茨城県	0	0.0
9 栃木県	1	1.1
10 群馬県	1	1.1
11 埼玉県	3	3.4
12 千葉県	1	1.1
13 東京都	14	15.9
14 神奈川県	2	2.3
15 新潟県	1	1.1
16 富山県	1	1.1
17 石川県	0	0.0
18 福井県	2	2.3
19 山梨県	0	0.0
20 長野県	1	1.1
21 岐阜県	1	1.1
22 静岡県	5	5.7
23 愛知県	6	6.8
24 三重県	2	2.3
25 滋賀県	2	2.3
26 京都府	1	1.1
27 大阪府	7	8.0
28 兵庫県	6	6.8
29 奈良県	2	2.3
30 和歌山県	0	0.0
31 鳥取県	1	1.1
32 島根県	1	1.1
33 岡山県	0	0.0
34 広島県	2	2.3
35 山口県	0	0.0
36 徳島県	0	0.0
37 香川県	0	0.0
38 愛媛県	0	0.0
39 高知県	0	0.0
40 福岡県	8	9.1
41 佐賀県	0	0.0
42 長崎県	0	0.0
43 熊本県	1	1.1
44 大分県	0	0.0
45 宮崎県	1	1.1
46 鹿児島県	2	2.3
47 沖縄県	0	0.0

Q1.3 貴団体の設立主体を教えてください。（SA）

	回答数 (件)	割合 (%)
全体	88	100.0
1 市区町村（行政）	36	40.9
2 社会福祉法人	17	19.3
3 社団・財団法人	12	13.6
4 学校法人	0	0.0
5 宗教法人	0	0.0
6 民間企業	4	4.5
7 NPO	12	13.6
8 個人	1	1.1
9 任意団体	2	2.3
10 共同設立	3	3.4
11 その他	1	1.1

Q1.4 貴団体において実施しているヤングケアラー支援に関する自治体の事業について教えてください。（MA）

	回答数 (件)	割合 (%)
全体	88	100.0
1 ヤングケアラー支援体制強化事業	27	30.7
2 ヤングケアラー相互ネットワーク形成推進事業	4	4.5
3 その他	33	37.5
4 実施していない	30	34.1

Q2.1.1 貴団体における支援対象者及び、令和6年度における支援実績を教えてください。／支援対象に含まれるか否か（MA）

	回答数 (件)	割合 (%)
全体	88	100.0
1 ヤングケアラー（18歳未満）	69	78.4
2 ヤングケアラー以外（18歳未満）	61	69.3
3 ヤングケアラー（18、19歳）	50	56.8
4 ヤングケアラー（20代）	58	65.9
5 ヤングケアラー（30代）	38	43.2
6 ヤングケアラー以外（18歳以上、40歳未満）	51	58.0
7 40歳以上の方	25	28.4

支援団体に対するアンケート調査結果

Q2.1.2 おおよその支援件数 (NU)

		回答数 (件)						
		ヤング ケアラー (18歳未満)	ヤング ケアラー 以外 (18歳未満)	ヤング ケアラー (18、19歳)	ヤングケア ラー (20代)	ヤングケア ラー (30代)	ヤング ケアラー 以外 (18歳以上、40 歳未満)	40歳以上の方
全体		69	57	50	58	38	47	24
1	0件	8	9	16	11	15	9	4
2	1～4件	19	10	20	35	15	10	11
3	5～9件	12	2	8	4	5	5	2
4	10～19件	9	6	6	3	0	3	1
5	20～29件	8	3	0	2	1	2	2
6	30～39件	4	4	0	2	1	5	0
7	40～49件	2	3	0	1	0	1	0
8	50件以上	7	20	0	0	1	12	4

		割合 (%)						
		ヤング ケアラー (18歳未満)	ヤング ケアラー 以外 (18歳未満)	ヤング ケアラー (18、19歳)	ヤングケア ラー (20代)	ヤングケア ラー (30代)	ヤング ケアラー 以外 (18歳以上、40 歳未満)	40歳以上の方
全体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
1	0件	11.6	15.8	32.0	19.0	39.5	19.1	16.7
2	1～4件	27.5	17.5	40.0	60.3	39.5	21.3	45.8
3	5～9件	17.4	3.5	16.0	6.9	13.2	10.6	8.3
4	10～19件	13.0	10.5	12.0	5.2	0.0	6.4	4.2
5	20～29件	11.6	5.3	0.0	3.4	2.6	4.3	8.3
6	30～39件	5.8	7.0	0.0	3.4	2.6	10.6	0.0
7	40～49件	2.9	5.3	0.0	1.7	0.0	2.1	0.0
8	50件以上	10.1	35.1	0.0	0.0	2.6	25.5	16.7

Q2.2 貴団体がヤングケアラー支援を行うに至った経緯として、ヤングケアラー支援を始める際に、もともと活動していた支援領域について教えてください。(MA)

		回答数 (件)	割合 (%)
全体		77	100.0
1	児童福祉分野	41	53.2
2	教育分野	20	26.0
3	若者支援分野	40	51.9
4	高齢者福祉分野	11	14.3
5	障害福祉分野	14	18.2
6	母子保健分野	6	7.8
7	その他の福祉分野	7	9.1
8	医療分野	4	5.2
9	最初からヤングケアラー支援を主な目的として活動	3	3.9
10	その他	10	13.0

Q3.1 貴団体を利用する支援対象者が利用可能な初回相談経路を教えてください。(MA)

		回答数 (件)			
		18歳未満のヤ ングケアラー	18・19歳のヤ ングケアラー	20代のヤング ケアラー	30代のヤング ケアラー
全体		69	50	58	38
1	直接来所	57	40	48	31
2	電話	56	41	47	31
3	メール	45	36	35	27
4	SNS	28	22	23	16
5	他機関からの紹介	62	43	47	31
6	その他	19	19	20	13

		割合 (%)			
		18歳未満のヤ ングケアラー	18・19歳のヤ ングケアラー	20代のヤング ケアラー	30代のヤング ケアラー
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	直接来所	82.6	80.0	82.8	81.6
2	電話	81.2	82.0	81.0	81.6
3	メール	65.2	72.0	60.3	71.1
4	SNS	40.6	44.0	39.7	42.1
5	他機関からの紹介	89.9	86.0	81.0	81.6
6	その他	27.5	38.0	34.5	34.2

Q3.2 令和6年度における貴団体を利用した支援対象者の初回相談経路のうち、最も多い相談経路を教えてください。(SA)

		回答数 (件)			
		18歳未満のヤ ングケアラー	18・19歳のヤ ングケアラー	20代のヤング ケアラー	30代のヤング ケアラー
全体		69	50	58	38
1	直接来所	6	1	9	6
2	電話	8	8	11	9
3	メール	0	0	2	2
4	SNS	4	5	7	3
5	他機関からの紹介	40	25	21	12
6	その他	11	11	8	6

		割合 (%)			
		18歳未満のヤ ングケアラー	18・19歳のヤ ングケアラー	20代のヤング ケアラー	30代のヤング ケアラー
全体		100.0	100.0	100.0	100.0
1	直接来所	8.7	2.0	15.5	15.8
2	電話	11.6	16.0	19.0	23.7
3	メール	0.0	0.0	3.4	5.3
4	SNS	5.8	10.0	12.1	7.9
5	他機関からの紹介	58.0	50.0	36.2	31.6
6	その他	15.9	22.0	13.8	15.8

Q3.3 18歳以上の支援対象者について、ヤングケアラーとヤングケアラー以外で、相談経路の傾向に違いがあると感じますか。(SA)

		回答数 (件)	割合 (%)
全体		40	100.0
1	違いがあると感じる	15	37.5
2	違いがあるとは感じない	14	35.0
3	わからない	11	27.5

支援団体に対するアンケート調査結果

Q3.4 令和6年度における貴団体としてヤングケアラーと接点を持つために行っている施策を教えてください。/18歳未満のヤングケアラー (MA)

	回答数 (件)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	69	50	58	38
1 支援対象者である旨をHP・SNS等で明記	42	30	35	26
2 他機関に活動内容を共有	58	41	46	30
3 ポスター・チラシ等の配布や掲示	52	33	39	26
4 学会やイベントへの参加・講演	37	24	25	17
5 その他	13	8	9	7

割合 (%)				
18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー	
100.0	100.0	100.0	100.0	
60.9	60.0	60.3	68.4	
84.1	82.0	79.3	78.9	
75.4	66.0	67.2	68.4	
53.6	48.0	43.1	44.7	
18.8	16.0	15.5	18.4	

Q4.1 令和6年度で、貴団体が支援しているヤングケアラーがお世話をする対象の方として多いものを教えてください。(MA)

	回答数 (件)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	69	50	58	38
1 母親	55	34	42	24
2 父親	22	16	21	11
3 祖母	10	3	14	10
4 祖父	0	0	3	6
5 きょうだい	53	31	27	7
6 こども	2	0	0	2
7 配偶者・パートナー	0	0	1	0
8 その他	6	11	7	10

割合 (%)				
18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー	
100.0	100.0	100.0	100.0	
79.7	68.0	72.4	63.2	
31.9	32.0	36.2	28.9	
14.5	6.0	24.1	26.3	
0.0	0.0	5.2	15.8	
76.8	62.0	46.6	18.4	
2.9	0.0	0.0	5.3	
0.0	0.0	1.7	0.0	
8.7	22.0	12.1	26.3	

Q4.2 令和6年度で、貴団体が支援しているヤングケアラーがお世話をする対象の方の状況として多いものを教えてください。(MA)

	回答数 (件)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	69	50	58	38
1 高齢 (65歳以上)	3	1	9	9
2 若い	33	13	8	0
3 要介護 (介護が必要な状態)	8	2	9	9
4 認知症	0	2	2	2
5 身体障がい	13	10	7	4
6 知的障がい	7	8	7	5
7 発達障がい (疑いを含む)	10	11	12	4
8 精神疾患 (疑いを含む)	45	29	38	16
9 依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)	13	6	5	2
10 上記「精神疾患 (疑いを含む)」、「依存症 (アルコール依存症、ギャンブル依存症など) (疑い含む)」以外の病気	7	4	6	3
11 日本語が苦手、わからない	11	7	2	1
12 ひきこもり、不登校	4	1	7	1
13 その他	7	12	8	12

割合 (%)				
18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー	
100.0	100.0	100.0	100.0	
4.3	2.0	15.5	23.7	
47.8	26.0	13.8	0.0	
11.6	4.0	15.5	23.7	
0.0	4.0	3.4	5.3	
18.8	20.0	12.1	10.5	
10.1	16.0	12.1	13.2	
14.5	22.0	20.7	10.5	
65.2	58.0	65.5	42.1	
18.8	12.0	8.6	5.3	
10.1	8.0	10.3	7.9	
15.9	14.0	3.4	2.6	
5.8	2.0	12.1	2.6	
10.1	24.0	13.8	31.6	

Q4.3 令和6年度で、貴団体が支援しているヤングケアラーが抱えている支援ニーズとして多いものを教えてください。(MA)

	回答数 (件)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	69	50	58	38
1 家族との人間関係	34	21	31	15
2 家族以外との人間関係	7	4	4	1
3 恋愛・性に関すること	0	1	0	0
4 結婚・離婚に関すること	0	1	1	1
5 いじめ、ハラスメント	0	0	1	0
6 生きがいに関すること	3	1	1	3
7 自由にできる時間がないこと	18	9	9	8
8 収入・家計・借金・貧困 (食糧の確保なども含む) 等	16	19	21	8
9 自分の病気や心身の不調	7	7	12	3
10 家族の病気や介護	10	7	17	10
11 妊娠・出産	0	0	0	0
12 育児	4	0	0	1
13 家事	18	4	7	1
14 自分の学業・受験・進学	38	13	6	2
15 こどもの教育	2	0	1	0
16 就職・転職活動	2	10	12	7
17 自分の現在の仕事	1	1	6	7
18 家族の仕事	0	0	1	0
19 離家 (親元を離れて別世帯で暮らすこと) に関すること	5	10	7	3
20 その他	3	3	4	3
21 持たない	1	3	1	3
22 わからない	4	5	3	5

割合 (%)				
18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー	
100.0	100.0	100.0	100.0	
49.3	42.0	53.4	39.5	
10.1	8.0	6.9	2.6	
0.0	2.0	0.0	0.0	
0.0	2.0	1.7	2.6	
0.0	0.0	1.7	0.0	
4.3	2.0	1.7	7.9	
26.1	18.0	15.5	21.1	
23.2	38.0	36.2	21.1	
10.1	14.0	20.7	7.9	
14.5	14.0	29.3	26.3	
0.0	0.0	0.0	0.0	
5.8	0.0	0.0	2.6	
26.1	8.0	12.1	2.6	
55.1	26.0	10.3	5.3	
2.9	0.0	1.7	0.0	
2.9	20.0	20.7	18.4	
1.4	2.0	10.3	18.4	
0.0	0.0	1.7	0.0	
7.2	20.0	12.1	7.9	
4.3	6.0	6.9	7.9	
1.4	6.0	1.7	7.9	
5.8	10.0	5.2	13.2	

支援団体に対するアンケート調査結果

Q4.4 年代や支援対象者がおかれている状況による支援ニーズの傾向の違いについて教えてください。(SA)  
 «18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー»

	回答数(件)	割合(%)
全体	57	100.0
1 違いがあると感じる	33	57.9
2 違いがあるとは感じない	9	15.8
3 わからない	15	26.3

«18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者»

	回答数(件)	割合(%)
全体	40	100.0
1 違いがあると感じる	21	52.5
2 違いがあるとは感じない	4	10.0
3 わからない	15	37.5

Q4.5 貴団体が支援をした18歳以上のヤングケアラーについて、令和6年度で、以下の状況に該当する方はいましたか。(SA)

	回答数(件)			
	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー(子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない(未成年であることだけが理由の場合も含む)	③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】既婚でこどもがいない	④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】未婚でこどもがいない
全体	65	65	65	65
1 いた	10	11	9	53
2 いない	43	41	44	6
3 わからない	12	13	12	6

割合(%)			
① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー(子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない(未成年であることだけが理由の場合も含む)	③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】既婚でこどもがいない	④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】未婚でこどもがいない
100.0	100.0	100.0	100.0
15.4	16.9	13.8	81.5
66.2	63.1	87.7	9.2
18.5	20.0	18.5	9.2

Q4.6 貴団体が支援している、18歳以上のヤングケアラーが抱えている支援ニーズとして多いものをケアの状況別教えてください。(MA)

	回答数(件)			
	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー(子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない(未成年であることだけが理由の場合も含む)	③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】既婚でこどもがいない	④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】未婚でこどもがいない
全体	10	11	9	53
1 家族との人間関係	4	6	6	29
2 家族以外との人間関係	1	0	0	3
3 恋愛・性に関すること	0	0	0	0
4 結婚・離婚に関すること	0	0	0	0
5 いじめ、ハラスメント	0	0	0	0
6 生きがいに関すること	1	1	1	5
7 自由にできる時間がないこと	6	5	4	11
8 収入・家計・借金・貧困(食糧の確保なども含む)等	1	4	3	22
9 自分の病気や心身の不調	2	3	3	10
10 家族の病気や介護	4	5	5	18
11 妊娠・出産	0	0	0	0
12 育児	2	2	0	0
13 家事	0	0	0	3
14 自分の学業・受験・進学	1	2	2	11
15 子どもの教育	1	0	0	2
16 就職・転職活動	1	0	1	13
17 自分の現在の仕事	0	1	0	9
18 家族の仕事	0	0	0	0
19 離家(親元を離れて別世帯で暮らすこと)に関すること	0	0	1	11
20 その他	0	1	0	1
21 特になし	1	0	0	0
22 わからない	0	0	0	0

割合(%)			
① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分の子どものみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー(子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分の子ども+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない(未成年であることだけが理由の場合も含む)	③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】既婚でこどもがいない	④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分の子どもを除く)【ケアラーの状況】未婚でこどもがいない
100.0	100.0	100.0	100.0
40.0	54.5	66.7	54.7
10.0	0.0	0.0	5.7
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0
10.0	9.1	11.1	9.4
60.0	45.5	44.4	20.8
10.0	36.4	33.3	41.5
20.0	27.3	33.3	18.9
40.0	45.5	55.6	34.0
0.0	0.0	0.0	0.0
20.0	18.2	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	5.7
10.0	18.2	22.2	20.8
10.0	0.0	0.0	3.8
10.0	0.0	11.1	24.5
0.0	9.1	0.0	17.0
0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	11.1	20.8
0.0	9.1	0.0	1.9
10.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0

支援団体に対するアンケート調査結果

05.1 貴団体においてヤングケアラーに提供可能な支援サービスを教えてください。(MA)

	回答数 (件)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	69	50	58	38
1 窓口での相談支援	61	46	54	34
2 オンラインでの相談支援	38	33	36	26
3 訪問型(アウトリーチ型)の相談支援	51	37	41	25
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	53	38	41	30
5 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供	27	19	20	13
6 福祉給付等の手続き支援	32	25	27	16
7 外国語対応通訳支援	9	5	6	3
8 家事・育児支援	22	6	7	3
9 配食支援	13	8	9	2
10 食糧支援(フードバンク)	22	15	17	4
11 こども食堂	17	10	11	2
12 ショートステイ、トワイライトステイ	16	5	6	2
13 外出時の付き添い・同行支援	27	20	22	13
14 現金給付	3	3	1	1
15 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	19	8	6	3
16 就労支援	25	20	25	17
17 トラウマケア、心理的支援	16	13	14	8
18 精神疾患を有する家族へのケア	11	8	9	6
19 通訳が必要な家族へのケア	5	3	3	1
20 その他	8	8	10	7
21 特になし	1	1	0	0

	割合 (%)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	100.0	100.0	100.0	100.0
1 窓口での相談支援	88.4	92.0	93.1	89.5
2 オンラインでの相談支援	55.1	66.0	62.1	68.4
3 訪問型(アウトリーチ型)の相談支援	73.9	74.0	70.7	65.8
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	76.8	76.0	70.7	78.9
5 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供	39.1	38.0	34.5	34.2
6 福祉給付等の手続き支援	46.4	50.0	46.6	42.1
7 外国語対応通訳支援	13.0	10.0	10.3	7.9
8 家事・育児支援	31.9	12.0	12.1	7.9
9 配食支援	18.8	16.0	15.5	5.3
10 食糧支援(フードバンク)	31.9	30.0	29.3	10.5
11 こども食堂	24.6	20.0	19.0	5.3
12 ショートステイ、トワイライトステイ	23.2	10.0	10.3	5.3
13 外出時の付き添い・同行支援	39.1	40.0	37.9	34.2
14 現金給付	4.3	6.0	1.7	2.6
15 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	27.5	16.0	10.3	7.9
16 就労支援	36.2	40.0	43.1	44.7
17 トラウマケア、心理的支援	23.2	26.0	24.1	21.1
18 精神疾患を有する家族へのケア	15.9	16.0	15.5	15.8
19 通訳が必要な家族へのケア	7.2	6.0	5.2	2.6
20 その他	11.6	16.0	17.2	18.4
21 特になし	1.4	2.0	0.0	0.0

05.2 貴団体においてヤングケアラーに提供した支援サービスのうち、最も効果的(利用頻度が高い等)だと思う支援サービスを教えてください。(SA)

	回答数 (件)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	68	49	58	38
1 窓口での相談支援	12	8	19	7
2 オンラインでの相談支援	3	3	4	4
3 訪問型(アウトリーチ型)の相談支援	14	9	6	4
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	6	7	5	4
5 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供	5	1	5	4
6 福祉給付等の手続き支援	0	1	1	1
7 外国語対応通訳支援	1	0	0	0
8 家事・育児支援	5	0	0	0
9 配食支援	3	3	2	1
10 食糧支援(フードバンク)	2	1	2	0
11 こども食堂	3	1	0	0
12 ショートステイ、トワイライトステイ	0	0	0	0
13 外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0
14 現金給付	0	0	0	0
15 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	2	0	0	0
16 就労支援	0	2	2	2
17 トラウマケア、心理的支援	0	0	0	1
18 精神疾患を有する家族へのケア	0	0	0	0
19 通訳が必要な家族へのケア	0	0	0	0
20 その他	6	5	6	2
21 特になし	2	2	2	2
22 わからない	4	6	4	6

	割合 (%)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	100.0	100.0	100.0	100.0
1 窓口での相談支援	17.6	16.3	32.8	18.4
2 オンラインでの相談支援	4.4	6.1	6.9	10.5
3 訪問型(アウトリーチ型)の相談支援	20.6	18.4	10.3	10.5
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	8.8	14.3	8.6	10.5
5 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供	7.4	2.0	8.6	10.5
6 福祉給付等の手続き支援	0.0	2.0	1.7	2.6
7 外国語対応通訳支援	1.5	0.0	0.0	0.0
8 家事・育児支援	7.4	0.0	0.0	0.0
9 配食支援	4.4	6.1	3.4	2.6
10 食糧支援(フードバンク)	2.9	2.0	3.4	0.0
11 こども食堂	4.4	2.0	0.0	0.0
12 ショートステイ、トワイライトステイ	0.0	0.0	0.0	0.0
13 外出時の付き添い・同行支援	0.0	0.0	0.0	0.0
14 現金給付	0.0	0.0	0.0	0.0
15 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	2.9	0.0	0.0	0.0
16 就労支援	0.0	4.1	3.4	5.3
17 トラウマケア、心理的支援	0.0	0.0	0.0	2.6
18 精神疾患を有する家族へのケア	0.0	0.0	0.0	0.0
19 通訳が必要な家族へのケア	0.0	0.0	0.0	0.0
20 その他	8.8	10.2	10.3	5.3
21 特になし	2.9	4.1	3.4	5.3
22 わからない	5.9	12.2	6.9	15.8

05.4 年代や支援対象者がおかれている状況ごとの、効果的だと思う支援サービスの傾向の違いについて教えてください。(SA)

「18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー」

	回答数 (件)	割合 (%)
全体	53	100.0
1 違いがあると感じる	24	45.3
2 違いがあるとは感じない	16	30.2
3 わからない	13	24.5

「18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー以外の支援対象者」

	回答数 (件)	割合 (%)
全体	36	100.0
1 違いがあると感じる	12	33.3
2 違いがあるとは感じない	8	22.2
3 わからない	16	44.4

支援団体に対するアンケート調査結果

Q5.5 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーに提供した支援サービスのうち、最も効果的（利用頻度が高い等）だと思う支援サービスをケアの状況別で教えてください。（SA）

	回答数（件）				割合（%）			
	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のことのみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー（子ども+家族のケア） 【ケア対象者】自分+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	③ 家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし） 【ケア対象者】家族（自分のことを除く）【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	④ 家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし） 【ケア対象者】家族（自分のことを除く）【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	① 障害・病気等のある子どものみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のことのみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー（子ども+家族のケア） 【ケア対象者】自分+そのほかの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない（未成年であることだけが理由の場合も含む）	③ 家族をケアするケアラー（既婚・子どもなし） 【ケア対象者】家族（自分のことを除く）【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	④ 家族をケアするケアラー（未婚・子どもなし） 【ケア対象者】家族（自分のことを除く）【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない
全体	10	11	9	53	100.0	100.0	100.0	100.0
1 窓口での相談支援	1	1	3	17	10.0	9.1	33.3	32.1
2 オンラインでの相談支援	0	0	2	4	0.0	0.0	22.2	7.5
3 訪問型（アウトリーチ型）の相談支援	4	4	1	7	40.0	36.4	11.1	13.2
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	1	2	1	4	10.0	18.2	11.1	7.5
5 ヤングケアラー（元ヤングケアラー含む）同士の交流の場の提供	0	0	1	3	0.0	0.0	11.1	5.7
6 福祉給付等の手続き支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
7 外国語対応通訳支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 家事・育児支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
9 配食支援	0	1	0	4	0.0	9.1	0.0	7.5
10 食糧支援（フードバンク）	0	0	0	3	0.0	0.0	0.0	5.7
11 子ども食堂	1	0	0	2	10.0	0.0	0.0	3.8
12 ショートステイ、トワイライトステイ	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13 外出時の付き添い・同行支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
14 現金給付	0	0	0	1	0.0	0.0	0.0	1.9
15 学習支援（フリースクール、家庭教師を含む）	0	1	0	1	0.0	9.1	0.0	1.9
16 就労支援	0	0	0	2	0.0	0.0	0.0	3.8
17 ト라우マケア、心理的支援	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
18 精神疾患を有する家族へのケア	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
19 通訳が必要な家族へのケア	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
20 その他	1	2	1	4	10.0	18.2	11.1	7.5
21 特になし	1	0	0	0	10.0	0.0	0.0	0.0
22 わからない	1	0	0	1	10.0	0.0	0.0	1.9

Q5.7 貴団体が提供している支援の終結に向けた取組のうち、最も効果的と思う上位3項目について教えてください。（MA）

	回答数（件）				割合（%）			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	69	50	58	38	100.0	100.0	100.0	100.0
1 学業の継続・進学	32	13	2	0	46.4	26.0	3.4	0.0
2 就労・職業訓練への移行	3	6	18	12	4.3	12.0	31.0	31.6
3 ケア負担の軽減・解消（他機関連携による家族支援も含む）	41	23	25	15	59.4	46.0	43.1	39.5
4 精神的・健康面の回復	14	11	19	12	20.3	22.0	32.8	31.6
5 自立的な生活への移行	7	11	19	10	10.1	22.0	32.8	26.3
6 居場所の提供	27	11	14	4	39.1	22.0	24.1	10.5
7 他機関への移行	14	13	12	11	20.3	26.0	20.7	28.9
8 援助希求力の習得	7	7	6	5	10.1	14.0	10.3	13.2
9 継続的な見守り	34	20	26	11	49.3	40.0	44.8	28.9
10 その他	1	5	5	8	1.4	10.0	8.6	21.1

支援団体に対するアンケート調査結果

06.1 令和6年度で、貴団体がヤングケアラーを支援するにあたり他機関と連携した実績がある先を教えてください。(MA)

		回答数(件)			
		18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体		69	50	58	38
1	ヤングケアラー居住地域の地方自治体(児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等)	47	29	31	17
2	ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	7	4	10	4
3	小学校、中学校、高校、大学などの教育機関	51	21	12	3
4	子ども・若者に関する行政の相談・支援機関(児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等)	42	19	22	9
5	就労・自立相談支援機関(地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等)	12	14	22	12
6	社会福祉に関する行政の相談機関(福祉事務所など)	26	18	20	8
7	若者への居住支援機関(自立援助ホーム、こども若者シェルターなど)	6	6	6	2
8	介護関係機関(地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など)	21	11	13	12
9	障害福祉関係機関(基幹相談支援センター、相談支援事業所など)	22	13	13	9
10	医療機関(病院・診療所、訪問看護ステーションなど)	22	12	17	9
11	警察	5	2	3	0
12	性暴力・DV被害者支援機関(性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど)	3	1	1	0
13	民間支援団体(こども食堂、フリースクール、フードバンクなど)	30	14	16	4
14	民間企業	6	8	7	6
15	その他	8	8	10	6
16	特になし	7	6	7	6
17	わからない	0	3	2	3

	割合(%)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	100.0	100.0	100.0	100.0
1	68.1	58.0	53.4	44.7
2	10.1	8.0	17.2	10.5
3	73.9	42.0	20.7	7.9
4	60.9	38.0	37.9	23.7
5	17.4	28.0	37.9	31.6
6	37.7	36.0	34.5	21.1
7	8.7	12.0	10.3	5.3
8	30.4	22.0	22.4	31.6
9	31.9	26.0	22.4	23.7
10	31.9	24.0	29.3	23.7
11	7.2	4.0	5.2	0.0
12	4.3	2.0	1.7	0.0
13	43.5	28.0	27.6	10.5
14	8.7	16.0	12.1	15.8
15	11.6	16.0	17.2	15.8
16	10.1	12.0	12.1	15.8
17	0.0	6.0	3.4	7.9

06.2 令和6年度で、貴団体がヤングケアラーを支援するにあたり最も効果的だと思ふ連携先を教えてください。(SA)

		回答数(件)			
		18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体		62	41	49	29
1	ヤングケアラー居住地域の地方自治体(児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等)	18	15	17	8
2	ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	0	0	0	0
3	小学校、中学校、高校、大学などの教育機関	19	1	0	0
4	子ども・若者に関する行政の相談・支援機関(児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等)	11	7	6	2
5	就労・自立相談支援機関(地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等)	1	2	6	6
6	社会福祉に関する行政の相談機関(福祉事務所など)	1	3	4	2
7	若者への居住支援機関(自立援助ホーム、こども若者シェルターなど)	0	1	0	0
8	介護関係機関(地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など)	1	0	2	1
9	障害福祉関係機関(基幹相談支援センター、相談支援事業所など)	1	0	1	0
10	医療機関(病院・診療所、訪問看護ステーションなど)	0	0	1	0
11	警察	0	0	0	0
12	性暴力・DV被害者支援機関(性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど)	0	0	0	0
13	民間支援団体(こども食堂、フリースクール、フードバンクなど)	2	1	2	0
14	民間企業	0	0	0	1
15	その他	3	4	3	3
16	特になし	0	0	0	0
17	わからない	5	7	7	6

	割合(%)			
	18歳未満のヤングケアラー	18・19歳のヤングケアラー	20代のヤングケアラー	30代のヤングケアラー
全体	100.0	100.0	100.0	100.0
1	29.0	36.6	34.7	27.6
2	0.0	0.0	0.0	0.0
3	30.6	2.4	0.0	0.0
4	17.7	17.1	12.2	6.9
5	1.6	4.9	12.2	20.7
6	1.6	7.3	8.2	6.9
7	0.0	2.4	0.0	0.0
8	1.6	0.0	4.1	3.4
9	1.6	0.0	2.0	0.0
10	0.0	0.0	2.0	0.0
11	0.0	0.0	0.0	0.0
12	0.0	0.0	0.0	0.0
13	3.2	2.4	4.1	0.0
14	0.0	0.0	0.0	3.4
15	4.8	9.8	6.1	10.3
16	0.0	0.0	0.0	0.0
17	8.1	17.1	14.3	20.7

06.4 年代や支援対象者がおかれている状況ごとの、効果的だと思ふ連携先の傾向の違いについて教えてください。(SA)

「18歳以上のヤングケアラーと18歳未満のヤングケアラー」

	回答数(件)	割合(%)
全体	48	100.0
1 違いがあると感じる	24	50.0
2 違いがあるとは感じない	17	35.4
3 わからない	7	14.6

「18歳以上のヤングケアラーと18歳以上のヤングケアラー以外の支援対象者」

	回答数(件)	割合(%)
全体	32	100.0
1 違いがあると感じる	9	28.1
2 違いがあるとは感じない	13	40.6
3 わからない	10	31.3

支援団体に対するアンケート調査結果

Q6\_5\_1 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーを支援するにあたり最も効果的だと考える連携先について、ケアの状況別で教えてください。(S A)

	回答数(件)				割合(%)			
	① 障害・病気等のあることのみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のことのみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー(子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分+子どもの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない(未成年であることだけが理由の場合も含む)	③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分のことを除く)【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分のことを除く)【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない	① 障害・病気等のあることのみをケアするケアラー 【ケア対象者】自分のことのみ【子どものケアが必要な理由】未成年であること以外に障害や病気などがあるため	② ダブルケアラー(子ども+家族のケア) 【ケア対象者】自分+子どもの家族【子どものケアが必要な理由】理由を問わない(未成年であることだけが理由の場合も含む)	③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分のことを除く)【ケアラーの状況】既婚で子どもがいない	④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし) 【ケア対象者】家族(自分のことを除く)【ケアラーの状況】未婚で子どもがいない
全体	10	11	9	53	100.0	100.0	100.0	100.0
1 ヤングケアラー居住地域の地方自治体(児童福祉、精神保健福祉、介護保険、障害福祉、母子保健主管課等)	4	4	5	18	40.0	36.4	55.6	34.0
2 ヤングケアラー居住地域以外の地方自治体	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 小学校、中学校、高校、大学などの教育機関	1	0	0	2	10.0	0.0	0.0	3.8
4 子ども・若者に関する行政の相談・支援機関(児童相談所、こども家庭センター、子ども・若者総合相談センター、ひきこもり地域支援センター等)	2	1	2	9	20.0	9.1	22.2	17.0
5 就労・自立相談支援機関(地域若者サポートステーション、ハローワーク、自立相談支援機関等)	0	0	0	5	0.0	0.0	0.0	9.4
6 社会福祉に関する行政の相談機関(福祉事務所など)	0	2	0	5	0.0	18.2	0.0	9.4
7 若者への居住支援機関(自立援助ホーム、子ども若者シェルターなど)	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
8 介護関係機関(地域包括支援センター、居宅介護支援事業所など)	0	0	0	2	0.0	0.0	0.0	3.8
9 障害福祉関係機関(基幹相談支援センター、相談支援事業所など)	1	1	1	3	10.0	9.1	11.1	5.7
10 医療機関(病院・診療所、訪問看護ステーションなど)	0	0	0	1	0.0	0.0	0.0	1.9
11 警察	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
12 性暴力・DV被害者支援機関(性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター、配偶者暴力相談支援センターなど)	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
13 民間支援団体(子ども食堂、フリースクール、フードバンクなど)	0	1	0	3	0.0	9.1	0.0	5.7
14 民間企業	0	0	0	0	0.0	0.0	0.0	0.0
15 その他	0	0	0	2	0.0	0.0	0.0	3.8
16 特になし	1	0	1	0	10.0	0.0	11.1	0.0
17 わからない	1	2	0	3	10.0	18.2	0.0	5.7

Q7\_1\_1 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーを支援する上での課題について教えてください。／当てはまるものをすべて(M A)

	回答数(件)	割合(%)
全体	65	100.0
1 18歳以上のヤングケアラーの把握	46	70.8
2 18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築	44	67.7
3 多様な年齢層、支援ニーズへの対応	36	55.4
4 他機関との連携	36	55.4
5 支援の終結に向けた取組	23	35.4
6 支援者の確保・育成	29	44.6
7 資金・予算の確保	23	35.4
8 広報・啓発活動(周知不足等)	27	41.5
9 18歳以上のヤングケアラーの家族との信頼関係構築	34	52.3
10 その他	4	6.2
11 特になし	0	0.0
12 わからない	1	1.5

Q7\_1\_2 貴団体において、18歳以上のヤングケアラーを支援する上での課題について教えてください。／最も課題と思うもの(S A)

	回答数(件)	割合(%)
全体	65	100.0
1 18歳以上のヤングケアラーの把握	19	29.2
2 18歳以上のヤングケアラーとの信頼関係構築	13	20.0
3 多様な年齢層、支援ニーズへの対応	4	6.2
4 他機関との連携	5	7.7
5 支援の終結に向けた取組	4	6.2
6 支援者の確保・育成	2	3.1
7 資金・予算の確保	5	7.7
8 広報・啓発活動(周知不足等)	4	6.2
9 18歳以上のヤングケアラーの家族との信頼関係構築	5	7.7
10 その他	3	4.6
11 特になし	0	0.0
12 わからない	1	1.5

Q7\_4 貴団体では、18歳未満の時に家族へのケアを担っていた、元ヤングケアラーへの支援をしたことがありますか。(S A)

	回答数(件)	割合(%)
全体	65	100.0
1 支援したことがある	33	50.8
2 支援したことはない	16	24.6
3 わからない	16	24.6

支援団体に対するアンケート調査結果

Q7.6 ヤングケアラーの対象が18歳以上、40歳未満まで拡大されたことに対する貴団体の対応について教えてください。(S A)

	回答数(件)	割合(%)
全体	88	100.0
1 従来より支援対象である	56	63.6
2 支援対象を拡大した	11	12.5
3 今後、支援対象を拡大する予定である	4	4.5
4 今後、支援対象を拡大する予定はない	3	3.4
5 未定	14	15.9

Q8.1 令和6年度に、貴団体が支援を行った18歳以上のヤングケアラーについて、初回の相談経路を教えてください。(S A)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 直接来所	2	3.4	12	15.0	3	8.3
2 電話	9	15.5	14	17.5	12	33.3
3 メール	0	0.0	1	1.3	1	2.8
4 SNS	6	10.3	8	10.0	6	16.7
5 他機関からの紹介	31	53.4	37	46.3	9	25.0
6 その他	10	17.2	6	7.5	3	8.3
7 わからない	0	0.0	2	2.5	2	5.6

Q8.2 支援対象者によっては、支援開始時に限らず、様々な段階においてヤングケアラーであると判断する場合があります。支援のどの段階でヤングケアラーであると判断したか教えてください。(S A)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 相談時	37	63.8	43	53.8	22	61.1
2 インターク(初回)面談時	8	13.8	16	20.0	9	25.0
3 支援期間中	9	15.5	15	18.8	4	11.1
4 支援終了後	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5 その他	3	5.2	4	5.0	0	0.0
6 わからない	1	1.7	2	2.5	1	2.8

Q8.3 ヤングケアラーの方がおかれている状況を教えてください。(S A)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 ① 障害・病気等のあることのみをケアするケアラー	1	1.7	1	1.3	2	5.6
2 ② ダブルケアラー(子ども+家族のケア)	2	3.4	1	1.3	5	13.9
3 ③ 家族をケアするケアラー(既婚・子どもなし)	2	3.4	5	6.3	4	11.1
4 ④ 家族をケアするケアラー(未婚・子どもなし)	53	91.4	72	90.0	24	66.7
5 わからない	0	0.0	1	1.3	1	2.8

Q8.4 どのような方法でヤングケアラーであると判断したか教えてください。(S A)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 本人からの開示	12	20.7	25	31.3	17	47.2
2 本人の相談内容から判明	14	24.1	24	30.0	7	19.4
3 周囲(他機関を含む)からの情報共有	31	53.4	30	37.5	10	27.8
4 その他	1	1.7	0	0.0	0	0.0
5 わからない	0	0.0	1	1.3	2	5.6

Q8.5 初回相談時に、ヤングケアラー本人から訴えがあった主な支援ニーズを教えてください。(S A)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 家族との人間関係	7	12.1	15	18.8	6	16.7
2 家族以外との人間関係	2	3.4	3	3.8	0	0.0
3 恋愛・性に関すること	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 結婚・離婚に関すること	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5 いじめ、ハラスメント	0	0.0	0	0.0	1	2.8
6 生きがいに関すること	0	0.0	1	1.3	1	2.8
7 自由にできる時間がないこと	6	10.3	6	7.5	3	8.3
8 収入・家計・借金・貧困(食糧の確保なども含む)等	14	24.1	10	12.5	5	13.9
9 自分の病気や心身の不調	3	5.2	9	11.3	2	5.6
10 家族の病気や介護	6	10.3	11	13.8	4	11.1
11 妊娠・出産	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12 育児	1	1.7	0	0.0	0	0.0
13 家事	1	1.7	2	2.5	0	0.0
14 自分の学業・受験・進学	7	12.1	3	3.8	0	0.0
15 子どもの教育	0	0.0	1	1.3	0	0.0
16 就職・転職活動	5	8.6	11	13.8	10	27.8
17 自分の現在の仕事	0	0.0	1	1.3	2	5.6
18 家族の仕事	0	0.0	0	0.0	0	0.0
19 離家(親元を離れて別世帯で暮らすこと)に関すること	1	1.7	5	6.3	0	0.0
20 その他	4	6.9	1	1.3	0	0.0
21 わからない	1	1.7	1	1.3	2	5.6

支援団体に対するアンケート調査結果

Q8.6 初回相談時に、貴団体が感じた主な支援ニーズを教えてください。(SA)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 家族との人間関係	14	24.1	22	27.5	5	13.9
2 家族以外との人間関係	3	5.2	2	2.5	0	0.0
3 恋愛・性に関すること	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 結婚・離婚に関すること	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5 いじめ、ハラスメント	0	0.0	0	0.0	1	2.8
6 生きがいに関すること	0	0.0	2	2.5	3	8.3
7 自由にできる時間がないこと	5	8.6	1	1.3	4	11.1
8 収入・家計・借金・貧困(食糧の確保なども含む)等	11	19.0	11	13.8	2	5.6
9 自分の病気や心身の不調	6	10.3	8	10.0	1	2.8
10 家族の病気や介護	5	8.6	13	16.3	5	13.9
11 妊娠・出産	0	0.0	0	0.0	0	0.0
12 育児	1	1.7	0	0.0	1	2.8
13 家事	1	1.7	1	1.3	0	0.0
14 自分の学業・受験・進学	5	8.6	6	7.5	1	2.8
15 こどもの教育	0	0.0	0	0.0	0	0.0
16 就職・転職活動	3	5.2	10	12.5	8	22.2
17 自分の現在の仕事	0	0.0	0	0.0	1	2.8
18 家族の仕事	0	0.0	0	0.0	1	2.8
19 離家(親元を離れて別世帯で暮らすこと)に関すること	1	1.7	2	2.5	0	0.0
20 その他	1	1.7	1	1.3	1	2.8
21 わからない	2	3.4	1	1.3	2	5.6

Q8.7 提供した支援内容を教えてください。(MA)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	58	100.0	80	100.0	36	100.0
1 窓口での相談支援	23	39.7	48	60.0	14	38.9
2 オンラインでの相談支援	19	32.8	14	17.5	16	44.4
3 訪問型(アウトリーチ型)の相談支援	24	41.4	22	27.5	9	25.0
4 支援を入れるための、事業者や家族との連絡・調整	21	36.2	38	47.5	15	41.7
5 ヤングケアラー(元ヤングケアラー含む)同士の交流の場の提供	7	12.1	15	18.8	7	19.4
6 福祉給付等の手続き支援	9	15.5	8	10.0	4	11.1
7 外国語対応通訳支援	1	1.7	2	2.5	0	0.0
8 家事・育児支援	3	5.2	1	1.3	1	2.8
9 配食支援	9	15.5	8	10.0	4	11.1
10 食糧支援(フードバンク)	10	17.2	8	10.0	4	11.1
11 こども食堂	8	13.8	1	1.3	1	2.8
12 ショートステイ、トワイライトステイ	3	5.2	2	2.5	0	0.0
13 外出時の付き添い・同行支援	10	17.2	12	15.0	7	19.4
14 現金給付	3	5.2	0	0.0	1	2.8
15 学習支援(フリースクール、家庭教師を含む)	6	10.3	1	1.3	2	5.6
16 就労支援	7	12.1	13	16.3	7	19.4
17 トラウマケア、心理的支援	10	17.2	7	8.8	4	11.1
18 精神疾患を有する家族へのケア	7	12.1	6	7.5	1	2.8
19 通訳が必要な家族へのケア	0	0.0	3	3.8	0	0.0
20 その他	3	5.2	14	17.5	6	16.7
21 特になし	1	1.7	0	0.0	2	5.6
22 わからない	0	0.0	0	0.0	0	0.0

Q8.8 支援途中にヤングケアラーであると判明した段階で支援内容は変わりましたか。(SA)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	57	100.0	80	100.0	34	100.0
1 変わった	10	17.5	11	13.8	4	11.8
2 変わっていない	38	66.7	59	73.8	27	79.4
3 わからない	9	15.8	10	12.5	3	8.8

Q8.10 現在の支援状況を教えてください。(SA)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	9	100.0	30	100.0	8	100.0
1 支援継続中	6	66.7	19	63.3	2	25.0
2 支援中断中	1	11.1	5	16.7	2	25.0
3 支援最終結済(継続的な見守りを含む)	2	22.2	4	13.3	2	25.0
4 その他	0	0.0	2	6.7	2	25.0
5 わからない	0	0.0	0	0.0	0	0.0

Q8.12 支援最終後に再び支援対象となったことがある方はいますか。(SA)

	18・19歳		20代		30代	
	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)	回答数(件)	割合(%)
全体	9	100.0	30	100.0	8	100.0
1 支援最終後に再び支援対象となったことがある	0	0.0	1	3.3	0	0.0
2 支援最終後に再び支援対象となったことはない	7	77.8	16	53.3	3	37.5
3 わからない	2	22.2	13	43.3	5	62.5

## 謝辞

本調査研究事業の実施に際して、インタビュー調査にご協力いただきました、若者の皆様、一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト、東京都庁、特定非営利活動法人虹色のかさ、株式会社チャーム・ケア・コーポレーション、株式会社東海道シグマの関係者の皆様、また、アンケート調査にご回答いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

さらに、本調査研究事業の検討委員会の委員としてご指導賜りました皆様におかれましては、調査設計や分析・考察、報告書の作成に至るまで、専門的見地から様々なご助言をいただき心より感謝申し上げます。

## 免責事項

デロイト トーマツ グループは、日本におけるデロイト アジア パシフィック リミテッドおよびデロイトネットワークのメンバーである合同会社デロイト トーマツ グループならびにそのグループ法人（有限責任監査法人トーマツ、合同会社デロイト トーマツ、デロイト トーマツ税理士法人およびDT 弁護士法人を含む）の総称です。デロイト トーマツ グループは、日本で最大級のプロフェッショナルグループのひとつであり、各法人がそれぞれの適用法令に従いプロフェッショナルサービスを提供しています。また、国内 30 都市以上に 2 万人超の専門家を擁し、多国籍企業や主要な日本企業をクライアントとしています。詳細はデロイト トーマツ グループ Web サイト、 [www.deloitte.com/jp](http://www.deloitte.com/jp) をご覧ください。

Deloitte（デロイト）とは、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイトネットワーク”）のひとつまたは複数を指します。Deloitte Global ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体であり、第三者に関して相互に義務を課しまたは拘束させることはありません。Deloitte Global およびその各メンバーファームならびに関係法人は、自らの作為および不作為についてのみ責任を負い、互いに他のファームまたは関係法人の作為および不作為について責任を負うものではありません。Deloitte Global はクライアントへのサービス提供を行いません。詳細は [www.deloitte.com/jp/about](http://www.deloitte.com/jp/about) をご覧ください。

デロイト アジア パシフィック リミテッドは保証有限責任会社であり、Deloitte Global のメンバーファームです。デロイト アジア パシフィック リミテッドのメンバーおよびそれらの関係法人は、それぞれ法的に独立した別個の組織体であり、アジア パシフィックにおける 100 を超える都市（オークランド、バンコク、北京、ベンガルール、ハノイ、香港、ジャカルタ、クアラルンプール、マニラ、メルボルン、ムンバイ、ニューデリー、大阪、ソウル、上海、シンガポール、シドニー、台北、東京を含む）にてサービスを提供しています。

Deloitte（デロイト）は、最先端のプロフェッショナルサービスを、Fortune Global 500®の約 9 割の企業や多数のプライベート（非公開）企業を含むクライアントに提供しています。デロイトは、資本市場に対する社会的な信頼を高め、クライアントの変革と繁栄を促進することで、計測可能で継続性のある成果をもたらすプロフェッショナルの集団です。デロイトは、創設以来 180 年の歴史を有し、150 を超える国・地域にわたって活動を展開しています。

“Making an impact that matters” をパーパス（存在理由）として標榜するデロイトの約 46 万人の人材の活動の詳細については、 [www.deloitte.com](http://www.deloitte.com) をご覧ください。

本資料は皆様への情報提供として一般的な情報を掲載するのみであり、Deloitte Touche Tohmatsu Limited（“Deloitte Global”）、そのグローバルネットワーク組織を構成するメンバーファームおよびそれらの関係法人（総称して“デロイトネットワーク”）が本資料をもって専門的な助言やサービスを提供するものではありません。皆様の財務または事業に影響を与えるような意思決定または行動をされる前に、適切な専門家にご相談ください。本資料における情報の正確性や完全性に関して、いかなる表明、保証または確約（明示・黙示を問いません）をするものではありません。また Deloitte Global、そのメンバーファーム、関係法人、社員・職員または代理人のいずれも、本資料に依拠した人に関係して直接または間接に発生したいかなる損失および損害に対しても責任を負いません。Deloitte Global ならびに各メンバーファームおよび関係法人はそれぞれ法的に独立した別個の組織体です。

本調査研究報告書は、こども家庭庁令和 7 年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業として、こども家庭庁より採択を受けた有限責任監査法人トーマツ（以下、「当法人」）が提供したものであり、保証業務として実施したものではありません。

本調査研究報告書を受領または閲覧する名宛人（本調査研究報告書に関して当法人へ採択事業

者の通知をしている機関)以外の方(以下、「閲覧者等」)は、例外なく本調査研究報告書に記載される事項を認識し了解したものとみなされます。

1. 本調査研究報告書は、こども家庭庁令和7年度子ども・子育て支援等推進調査研究事業として、こども家庭庁より採択を受けた当法人が提供したものであり、閲覧者等に対して注意義務または契約上の義務を負って実施されたものではないこと。従って、当法人は、本調査研究報告書及び本調査研究報告書に関連する業務に関して、閲覧者等に対して裁判上または裁判外を問わずいかなる義務または責任も負わないこと。
2. 本調査研究報告書には、閲覧者等が理解し得ない情報が含まれ、また、閲覧者等が必要とする情報が必ずしも網羅されていない可能性があること。なお、本調査研究報告書に記載されている以外の情報が名宛人に伝達されている可能性があること。
3. 閲覧者等は、本調査研究報告書の受領または閲覧によって本調査研究報告書に依拠する権利及びこれを引用する権利を含むいかなる権利も取得しないこと。閲覧者等は本調査研究報告書に記載された一定の前提条件・仮定及び制約について受容するとともに閲覧者等による本調査研究報告書の利用及び利用の結果に関する全ての責任を閲覧者等自身が負うこと。
4. 閲覧者等は、当法人及びその役員、社員、職員等に対して本調査研究報告書の受領または閲覧に関連して閲覧者等に生じるいかなる損害や不利益についてもその賠償請求を行わず、また、いかなる権利の行使も行わないこと。

---

令和7年度 子ども・子育て支援等推進調査研究事業

**ヤングケアラーの実態把握等  
に関する調査研究**

令和8年(2026年)3月 発行  
編集・発行 有限責任監査法人トーマツ